

豊川市
男女共同参画に関する
市民意識調査報告書

令和2年3月

豊 川 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	回答者属性	2
問1	ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについておたずねします。...	2
(1)	あなたの性別は次のどれになりますか。	2
(2)	あなたの年齢はおいくつですか。	2
(3)	あなたは現在結婚していますか。	3
(4)	あなたの世帯は、どれになりますか。	4
(5)	あなたの職業に該当する番号を選んでください。	5
(6)	あなたには、お子さんがいますか。	6
(7)	結婚している（事実婚や別居中を含む）方におたずねします。あなたの配偶者の職業に該当する番号を選んでください。	7
2	男女の平等感について	9
問2	あなたは、次の各分野で男女どちらが優遇されていると思いますか。	9
①	家庭生活	11
②	職場	12
③	学校教育	13
④	地域活動	14
⑤	法律、制度	15
⑥	社会通念、慣習、しきたり	16
⑦	社会全体	17
問3	あなたは、性別に関することで、生きづらさを感じていますか。	18

3	性別役割分担について	19
問4	「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。	19
問5	そう思うのはどのような理由からですか。	26
問6	次にあげる家庭でのことがらは、夫婦でどのように分担するのが理想だと思いますか。 ..	27
	①生活費の確保	30
	②掃除・洗濯	32
	③食事のしたく	34
	④食事の後片付け・食器洗い	36
	⑤日常の家計管理	38
	⑥子育て	40
	⑦子どものしつけ・教育	42
	⑧介護	44
	⑨自治会・町内会活動	46
	⑩近所や親戚とのつきあい	48
	⑪家庭における重要な決定	50
問7	男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などを行うためには、どのような ことが必要だと思いますか。	52
4	子育てについて	53
問8	あなたは、どのように育てられましたか。	53
問9	あなたは、どのように子育てをしていましたか。	55
問10-1	あなたは、これからの女の子は、どのようなことを身につけてほしいと 思いますか。	57
問10-2	あなたは、これからの男の子は、どのようなことを身につけてほしいと 思いますか。	59
問11	子育て及び子育て支援策について、あなたはどうお考えですか。	63
	①子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念した方がよい	63
	②親が仕事や自分の生活を大切にするために、子育て支援サービスを活用することはよい	65
	③国や自治体が積極的にかかわり、社会全体で子育てを支援していくのがよい	67
問12	男性が育児に参加することについて、あなたはどうお考えですか。	69
問13	男性の育児参加を促していくためには、どのようなことが重要になると思いますか。	71
5	介護について	72
問14	あなたのご家族（同居していない場合も含む）には、介護を要する方がいますか。 ..	72
問15	介護は、主にどなたがされていますか。	72
問16	今後、男性と女性がともに介護を担っていくためには、どのようなことが重要になる と 思いますか。	73

6	仕事や社会参加について	74
問 17	女性が仕事を持つことについて、あなたは次のどの考え方に近いですか。	74
問 18	現在、ワーク・ライフ・バランスが重要視されていますが、あなたは、生活の中で 仕事、家庭生活、地域・個人の生活のうち何を優先しますか。	76
	(1)希望として.....	76
	(2)現実として.....	78
問 19	今後、性別に関わらず働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが 重要だと思いますか。	80
7	人権（DV、セクハラ、LGBT）について	81
問 20	あなたは、これまでに、あなたの恋人や配偶者（事実婚、別居中、離婚後を含む） から、どのようなDVを受けたことがありますか、または受けていますか。	81
問 21	あなたは、DVを受けたときに、相談しましたか。	85
問 22	DVを受けたときに、あなたが安心して相談できたのは次のどれですか。	86
問 23	相談しなかった理由は、何ですか。	88
問 24	あなたは、これまでに、セクハラを受けたことがありますか。	91
問 25	セクハラが行われた場所はどこですか。	92
問 26	あなた自身あるいはあなたの身近（家族、親戚、友人、知人、職場関係）に、 LGBTの方は、いますか。	93
問 27	LGBTに関して、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。	94
8	男女共同参画について	95
問 28	あなたは、①～⑦の法律・条例等を知っていますか。	95
	①女性差別撤廃条約	96
	②男女共同参画社会基本法	98
	③男女雇用機会均等法	100
	④育児・介護休業法	102
	⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）	104
	⑥豊川市男女共同参画推進条例	106
	⑦女性活躍推進法	108
問 29	あなたは、この調査を受け取る前から次の言葉を知っていましたか。	109
問 30	今後、男女共同参画社会の形成をより積極的に推進していくために、行政は どのようなことに力を入れていくことが必要だと思いますか。	110
問 31	「男女共同参画社会」を形成・実現するために、あなた自身としてどのような ことを実践していきたいと考えますか。	113

Ⅲ 資 料.....	115
1 「その他」欄意見	115
2 自由意見のまとめ	125
(1) 男女平等について.....	125
(2) 性別役割分担について.....	126
(3) 子育てについて.....	127
(4) 介護について.....	129
(5) 仕事や社会参加について.....	129
(6) 人権（DV、セクハラ、LGBT）について.....	130
(7) 男女共同参画について.....	131
(8) 社会制度・慣行の見直し、意識の改革.....	131
(9) 市政について.....	132
(10) アンケートについて.....	133
(11) その他.....	133
3 男女共同参画に関する市民意識調査票	134

I 調査の概要

1 調査の目的

豊川市では、平成27年度に豊川市男女共同参画基本計画見直しを行い、令和2年度末で10年間の期間満了となることから、令和2年度に新たな基本計画の策定を予定しています。

本調査は、事業所の男女共同参画に関する意識調査を行い、策定の際の基礎資料とすることを目的としています。

2 調査対象

豊川市内の18歳以上の男女各1,000人、合計2,000人を無作為抽出

3 調査期間

令和元年10月28日から令和元年11月11日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
2,000通	1,025通	1,024通	51.2%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・性別のクロス集計において、「その他」の回答がN=1だったため、クロス集計は、男性、女性のみとしています。

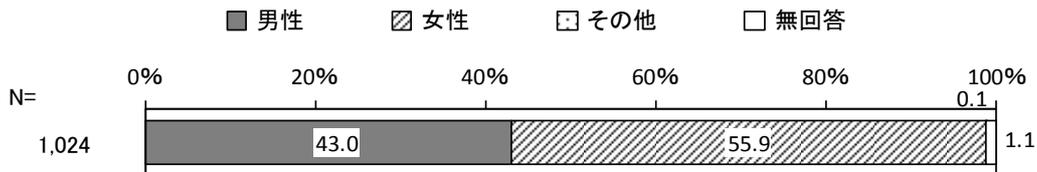
II 調査結果

1 回答者属性

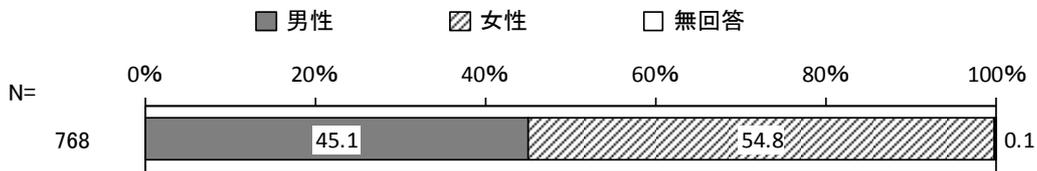
問1 ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについておたずねします。

(1) あなたの性別は次のどれになりますか（1つに○）。

「男性」の割合が 43.0%、「女性」の割合が 55.9%、「その他」の割合が 0.1%となっています。

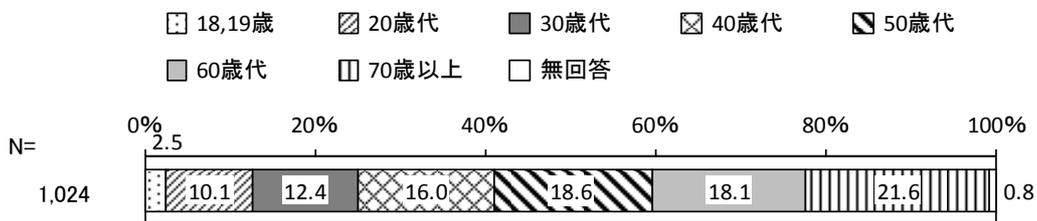


[(参考) 平成 26 年度調査]

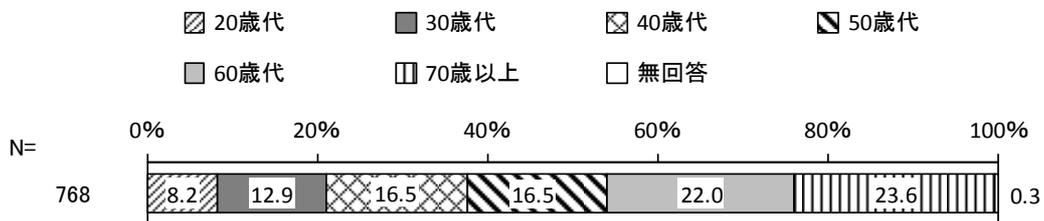


(2) あなたの年齢はおいくつですか（1つに○）。

「70歳以上」の割合が 21.6%と最も高く、次いで「50歳代」の割合が 18.6%、「60歳代」の割合が 18.1%となっています。

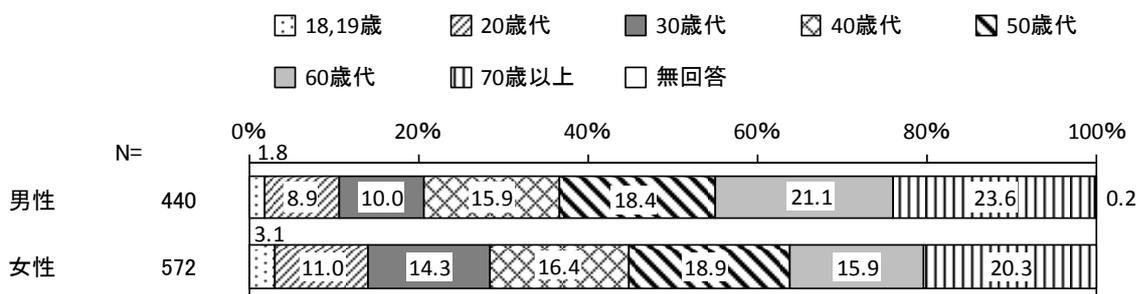


[(参考) 平成 26 年度調査]



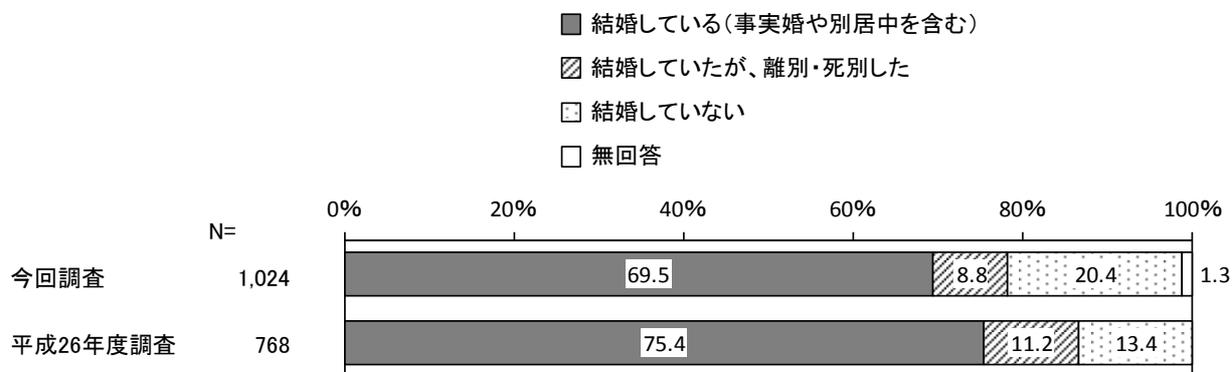
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性の 60歳代以上で割合が高くなっています。



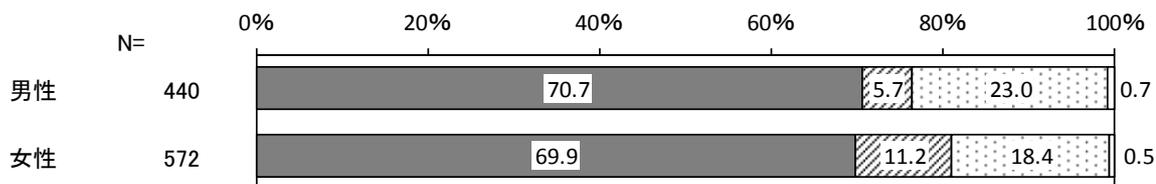
(3) あなたは現在結婚していますか（1つに○）。

「結婚している（事実婚や別居中を含む）」の割合が 69.5%と最も高く、次いで「結婚していない」の割合が 20.4%、「結婚していたが、離別・死別した」の割合が 8.8%となっています。
平成 26 年度調査と比較すると、「結婚していない」の割合が 7.0 ポイント増加しています。



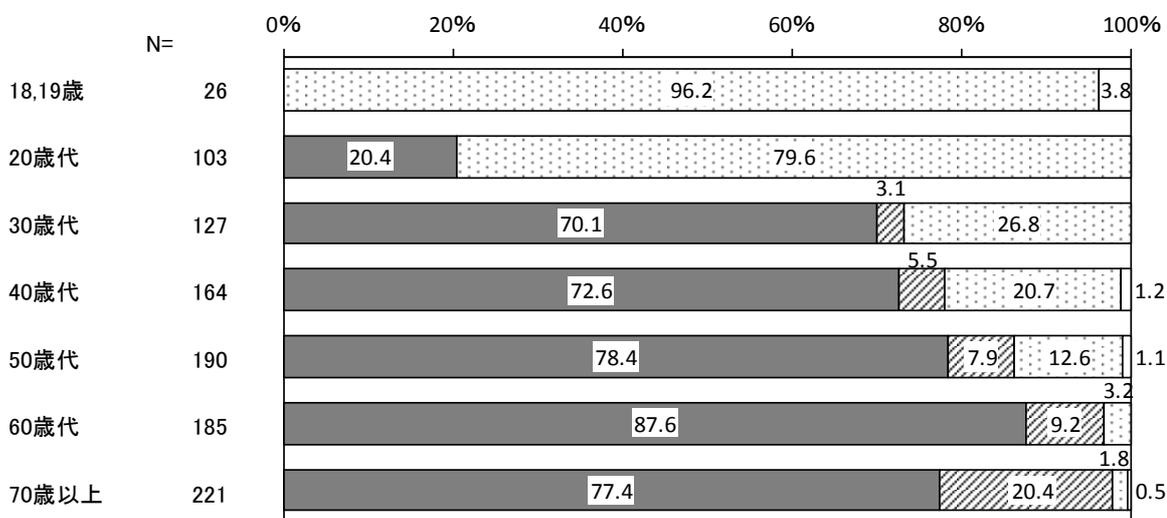
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「結婚していたが、離別・死別した」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「結婚していない」の割合が高い傾向を示しています。



【年代別】

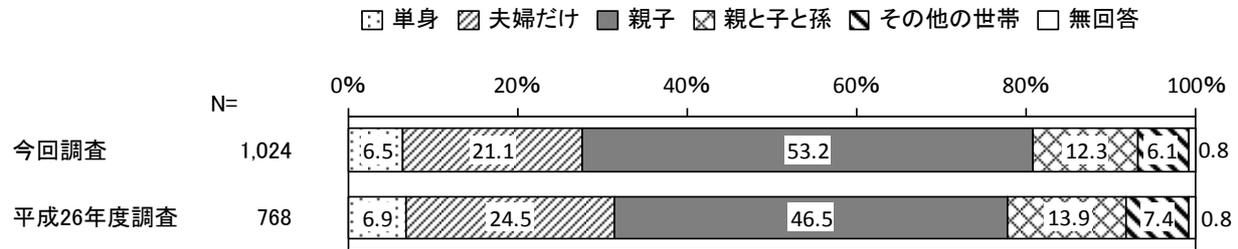
年代別でみると、30 歳代以上で「結婚している（事実婚や別居中を含む）」の割合が高く、7割を超えています。



(4) あなたの世帯は、どれになりますか（1つに○）。

「親子」の割合が53.2%と最も高く、次いで「夫婦だけ」の割合が21.1%、「親と子と孫」の割合が12.3%となっています。

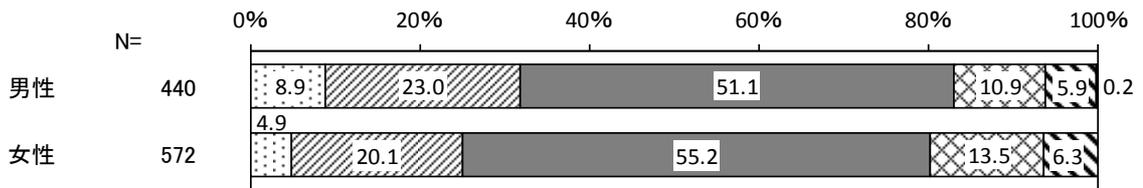
平成26年度調査と比較すると、「親子」の割合が6.7ポイント増加しています。



* 「単身」は平成26年度調査では「1人」と表記

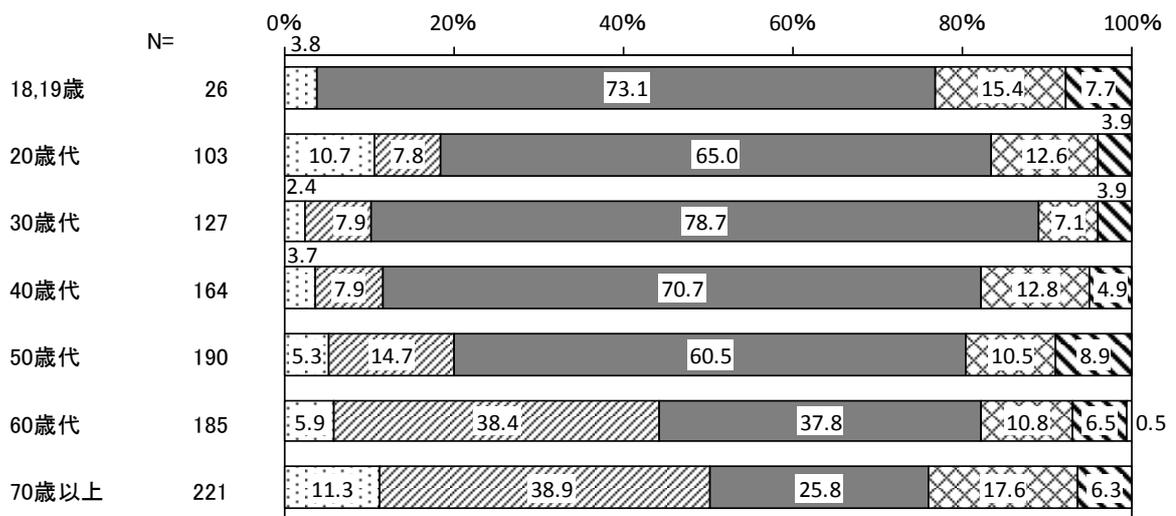
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「単身」の割合が高くなっています。



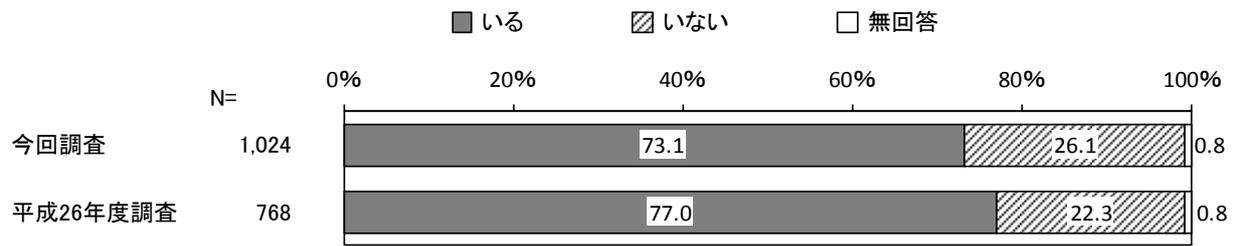
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、60歳代、70歳以上で「夫婦だけ」の割合が高く、「親子」の割合が低くなっています。



(6) あなたには、お子さんがいますか（1つに○）。

「いる」の割合が73.1%、「いない」の割合が26.1%となっています。

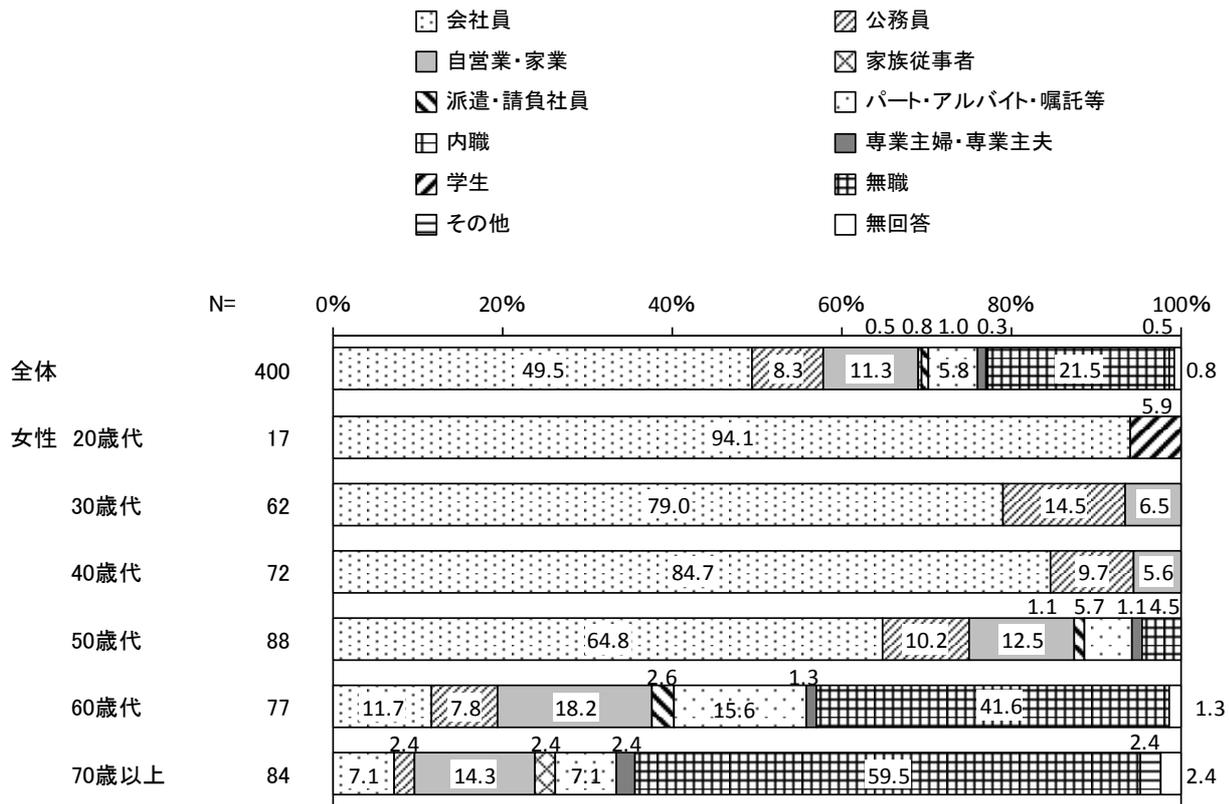


(7) 結婚している（事実婚や別居中を含む）方におたずねします。あなたの配偶者の職業に該当する番号を選んでください（1つに○）。

① 配偶者の職業（夫）

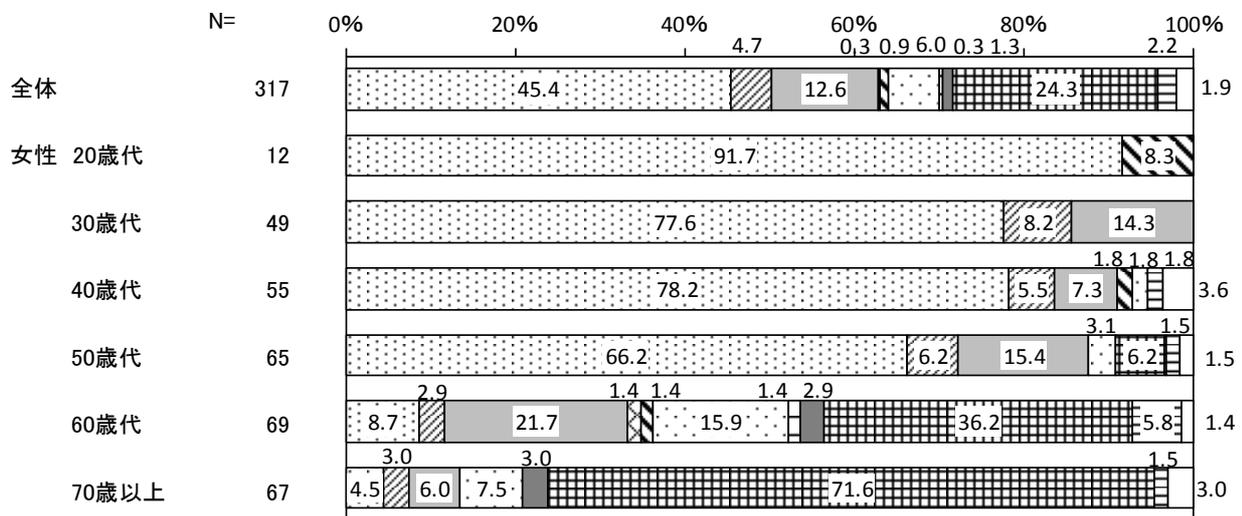
配偶者の職業（夫）で、「会社員」の割合が 49.5%と最も高く、次いで「無職」の割合が 21.5%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、配偶者の職業（夫）で、「会社員」の割合が 4.1 ポイント増加しています。また、70 歳以上で「無職」の割合が 12.1 ポイント減少しています。



* 「18 歳、19 歳」はN = 0 のため省略

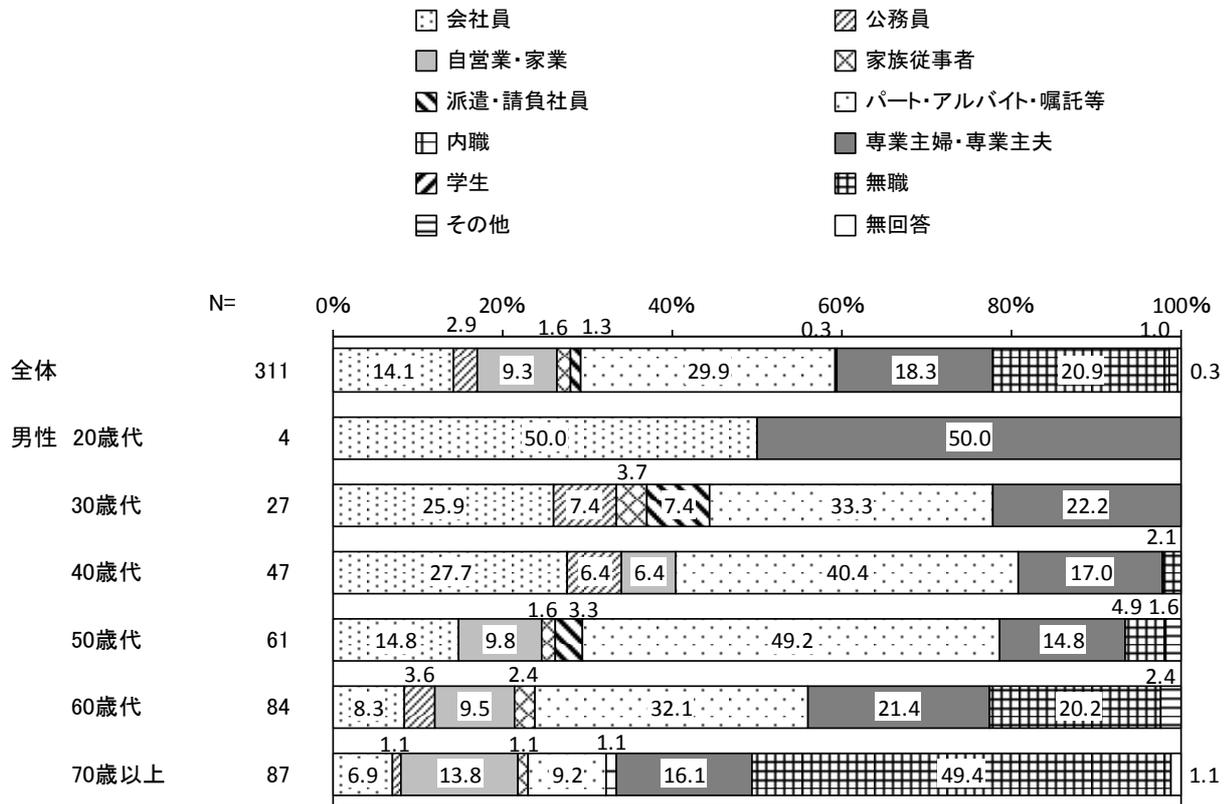
[平成 26 年度調査]



② 配偶者の職業（妻）

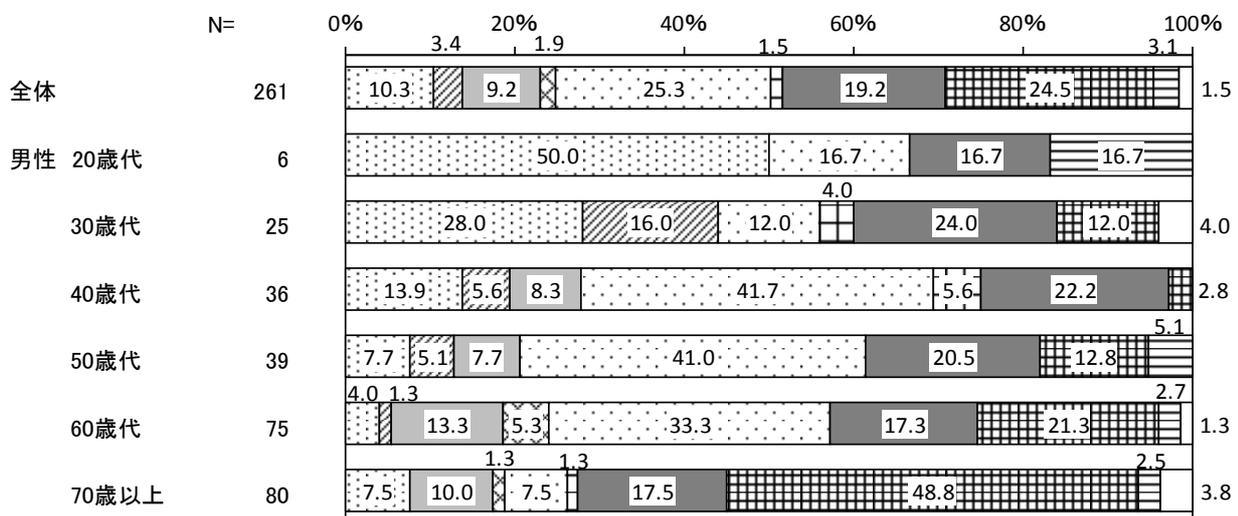
配偶者の職業（妻）で「パート・アルバイト・嘱託等」の割合が 29.9%と最も高く、次いで「無職」の割合が 20.9%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、配偶者の職業（妻）で「パート・アルバイト・嘱託等」の割合が 4.6 ポイント増加し、「無職」の割合が 3.6 ポイント減少しています。また、30 歳代で「パート・アルバイト・嘱託等」の割合が 21.3 ポイント増加しています。



* 「18 歳、19 歳」はN = 0 のため省略

[平成 26 年度調査]



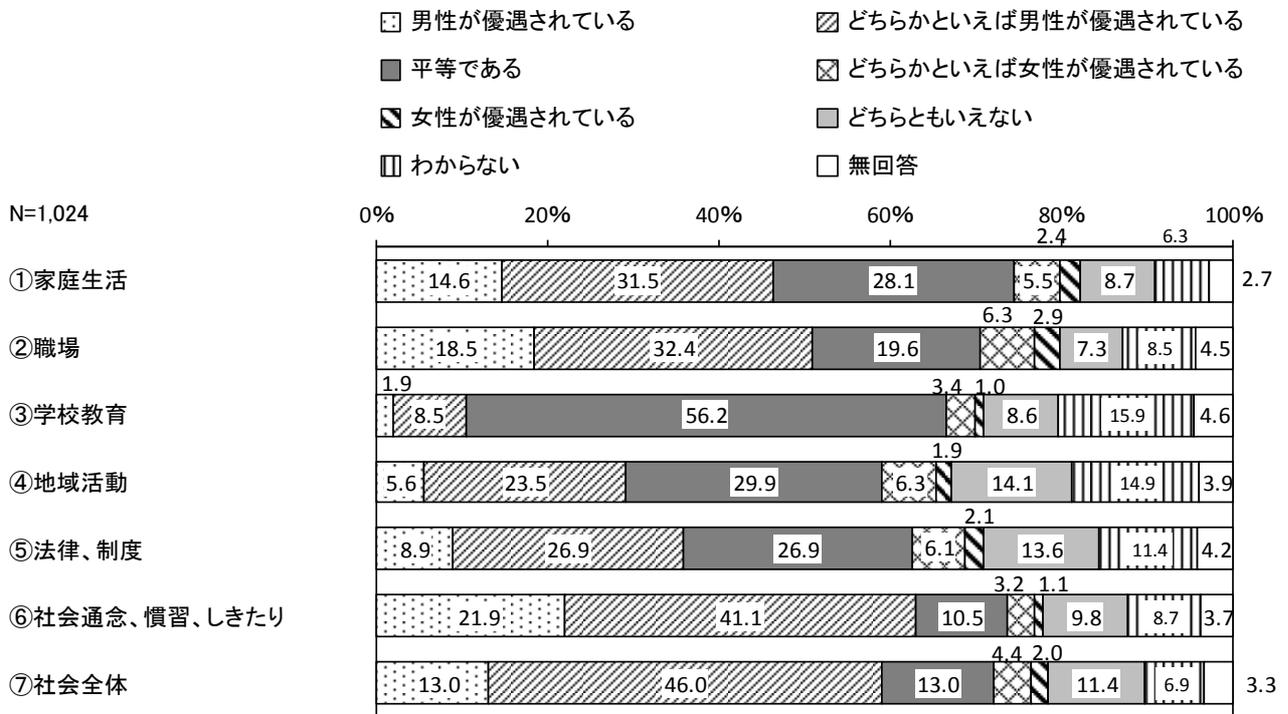
2 男女平等の現状について

問2 あなたは、次の各分野で男女どちらが優遇されていると思いますか
(それぞれ1つに○)。

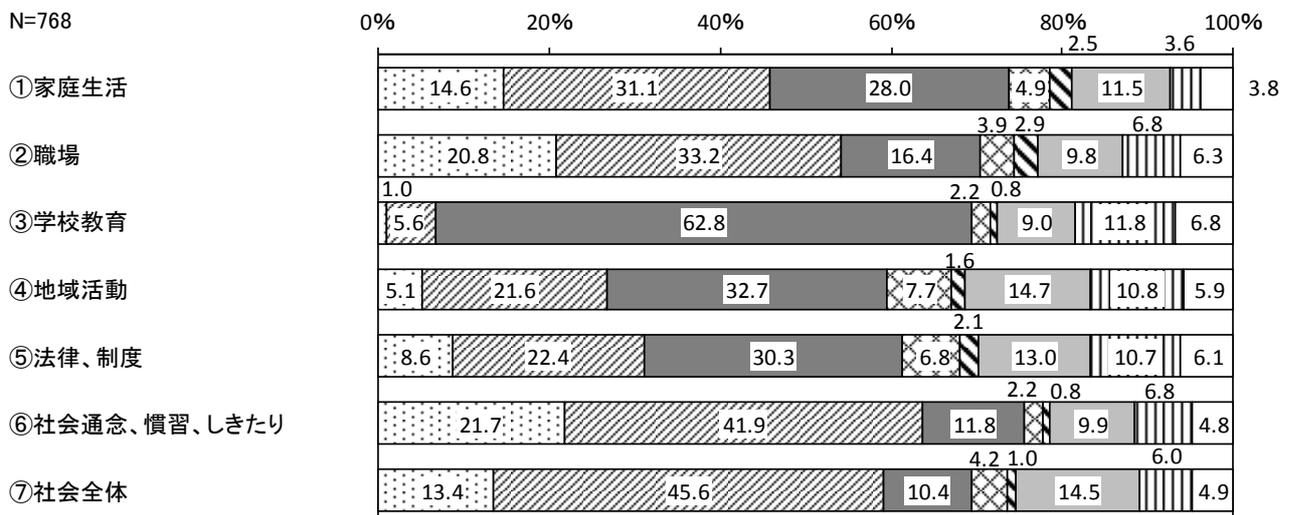
「平等である」の割合は、「③学校教育」で56.2%と最も高く、次いで「④地域活動」の割合が29.9%となっています。

それ以外は、「男性が優遇されている」と「どちらかと言えば男性が優遇されている」をあわせた「男性が優遇されている」の割合が高くなっており、特に「⑥社会通念、慣習、しきたり」で63.0%、「⑦社会全体」で59.0%となっています。

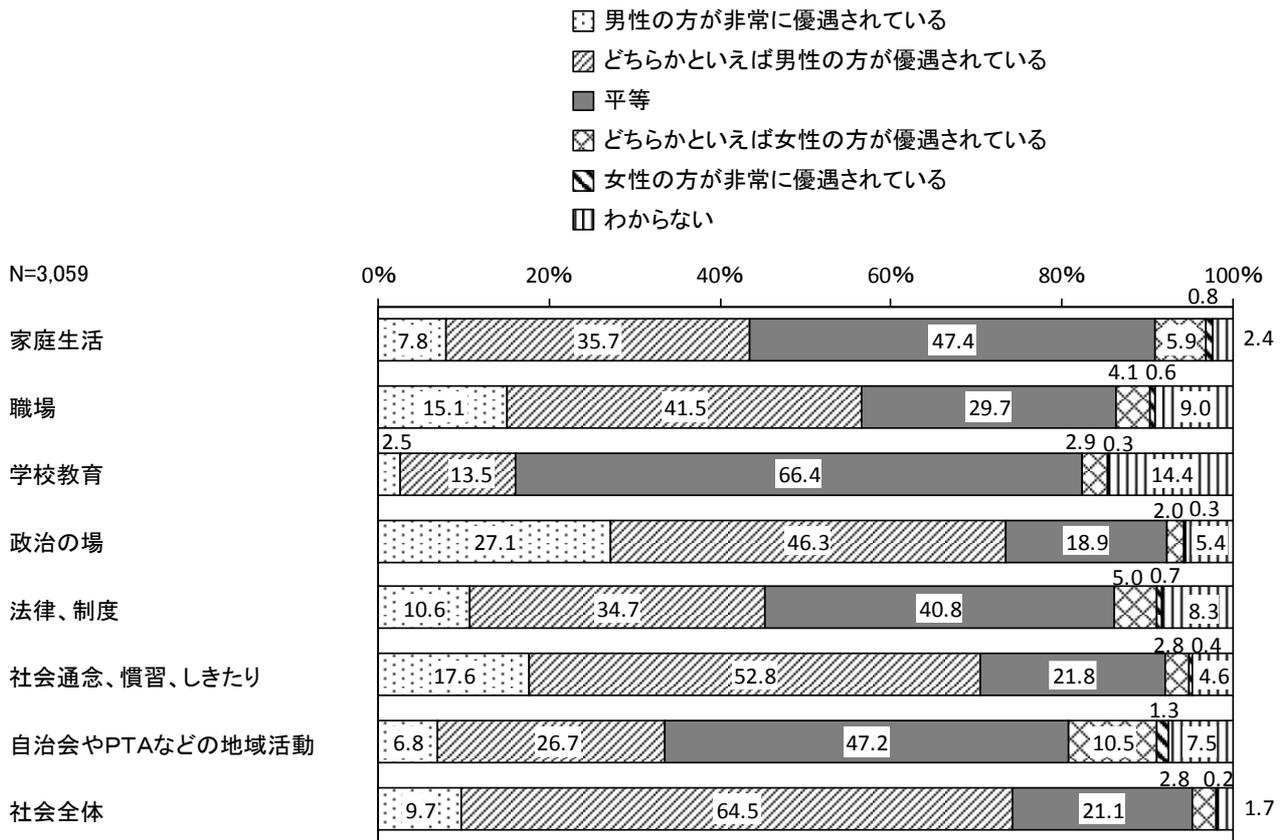
平成26年度調査と比較すると、「②職場」で「どちらかといえば女性が優遇されている」の割合が増加していますが、「③学校教育」で「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が増加、「平等である」の割合が減少しています。



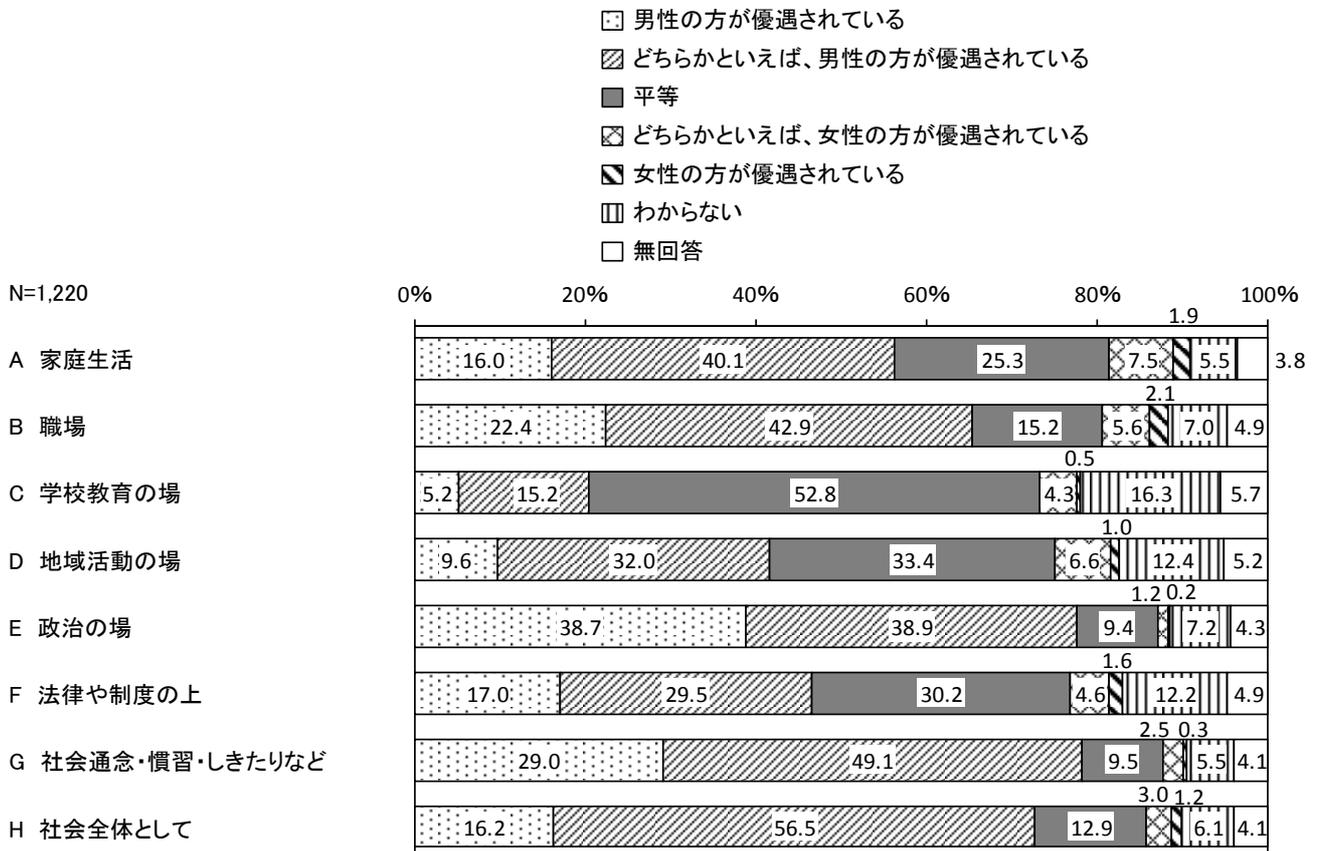
[平成26年度調査]



(参考) 全国調査 (平成 28 年内閣府「男女共同参画に関する世論調査」)



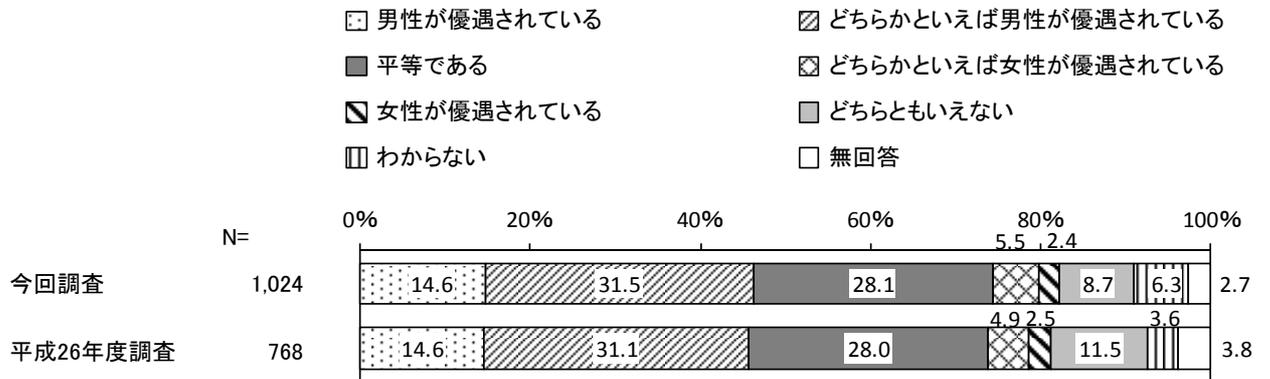
(参考) 愛知県調査 (令和元年「男女共同参画意識に関する調査」)



①家庭生活

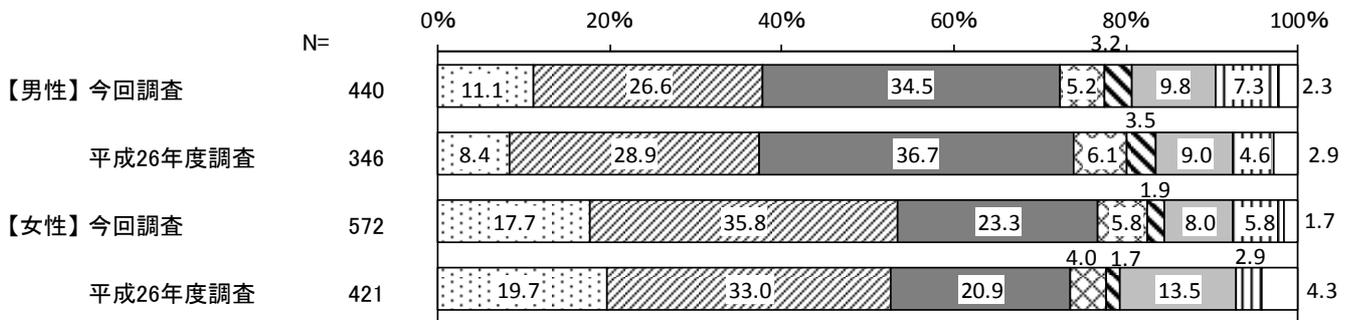
「男性が優遇されている」と「どちらかと言えば男性が優遇されている」をあわせた“男性が優遇されている”の割合が46.1%、「平等である」の割合が28.1%、「女性が優遇されている」と「どちらかと言えば女性が優遇されている」をあわせた“女性が優遇されている”の割合が7.9%となっています。

平成26年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

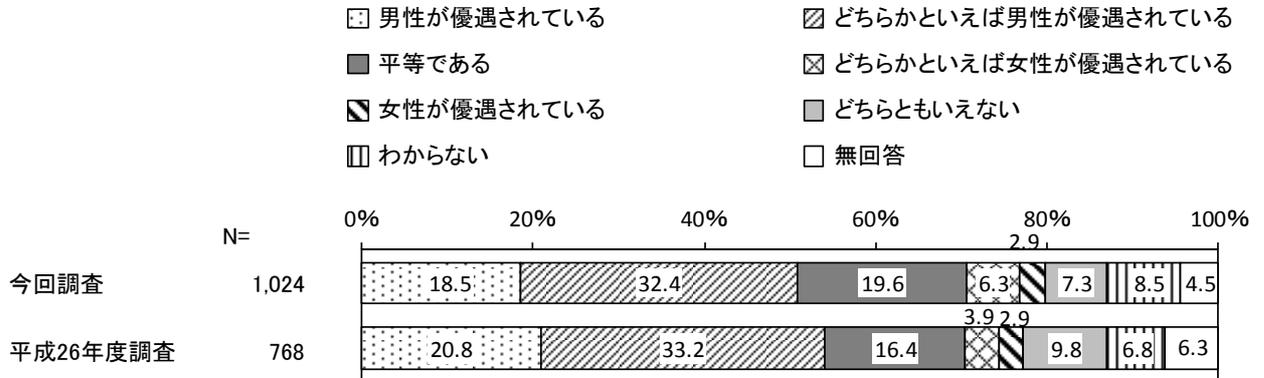
性別で見ると、男性に比べ、女性で“男性が優遇されている”の割合が高く、5割を超えています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高く、3割半ばとなっています。



②職場

“男性が優遇されている”の割合が50.9%、「平等である」の割合が19.6%、“女性が優遇されている”の割合が9.2%となっています。

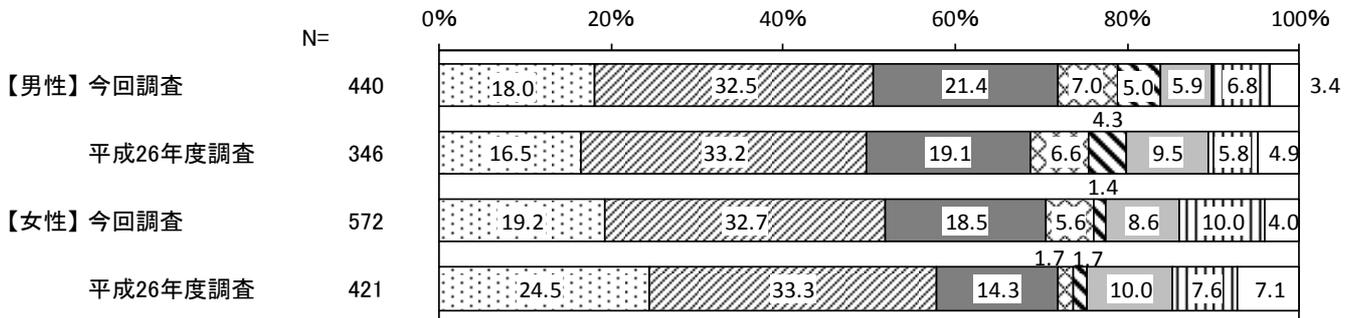
平成26年度調査と比較すると、「平等である」の割合が3.2ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、男女ともに“男性が優遇されている”の割合が高く、約5割となっています。

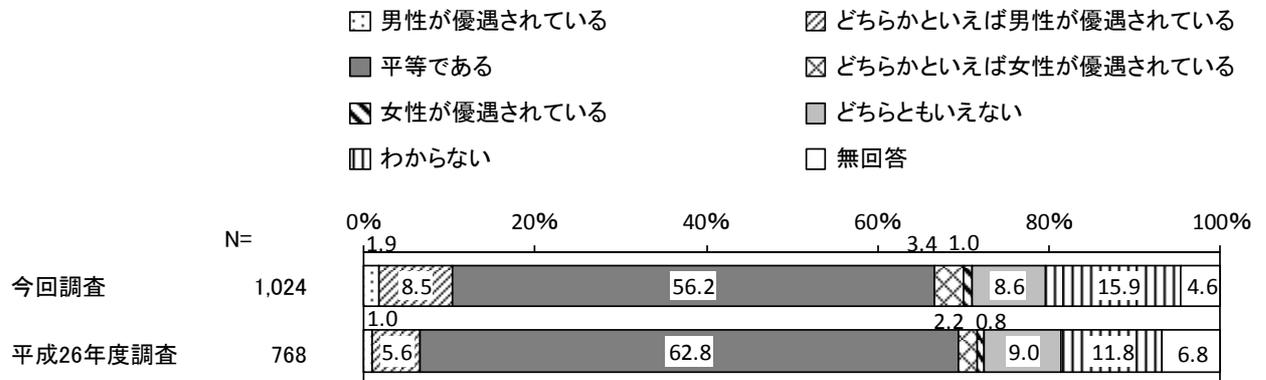
平成26年度調査と比較すると、“男性が優遇されている”の割合が、女性で5.9ポイント減少し、「平等である」の割合が、4.2ポイント増加しています。



③学校教育

“男性が優遇されている”の割合が10.4%、「平等である」の割合が56.2%、“女性が優遇されている”の割合が4.4%となっています。

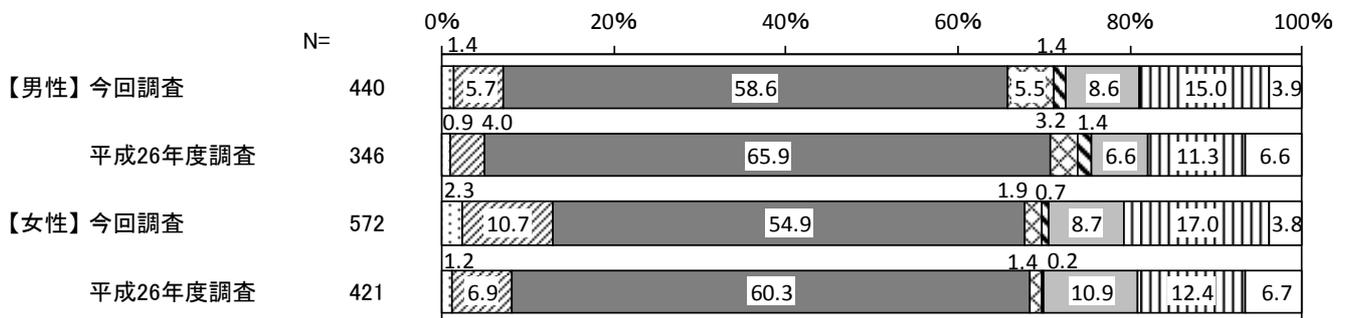
平成26年度調査と比較すると、「平等である」の割合が6.6ポイント減少し、“男性が優遇されている”の割合が3.8ポイント増加しています。



【性別】

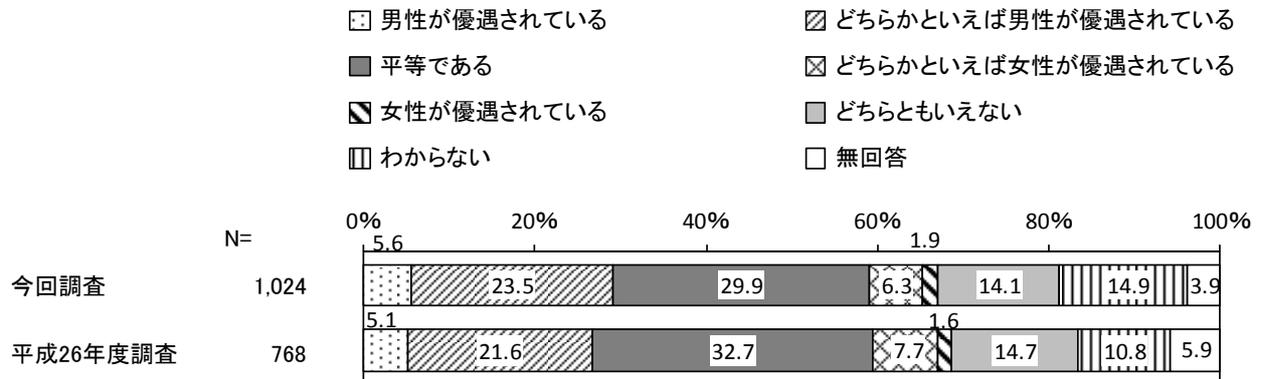
性別でみると、男女ともに「平等である」の割合が約6割となっています。

平成26年度調査と比較すると、「平等である」の割合が、男性で7.3ポイント、女性で5.4ポイント減少しています。



④地域活動

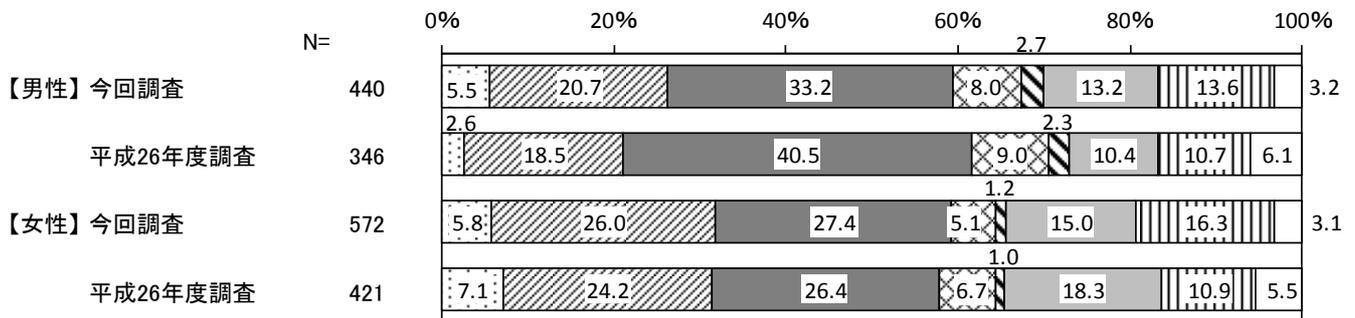
“男性が優遇されている”の割合が29.1%、「平等である」の割合が29.9%、“女性が優遇されている”の割合が8.2%となっています。



【性別】

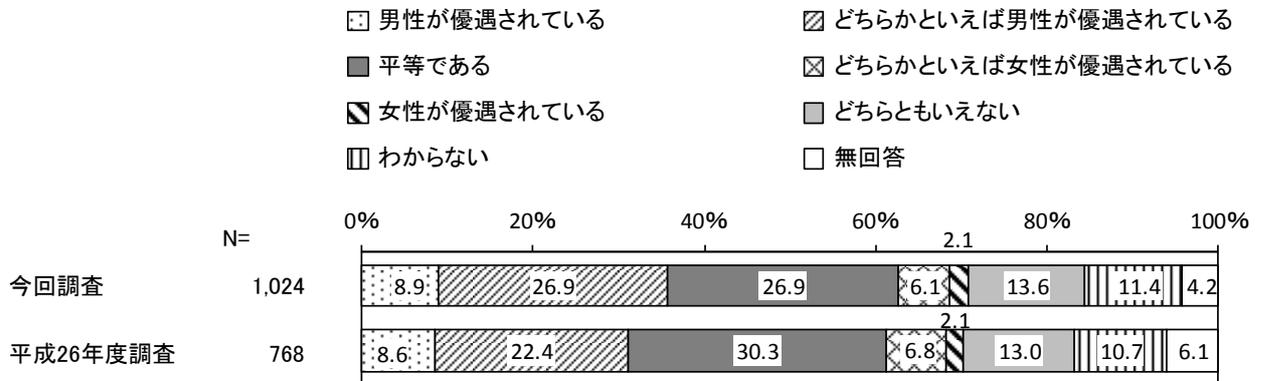
性別でみると、男性に比べ、女性で“男性が優遇されている”の割合が高く、約3割となっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっています。

平成26年度調査と比較すると、「平等である」の割合が、男性で7.3ポイント減少している一方で、“男性が優遇されている”の割合が、男性で5.1ポイント増加しています。



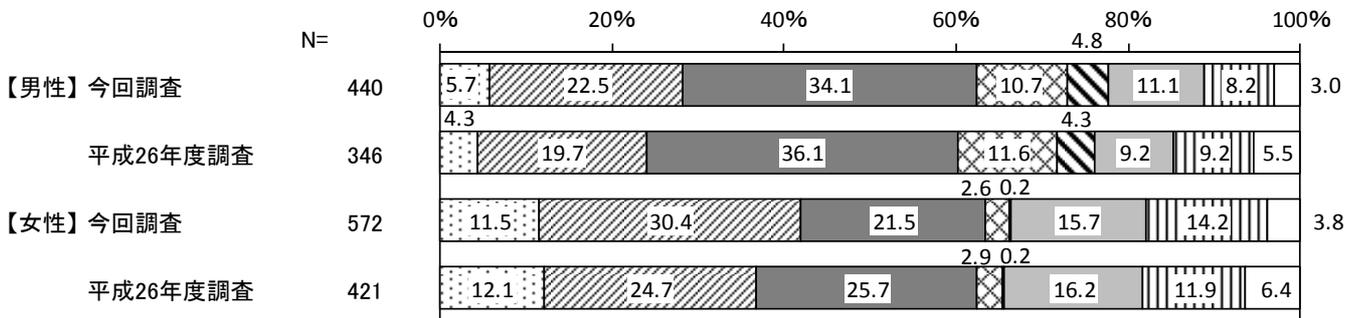
⑤法律、制度

“男性が優遇されている”の割合が35.8%、「平等である」の割合が26.9%、“女性が優遇されている”の割合が8.2%となっています。



【性別】

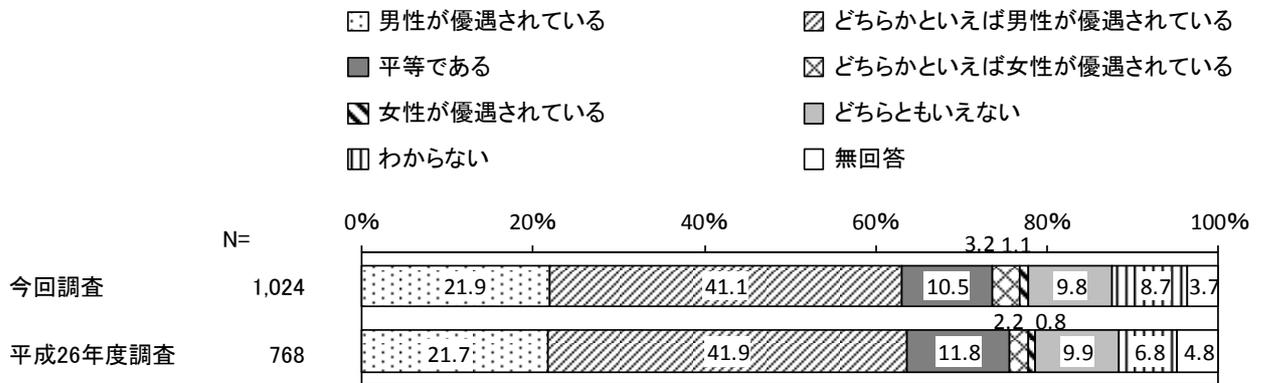
性別でみると、男性に比べ、女性で“男性が優遇されている”の割合が高く、約4割となっています。一方、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高く、約3割となっています。



⑥社会通念、慣習、しきたり

“男性が優遇されている”の割合が63.0%、「平等である」の割合が10.5%、“女性が優遇されている”の割合が4.3%となっています。

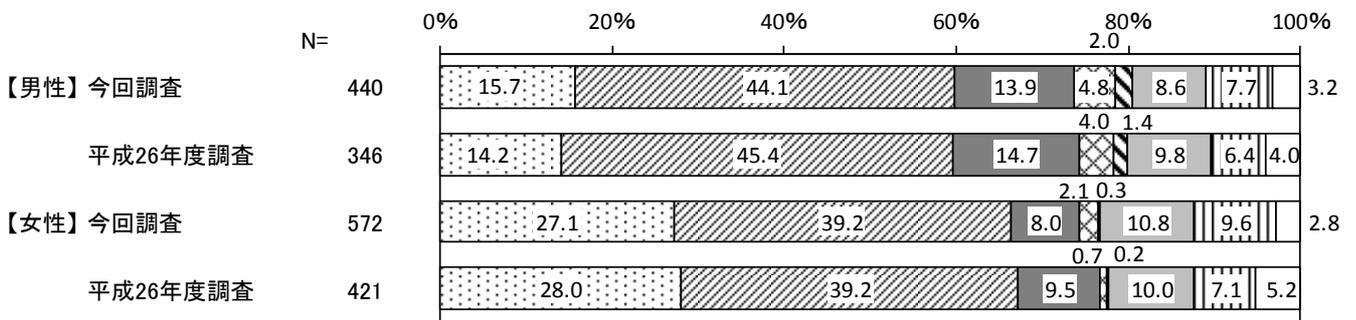
平成26年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

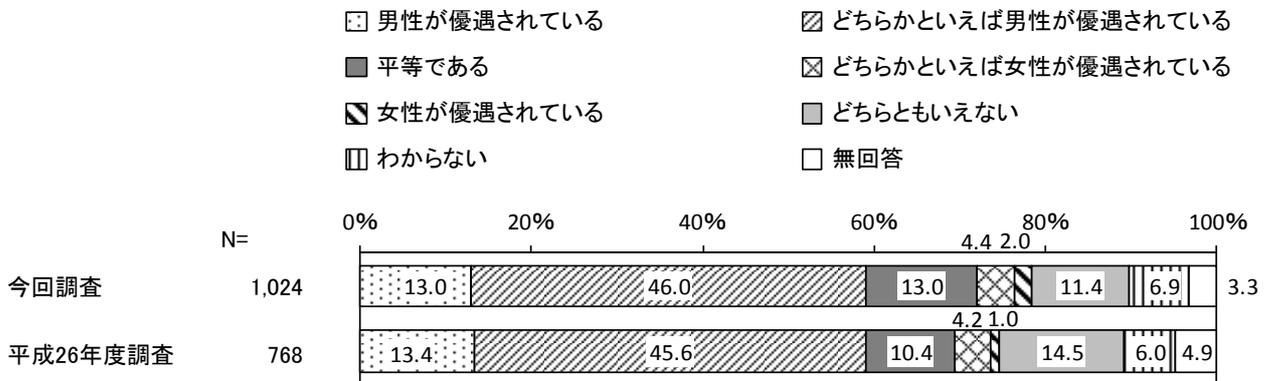
性別でみると、男性に比べ、女性で“男性が優遇されている”の割合が高く、約7割となっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっています。

平成26年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



⑦社会全体

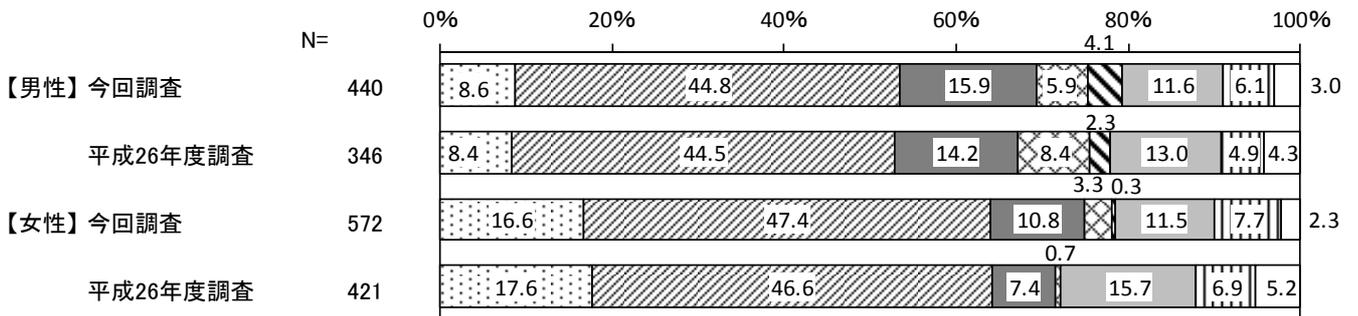
“男性が優遇されている”の割合が59.0%、「平等である」の割合が13.0%、“女性が優遇されている”の割合が6.4%となっています。



【性別】

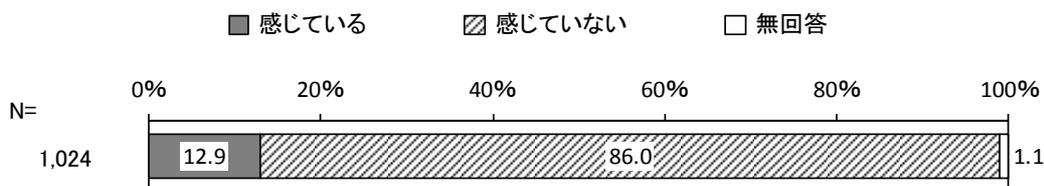
性別でみると、男性に比べ、女性で“男性が優遇されている”の割合が高く、6割半ばとなっています。

平成26年度調査と比較すると、「平等である」の割合が、女性で3.4ポイント増加しています。



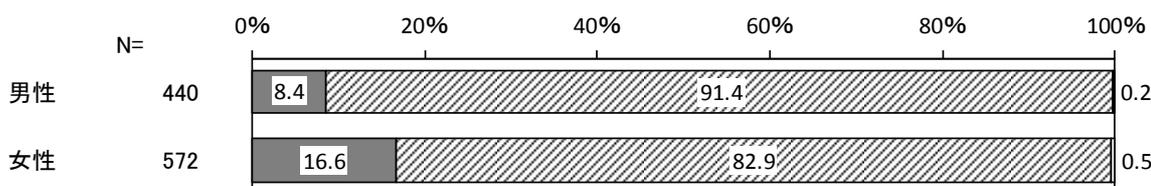
問3 あなたは、性別に関することで、生きづらさを感じていますか（1つに○）。

「感じている」の割合が12.9%、「感じていない」の割合が86.0%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「感じている」の割合が高く、約2割となっています。



【年代別・世帯別・職業別】

年代別でみると、「感じている」の割合が、20歳代で24.3%と最も高く、次いで30歳代で19.7%となっています。

世帯別でみると、「感じている」の割合が、単身で19.4%と最も高くなっています。

職業別でみると、「感じている」の割合が、派遣・請負社員で23.5%と最も高く、次いでパート・アルバイト・嘱託等で15.6%となっています。

単位: %

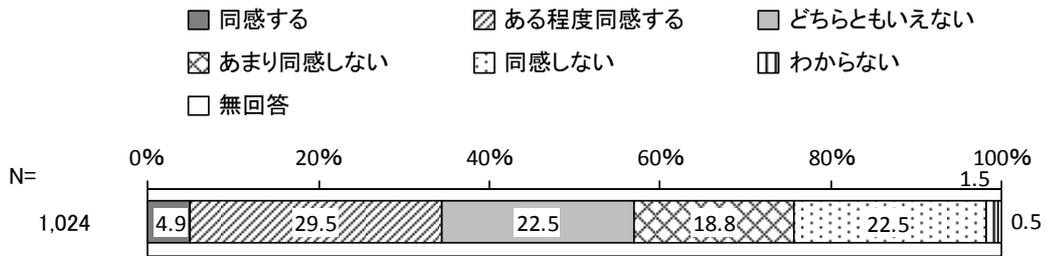
	有効回答数	感じている	感じていない	無回答
全体	1,024	12.9	86.0	1.1
18,19歳	26	7.7	92.3	-
20歳代	103	24.3	75.7	-
30歳代	127	19.7	80.3	-
40歳代	164	12.2	87.8	-
50歳代	190	15.3	84.2	0.5
60歳代	185	7.6	91.4	1.1
70歳以上	221	7.7	91.9	0.5
単身	67	19.4	80.6	-
夫婦だけ	216	9.7	89.8	0.5
親子	545	13.9	85.5	0.6
親と子と孫	126	9.5	90.5	-
その他の世帯	62	16.1	83.9	-
会社員	303	14.2	85.8	-
公務員	60	13.3	86.7	-
自営業・家業	87	8.0	92.0	-
家族従事者	12	8.3	91.7	-
派遣・請負社員	17	23.5	76.5	-
パート・アルバイト・嘱託等	192	15.6	83.9	0.5
内職	7	14.3	85.7	-
専業主婦・専業主夫	107	11.2	88.8	-
学生	39	12.8	87.2	-
無職	172	11.0	87.8	1.2
その他	16	12.5	87.5	-

3 性別役割分担について

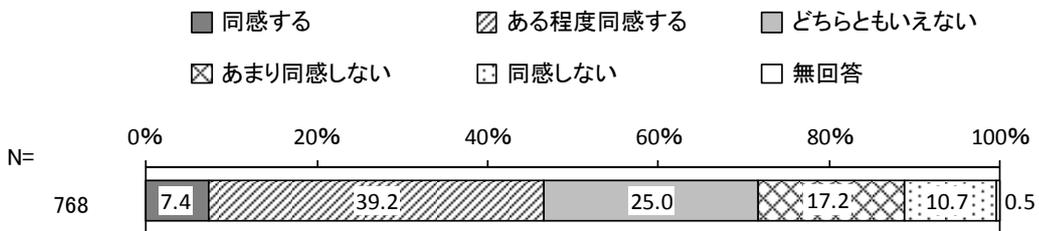
問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか（1つに○）。

「同感する」と「ある程度同感する」をあわせた“同感する”の割合が34.4%、「同感しない」と「あまり同感しない」をあわせた“同感しない”の割合が41.3%となっています。

平成26年度調査と比較すると、“同感する”の割合が減少し、“同感しない”の割合が増加しています。（今回調査から「わからない」の項目が追加）



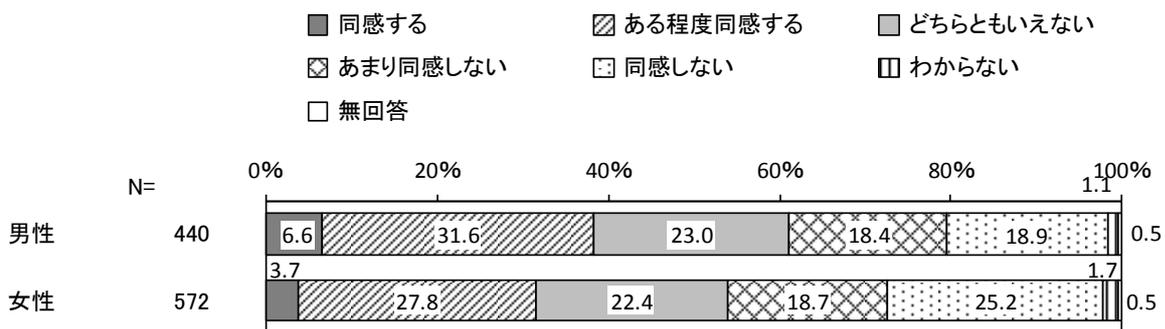
[(参考) 平成26年度調査]



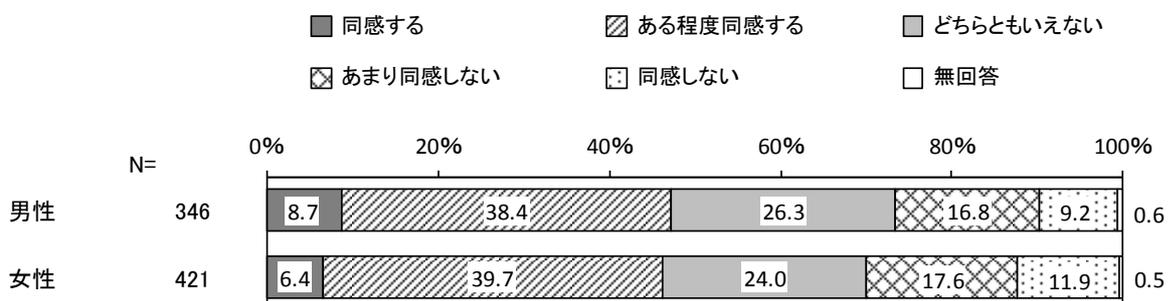
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“同感しない”の割合が高くなっています。

平成26年度調査と比較すると、男女共“同感する”の割合が減少し、“同感しない”の割合が増加しています。



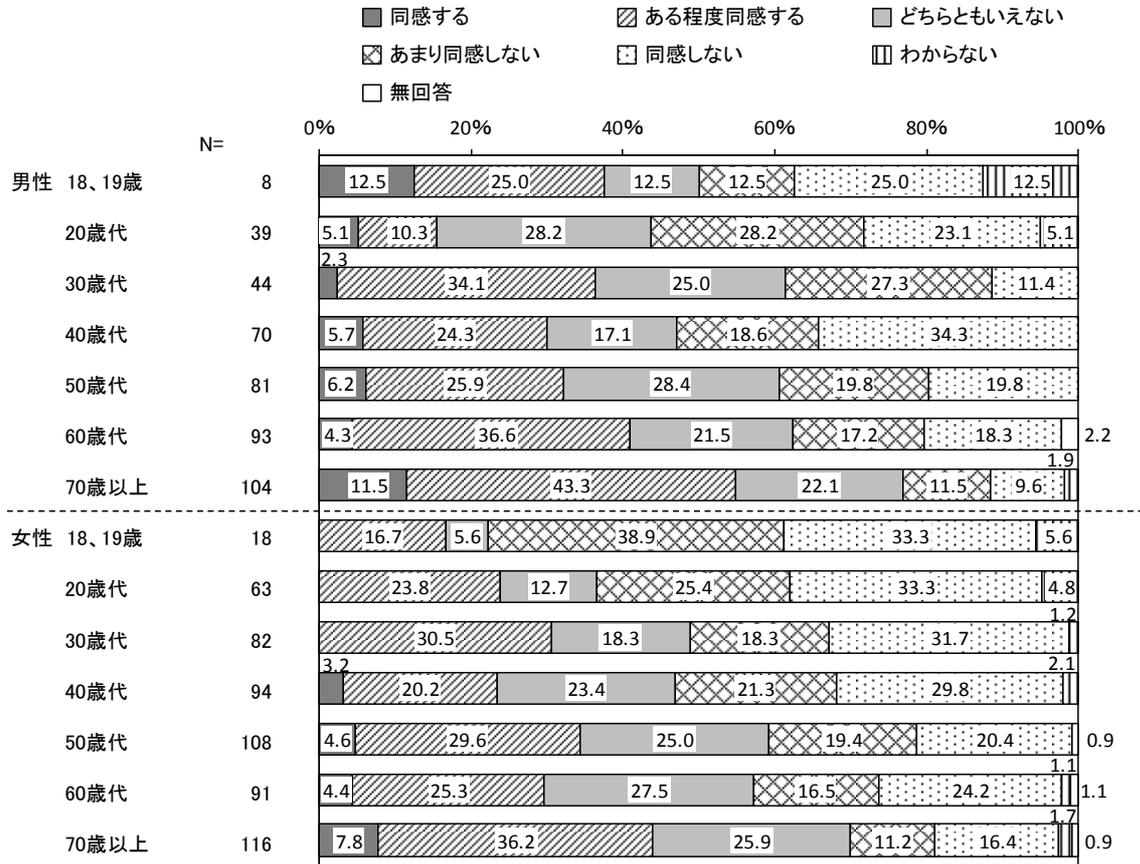
[(参考) 平成26年度調査]



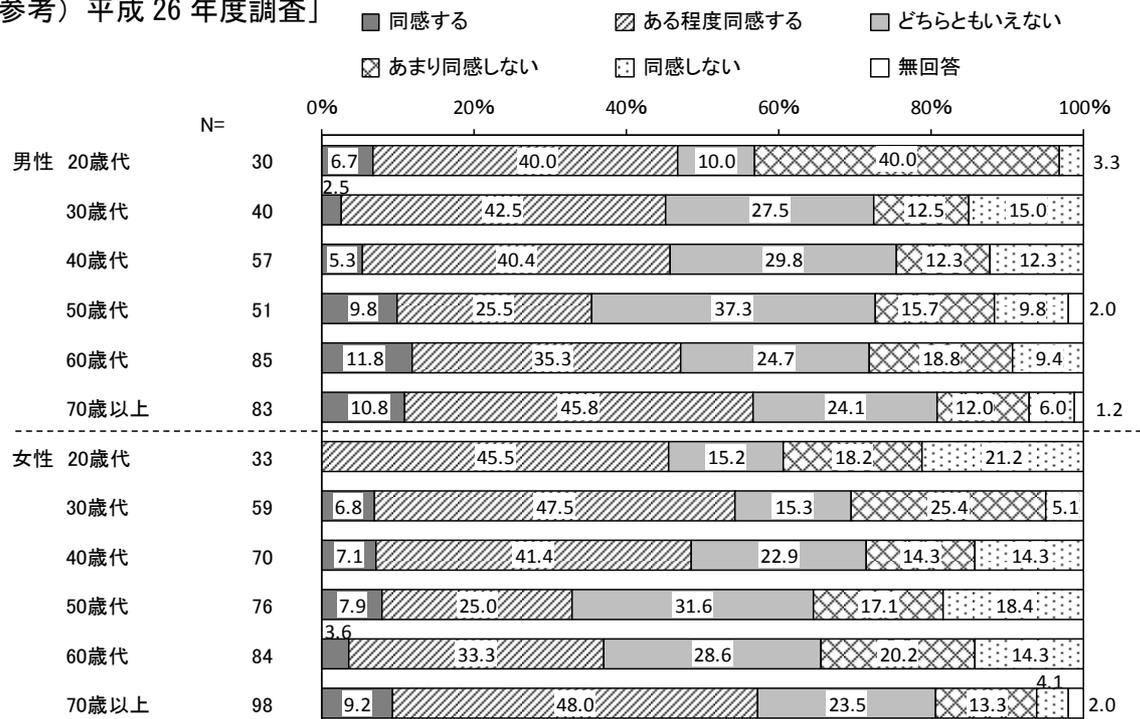
【性・年代別】

性・年代別でみると、男女とも、他の年代に比べ、70歳以上で“同感する”の割合が高く、特に男性の70歳以上で、“同感する”の割合が約6割となっています。

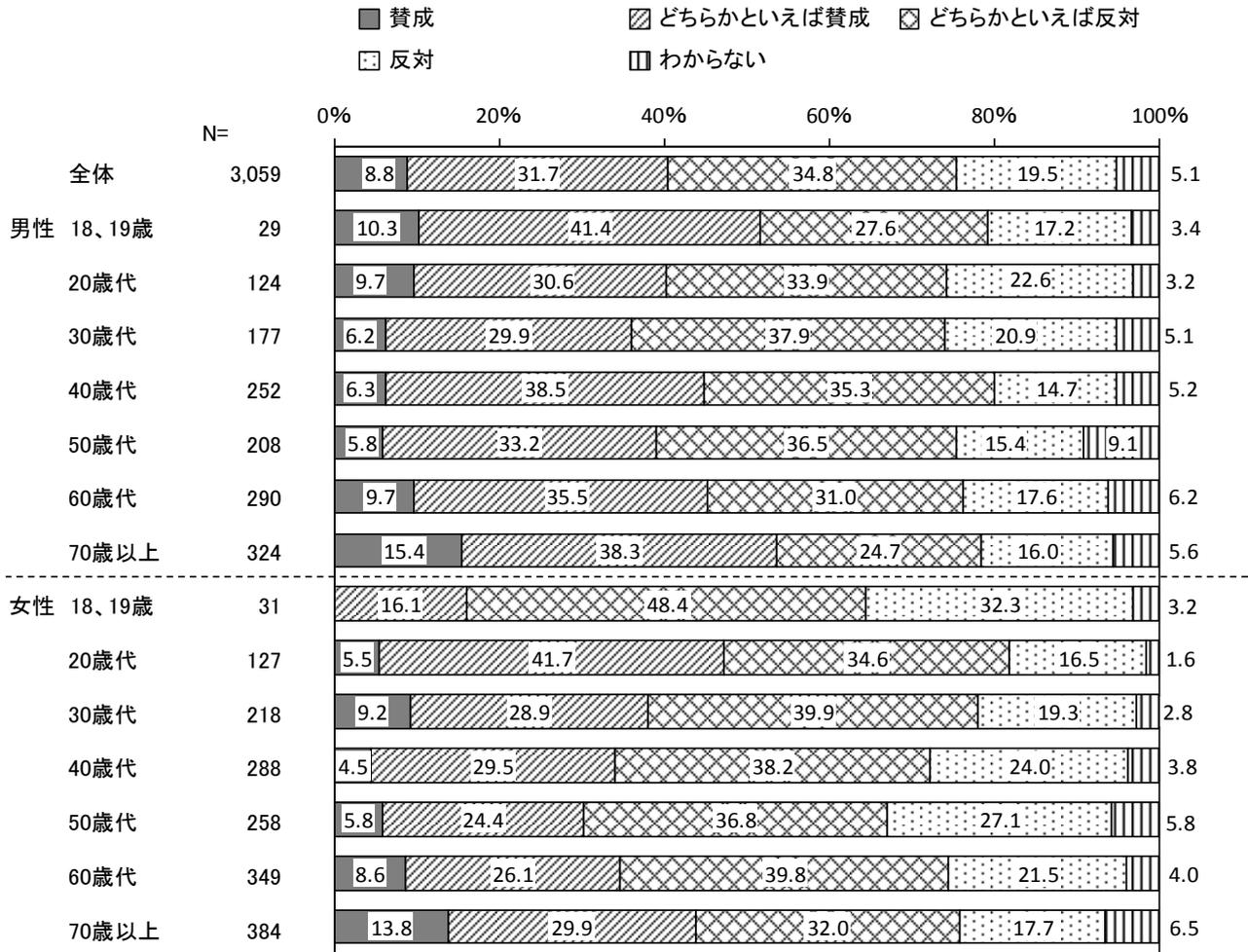
平成26年度調査と比較すると、男女ともに、他の年代に比べ、70歳以上で“同感する”の割合が高くなっています。女性では、40歳代で“同感する”の割合が低くなっています。また、男性では、20歳代で“同感する”の割合が低くなっています。



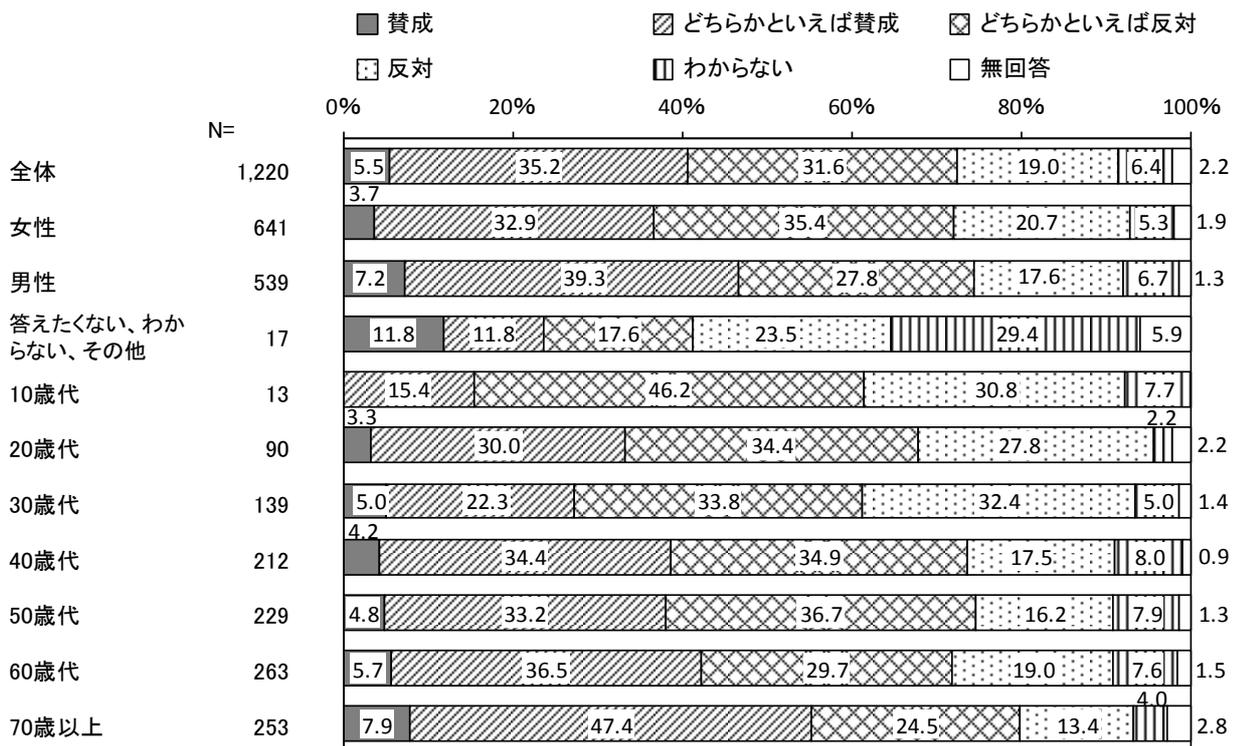
〔(参考) 平成26年度調査〕



(参考) 全国調査 (平成 28 年内閣府「男女共同参画に関する世論調査」)



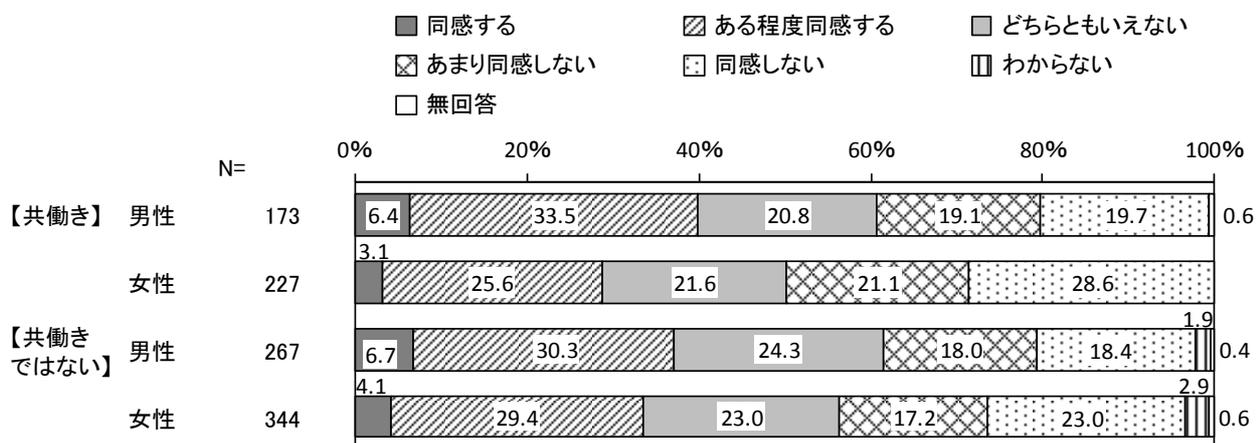
(参考) 愛知県調査 (令和元年「男女共同参画意識に関する調査」)



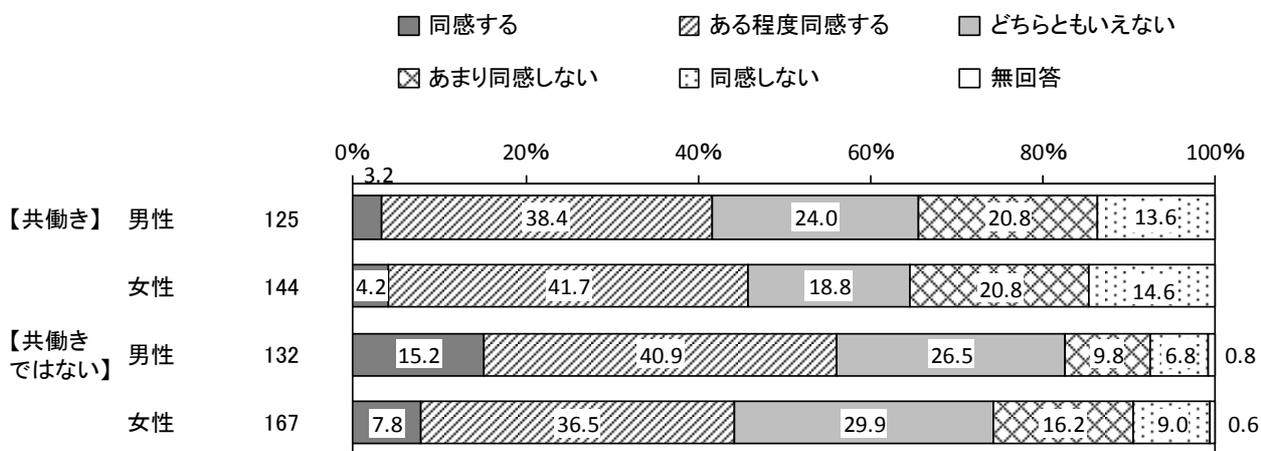
【共働き・性別】

共働き・性別でみると、男性は、共働き、共働きではない共に、“同感する”、“同感しない”の割合が約4割となっています。女性は、共働きの女性で“同感しない”の割合が高く、約5割となっています。

平成26年度調査と比較すると、“同感する”の割合が、共働き、共働きではない、男女共に減少し、特に、共働きの女性、共働きではない男性で減少しています。



【(参考) 平成26年度調査】

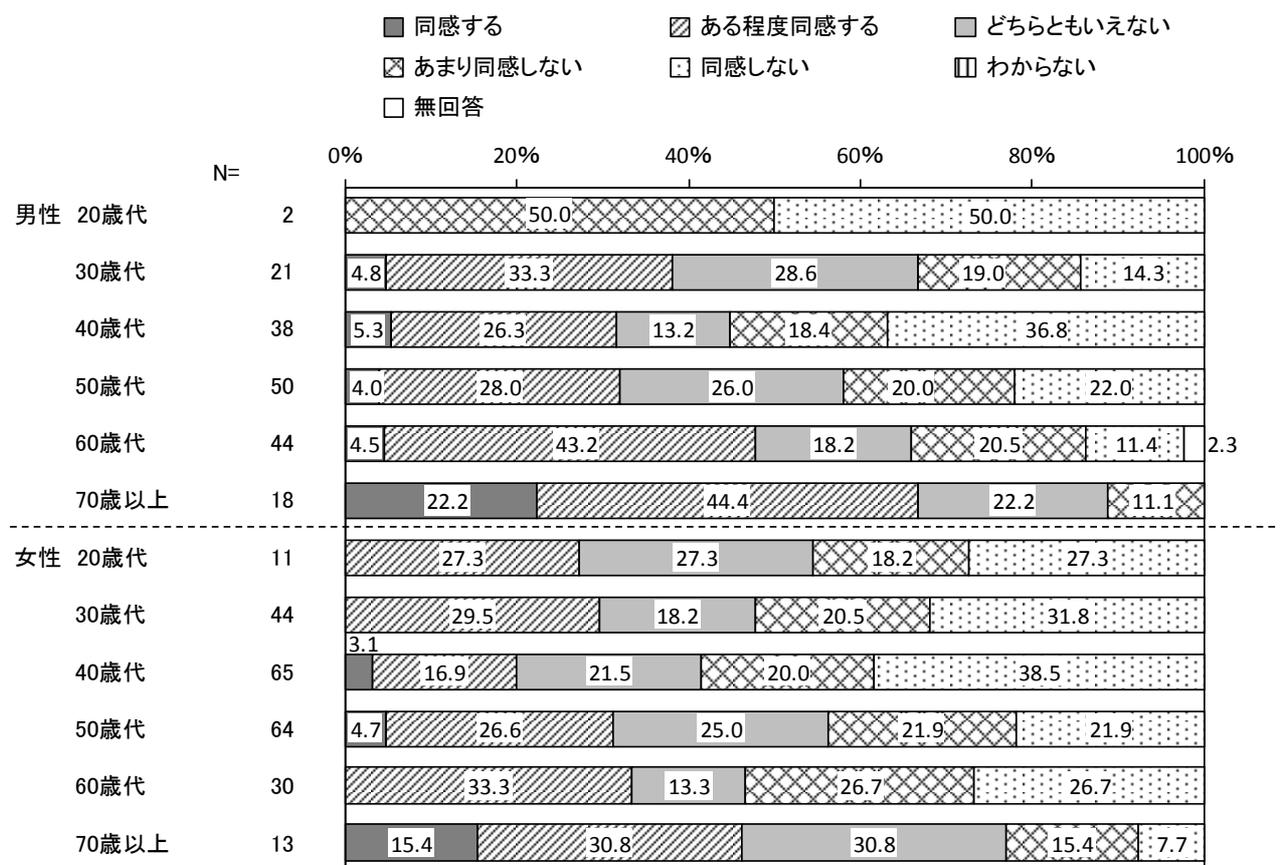


【共働き・性年代別】

①共働きの人

共働きの人を性・年代別でみると、男性では、70歳以上で“同感する”の割合が高く、6割を超えている一方、“同感しない”の割合は、20歳代で100%、40歳代で5割を超えています。女性では、70歳以上で“同感する”の割合が高く、約5割となっている一方、“同感しない”の割合は、70歳以上の除く年代で約4～6割と高くなっています。

平成26年度調査と比較すると（25頁参照）、男性では、“同感する”の割合が、20歳代と40歳代で特に減少しています。女性では、“同感する”の割合が、40歳代と70歳以上で特に減少しています。

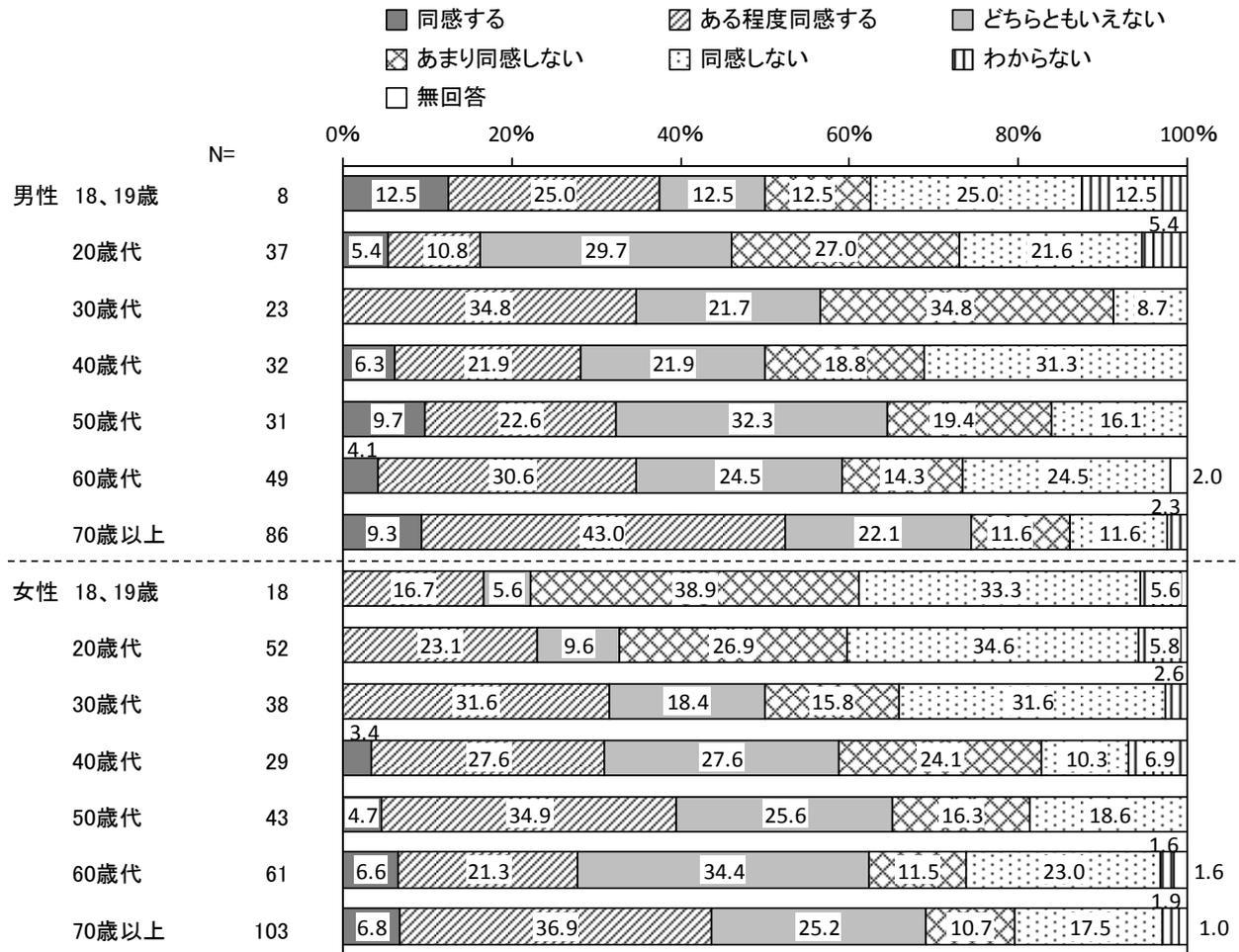


* 「18歳、19歳」は男女ともN=0のため省略

②共働きではない人

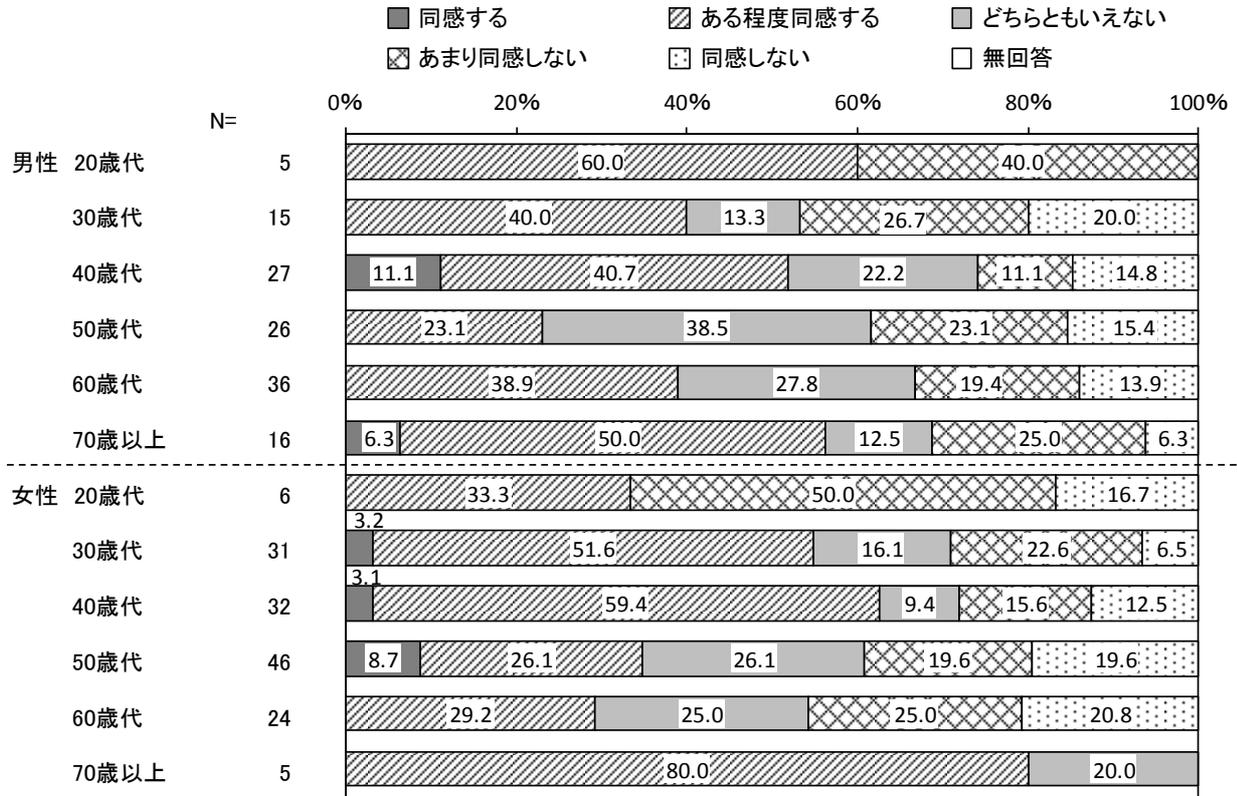
共働きではない人を性・年代別でみると、男性では、20歳代、40歳代で“同感しない”の割合が高く、約5割となっています。女性では、18、19歳、20歳代で“同感しない”の割合が高く、約6割～7割となっています。

平成26年度調査と比較すると（25頁参照）、男性では、20歳代で“同感しない”の割合が特に増加し、女性では、30歳代で“同感しない”の割合が特に増加しています。



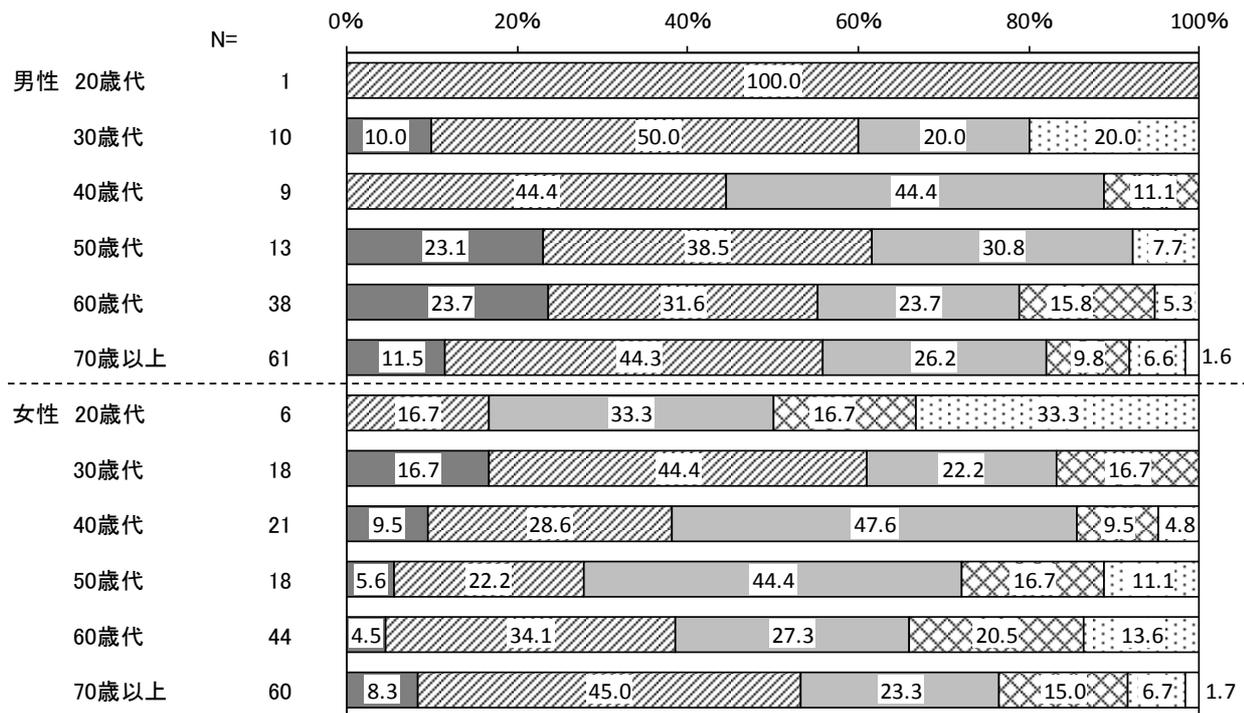
〔参考〕平成26年度調査

①共働きの人



〔参考〕平成26年度調査

②共働きではない人

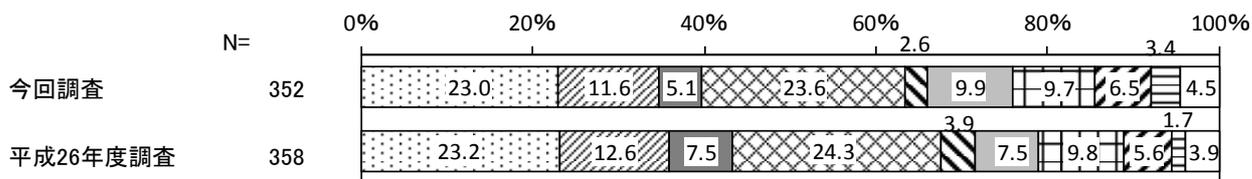


問4で「1. 同感する」「2. ある程度同感する」と答えた方におたずねします。

問5 そう思うのはどのような理由からですか（1つに○）。

「女性は家庭の状況によっては仕事を継続するのが難しい」の割合が23.6%と最も高く、次いで「男性は外の仕事に、女性は家事・育児・介護に適している」の割合が23.0%、「男女の役割を固定した方が、家庭生活がうまくいく」の割合が11.6%となっています。

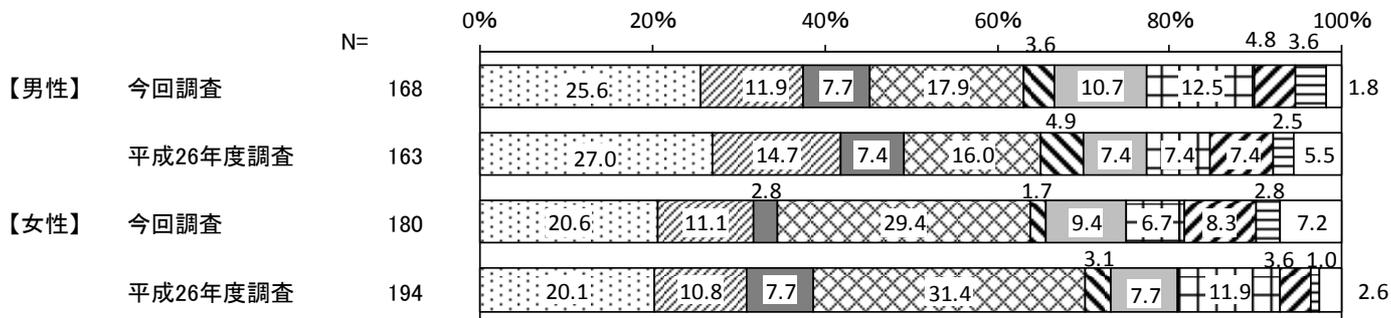
- 男性は外の仕事に、女性は家事・育児・介護に適しているから
- 男女の役割を固定した方が、家庭生活がうまくいくから
- 家庭をもつ女性が働き続けると家庭にうるおいがなくなるから
- 女性は家庭の状況によっては仕事を継続するのが難しいから
- 男性は本来、家事・育児に向いていないから
- 長年の考え方(価値観)は、そう簡単になくならないから
- 子どもの成長にとってよいから
- 個人的にそうありたいから
- その他
- 無回答



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「女性は家庭の状況によっては仕事を継続するのが難しい」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「男性は外の仕事に、女性は家事・育児・介護に適している」の割合が高くなっています。

平成26年度調査と比較すると、女性は「家庭をもつ女性が働き続けると家庭にうるおいがなくなるから」の割合が4.9ポイント、「子どもの成長にとってよいから」の割合が5.2ポイント減少し、「個人的にそうありたいから」の割合が4.7ポイント増加しています。



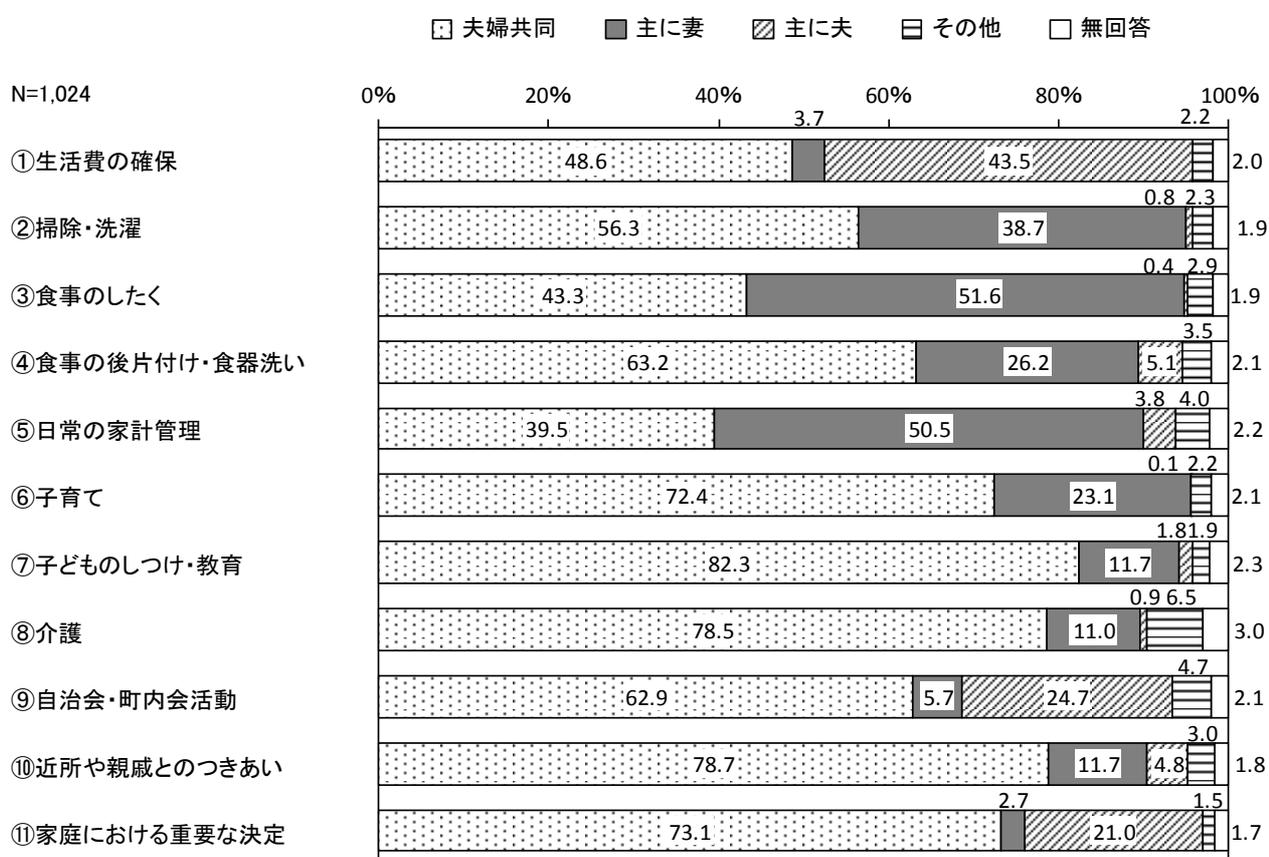
問6 次にあげる家庭でのことがらは、夫婦でどのように分担するのが理想だと思いますか（それぞれ1つに○）。

《理想》

「夫婦共同」で「⑦子どものしつけ・教育」の割合が82.3%と最も高く、次いで「⑩近所や親戚とのつきあい」の割合が78.7%、「⑧介護」の割合が78.5%となっています。

「①生活費の確保」については、「主に妻」の割合が約4割となっています。「③食事のしたく」「⑤日常の家計管理」については、「主に妻」の割合が過半数を超えています。

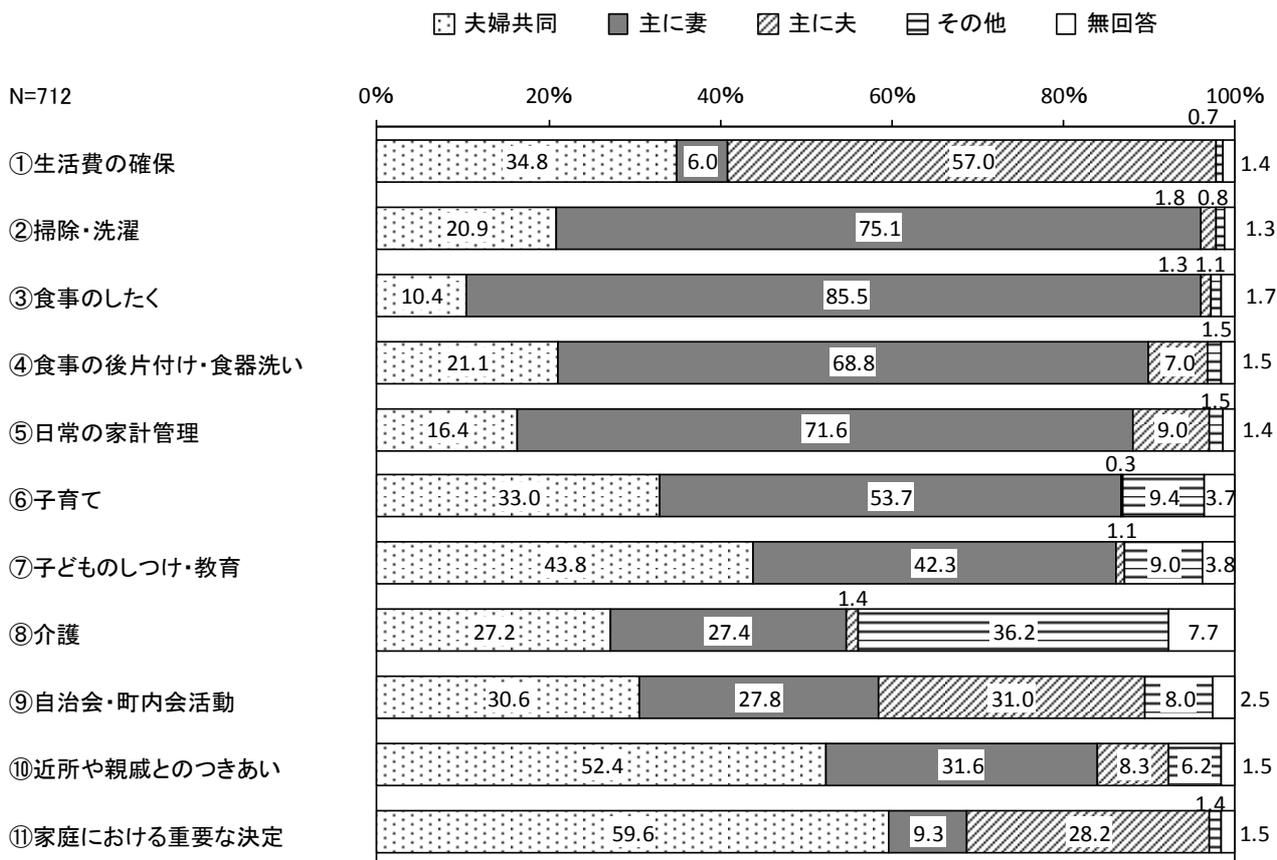
平成26年度調査と比較すると（29頁参照）、「夫婦共同」で「①生活費の確保」の割合が15.1ポイント、「②掃除・洗濯」の割合が15.7ポイント、「③食事のしたく」の割合が13.7ポイント増加しています。



《実際》（結婚している（事実婚を含む）人のみ）

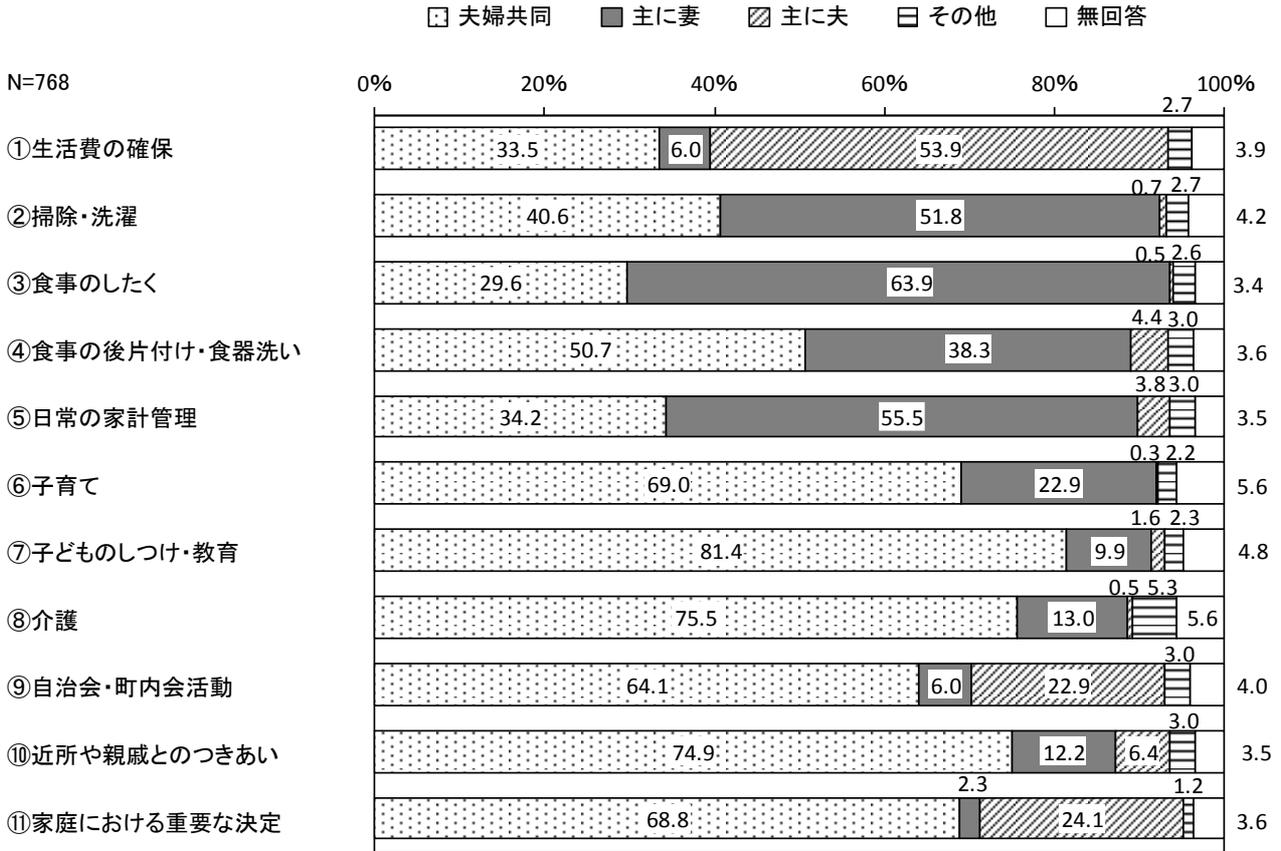
「主に妻」で「③食事のしたく」の割合が 85.5%と最も高く、次いで「②掃除・洗濯」の割合が 75.1%、「⑤日常の家計管理」の割合が 71.6%「④食事の後片付け・食器洗い」の割合が 68.8%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると（29 頁参照）、「夫婦共同」で「②掃除・洗濯」の割合が 5.2 ポイント増加しています。また、「主に夫」で「④食事の後片付け・食器洗い」の割合が 3.2 ポイント増加し、「主に夫」で「⑪家庭における重要な決定」の割合が 6.5 ポイント減少しています。

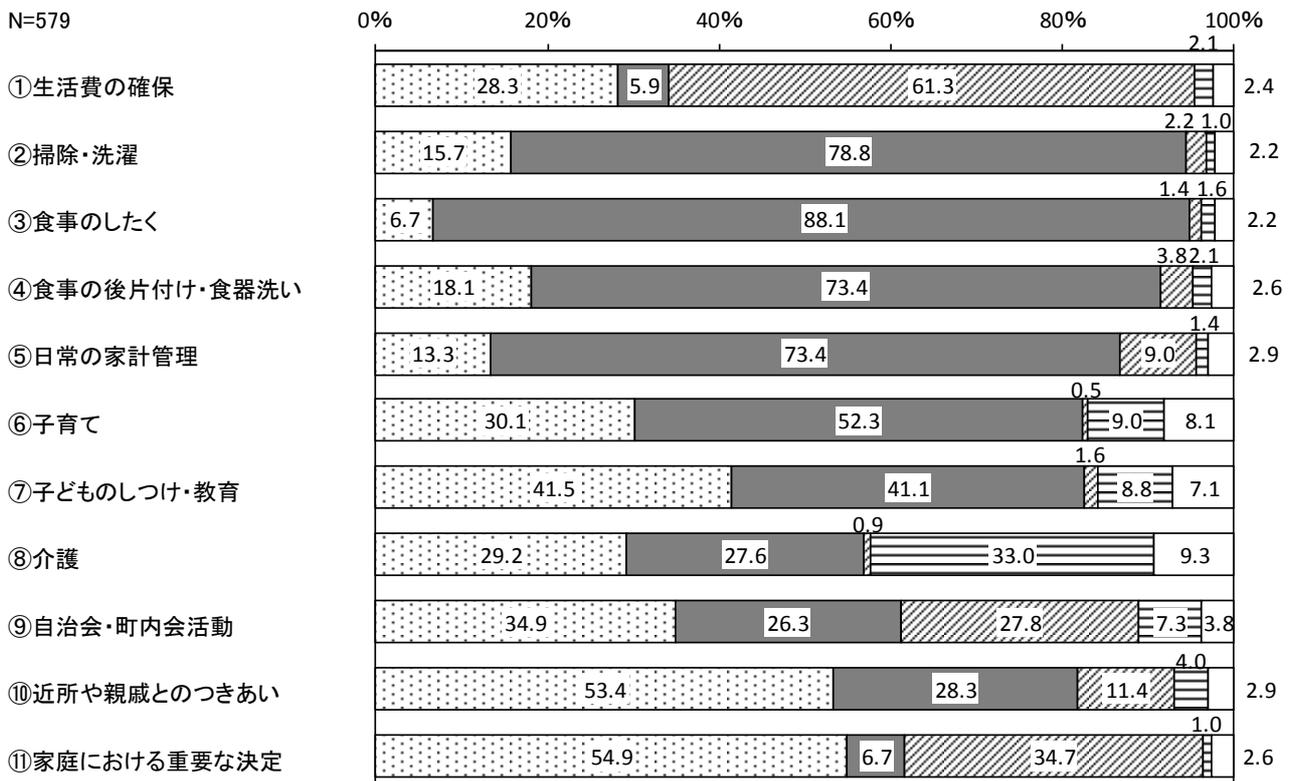


[平成 26 年度調査]

《理想》



《実際》（結婚している（事実婚を含む）人のみ）

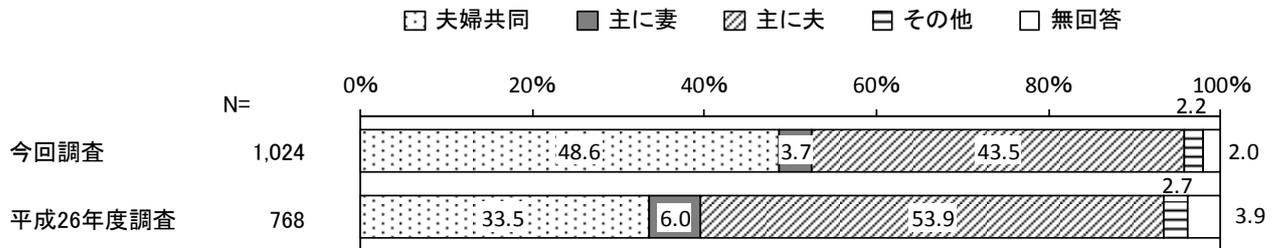


『家庭での夫婦分担について』

①生活費の確保

《理想》

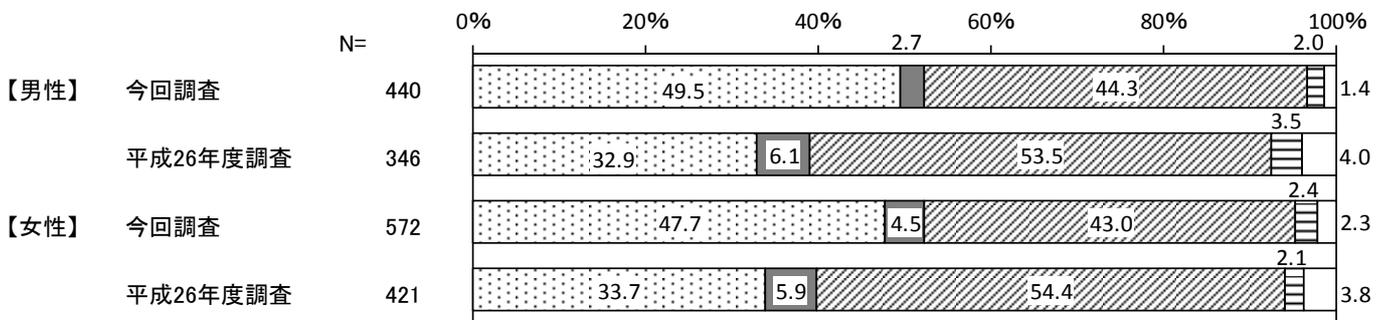
「主に夫」の割合が 43.5%と最も高く、次いで「夫婦共同」の割合が 48.6%となっています。
平成 26 年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が 15.1 ポイント増加しています。



【性別】

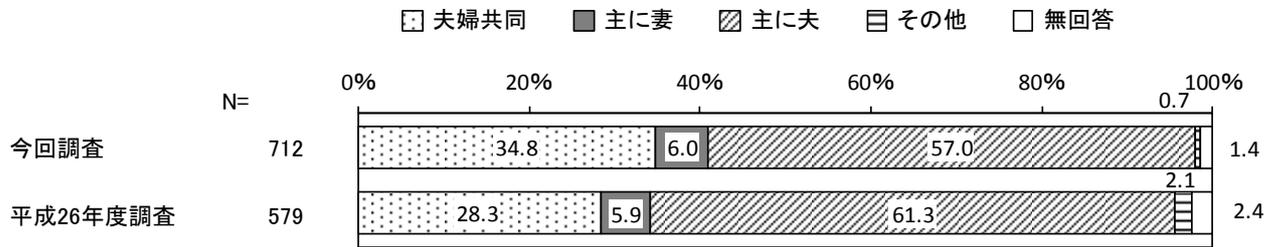
性別でみると、同様の傾向を示しています。

平成 26 年度調査と比較すると、男性で「夫婦共同」の割合が 16.6 ポイント増加し、女性で「主に夫」の割合が 11.4 ポイント減少しています。



《実際》（結婚している（事実婚を含む）人のみ）

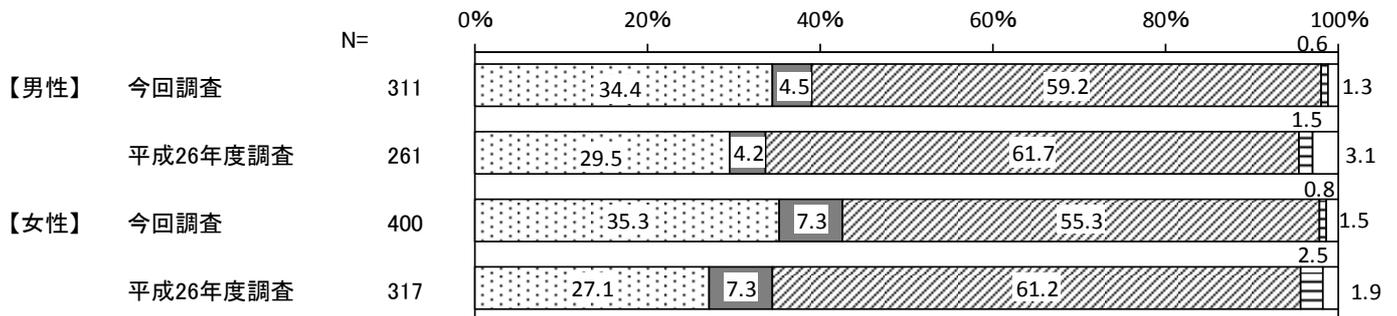
「主に夫」の割合が 57.0%と最も高く、次いで「夫婦共同」の割合が 34.8%となっています。
平成 26 年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が 6.5 ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、同様の傾向を示しています。

平成 26 年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が、女性で 8.2 ポイント増加しています。

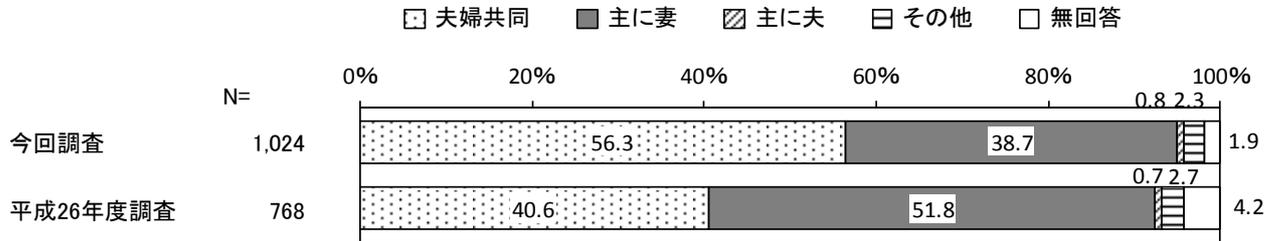


『家庭での夫婦分担について』

②掃除・洗濯

《理想》

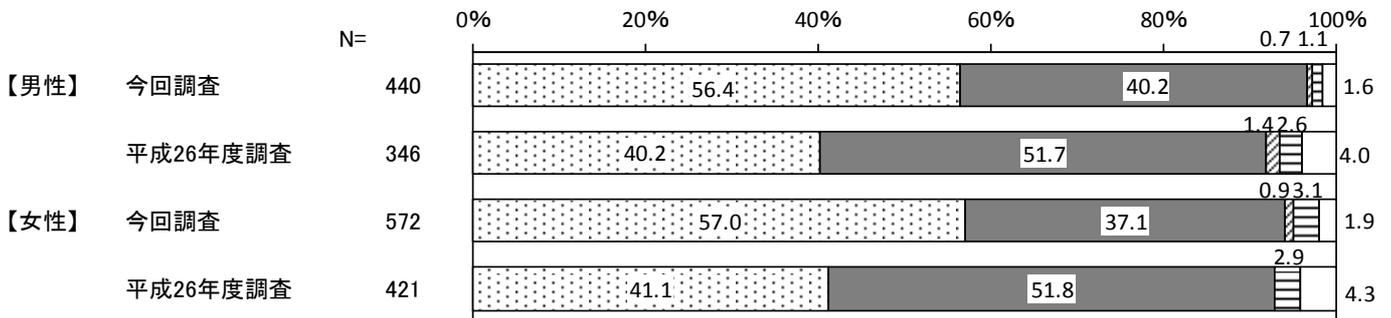
「夫婦共同」の割合が56.3%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が38.7%となっています。
 平成26年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が15.7ポイント増加しています。



【性別】

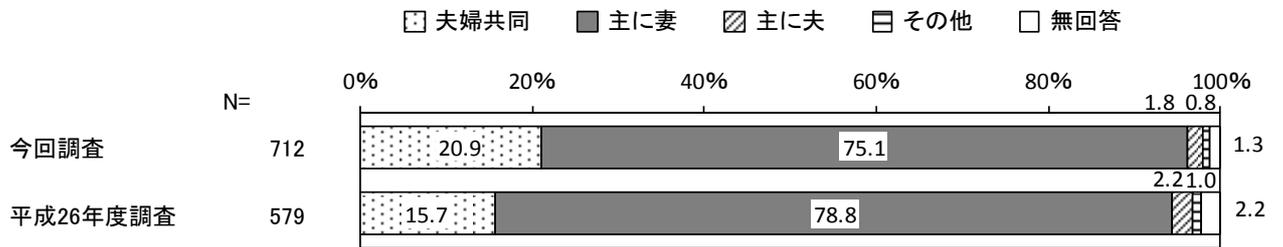
性別でみると、同様の傾向を示しています。

平成26年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が、男性で16.2ポイント、女性で15.9ポイント増加しています。



《実際》（結婚している（事実婚を含む）人のみ）

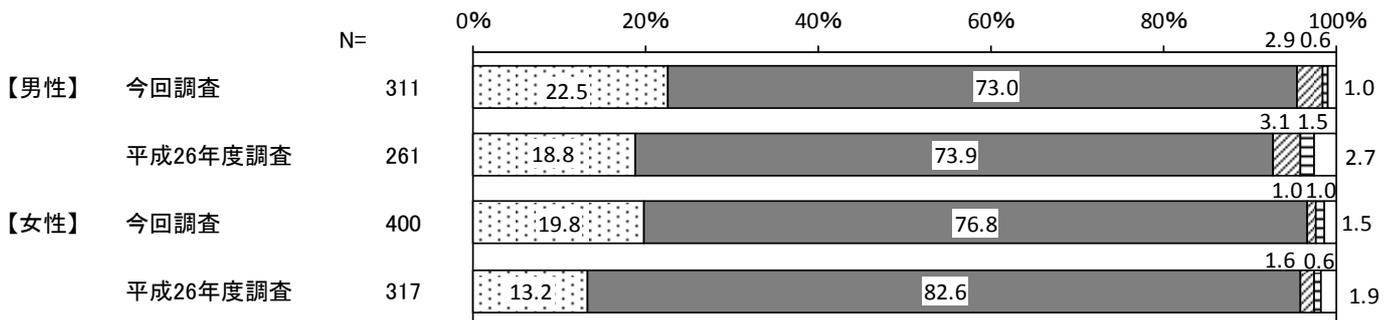
「主に妻」の割合が 75.1%と最も高く、次いで「夫婦共同」の割合が 20.9%となっています。



【性別】

性別でみると、同様の傾向を示しています。

平成 26 年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が、女性で 6.6 ポイント増加しています。

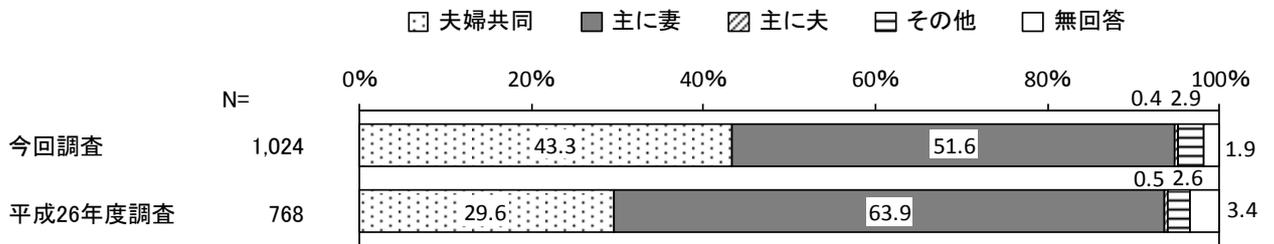


『家庭での夫婦分担について』

③食事のしたく

《理想》

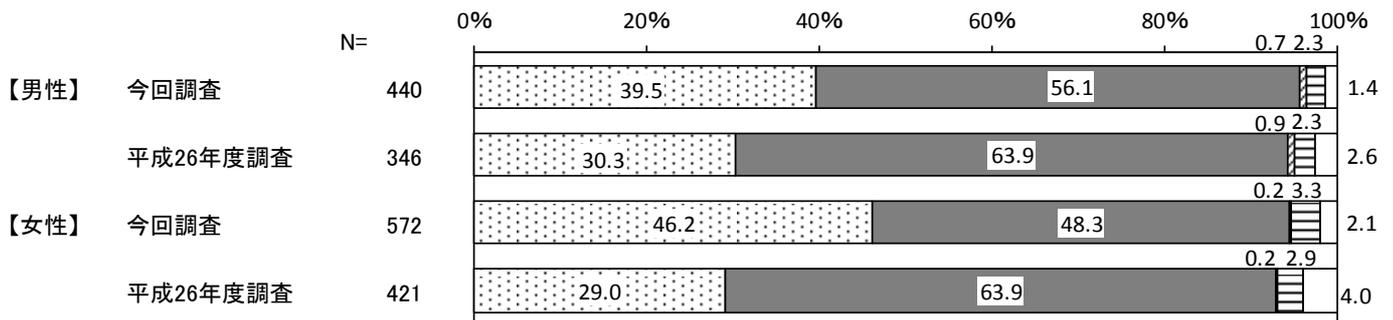
「主に妻」の割合が 51.6%と最も高く、次いで「夫婦共同」の割合が 43.3%となっています。
平成 26 年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が 13.7 ポイント増加しています。



【性別】

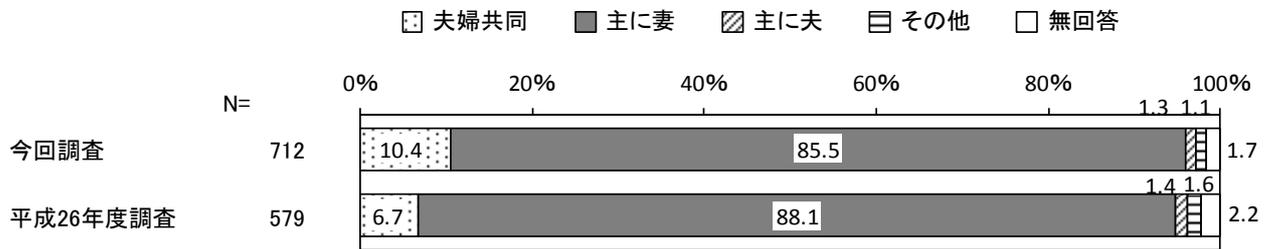
性別でみると、男性に比べ、女性で「夫婦共同」の割合が高く、約 5 割となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が、男性で 9.2 ポイント、女性で 17.2 ポイント増加しています。



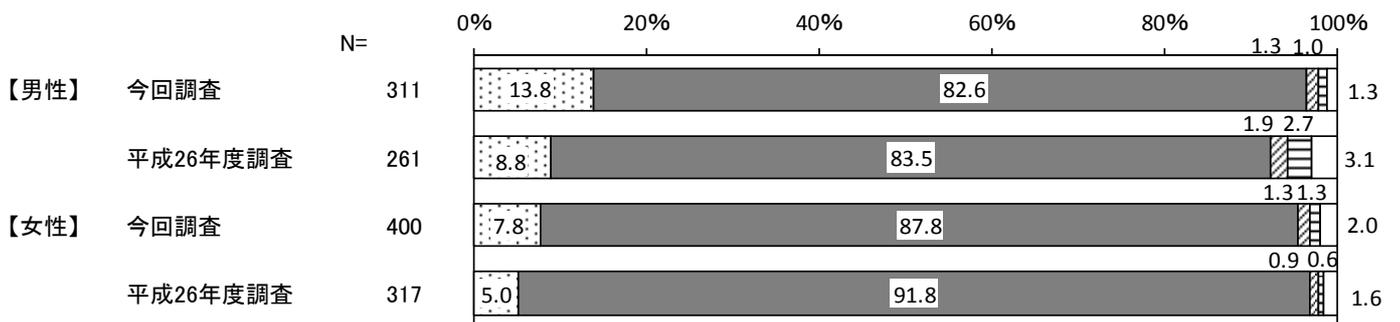
《実際》（結婚している（事実婚を含む）人のみ）

「主に妻」の割合が85.5%と最も高くなっています。



【性別】

性別でみると、男女とも「主に妻」の割合が8割を超えており、同様の傾向を示しています。
平成26年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が、男性で5.0ポイント増加しています。

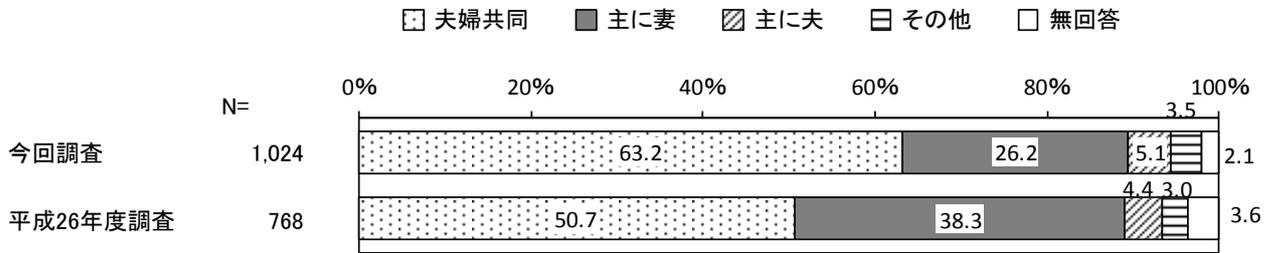


『家庭での夫婦分担について』

④食事の後片付け・食器洗い

《理想》

「夫婦共同」の割合が63.2%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が26.2%となっています。
 平成26年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が12.5ポイント増加しています。



【性別】

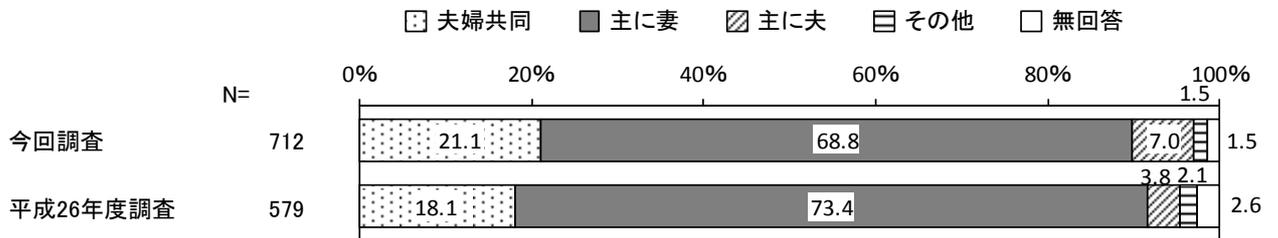
性別でみると、同様の傾向を示しています。

平成26年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が、男性で12.0ポイント、女性で13.2ポイント増加しています。



《実際》（結婚している（事実婚を含む）人のみ）

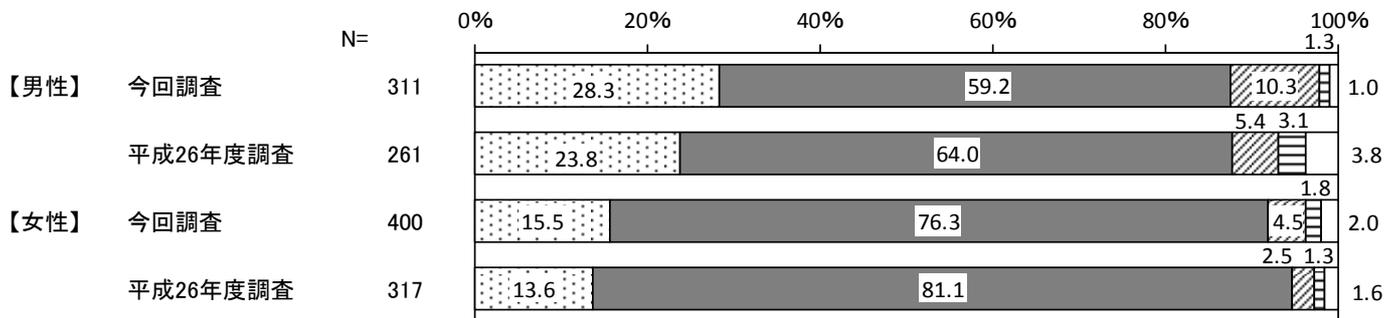
「主に妻」の割合が 68.8%と最も高く、次いで「夫婦共同」の割合が 21.1%となっています。
 平成 26 年度調査と比較すると、「主に夫」の割合が 3.2 ポイント増加し、「主に妻」の割合が 4.6 ポイント減少しています。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高く、約 8 割となっています。また、女性に比べ、男性で「夫婦共同」の割合が高くなっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「主に夫」の割合が、男性で 4.9 ポイント増加し、「主に妻」の割合が、女性で 4.8 ポイント減少している傾向にあります。

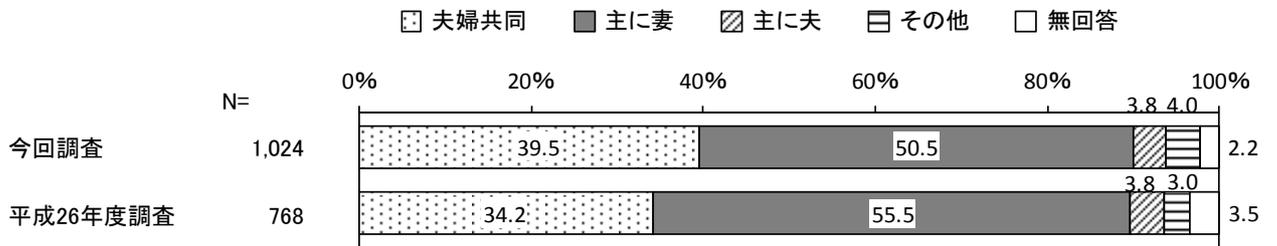


『家庭での夫婦分担について』

⑤日常の家計管理

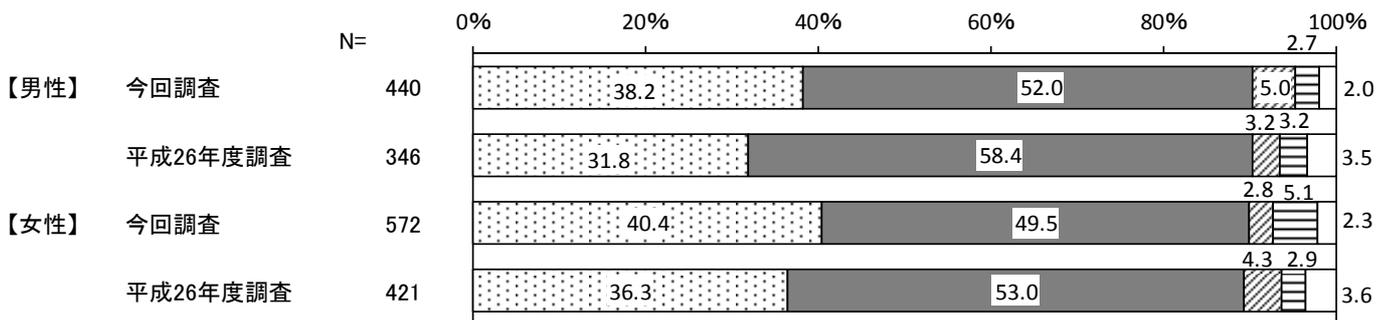
《理想》

「主に妻」の割合が 50.5%と最も高く、次いで「夫婦共同」の割合が 39.5%となっています。
 平成 26 年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が 5.3 ポイント増加しています。



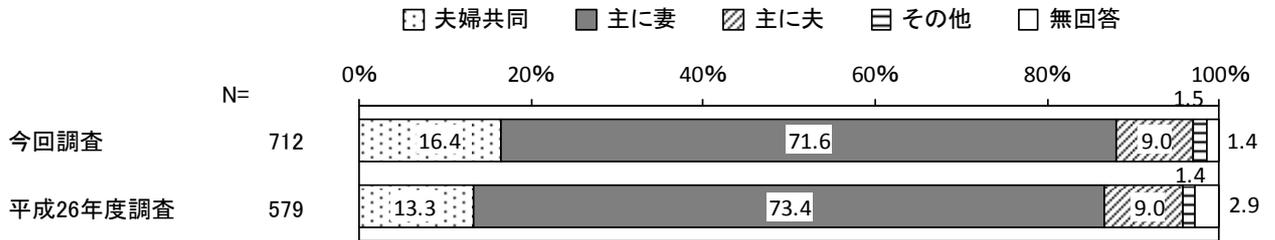
【性別】

性別で見ると、同様の傾向を示しています。



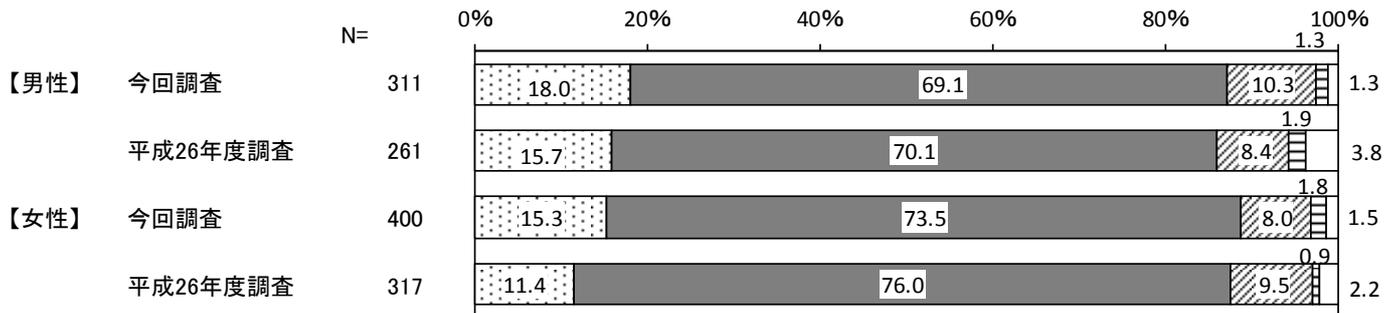
《実際》（結婚している（事実婚を含む）人のみ）

「主に妻」の割合が 71.6%と最も高く、次いで「夫婦共同」の割合が 16.4%となっています。



【性別】

性別でみると、同様の傾向を示しています。

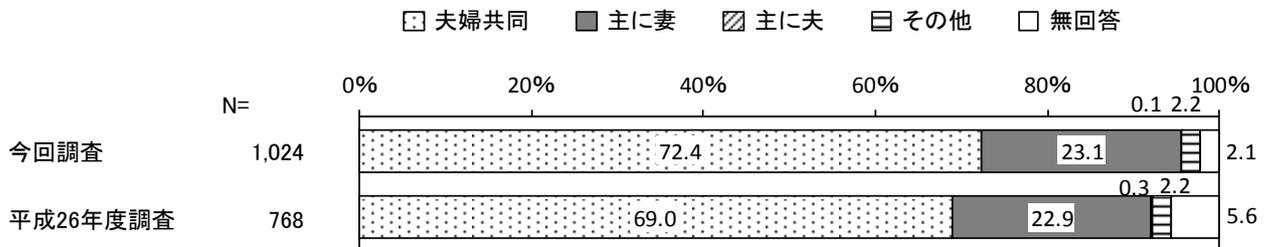


『家庭での夫婦分担について』

⑥子育て

《理想》

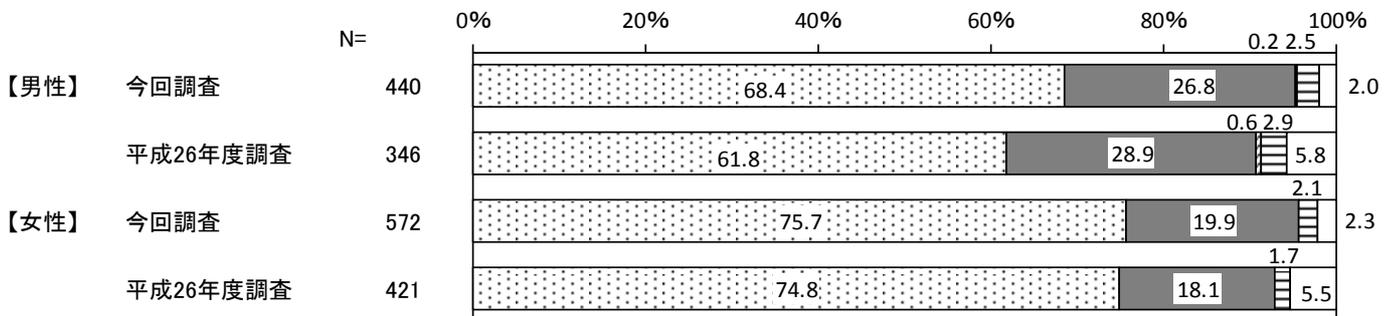
「夫婦共同」の割合が72.4%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が23.1%となっています。



【性別】

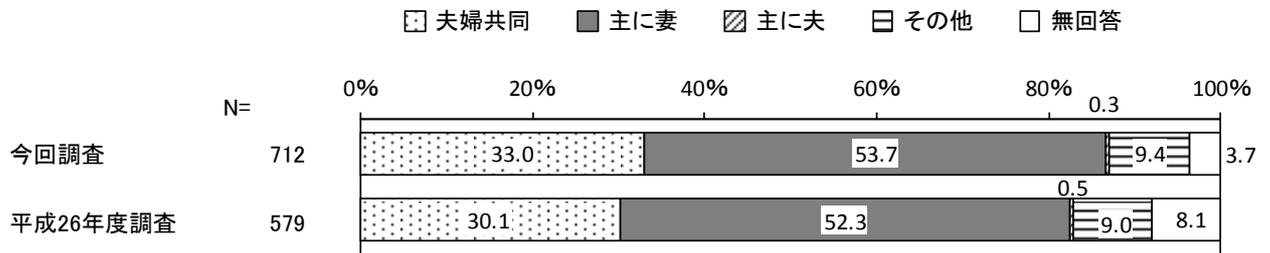
性別でみると、男性に比べ、女性で「夫婦共同」の割合が高く、約8割となっています。また、女性に比べ、男性で「主に妻」の割合が高くなっています。

平成26年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が、男性で6.6ポイント増加しています。



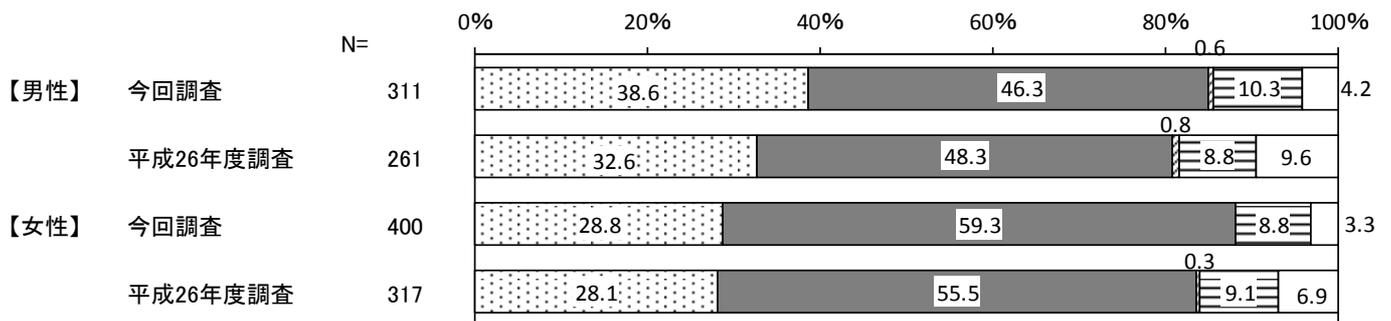
《実際》（結婚している（事実婚を含む）人のみ）

「主に妻」の割合が 53.7%と最も高く、次いで「夫婦共同」の割合が 33.0%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「夫婦共同」の割合が高くなっています。

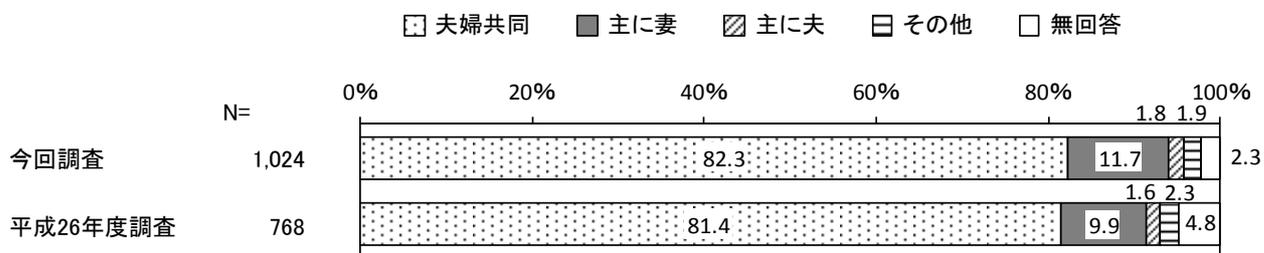


『家庭での夫婦分担について』

⑦子どものしつけ・教育

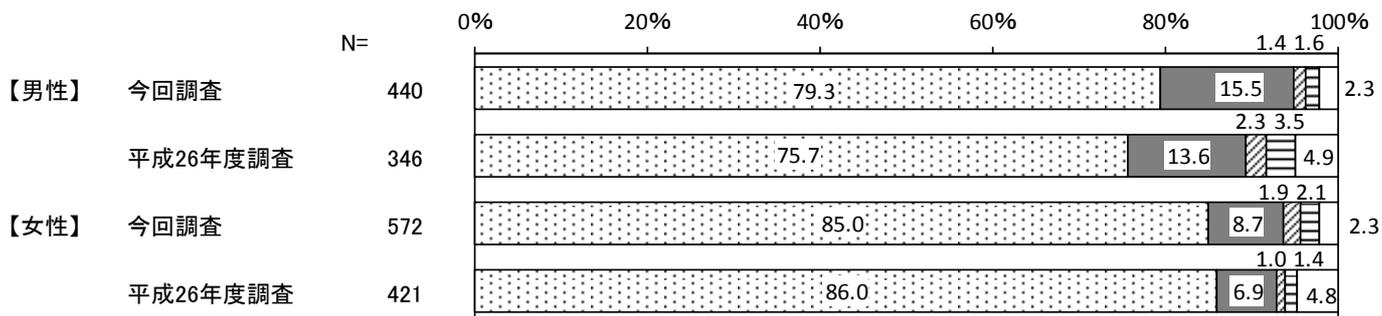
《理想》

「夫婦共同」の割合が82.3%と最も高くなっています。
 平成26年度調査と比較すると、同様の傾向にあります。



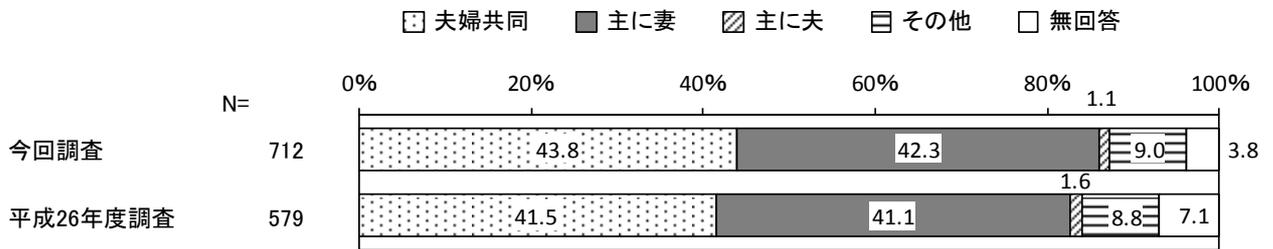
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「夫婦共同」の割合が高く、8割半ばとなっています。
 また、女性に比べ、男性で「主に妻」の割合が高くなっています。



《実際》（結婚している（事実婚を含む）人のみ）

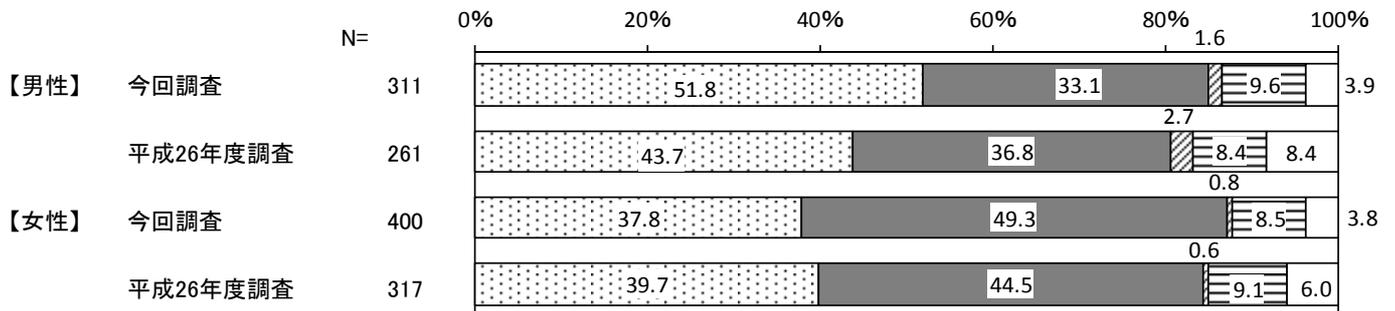
「夫婦共同」の割合が 43.8%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が 42.3%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「夫婦共同」の割合が高くなっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が、男性で 8.1 ポイント増加し、「主に妻」の割合が、女性で 4.8 ポイント増加しています。

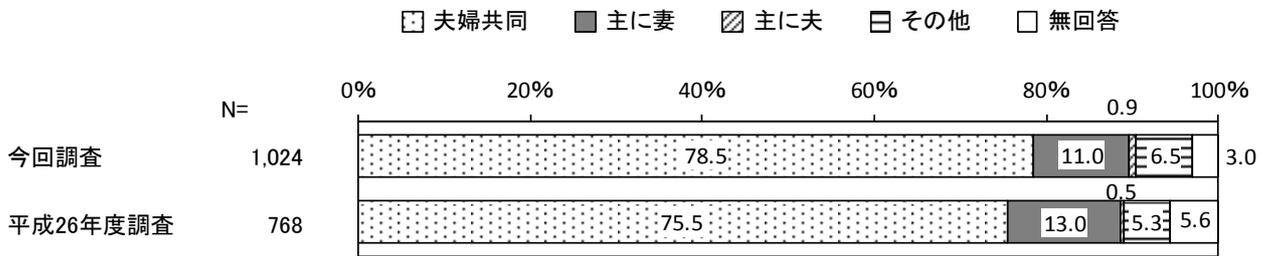


『家庭での夫婦分担について』

⑧介護

《理想》

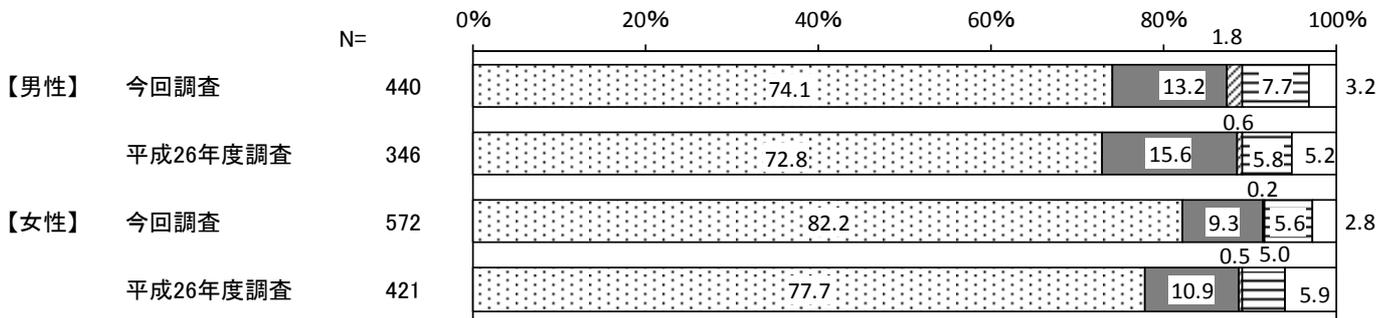
「夫婦共同」の割合が78.5%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が11.0%となっています。



【性別】

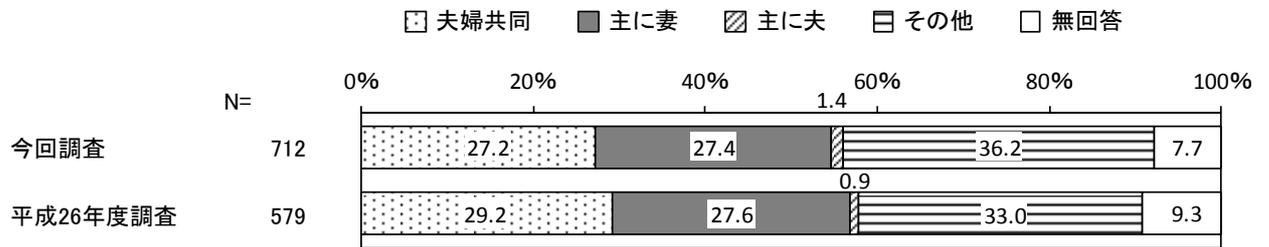
性別でみると、男性に比べ、女性で「夫婦共同」の割合が高く、8割を超えています。

平成26年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が、女性で4.5ポイント増加している傾向にあります。



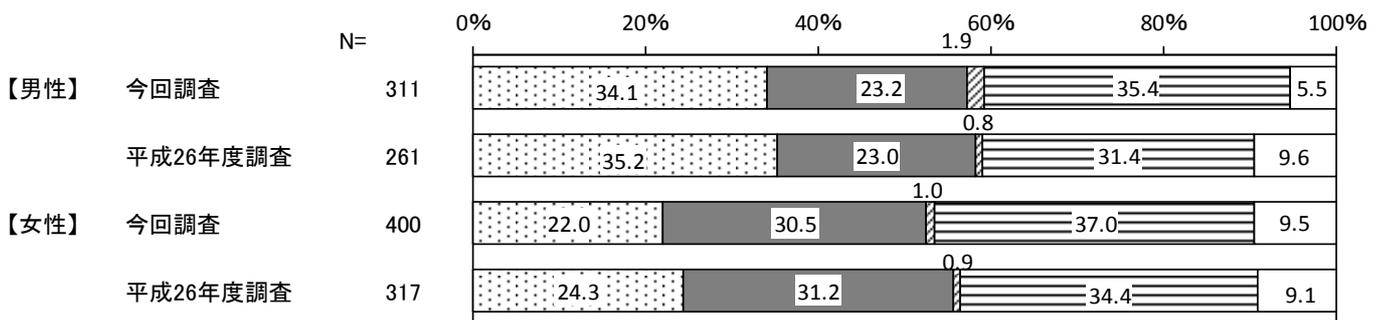
《実際》（結婚している（事実婚を含む）人のみ）

「主に妻」の割合が 27.4%と最も高く、次いで「夫婦共同」の割合が 27.2%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「夫婦共同」の割合が高くなっています。

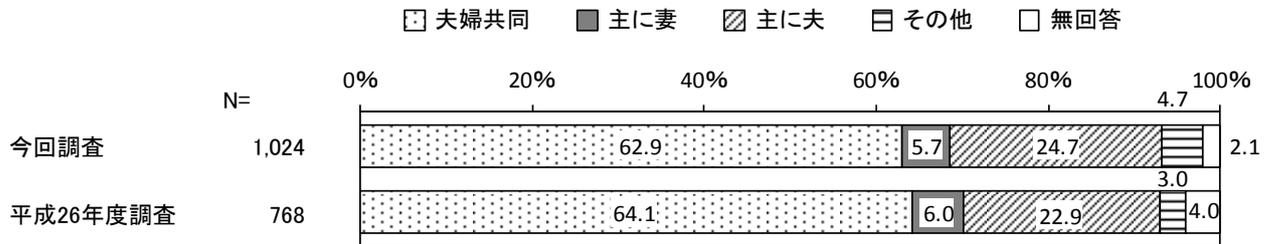


『家庭での夫婦分担について』

⑨自治会・町内会活動

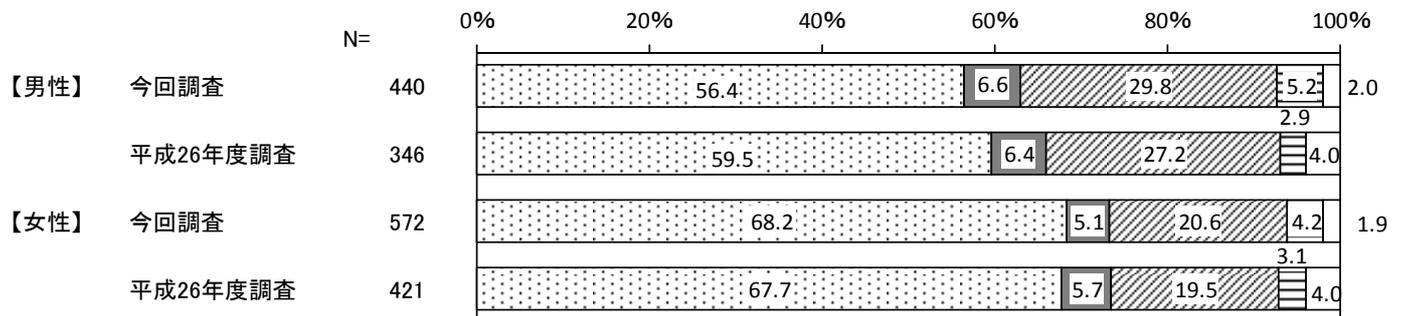
《理想》

「夫婦共同」の割合が 62.9%と最も高く、次いで「主に夫」の割合が 24.7%となっています。
平成 26 年度調査と比較すると、同様の傾向にあります。



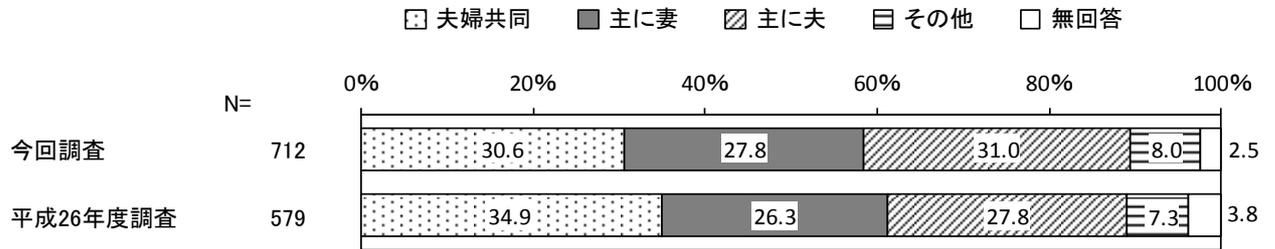
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「夫婦共同」の割合が高く、7割近くとなっています。
また、女性に比べ、男性で「主に夫」の割合が高くなっています。



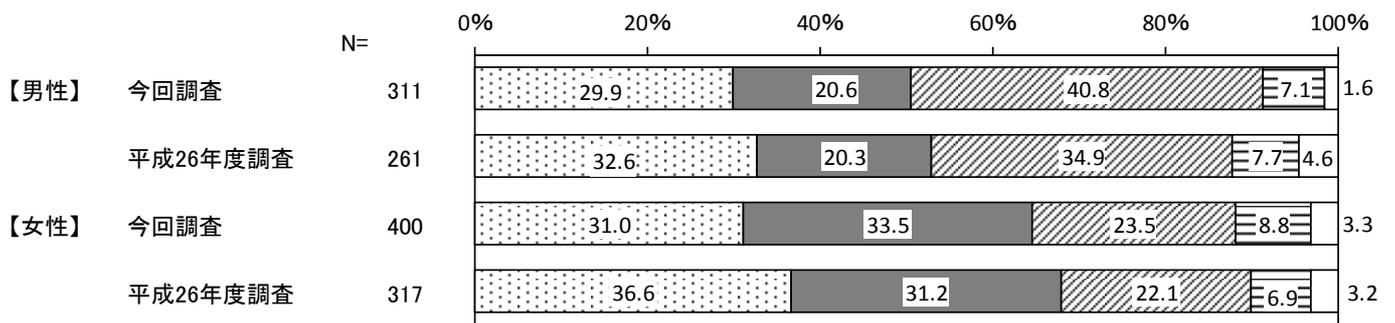
《実際》（結婚している（事実婚を含む）人のみ）

「夫婦共同」の割合が30.6%と最も高く、次いで「主に夫」の割合が31.0%、「主に妻」の割合が27.8%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「主に夫」の割合が高くなっています。

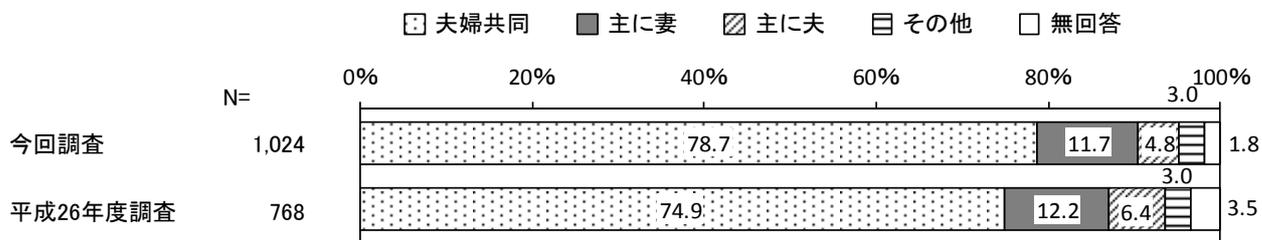


『家庭での夫婦分担について』

⑩近所や親戚とのつきあい

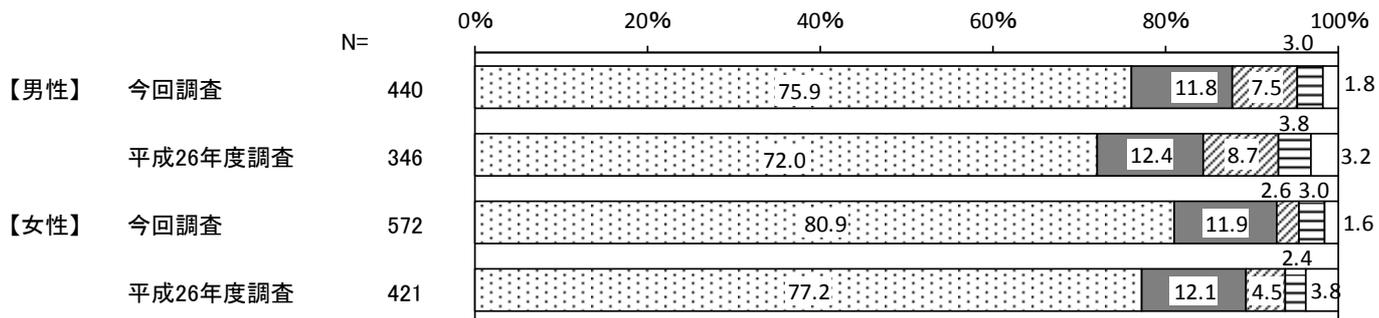
《理想》

「夫婦共同」の割合が78.7%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が11.7%となっています。平成26年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が3.8ポイント増加しています。



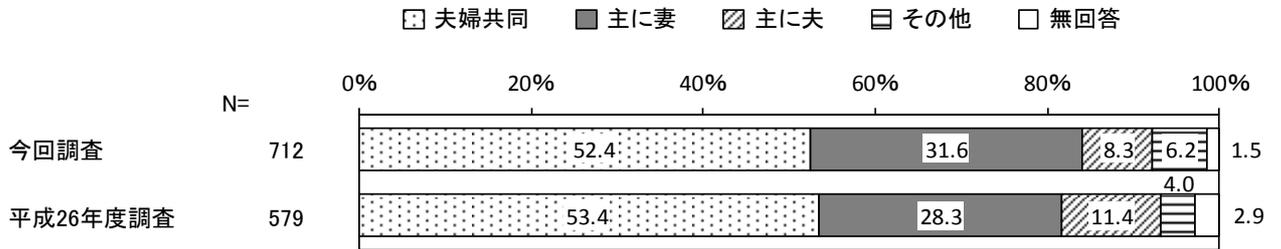
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「夫婦共同」の割合が高く、8割を超えています。



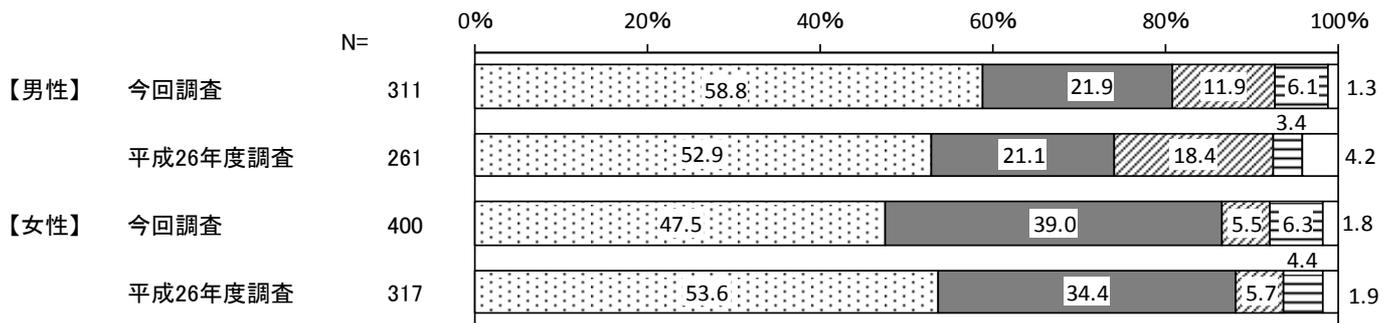
《実際》（結婚している（事実婚を含む）人のみ）

「夫婦共同」の割合が52.4%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が31.6%、「主に夫」の割合が8.3%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「夫婦共同」、「主に夫」の割合が高くなっています。

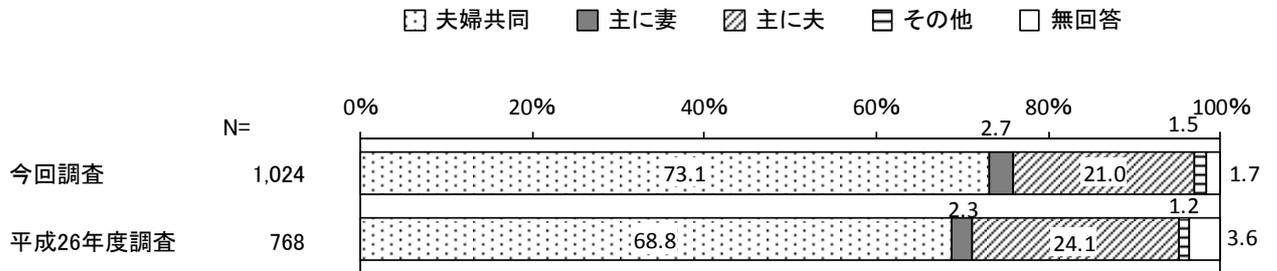


『家庭での夫婦分担について』

⑪家庭における重要な決定

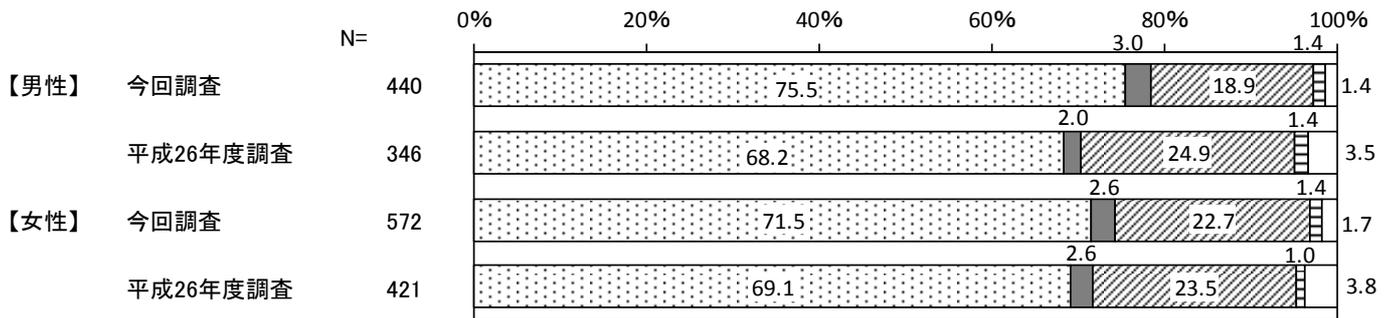
《理想》

「夫婦共同」の割合が73.1%と最も高く、次いで「主に夫」の割合が21.0%となっています。
 平成26年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が4.3ポイント増加しています。



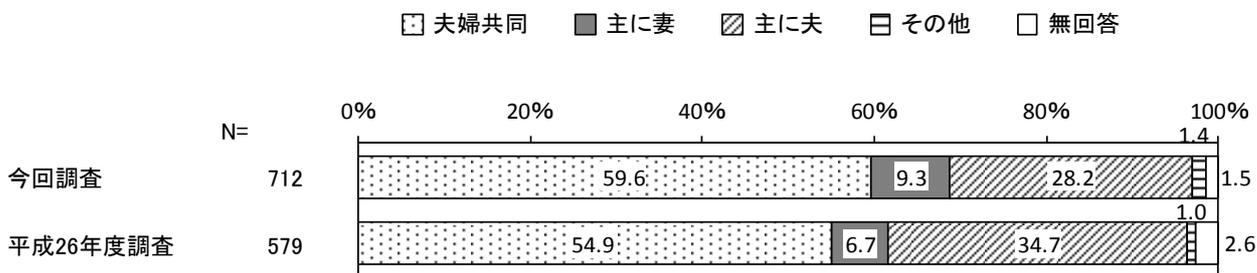
【性別】

性別で見ると、同様の傾向にあります。



《実際》（結婚している（事実婚を含む）人のみ）

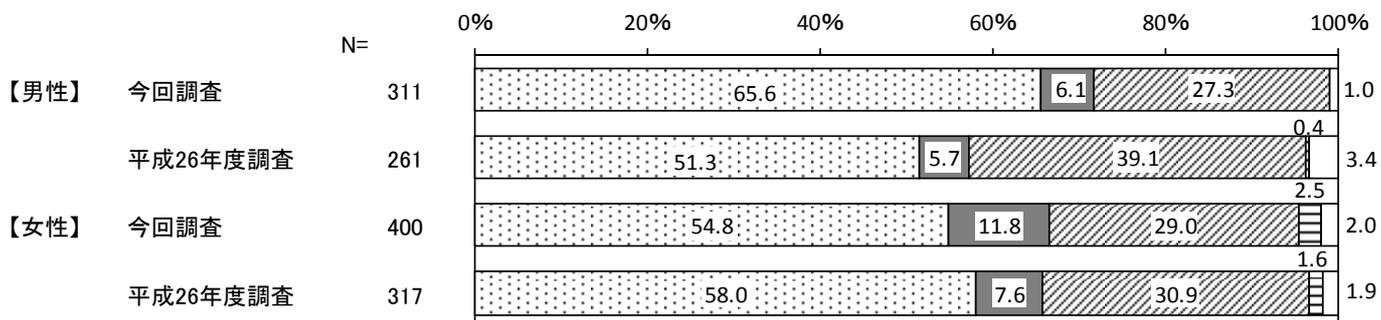
「夫婦共同」の割合が 59.6%と最も高く、次いで「主に夫」の割合が 28.2%となっています。平成 26 年度調査と比較すると、「主に夫」の割合が 6.5 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「夫婦共同」の割合が高くなっています。

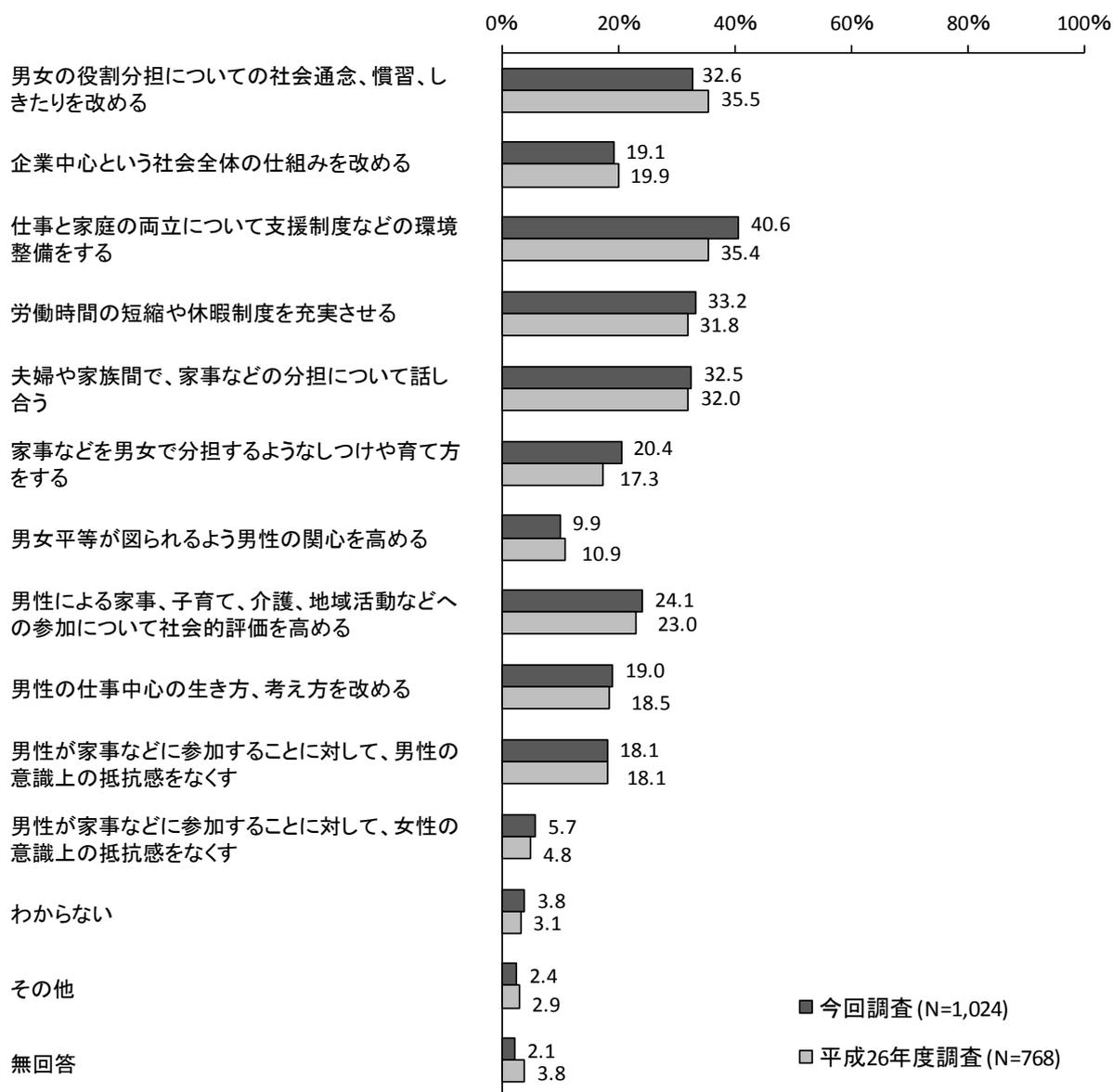
平成 26 年度調査と比較すると、「夫婦共同」の割合が、男性で 14.3 ポイント増加し、「主に夫」の割合が、男性で 11.8 ポイント減少しました。女性では、前回と同様の傾向にあります。



問7 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などを行うためには、どのようなことが必要だと思いますか（3つまで○）。

「仕事と家庭の両立について支援制度などの環境整備をする」の割合が40.6%と最も高く、次いで「労働時間の短縮や休暇制度を充実させる」の割合が33.2%、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」の割合が32.6%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「仕事と家庭の両立について支援制度などの環境整備をする」の割合が5.2ポイント増加し、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」の割合が2.9ポイント減少しています。

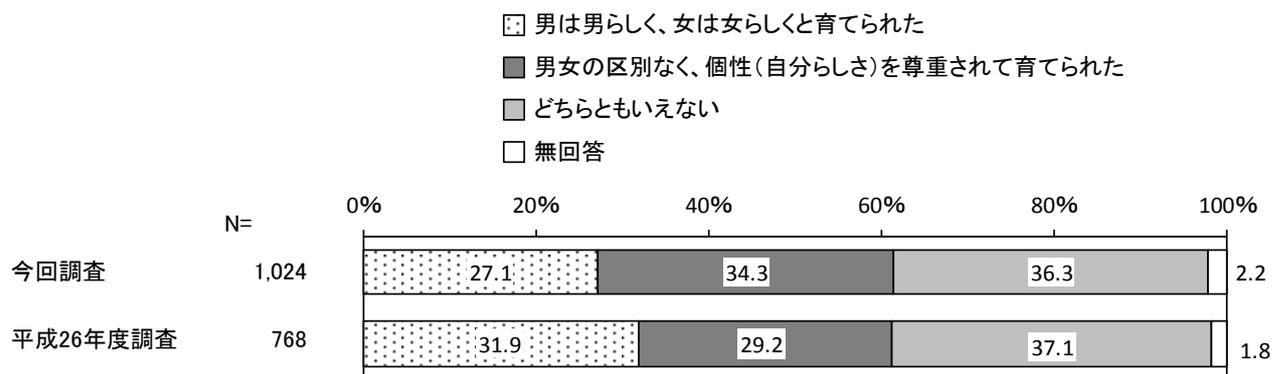


4 子育てについて

問8 あなたは、どのように育てられましたか（1つに○）。

「どちらともいえない」の割合が36.3%と最も高く、次いで「男女の区別なく、個性（自分らしさ）を尊重されて育てられた」の割合が34.3%、「男は男らしく、女は女らしくと育てられた」の割合が27.1%となっています。

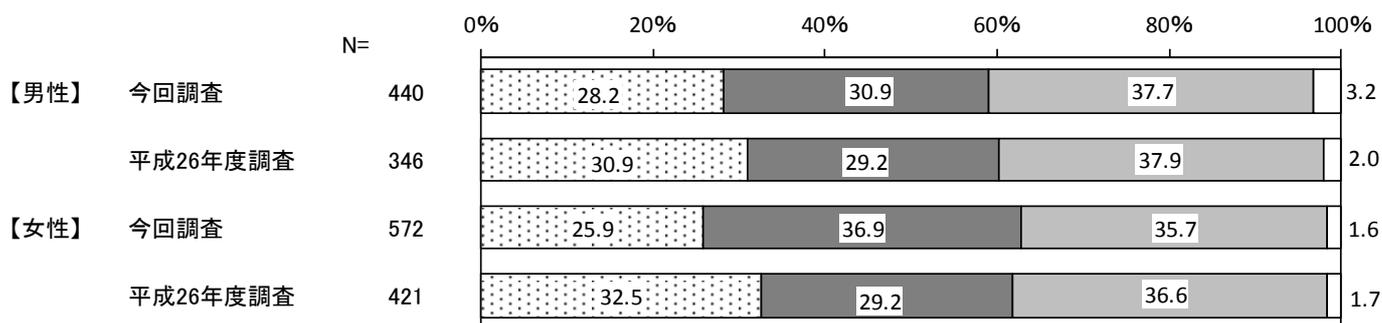
平成26年度調査と比較すると、「男は男らしく、女は女らしくと育てられた」の割合が4.8ポイント減少し、「男女の区別なく、個性（自分らしさ）を尊重されて育てられた」の割合が5.1ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、同様の傾向を示しています。

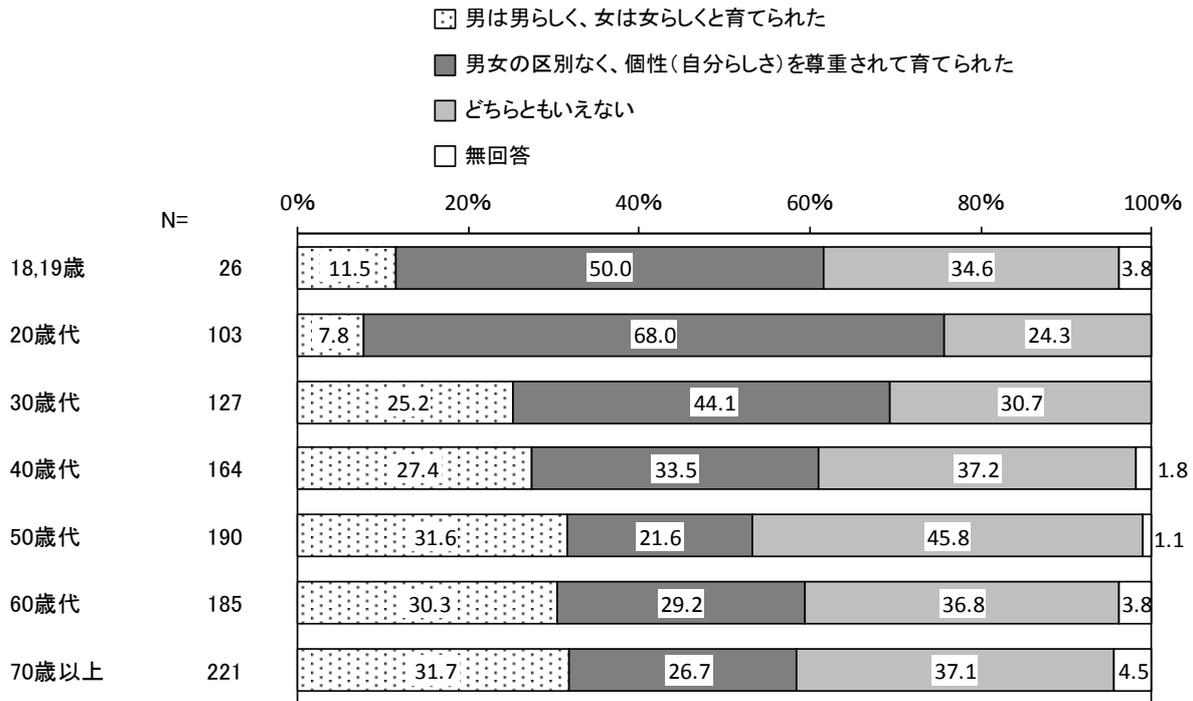
平成26年度調査と比較すると、「男は男らしく、女は女らしくと育てられた」の割合が、女性で6.6ポイント減少しています。また、「男女の区別なく、個性（自分らしさ）を尊重されて育てられた」の割合が、女性で7.7ポイント増加しています。



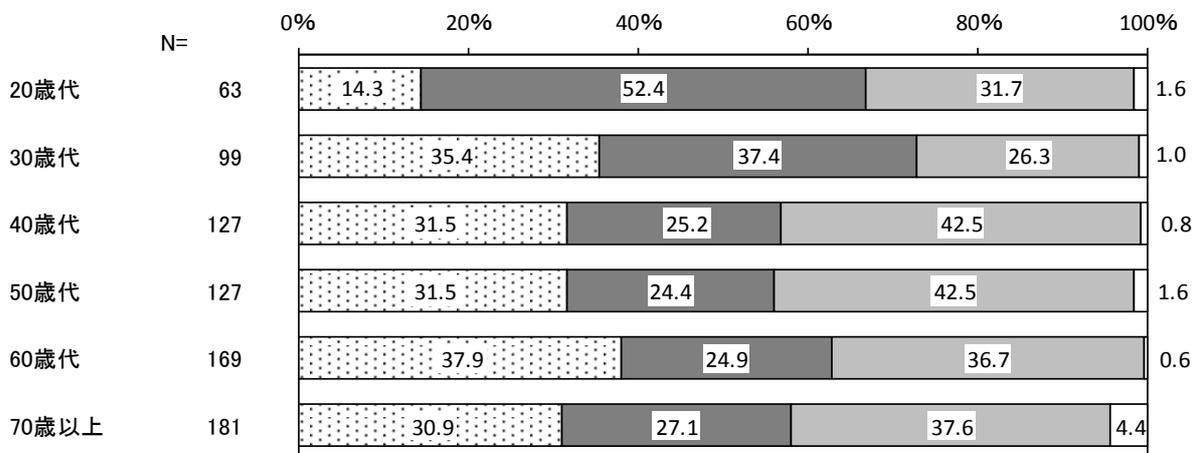
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「男女の区別なく、個性（自分らしさ）を尊重されて育てられた」の割合が高く、特に20歳代で約7割となっています。

平成26年度調査と比較すると、今回の調査では、20歳代だけでなく30歳代でも「男女の区別なく、個性（自分らしさ）を尊重されて育てられた」の割合が高く、50歳代で「男女の区別なく、個性（自分らしさ）を尊重されて育てられた」の割合が低くなっています。



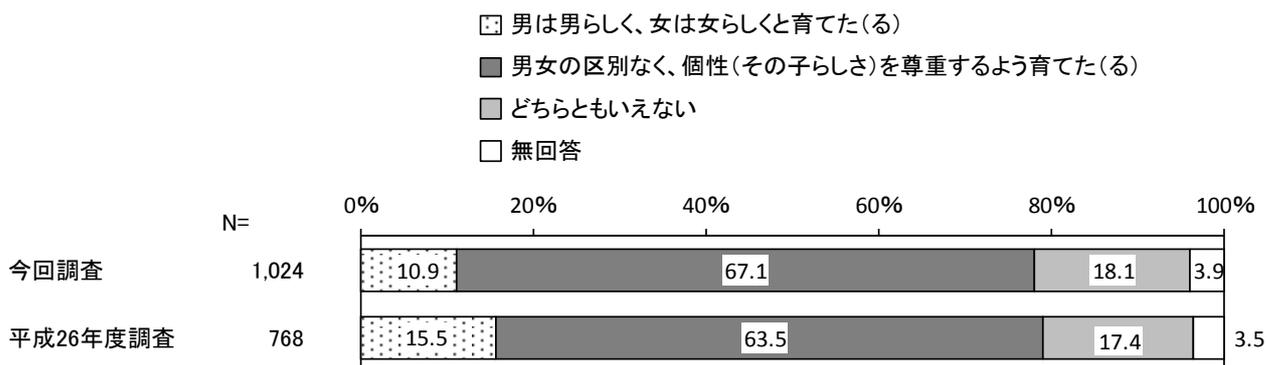
[平成26年度調査]



問9 あなたは、どのように子育てをしていましたか（1つに○）。（子どものいない方は、「どのように育てたらよいと思うか」をお答えください。）

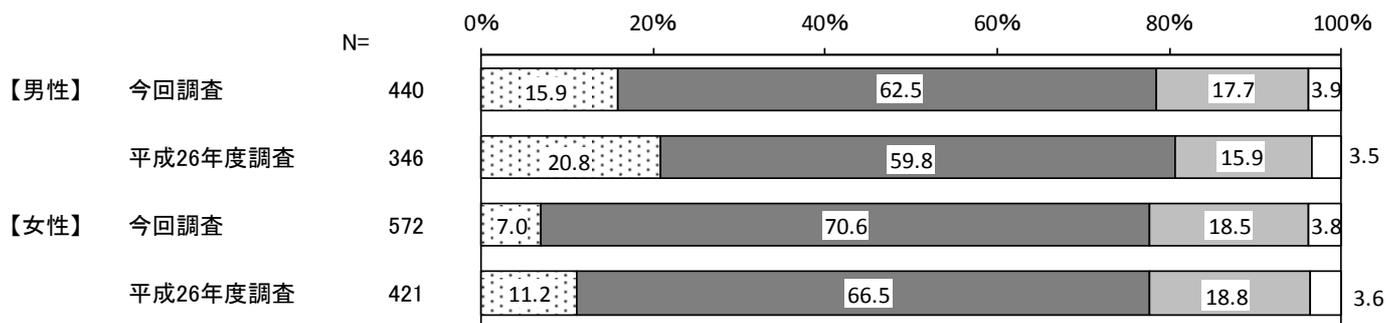
「男女の区別なく、個性（その子らしさ）を尊重するよう育てた（る）」の割合が67.1%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が18.1%、「男は男らしく、女は女らしくと育てた（る）」の割合が10.9%となっています。

平成26年度調査と比較すると、男は男らしく、女は女らしくと育てた（る）」の割合が4.6ポイント減少し、「男女の区別なく、個性（その子らしさ）を尊重するよう育てた（る）」の割合が3.6ポイント増加しています。



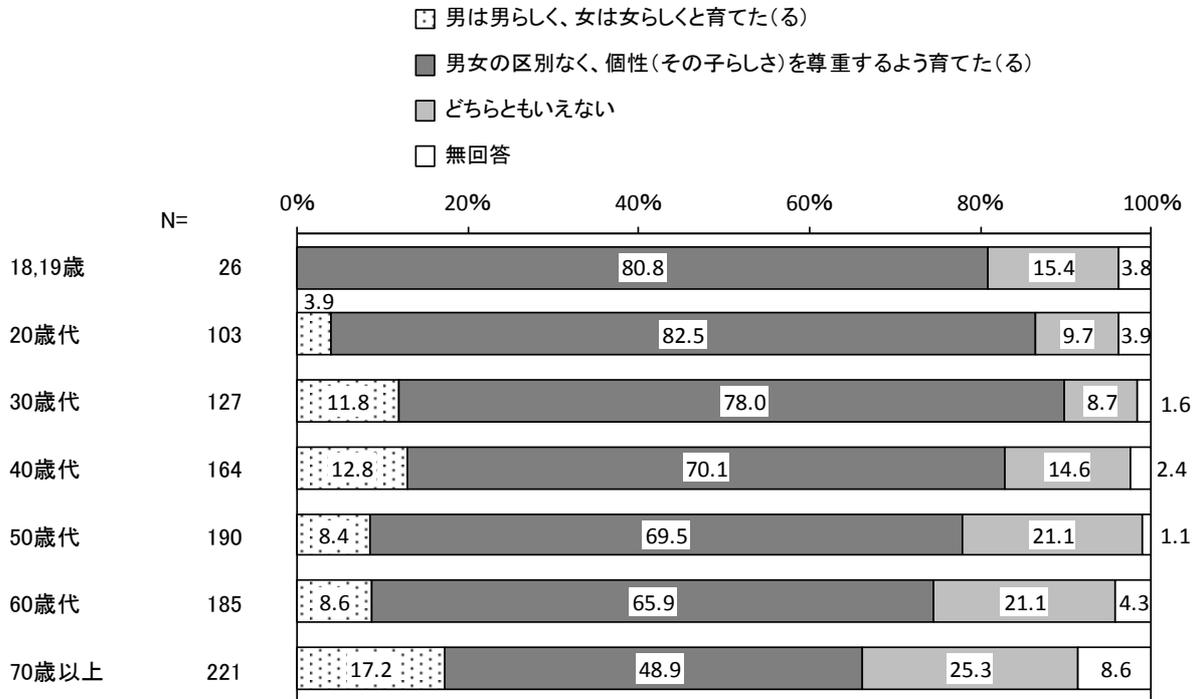
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「男女の区別なく、個性（その子らしさ）を尊重するよう育てた（る）」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「男は男らしく、女は女らしくと育てた（る）」の割合が高くなっています。

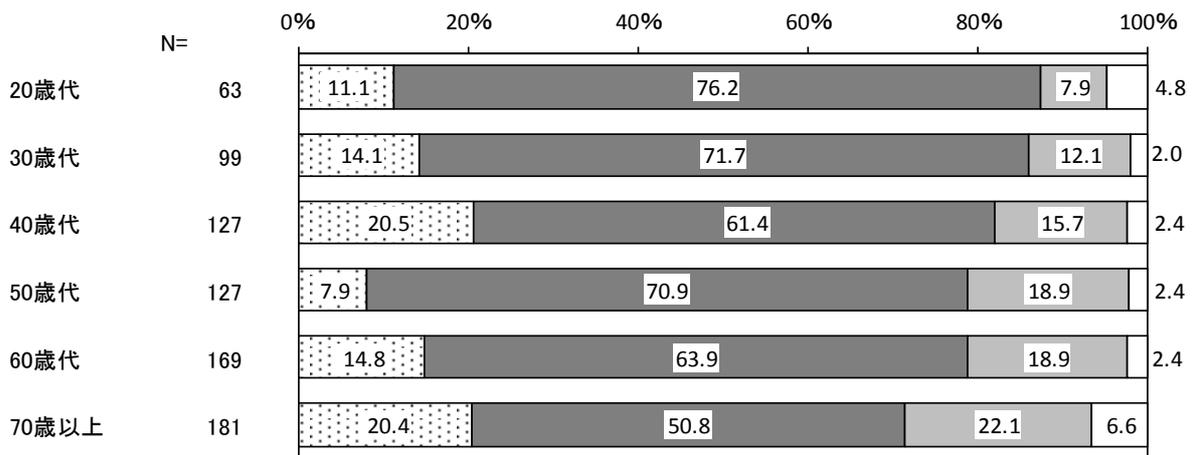


【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、70歳以上で「男は男らしく、女は女らしくと育てた(る)」の割合が高くなっています。また、18,19歳、20歳代、30歳代で「男女の区別なく、個性(その子らしさ)を尊重するよう育てた(る)」の割合が高く、約8割となっています。



[平成 26 年度調査]

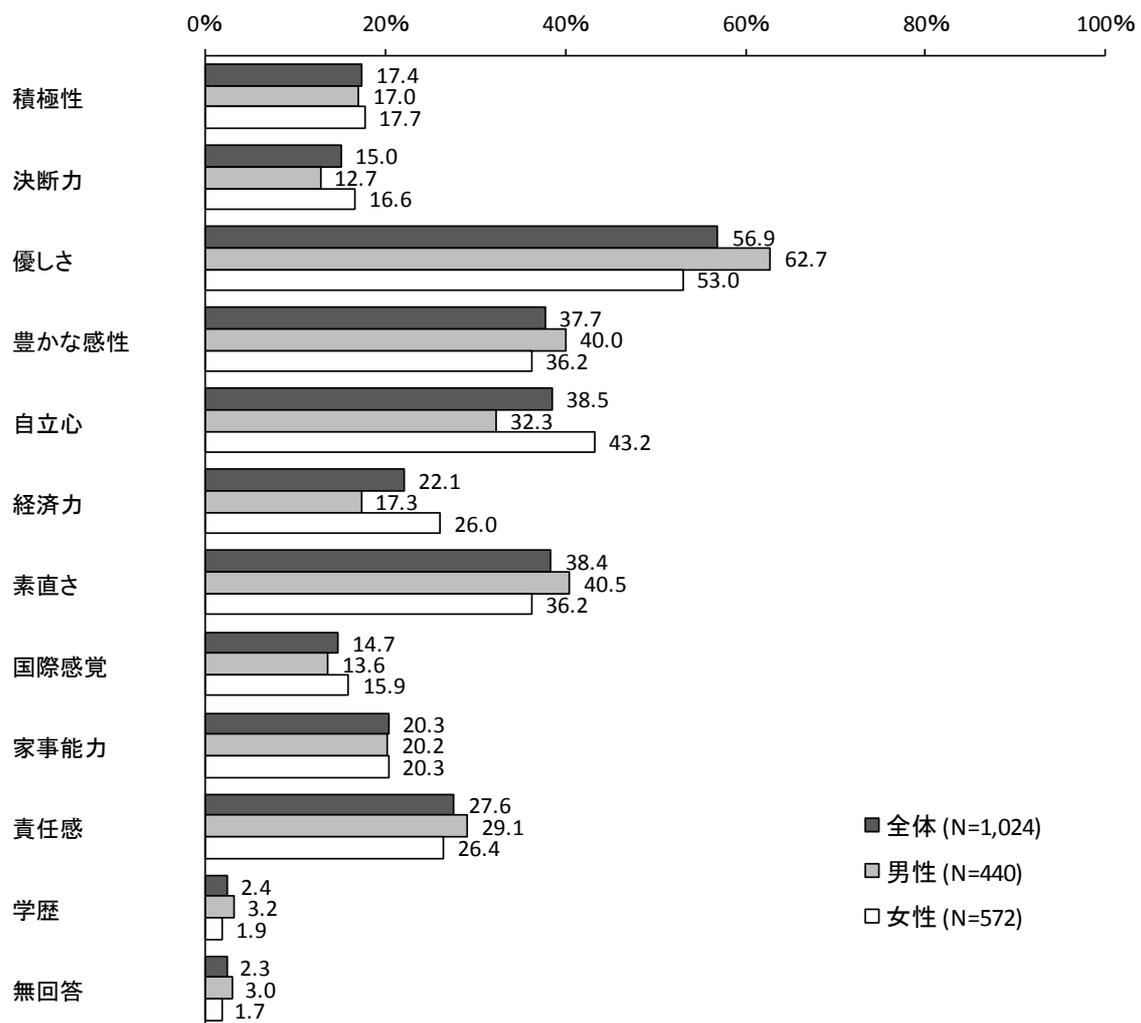


問 10-1 あなたは、これからの女の子は、どのようなことを身につけてほしいと思いますか。3つまで選んで、口の中に番号を記入してください。

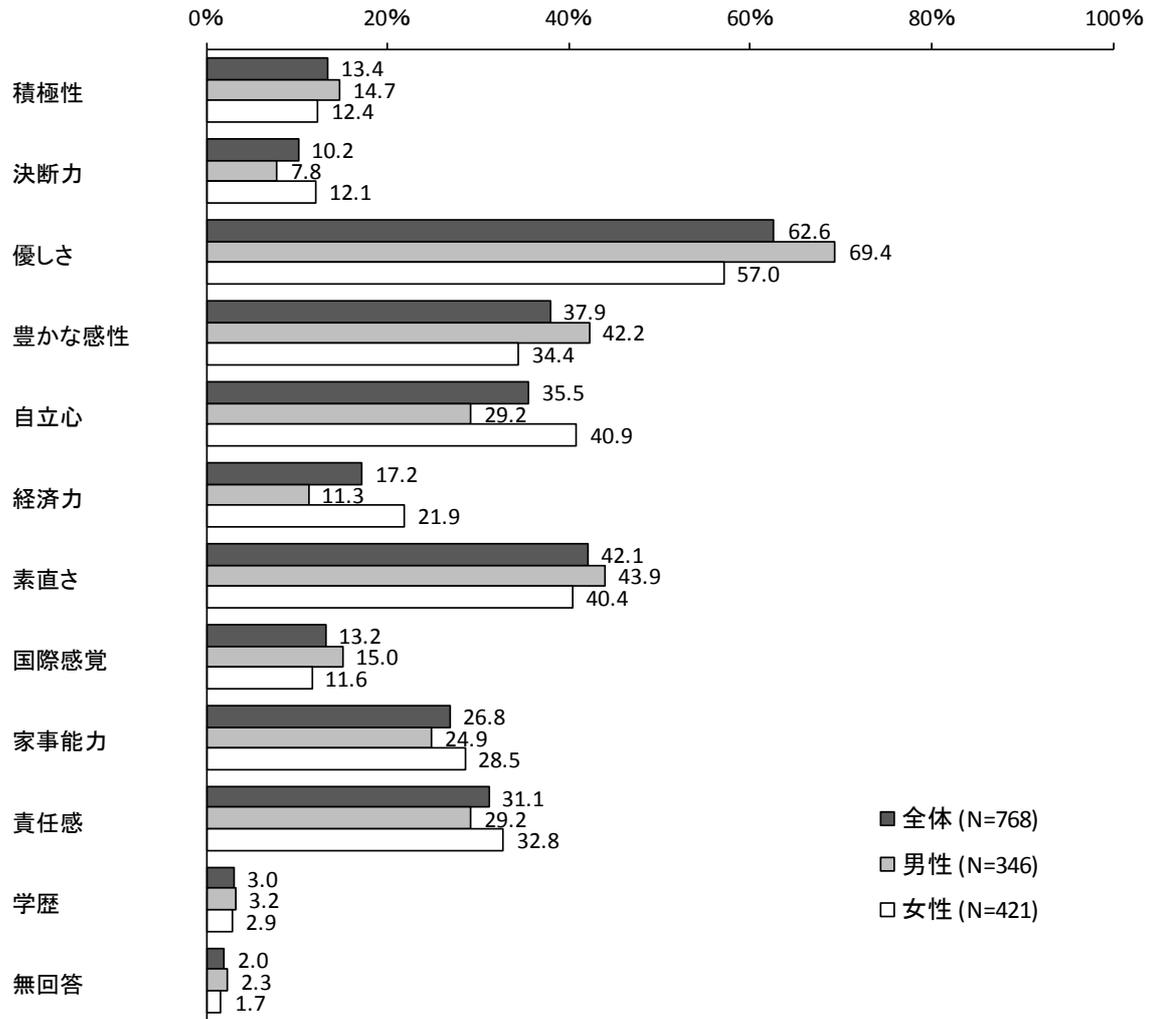
「優しさ」の割合が56.9%と最も多く、次いで「自立心」の割合が38.5%、「素直さ」の割合が38.4%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「自立心」「経済力」が特に多くなっています。

平成 26 年度調査と比較すると、前回同様に男女ともに「優しさ」が最も多くなっています。次いで、女性では前回同様に「自立心」が多くなっていますが、男性では前回同様に「素直さ」が多くなっています。



[平成 26 年度調査]



【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、40 歳代、70 歳以上で「豊かな感性」の割合が高くなっています。また、70 歳以上で「経済力」の割合が低くなっています。

単位：%

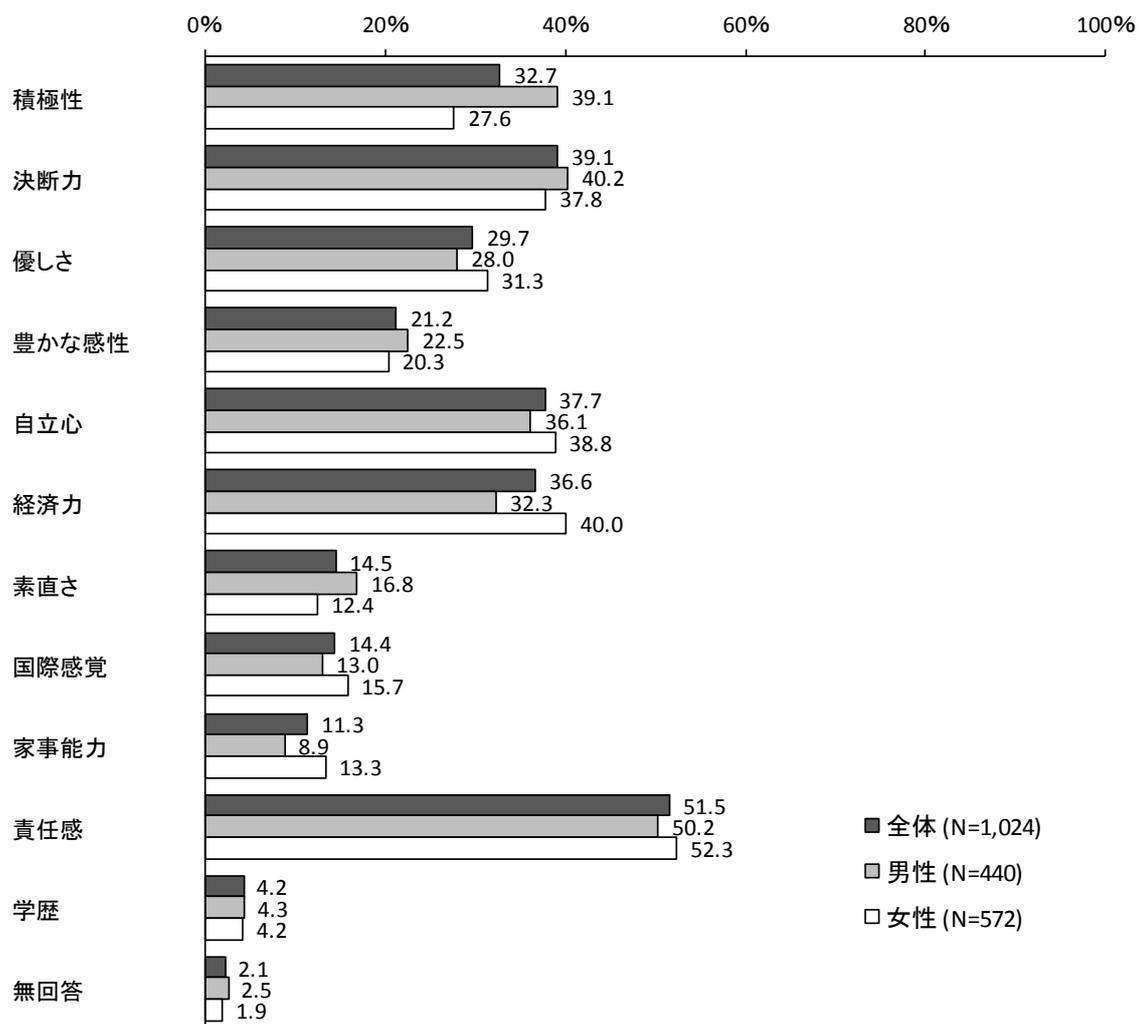
区分	有効回答数 (件)	積極性	決断力	優しさ	豊かな感性	自立心	経済力	素直さ	国際感覚	家事能力	責任感	学歴	無回答
18,19歳	26	26.9	30.8	61.5	30.8	34.6	7.7	30.8	3.8	26.9	23.1	0.0	7.7
20歳代	103	23.3	18.4	50.5	39.8	40.8	16.5	38.8	12.6	26.2	27.2	3.9	0.0
30歳代	127	22.0	25.2	59.8	29.9	40.2	15.0	39.4	14.2	23.6	26.8	2.4	0.0
40歳代	164	15.9	18.3	56.1	42.1	36.6	28.7	37.2	11.6	22.0	26.8	0.6	0.6
50歳代	190	12.6	11.6	59.5	34.2	43.7	28.4	38.9	18.9	16.8	25.8	3.7	1.1
60歳代	185	19.5	12.4	54.1	37.8	38.9	23.8	36.2	20.0	15.1	27.6	2.7	3.8
70歳以上	221	14.0	7.7	60.2	42.5	33.0	19.5	39.8	11.8	21.3	30.8	2.3	5.0

問 10-2 あなたは、これからの男の子は、どのようなことを身につけてほしいと思いますか。3つまで選んで、口の中に番号を記入してください。

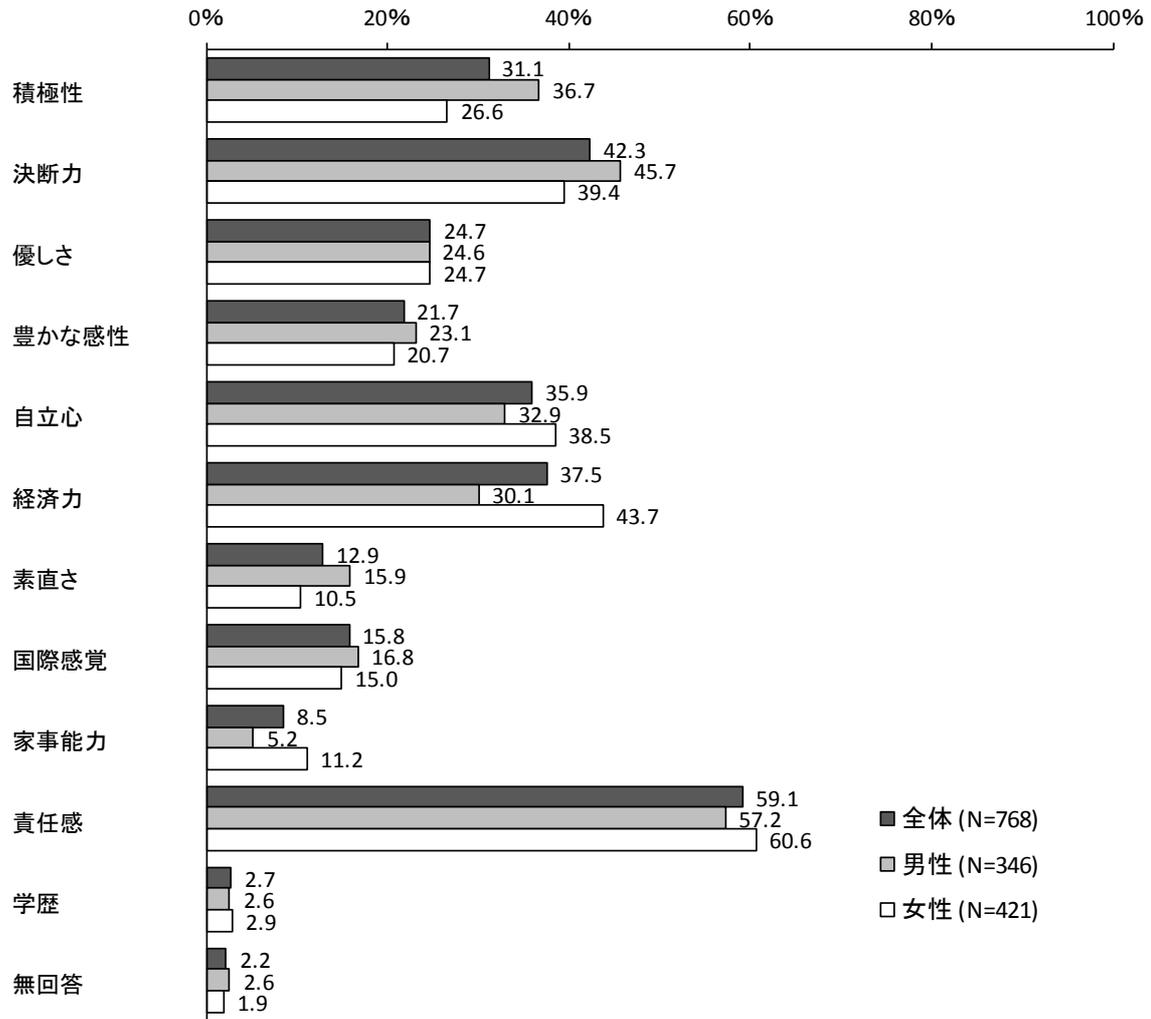
「責任感」の割合が51.5%と最も多く、次いで「決断力」の割合が39.1%、「自立心」の割合が37.7%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で特に「経済力」「責任感」「自立心」が多くなっています。また、女性に比べ、男性で「積極性」「素直さ」が多くなっています。

平成 26 年度調査と比較すると、前回同様に男女ともに「責任感」が最も多くなっています。次いで前回同様に、女性では「経済力」、男性では「決断力」が多くなっています。



[平成 26 年度調査]



【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、18、19 歳、30 歳代、40 歳代、50 歳代で「決断力」、20 歳代、60 歳代で「自立心」の割合が高くなっています。また、18、19 歳で「国際感覚」の割合が低く、60 歳代、70 歳以上で「家事能力」の割合が低くなっています。

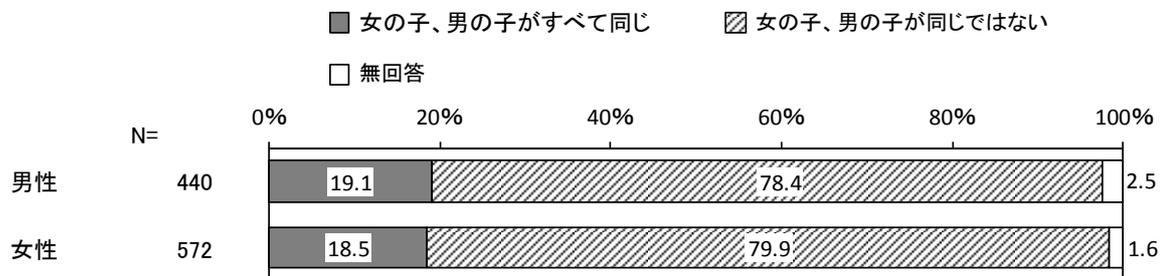
単位：%

区分	有効回答数 (件)	積極性	決断力	優しさ	豊かな感性	自立心	経済力	素直さ	国際感覚	家事能力	責任感	学歴	無回答
18,19歳	26	30.8	53.8	42.3	7.7	34.6	15.4	15.4	3.8	11.5	57.7	3.8	7.7
20歳代	103	25.2	35.9	39.8	20.4	49.5	27.2	21.4	10.7	16.5	43.7	8.7	0.0
30歳代	127	34.6	37.8	37.0	22.8	33.9	34.6	20.5	11.8	17.3	44.9	3.9	0.0
40歳代	164	35.4	42.7	28.7	27.4	34.8	34.1	17.7	11.6	13.4	49.4	1.8	0.6
50歳代	190	28.4	44.7	33.7	21.6	33.2	42.1	11.6	14.7	14.2	48.9	3.2	1.1
60歳代	185	32.4	34.1	25.4	20.0	40.5	39.5	10.3	20.0	7.0	54.1	4.9	3.8
70歳以上	221	36.7	35.3	20.4	19.0	38.0	39.8	10.9	15.8	5.4	59.7	4.5	4.5

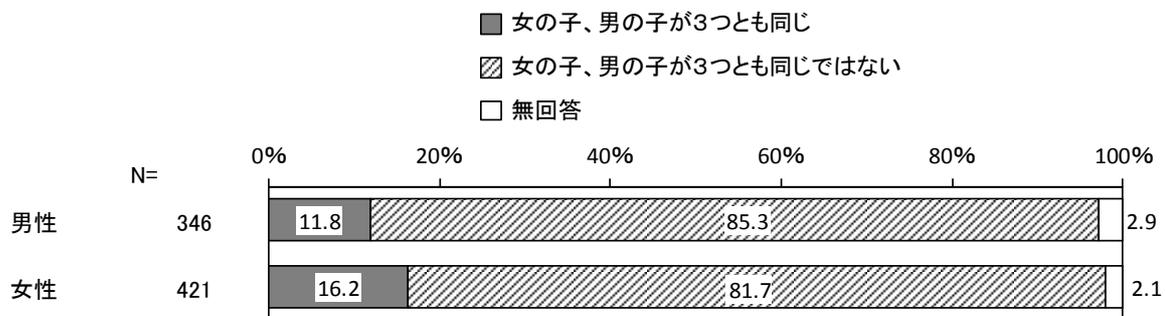
◎女の子、男の子に望むことが同じ

【性別】

性別で見ると、同様の傾向を示しています。

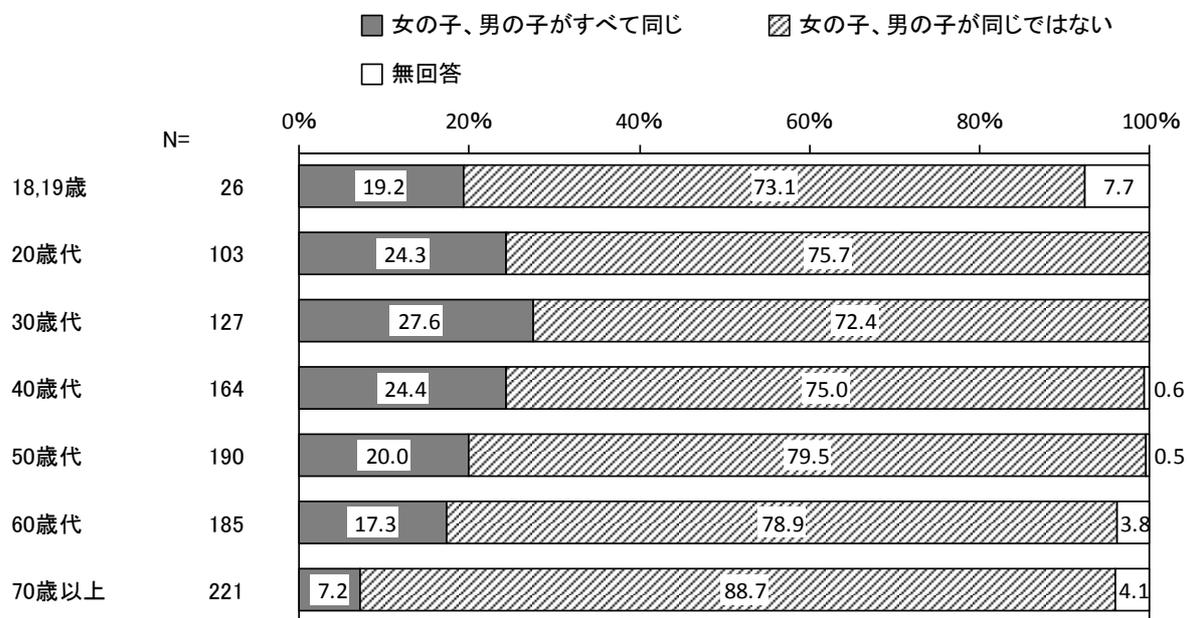


〔(参考) 平成 26 年度調査〕

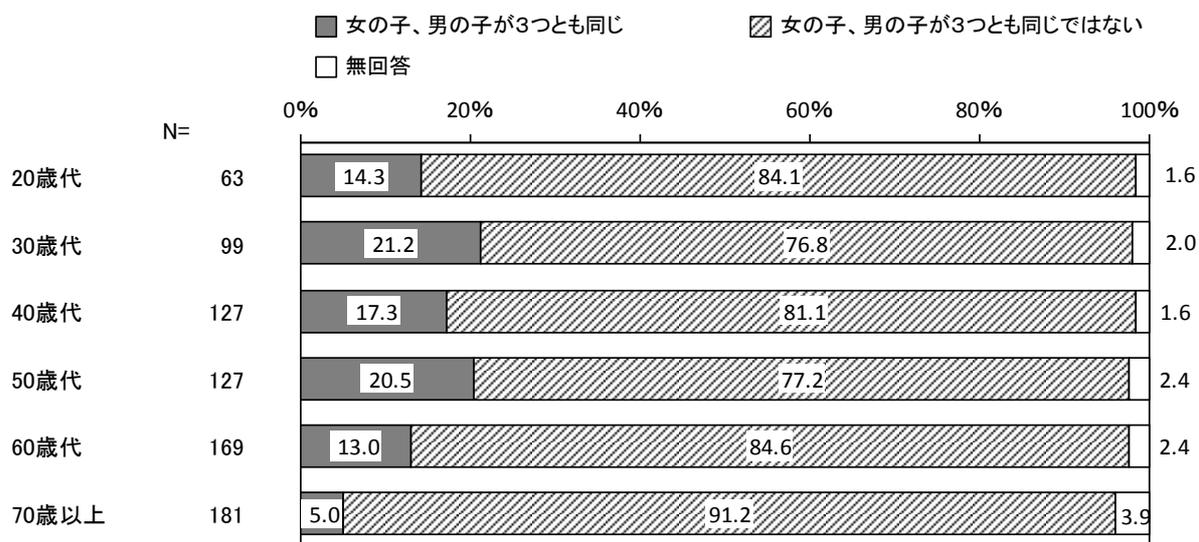


【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代で「女の子、男の子がすべて同じ」の割合が高く、2割を超えています。また、70歳以上で「女の子、男の子がすべて同じ」の割合が低く、1割未満となっています。



[(参考) 平成 26 年度調査]

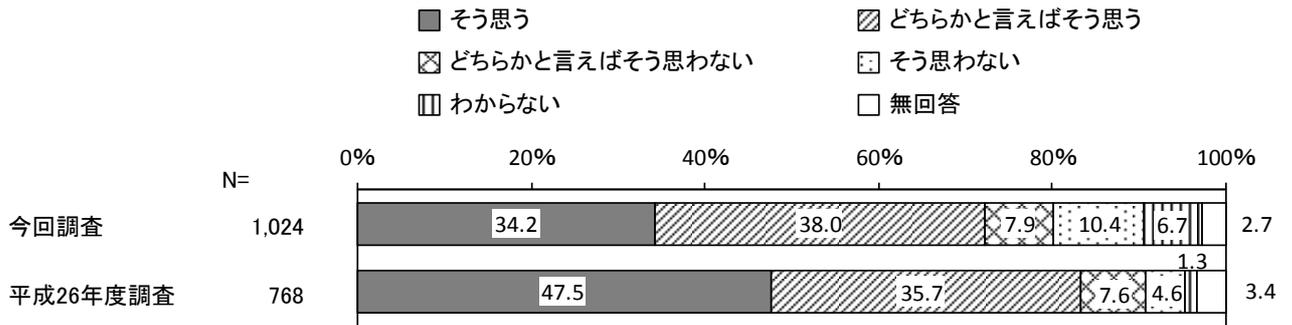


問 11 子育て及び子育て支援策について、あなたはどうお考えですか。次の①～③について、あなたの気持ちに最も近いものは、どれですか（それぞれ1つに○）。

①子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念した方がよい

「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が72.2%、「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が18.3%となっています。

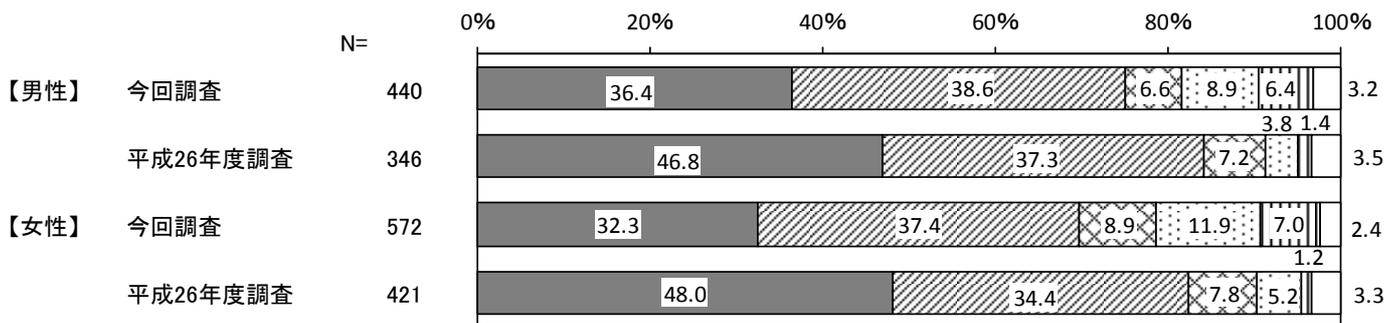
平成26年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が11.0ポイント減少しています。



【性別】

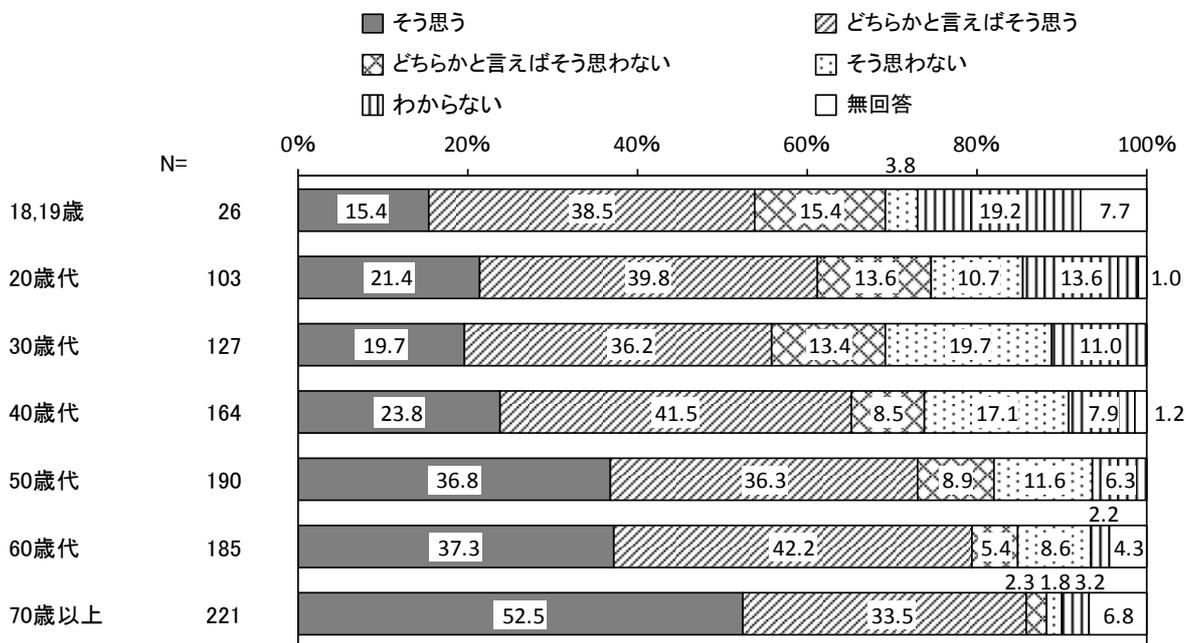
性別でみると、同様の傾向を示しています。

平成26年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が、男性で9.1ポイント、女性で12.7ポイント減少しています。



【年代別】

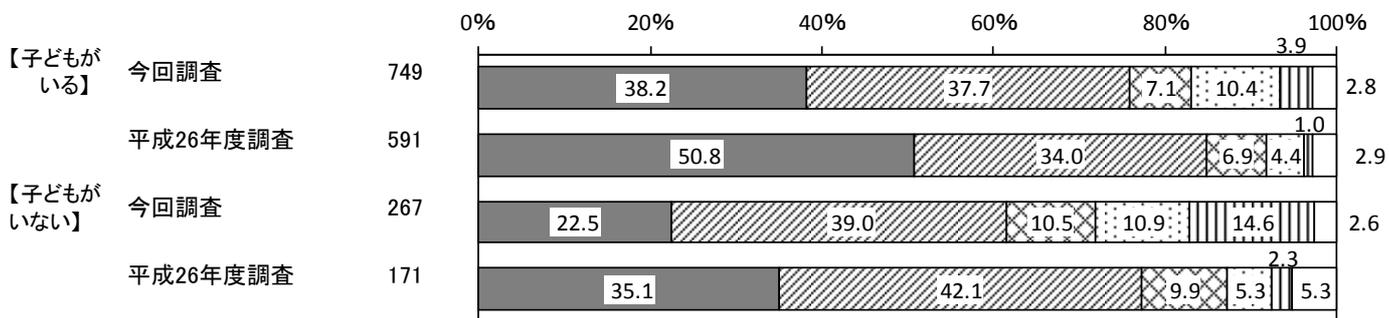
年代別でみると、他の年代に比べ、60歳代、70歳以上で“そう思う”の割合が高くなっています。



【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“そう思う”の割合が高く、約8割となっています。

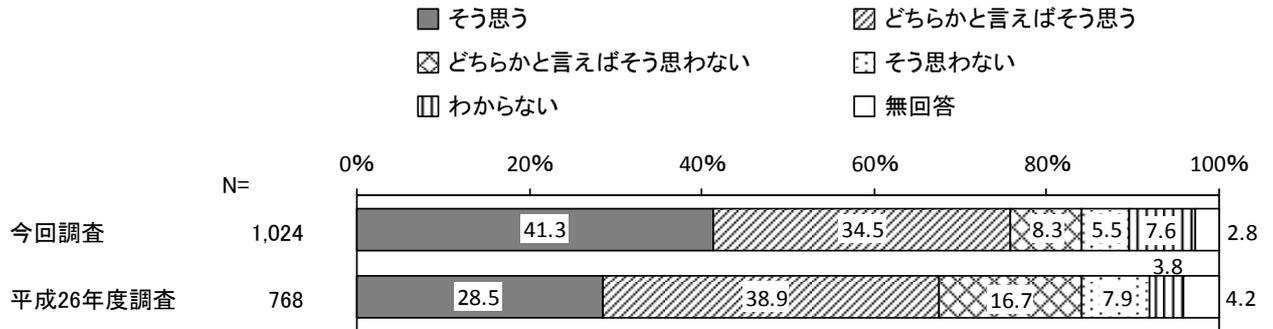
平成26年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が、子どものいる人で8.9ポイント、子どもがいない人で15.7ポイント減少しています。



②親が仕事や自分の生活を大切にするために、子育て支援サービスを活用することはよい

「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が75.8%、「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が13.8%となっています。

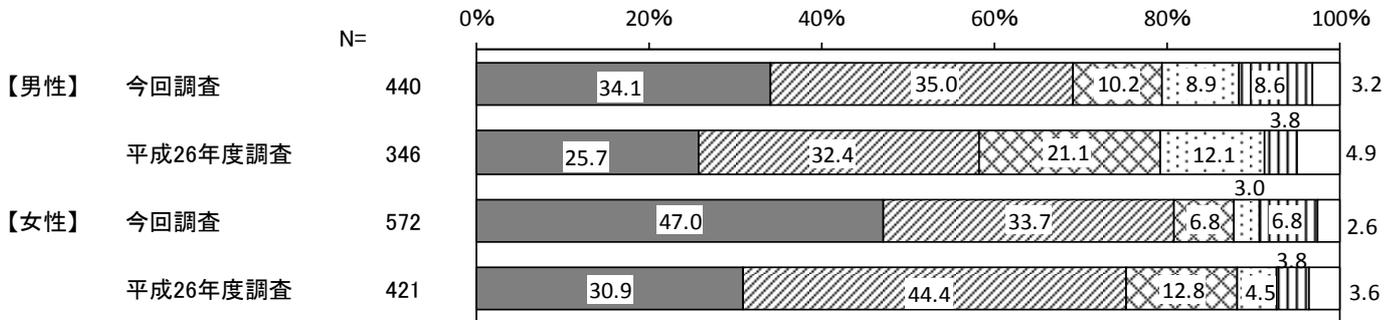
平成26年度調査と比較すると、“そう思わない”の割合が10.8ポイント減少しています。



【性別】

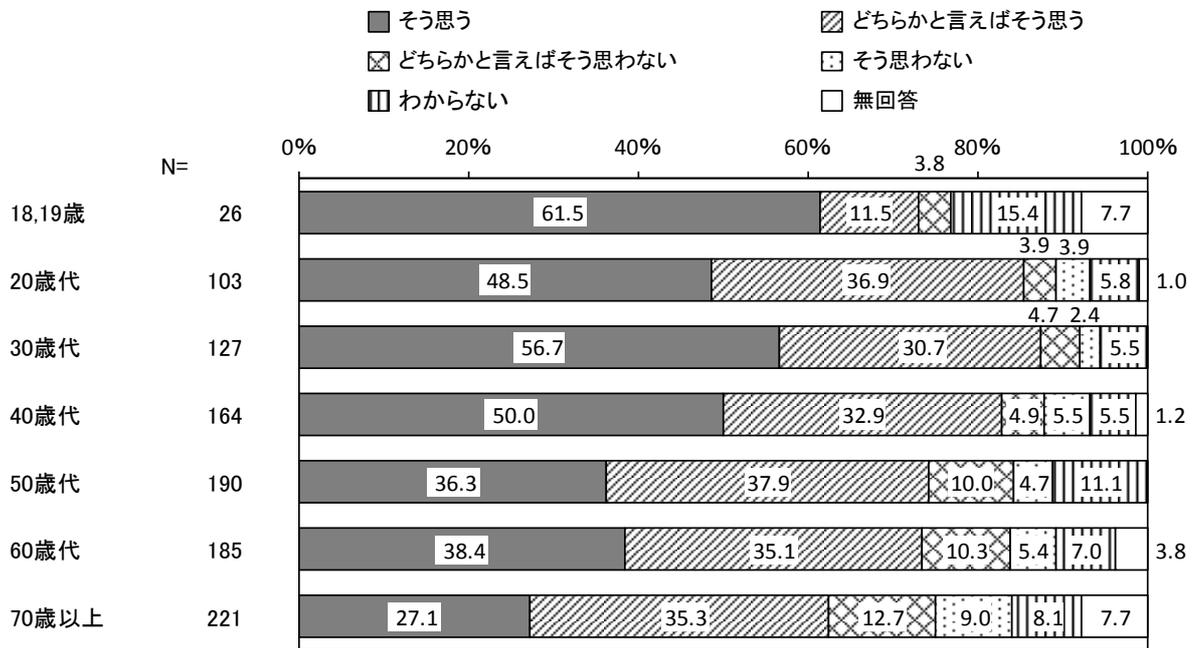
性別で見ると、男性に比べ、女性で“そう思う”の割合が高く、8割を超えています。

平成26年度調査と比較すると、“そう思わない”の割合が、男性で14.1ポイント、女性で7.5ポイント減少しています。



【年代別】

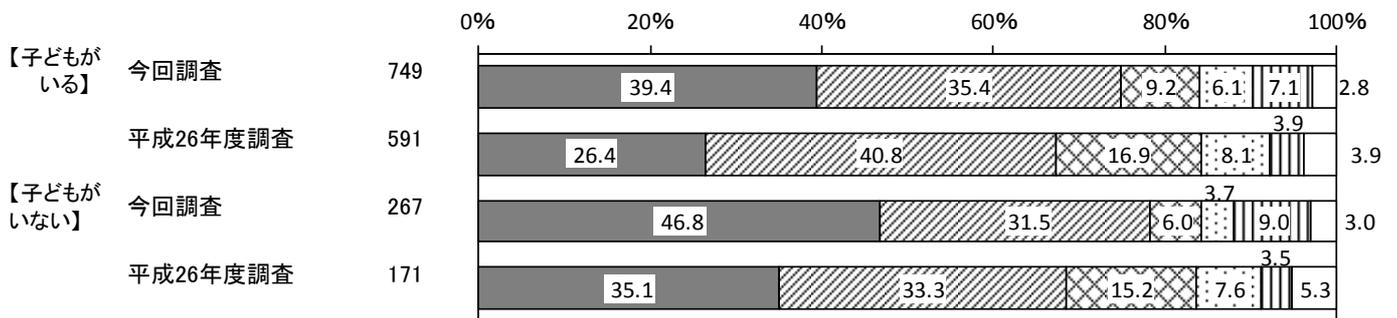
年代別でみると、20歳代から40歳代は、“そう思う”の割合が高く、70歳以上では、低くなっています。また、70歳以上は、“そう思わない”の割合が他の年代に比べて高くなっています。



【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“そう思わない”の割合が低くなっています。

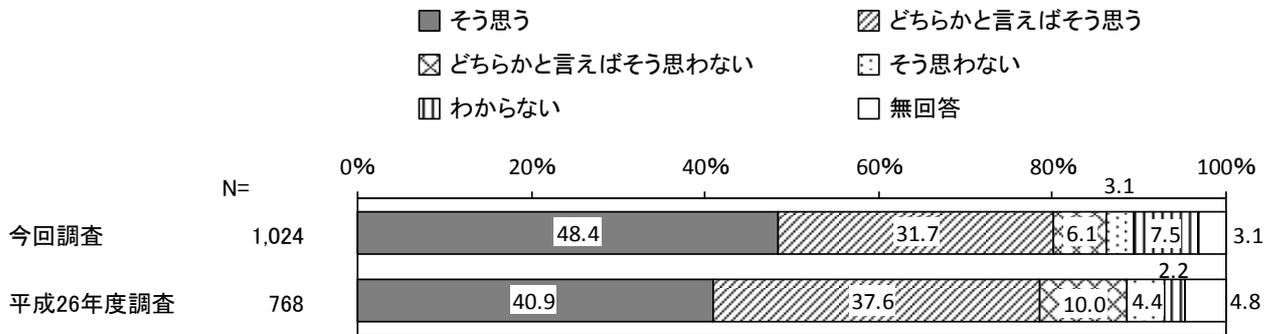
平成26年度調査と比較すると、“そう思わない”の割合が、子どもがいる人で9.7ポイント、子どもがいない人で13.1ポイント減少しています。



③国や自治体が積極的にかかわり、社会全体で子育てを支援していくのがよい

「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が 80.1%、「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が 9.2% となっています。

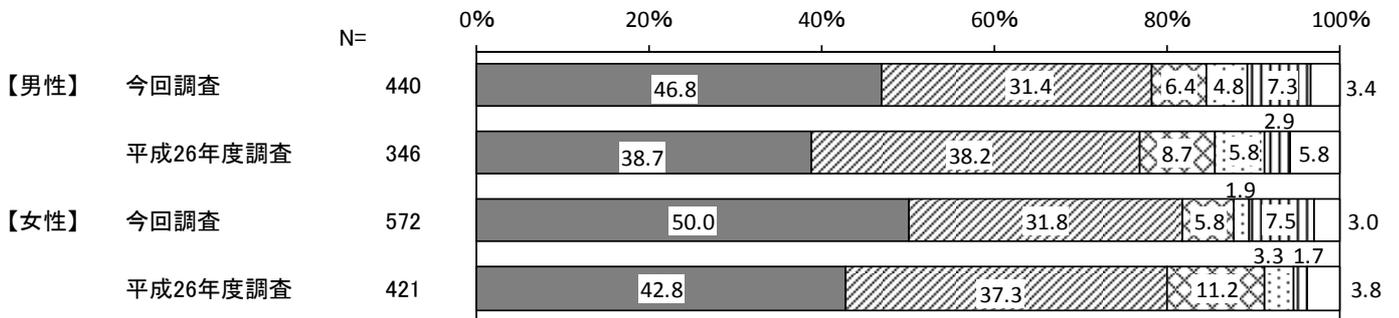
平成 26 年度調査と比較すると、“そう思わない”の割合が 5.2 ポイント減少しています。



【性別】

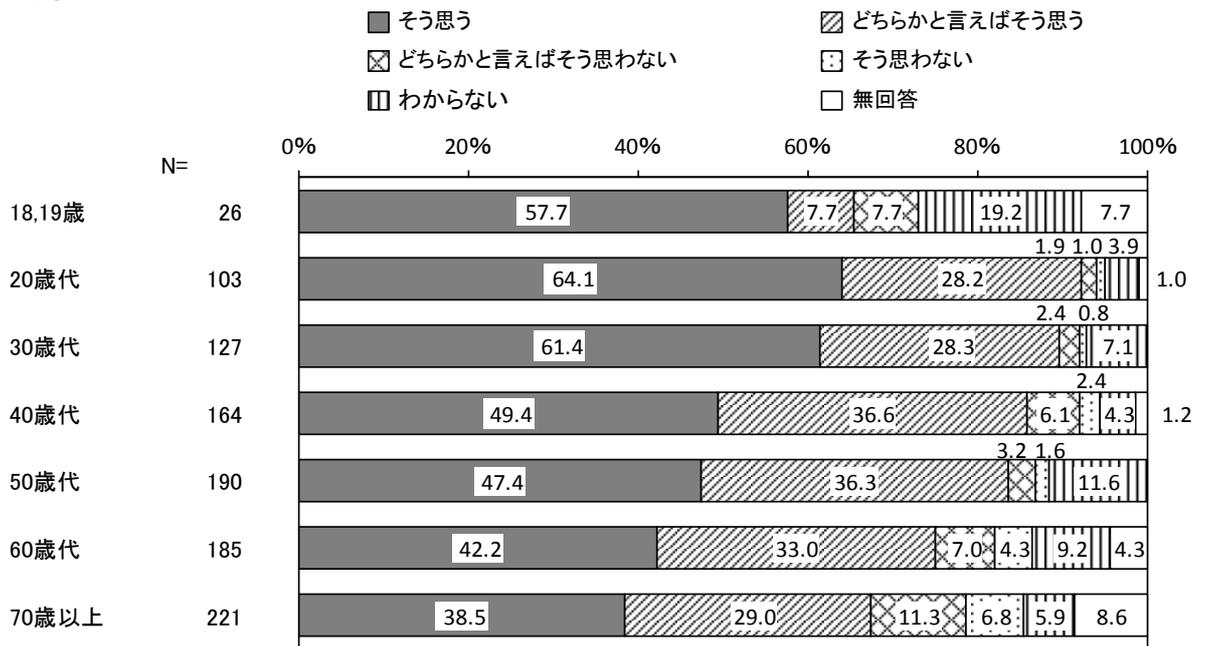
性別でみると、同様の傾向を示しています。

平成 26 年度調査と比較すると、“そう思わない”の割合が、女性で 6.8 ポイント減少しています。



【年代別】

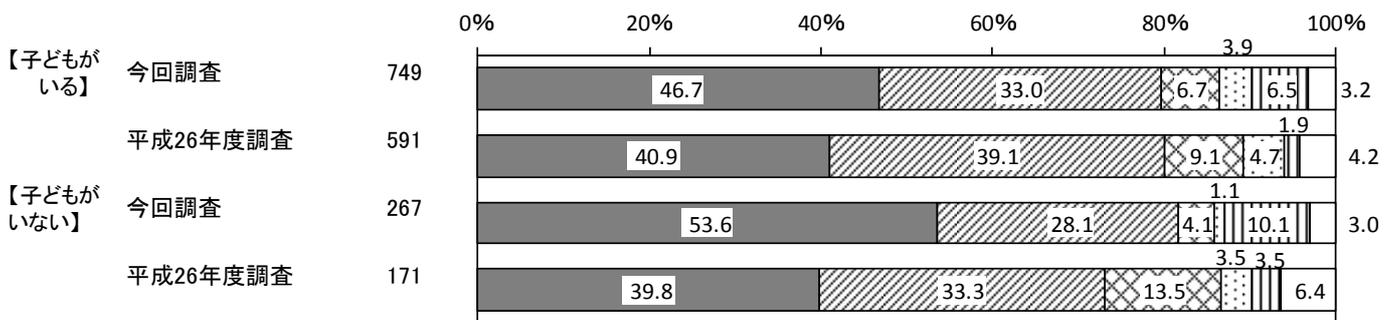
年代別でみると、他の年代に比べ、70歳以上で“そう思わない”の割合が高く、約2割となっています。



【子どもの有無別】

子どもの有無別でみると、子どもがいない人に比べ、子どもがいる人で“そう思わない”の割合が高くなっています。

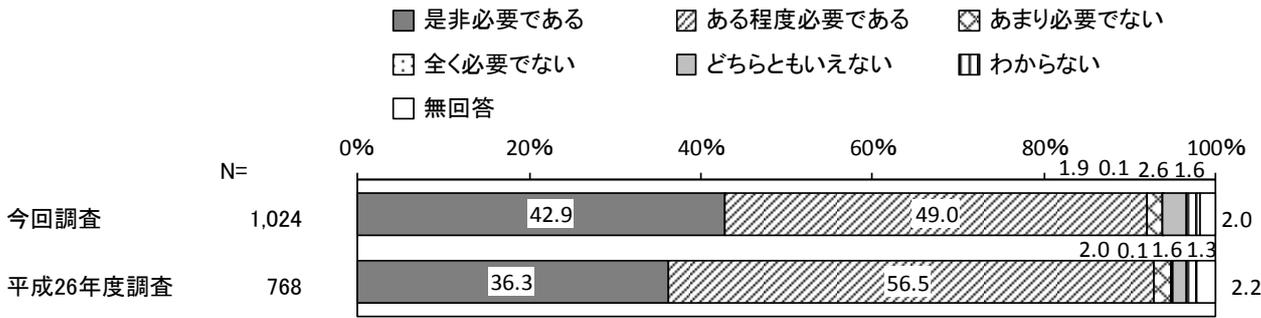
平成26年度調査と比較すると、“そう思わない”の割合が、子どもがいない人で11.8ポイント減少しています。



問 12 男性が育児に参加することについて、あなたはどうお考えですか（1つに○）。

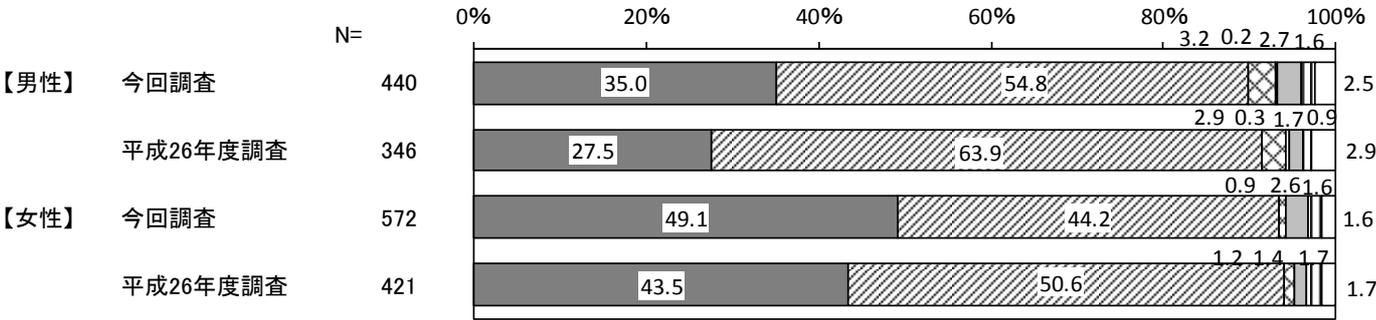
「是非必要である」と「ある程度必要である」をあわせた“必要である”の割合が 91.9%、「あまり必要でない」と「全く必要でない」をあわせた“必要でない”の割合が 2.0%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「是非必要である」の割合が 6.6 ポイント増加し、「ある程度必要である」の割合が 7.5 ポイント減少しています。



【性別】

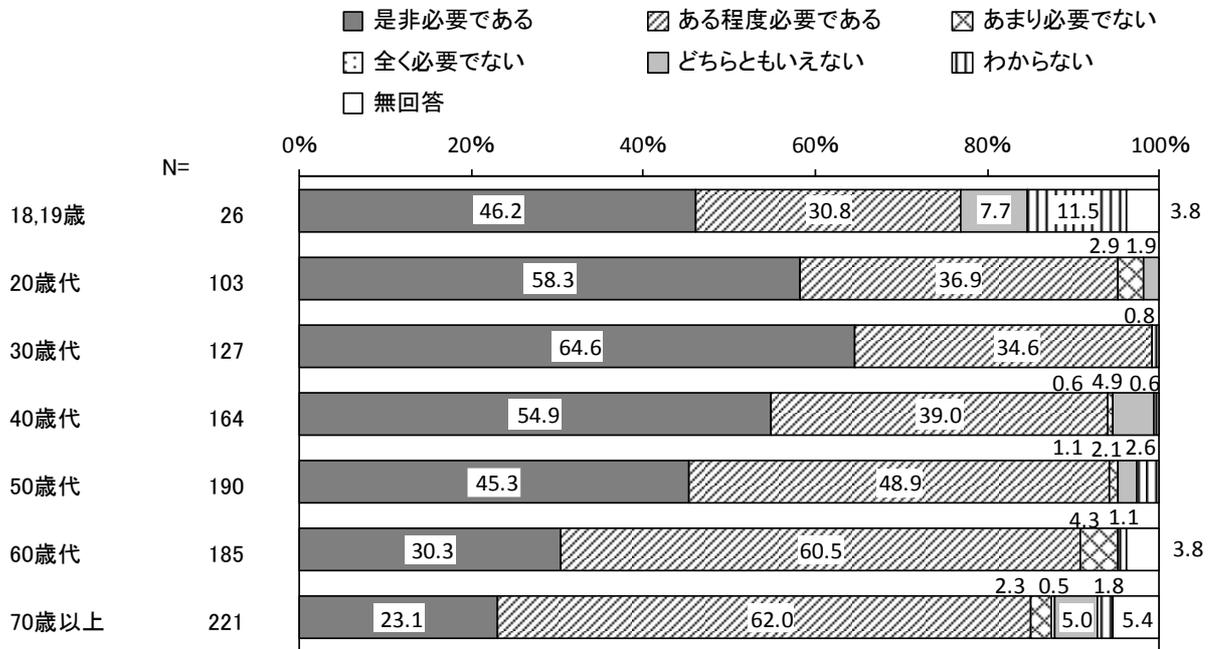
性別でみると、男性に比べ、女性で「是非必要である」の割合が高くなっています。



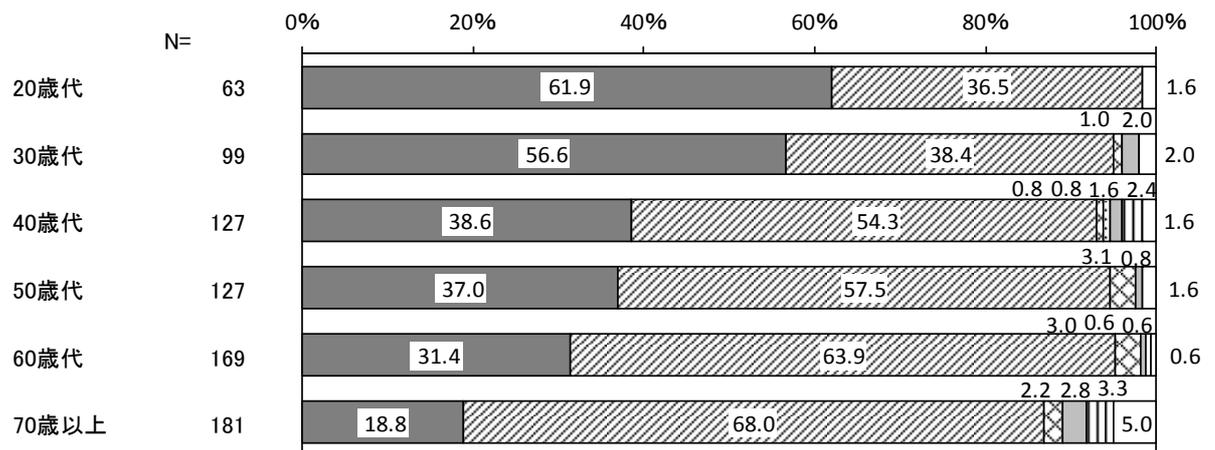
【年代別】

年代別でみると、50歳代を境に20歳代から40歳代は、「是非必要である」の割合が高くなっており、20歳代、30歳代で約6割となっています。

平成26年度調査と比較すると、「是非必要である」の割合が、40歳代で16.3ポイント増加しています。



[平成26年度調査]

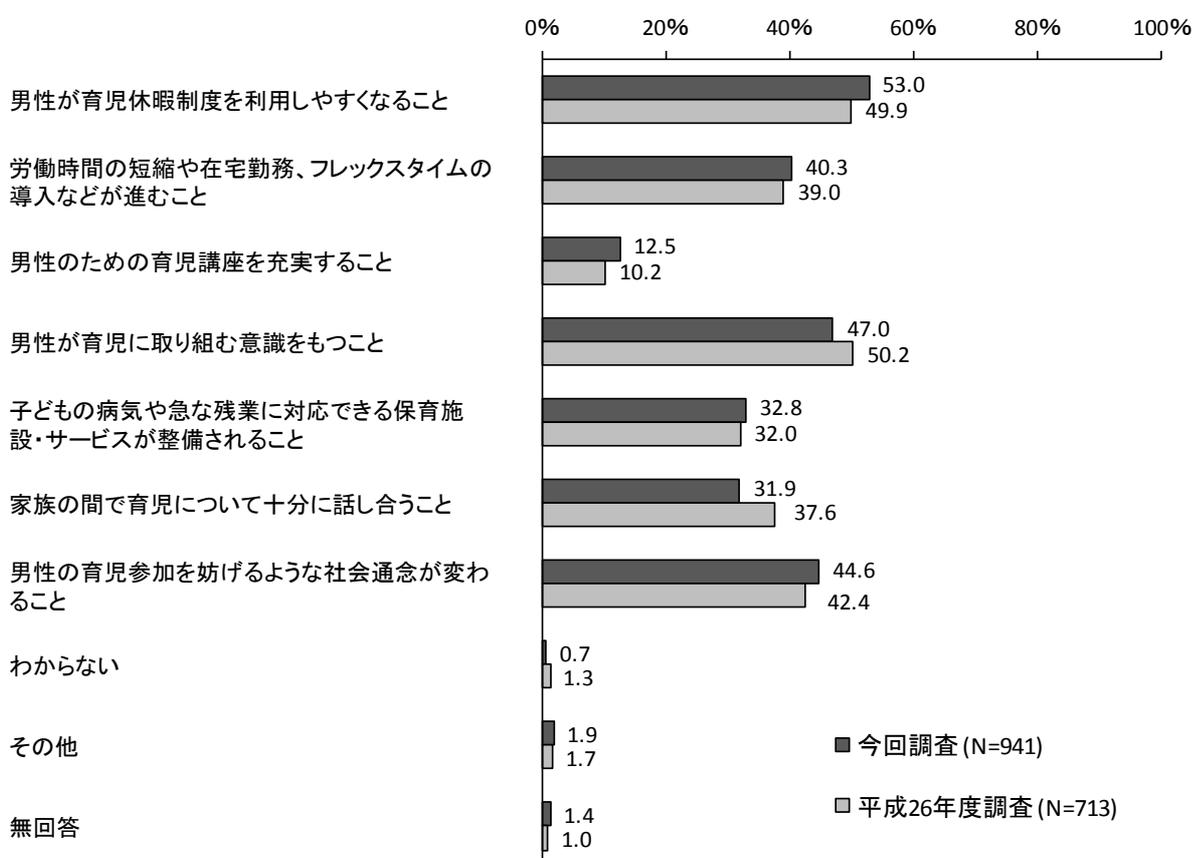


問12で、「1. 是非必要である」または「2. ある程度必要である」と答えた方におたずねします。

問13 男性の育児参加を促していくためには、どのようなことが重要になると思いますか（3つまで○）。

「男性が育児休暇制度を利用しやすくなること」の割合が53.0%と最も高く、次いで「男性が育児に取り組む意識をもつこと」の割合が47.0%、「男性の育児参加を妨げるような社会通念が変わること」の割合が44.6%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「男性が育児休暇制度を利用しやすくなること」の割合が3.1ポイント増加し、「家族の間で育児について十分に話し合うこと」の割合が5.7ポイント減少しています。

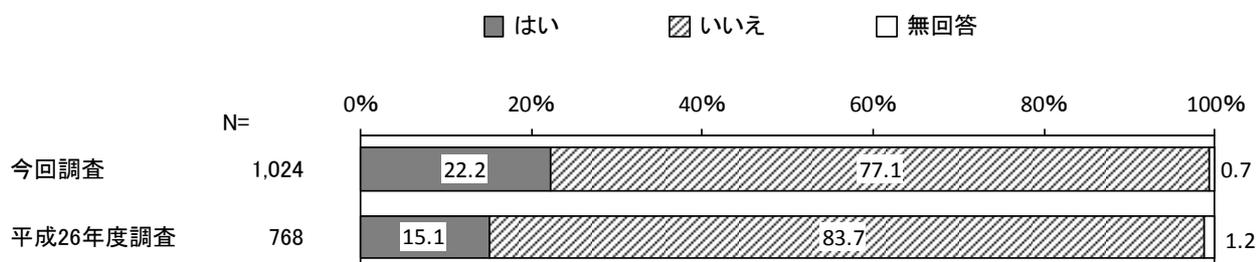


5 介護について

問 14 あなたのご家族（同居していない場合も含む）には、介護を要する方がいますか（1つに○）。

「はい」の割合が22.2%、「いいえ」の割合が77.1%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「はい」の割合が7.1ポイント増加しています。

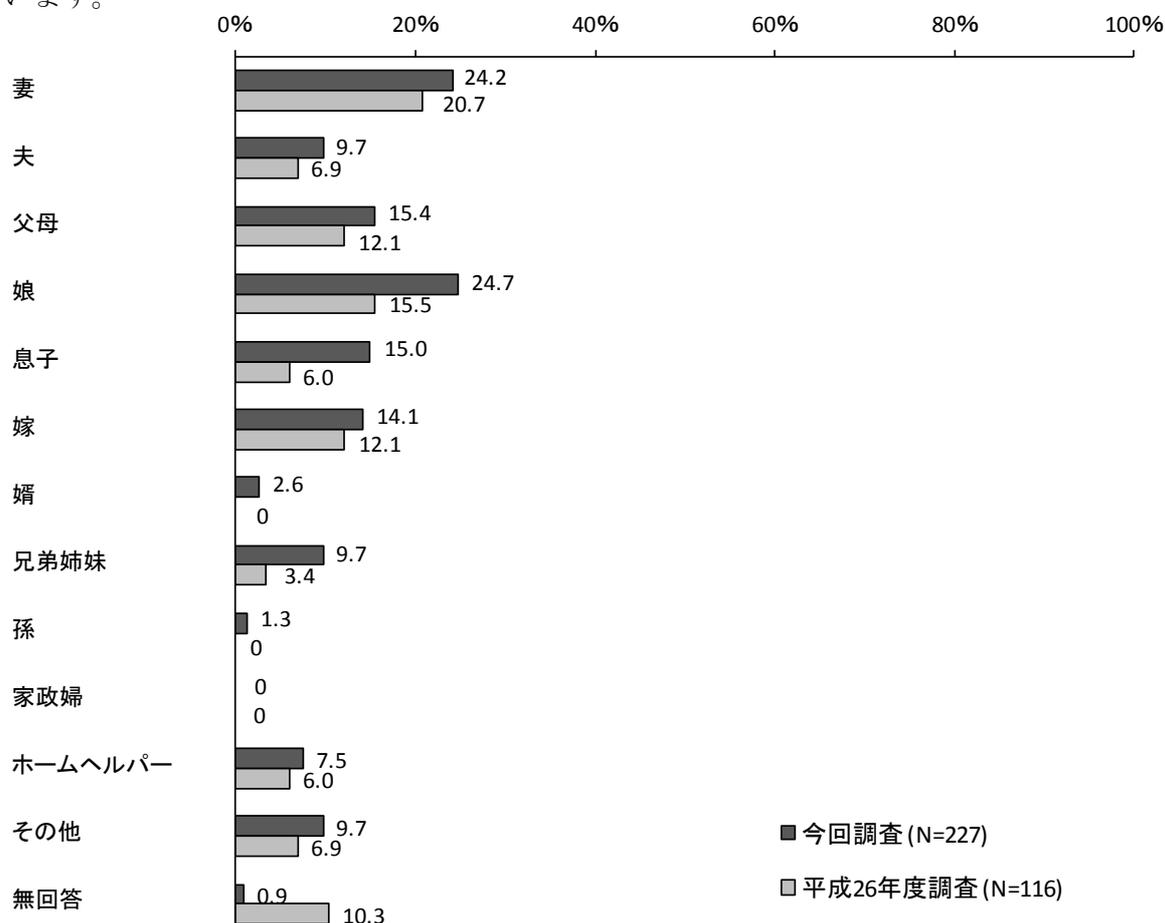


問 14で「1. はい」と回答した方におたずねします。

問 15 介護は、主にどなたがされていますか。介護を受けている方からみた関係でお答えください（2つまで○）。

「娘」の割合が24.7%と最も高く、次いで「妻」の割合が24.2%、「父母」の割合が15.4%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「娘」の割合、「息子」の割合と「兄弟姉妹」の割合が増加しています。

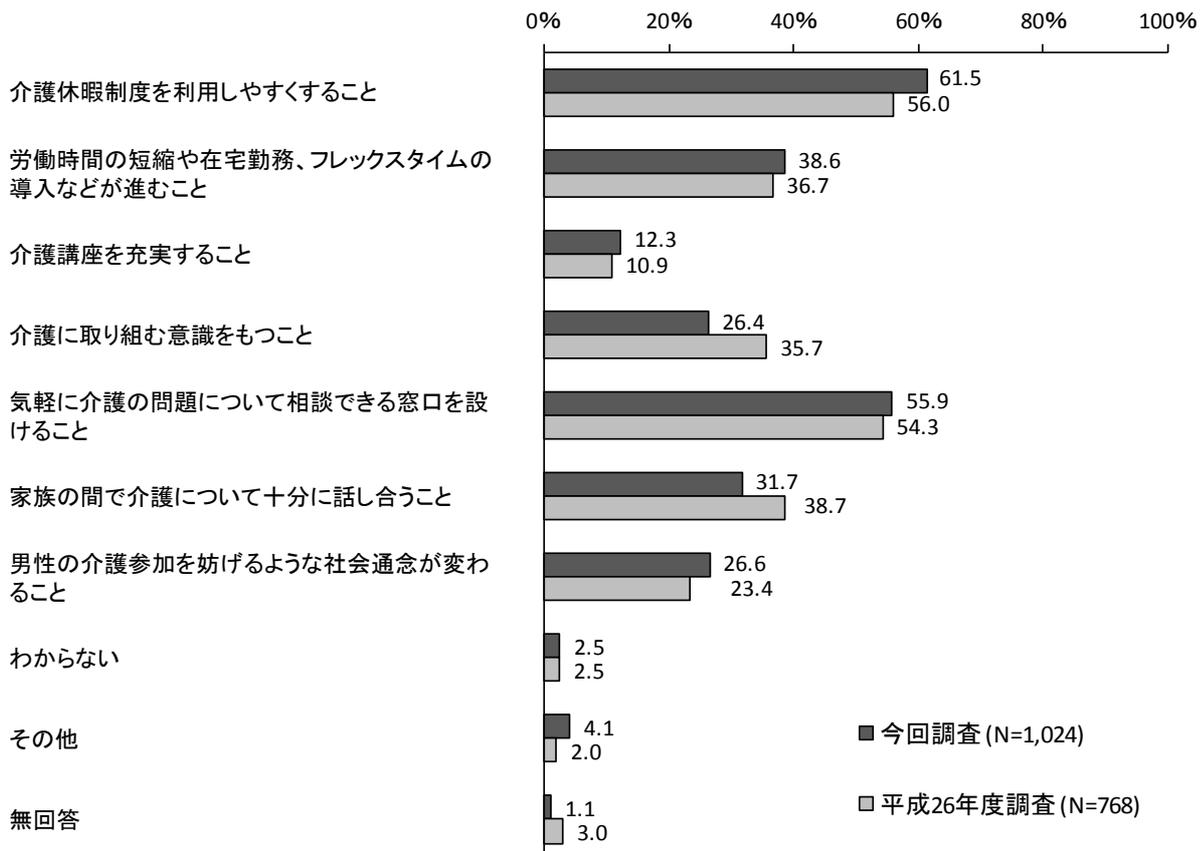


*平成26年度調査は単数回答

問 16 今後、社会で介護を担っていくためには、どのようなことが重要になると思いますか（3つまで○）。

「介護休暇制度を利用しやすくすること」の割合が 61.5%と最も高く、次いで「気軽に介護の問題について相談できる窓口を設けること」の割合が 55.9%、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などが進むこと」の割合が 38.6%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「介護休暇制度を利用しやすくすること」の割合が 5.5 ポイント増加し、「介護に取り組む意識をもつこと」の割合が 9.3 ポイント減少しています。



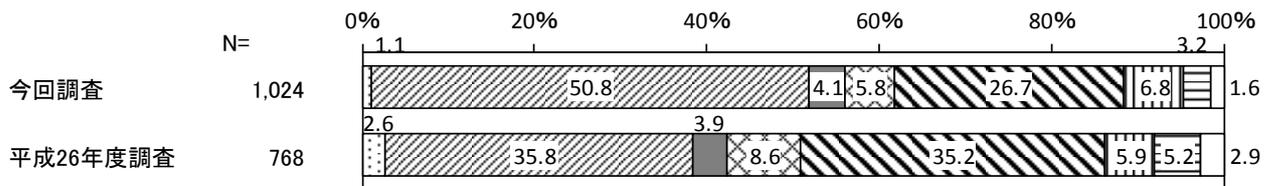
6 仕事や社会参加について

問 17 女性が仕事を持つことについて、あなたは次のどの考え方に近いですか（1つに○）。

「女性も、仕事を持ち続けるほうがよい」の割合が 50.8%と最も高く、次いで「子どもができたなら退職し、大きくなったら再び就職するほうがよい」の割合が 26.7%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「女性も、仕事を持ち続けるほうがよい」の割合が 15.0 ポイント増加し、「子どもができたなら退職し、大きくなったら再び就職するほうがよい」の割合が 8.5 ポイント減少しています。

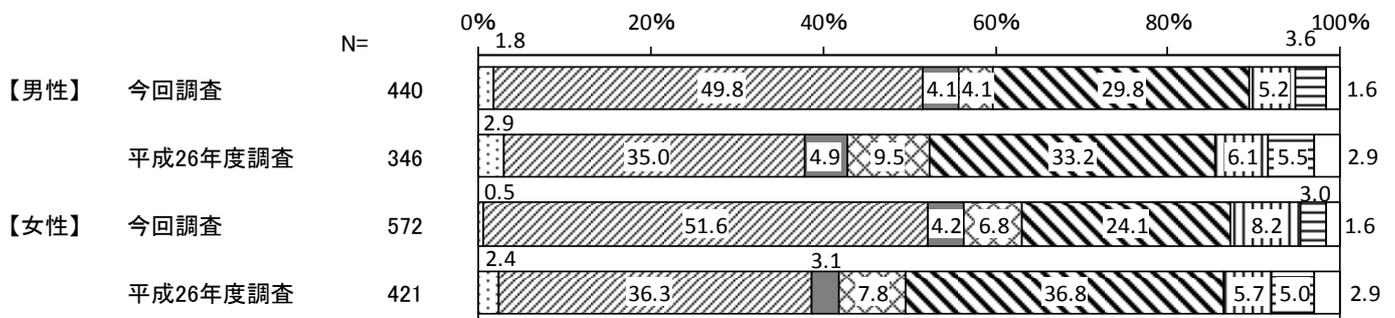
- ☐ 女性も、仕事を持ち続けるほうがよい
- ▨ 女性も、仕事を持ち続けるほうがよい
- 結婚するまでは、仕事を持つほうがよい
- ☒ 子どもができるまでは、仕事を持つほうがよい
- ▩ 子どもができたなら退職し、大きくなったら再び就職するほうがよい
- わからない
- ▨ その他
- 無回答



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「子どもができたなら退職し、大きくなったら再び就職するほうがよい」の割合が高くなっています。

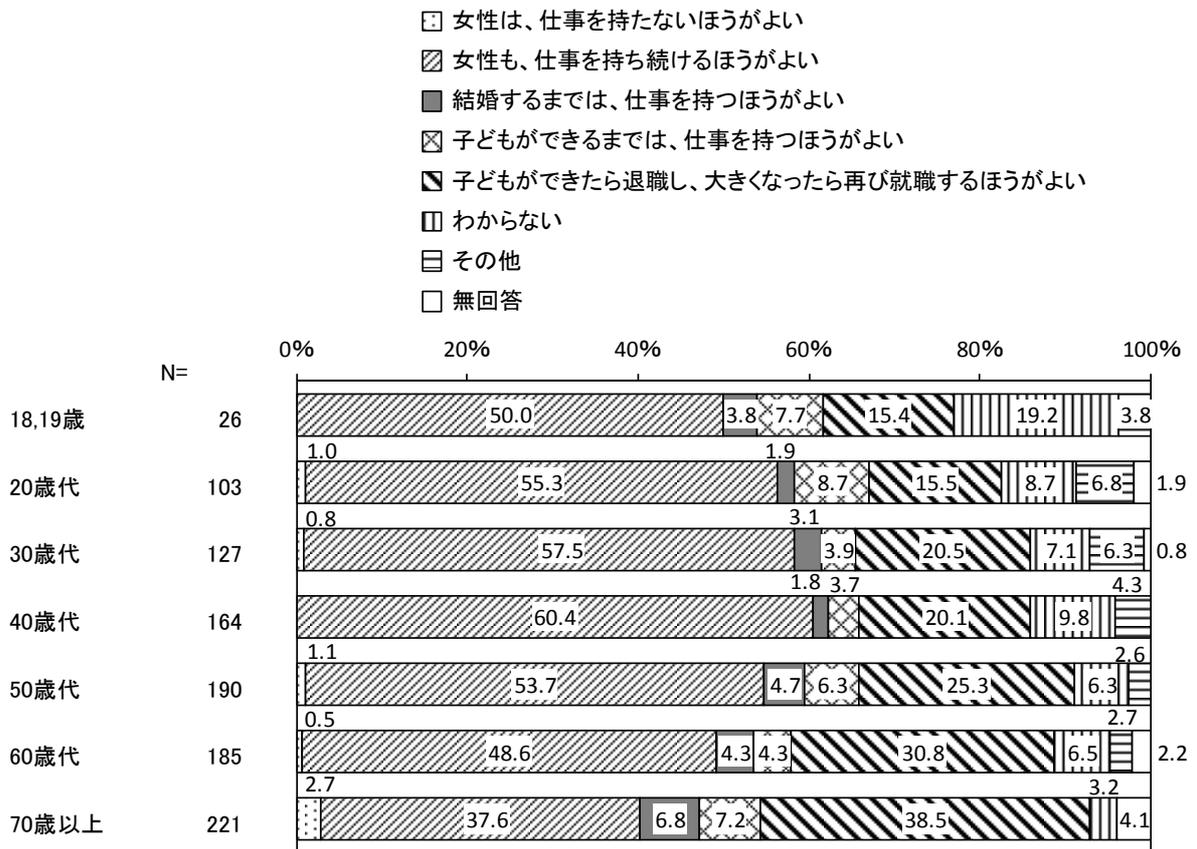
平成 26 年度調査と比較すると、「女性も、仕事を持ち続けるほうがよい」の割合が、男性で 14.8 ポイント、女性で 15.3 ポイント増加しています。



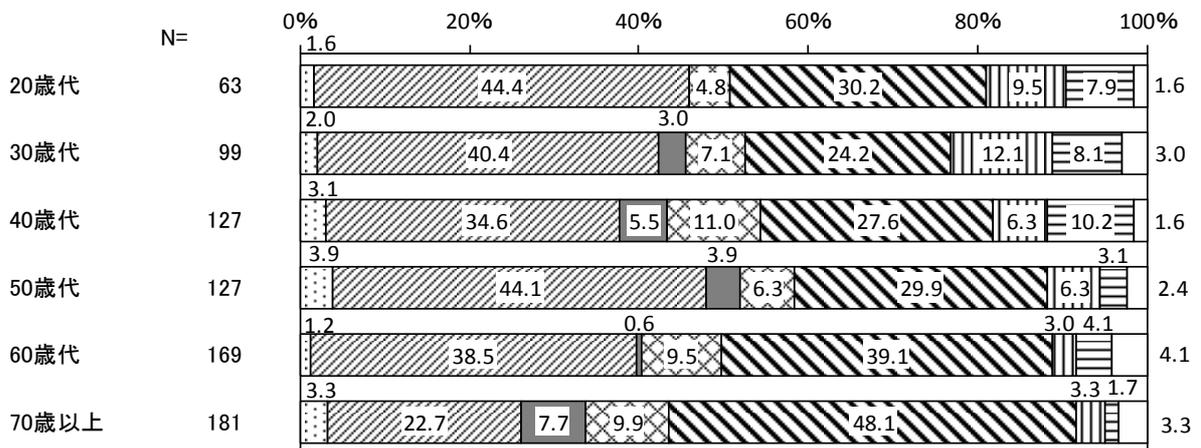
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、70歳以上で「女性も、仕事を持ち続けるほうがよい」の割合が低く、「子どもができたなら退職し、大きくなったら再び就職するほうがよい」の割合が高くなっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「女性も、仕事を持ち続けるほうがよい」の割合が、40歳代で 25.8 ポイント、70歳以上で 14.9 ポイント増加しています。



[平成 26 年度調査]

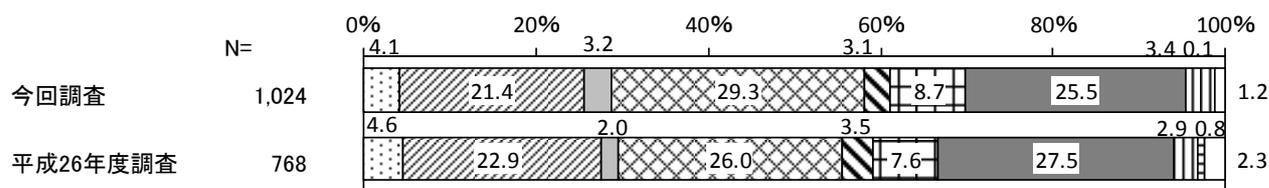


問 18 現在、ワーク・ライフ・バランスが重要視されていますが、あなたは、生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活のうち何を優先しますか。(1)、(2)についてそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。

(1) 希望として

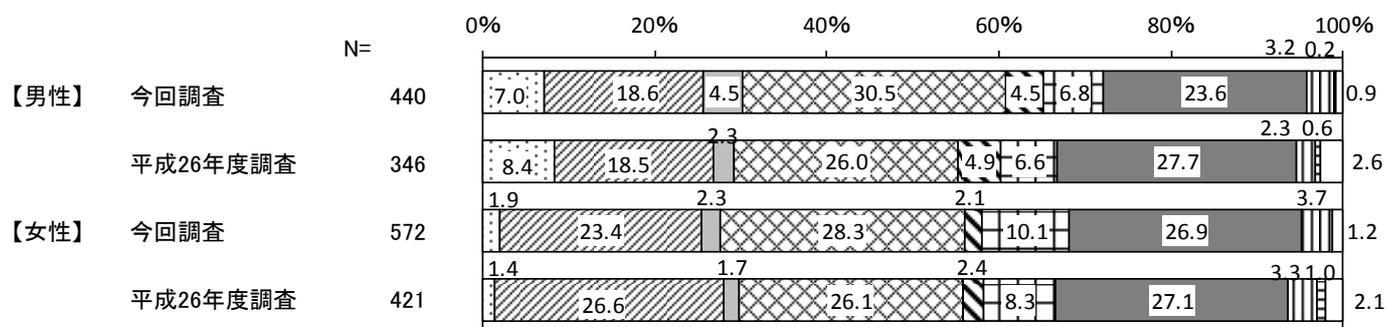
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が 29.3%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が 25.5%、「家庭生活」を優先したい」の割合が 21.4%となっています。

- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい
- わからない
- その他
- 無回答



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家庭生活」を優先したい」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「仕事」、「地域・個人の生活」と「仕事と地域・個人の生活をともに」を優先したい」の割合が高くなっています。

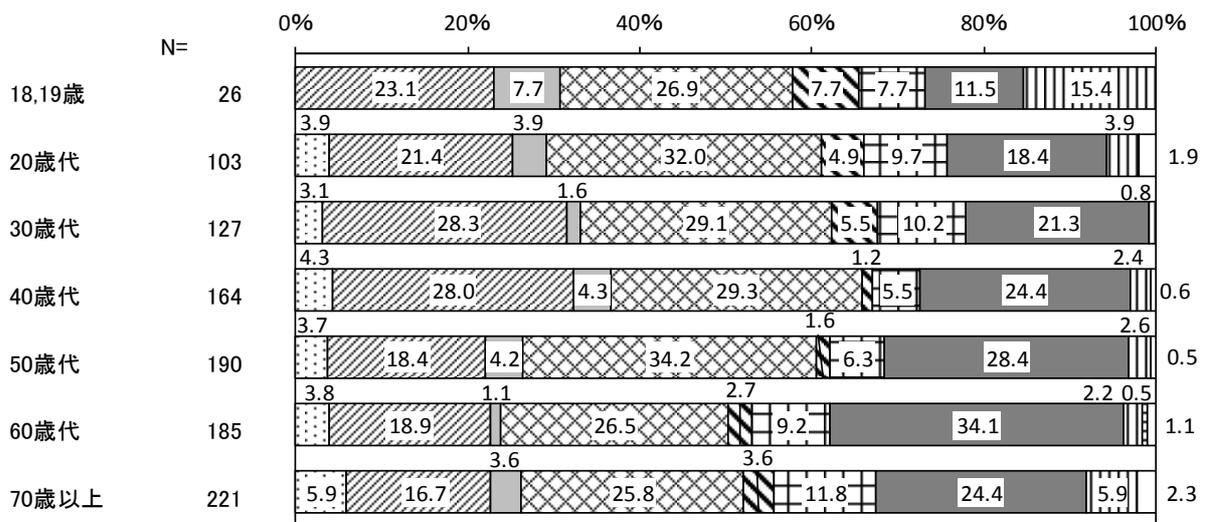


【年代別】

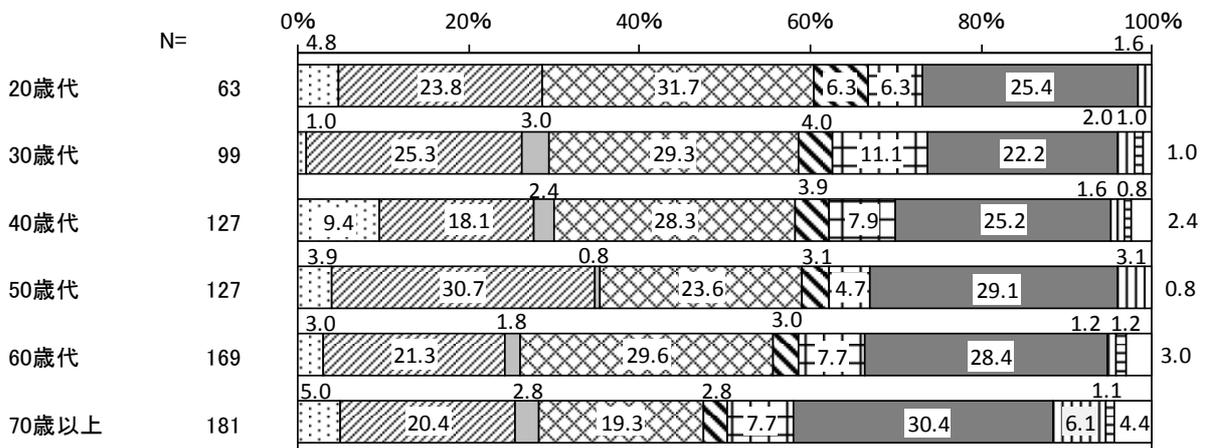
年代別でみると、他の年代に比べ、30歳代と40歳代で「家庭生活」を優先したい、60歳代で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたいの割合が高くなっています。

平成26年度調査と比較すると、「家庭生活」を優先したいの割合が、50歳代で12.3ポイント減少しています。また、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいの割合が、50歳代で10.6ポイント増加しています

- ▨ 「仕事」を優先したい
- ▩ 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- ▧ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- ▦ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- ▤ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい
- ▨ わからない
- ▩ その他
- 無回答



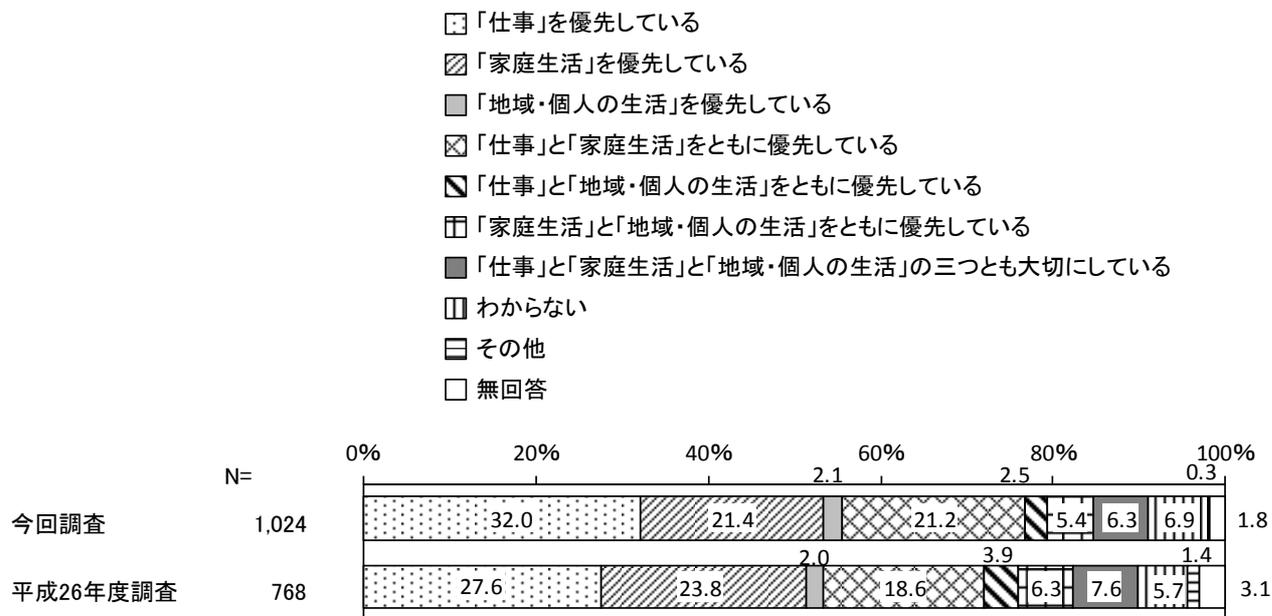
[平成26年度調査]



(2) 現実として

「仕事」を優先している」の割合が 32.0%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先している」の割合が 21.4%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が 21.2%となっています。

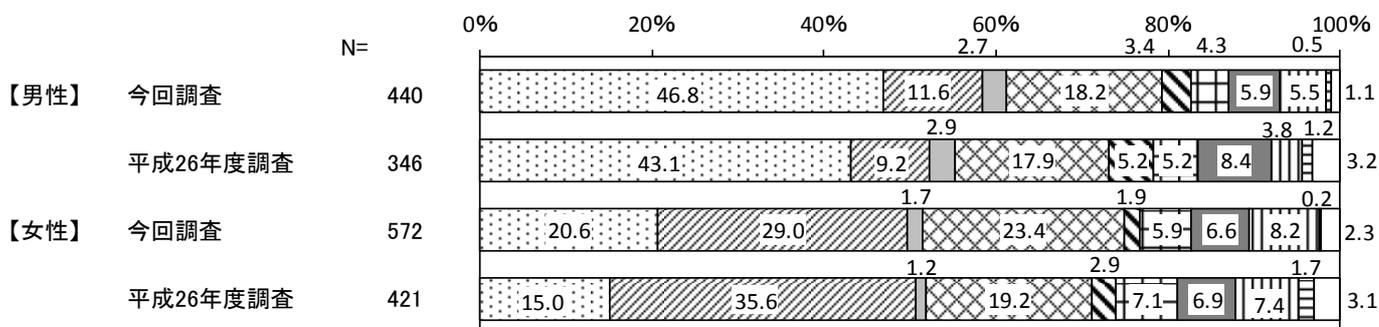
平成 26 年度調査と比較すると、「仕事」を優先している」の割合が 4.4 ポイント増加しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家庭生活」を優先している」と「仕事と家庭をともに優先」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「仕事」を優先している」の割合が高くなっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「仕事」を優先している」の割合が、女性で 5.6 ポイント増加しています。また、「家庭生活」を優先している」の割合が、女性で 6.6 ポイント減少しています。

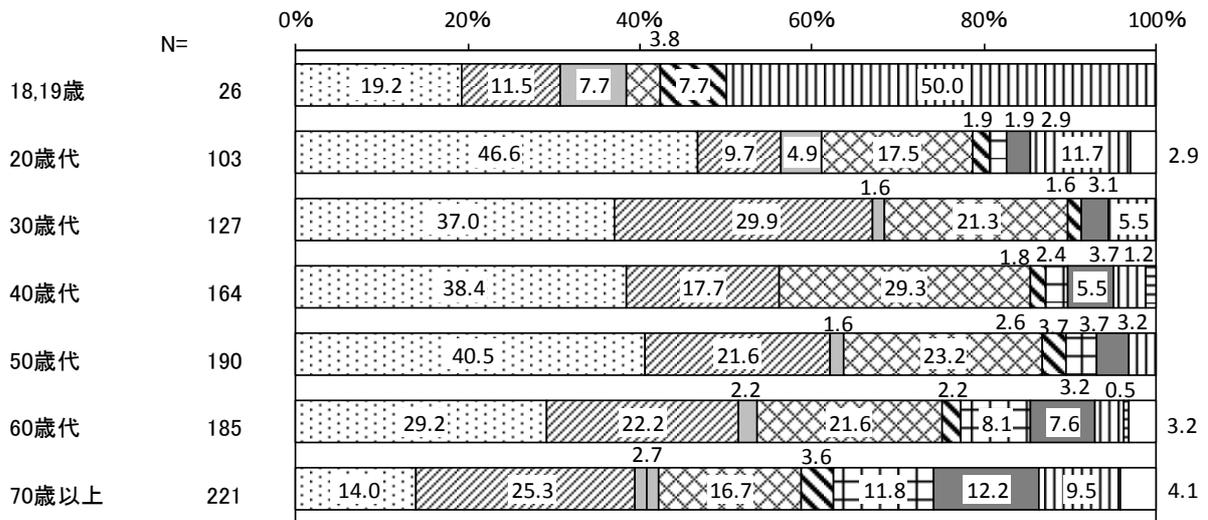


【年代別】

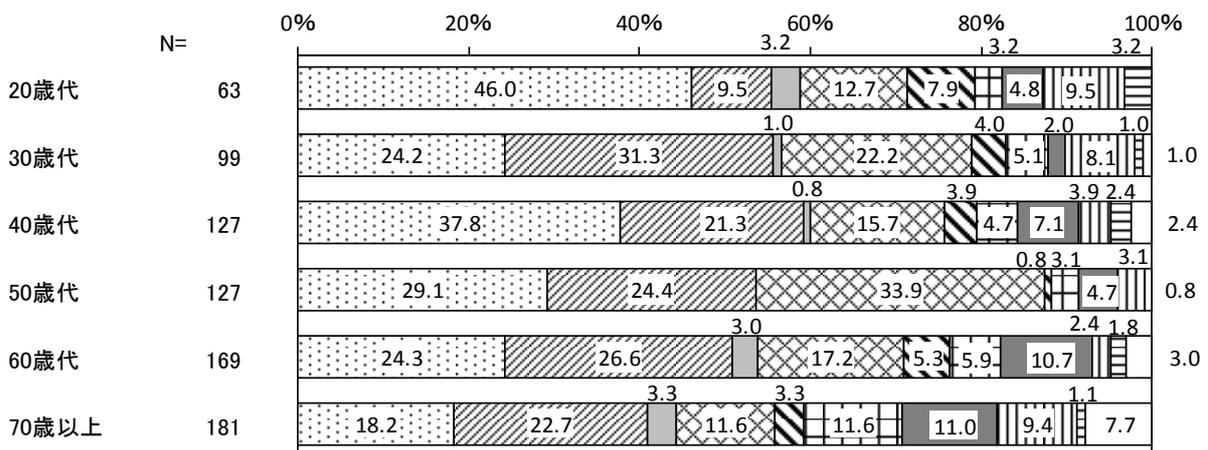
年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「家庭生活」を優先している」の割合が低く、「仕事」を優先している」の割合が高くなっています。また、40歳代で「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が高くなっています。そして、50歳代で「仕事」を優先している」の割合が高くなっています。

平成26年度調査と比較すると、30歳代で「仕事」を優先している」の割合が12.8ポイント増加しています。また、40歳代で「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が13.6ポイント増加しています。そして、50歳代で「仕事」を優先している」の割合が11.4ポイント増加、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が10.7ポイント減少しています。

- ☐ 「仕事」を優先している
- ▨ 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- ▩ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- ▧ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- ▦ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている
- ▨ わからない
- ▩ その他
- 無回答



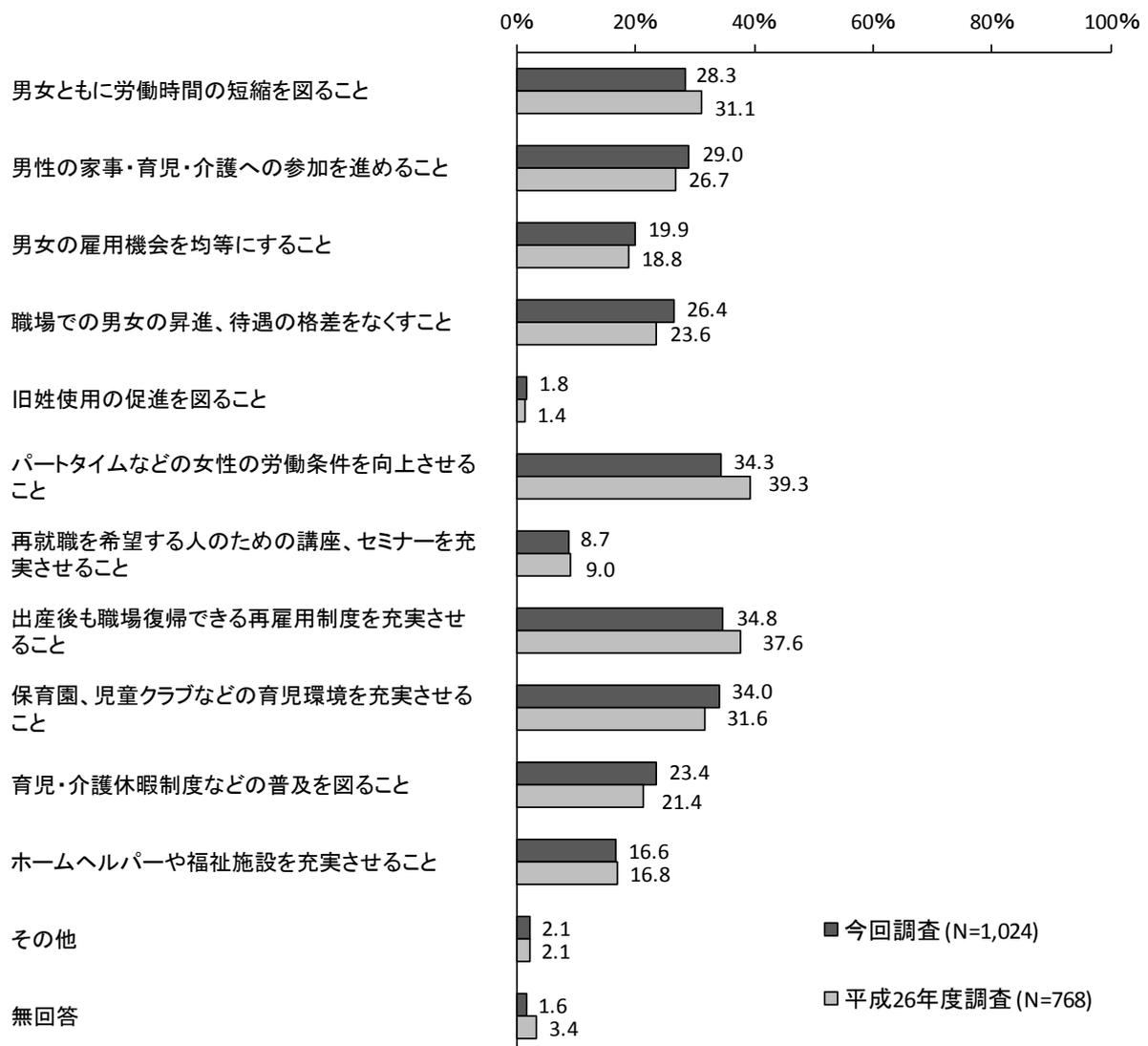
[平成26年度調査]



問 19 今後、性別に関わらず働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか（3つまで○）。

「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実させること」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「パートタイムなどの女性の労働条件を向上させること」の割合が 34.3%、「保育園、児童クラブなどの育児環境を充実させること」の割合が 34.0%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「職場での男女の昇進、待遇の格差をなくすこと」の割合が 2.8 ポイント増加しており、「パートタイムなどの女性の労働条件を向上させること」の割合が 5.0 ポイント減少しています。



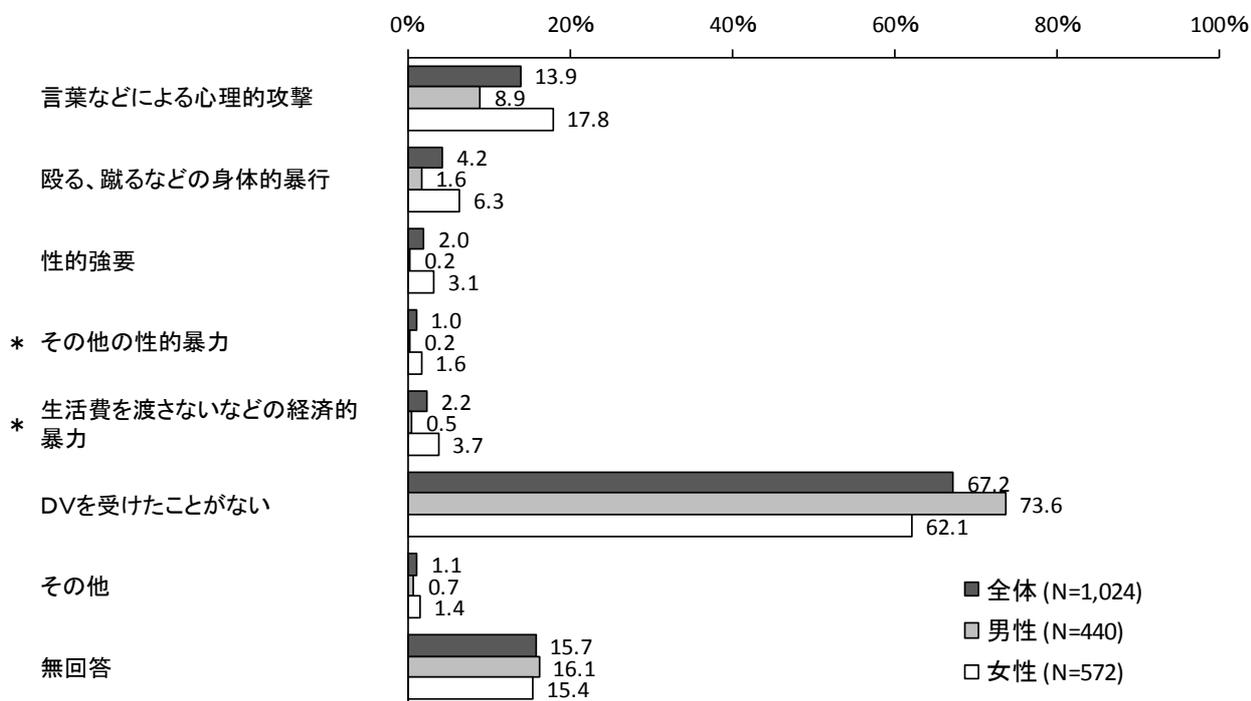
7 人権（DV、セクハラ）について

問20 あなたは、これまでに、あなたの恋人や配偶者（事実婚、別居中、離婚後を含む）から、どのようなDVを受けたことがありますか、または受けていますか（あてはまるものすべてに○）。

「DVを受けたことがない」の割合が67.2%と最も多く、次いで「言葉などによる心理的攻撃」の割合が13.9%となっています。

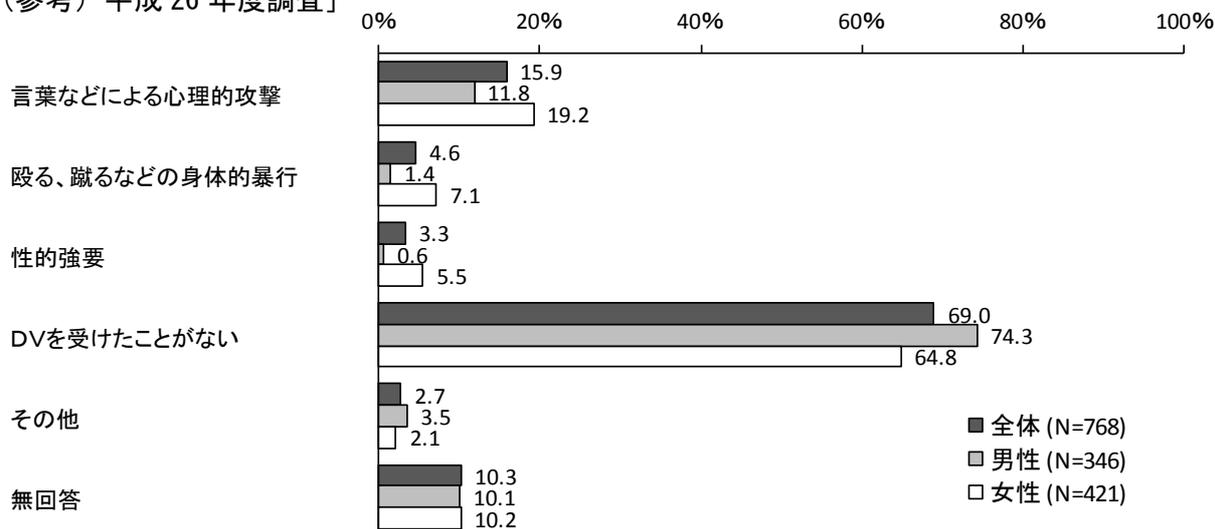
性別で見ると、男性に比べ、女性で「言葉などによる心理的攻撃」「殴る、蹴るなどの身体的暴行」が多くなっています。

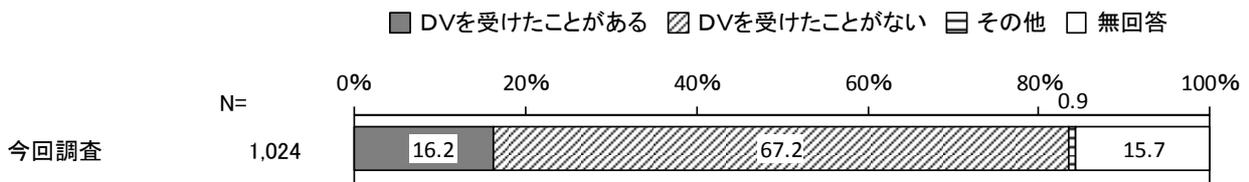
平成26年度調査と比較すると、「言葉などによる心理的攻撃」「殴る、蹴るなどの身体的暴行」「性的強要」「その他の性的暴力」「生活費を渡さないなどの経済的暴力」を合計した「DVを受けたことがある」の割合が減少しています。



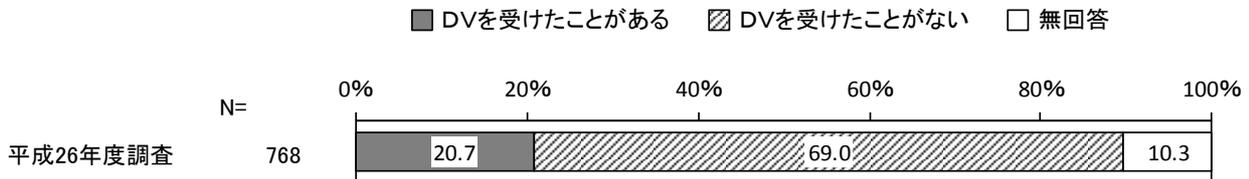
* 「その他の性的暴力」「生活費を渡さないなどの経済的暴力」は今回調査から追加

〔参考〕平成26年度調査





〔(参考) 平成 26 年度調査〕

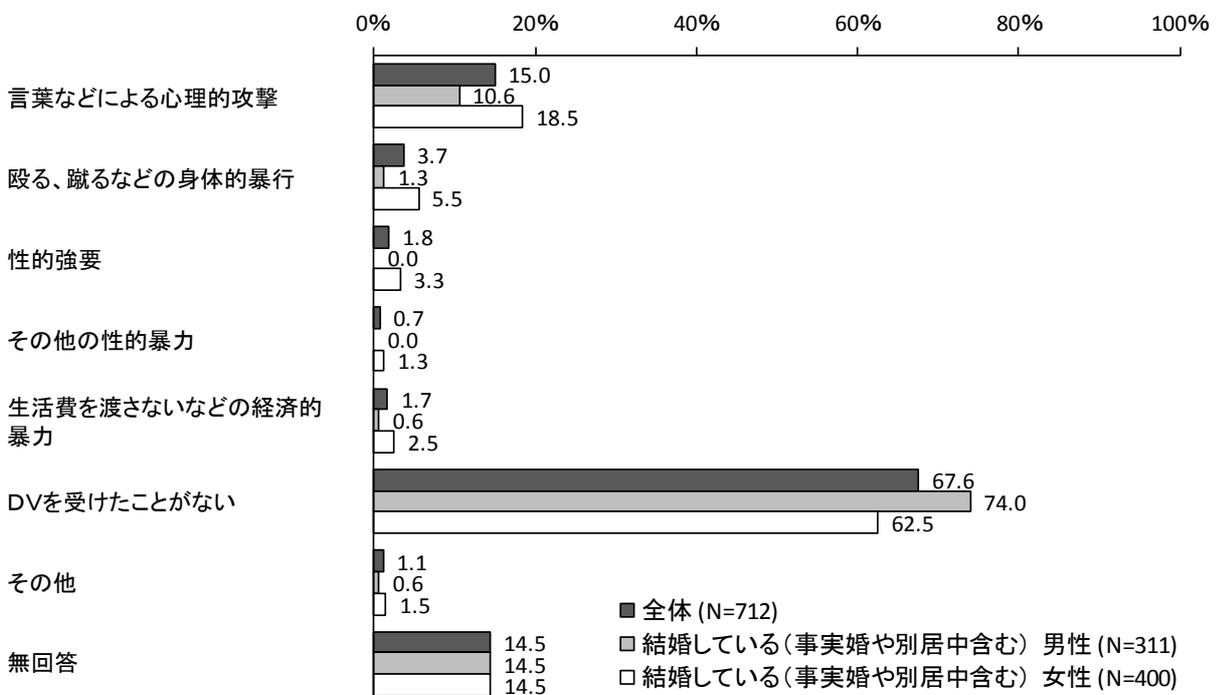


【婚姻別】

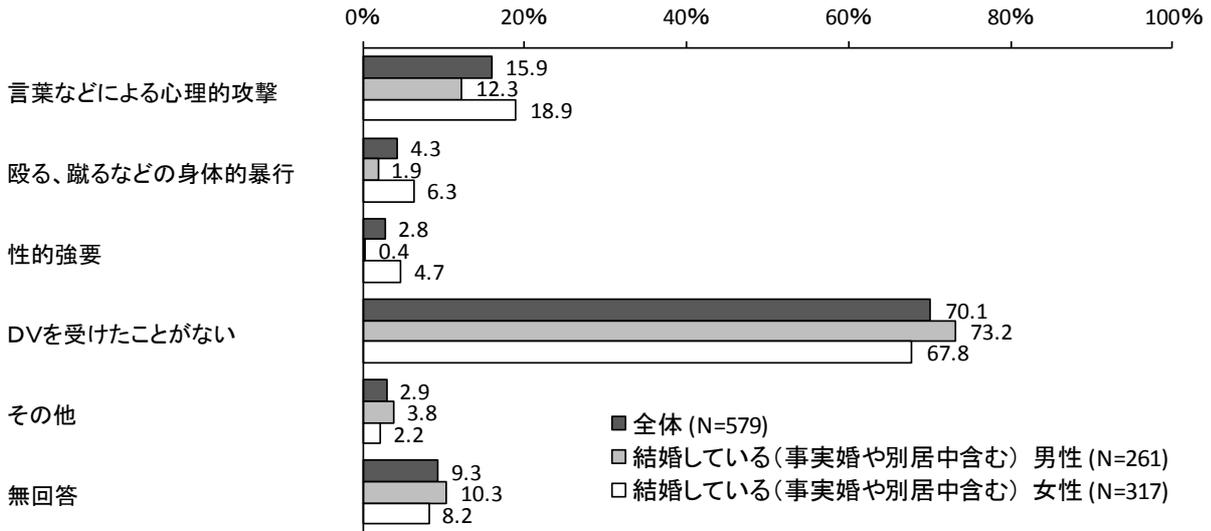
婚姻別でみると、他に比べ、結婚している（事実婚や別居中含む）で「DVを受けたことがない」が多く、「言葉などによる心理的攻撃」「殴る、蹴るなどの身体的暴行」も多くなっています。

平成 26 年度調査と比較すると、③結婚していないで、特に「DVを受けたことがない」が増加しています。

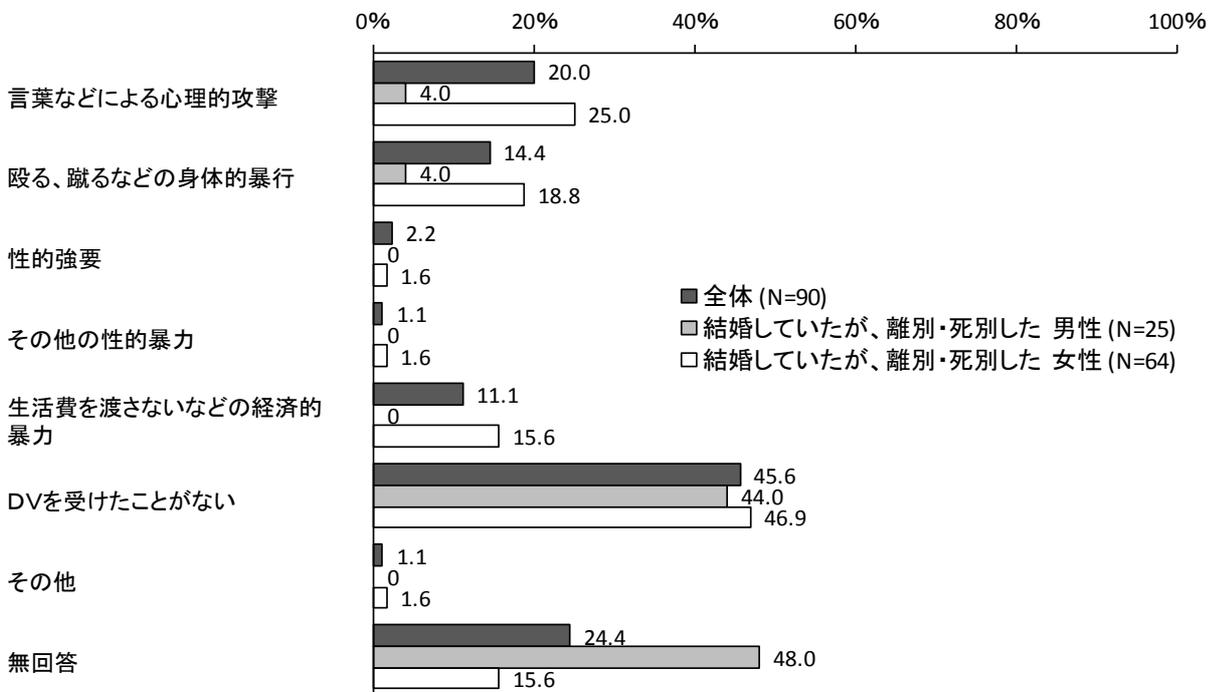
① 結婚している（事実婚や別居中含む）



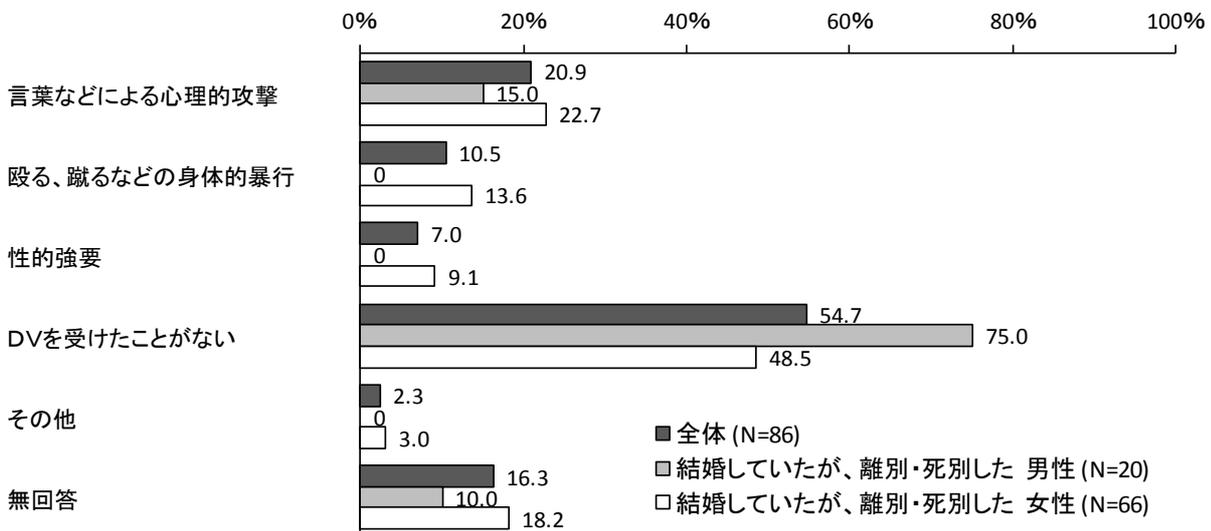
〔(参考) 平成 26 年度調査〕



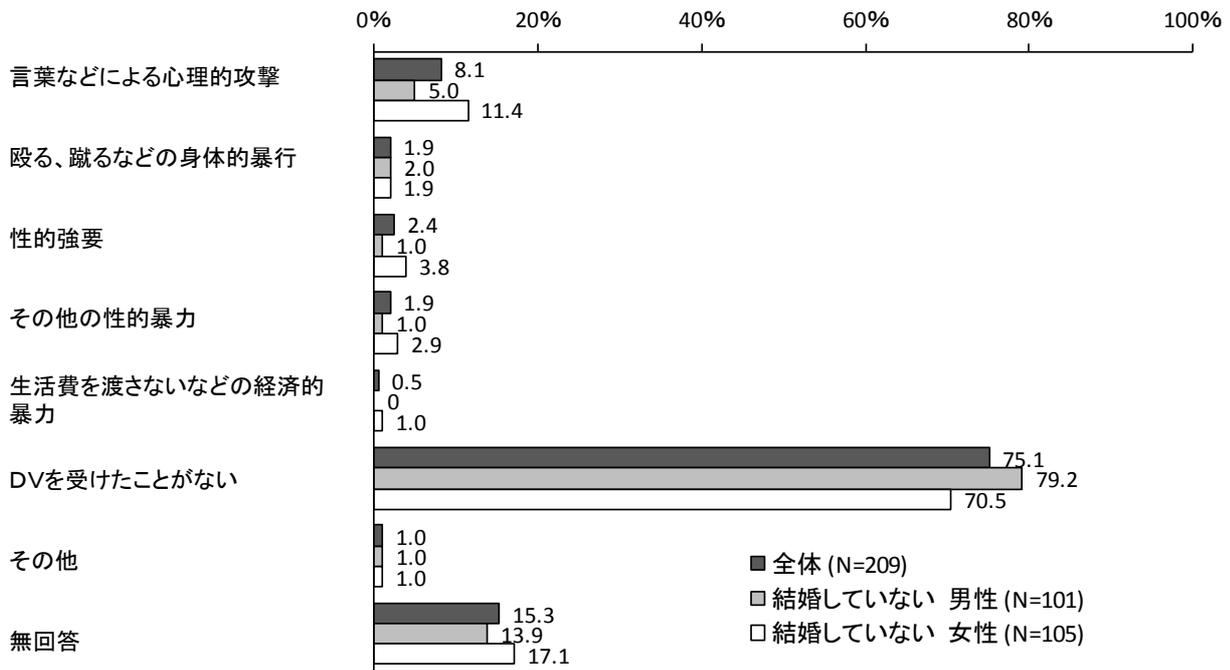
② 結婚していたが、離別・死別した



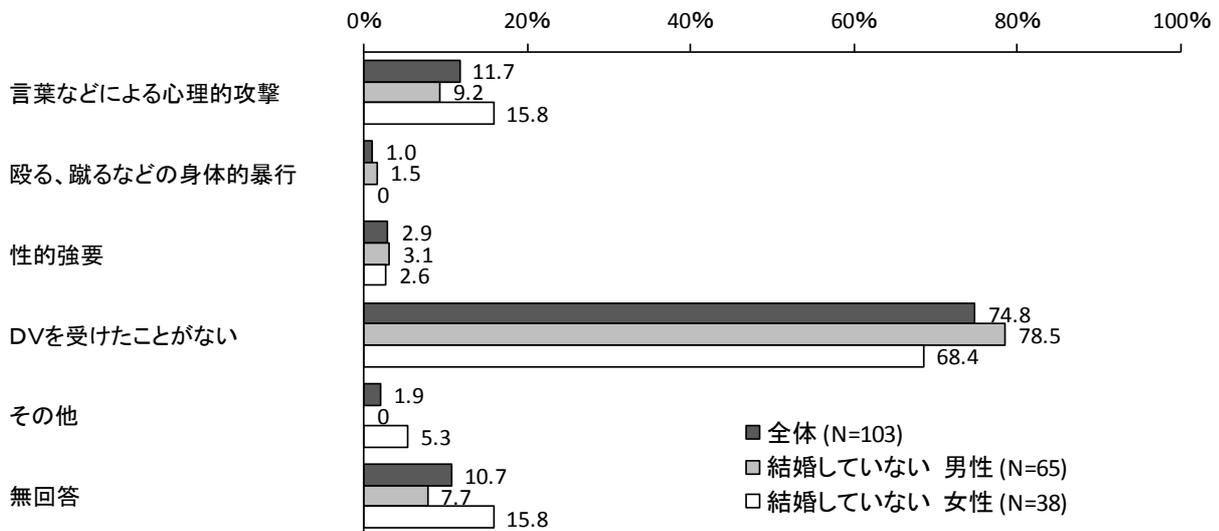
〔(参考) 平成 26 年度調査〕



③ 結婚していない



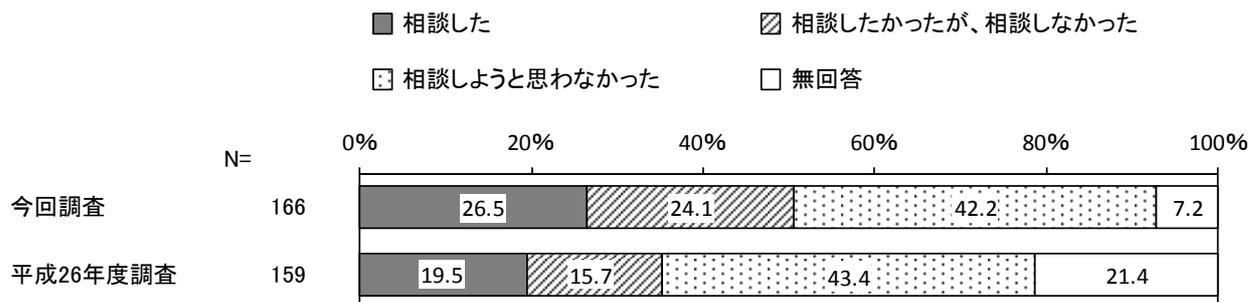
〔(参考) 平成 26 年度調査〕



問 20 でDVを受けたことがある（「1. 言葉などによる心理的攻撃」「2. 殴る、蹴るなどの身体的暴行」「3. 性的強要」「4. その他の性的暴力」「5. 生活費を渡さないなどの経済的暴力」と答えた方におたずねします。

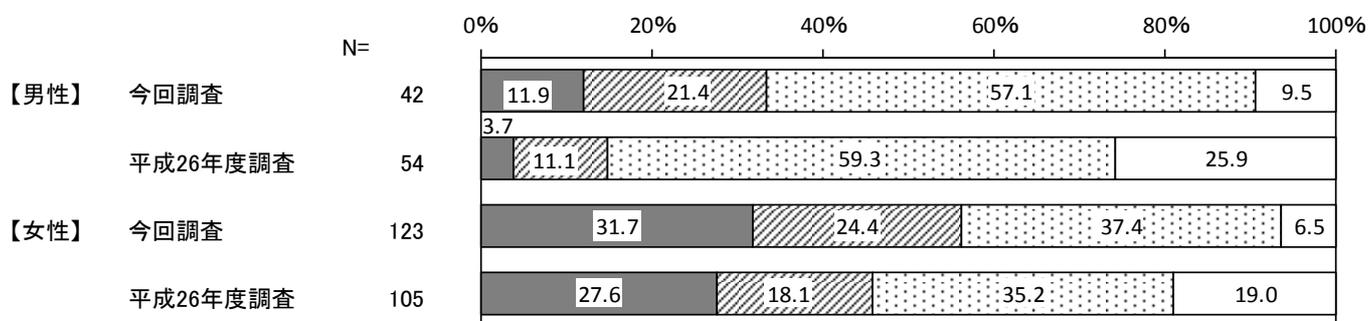
問 21 あなたは、DVを受けたときに、相談しましたか（1つに○）。

「相談しようと思わなかった」の割合が 42.2%と最も高く、次いで「相談した」の割合が 26.5%、「相談したかったが、相談しなかった」の割合が 24.1%となっています。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「相談した」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「相談しようと思わなかった」の割合が高くなっています。

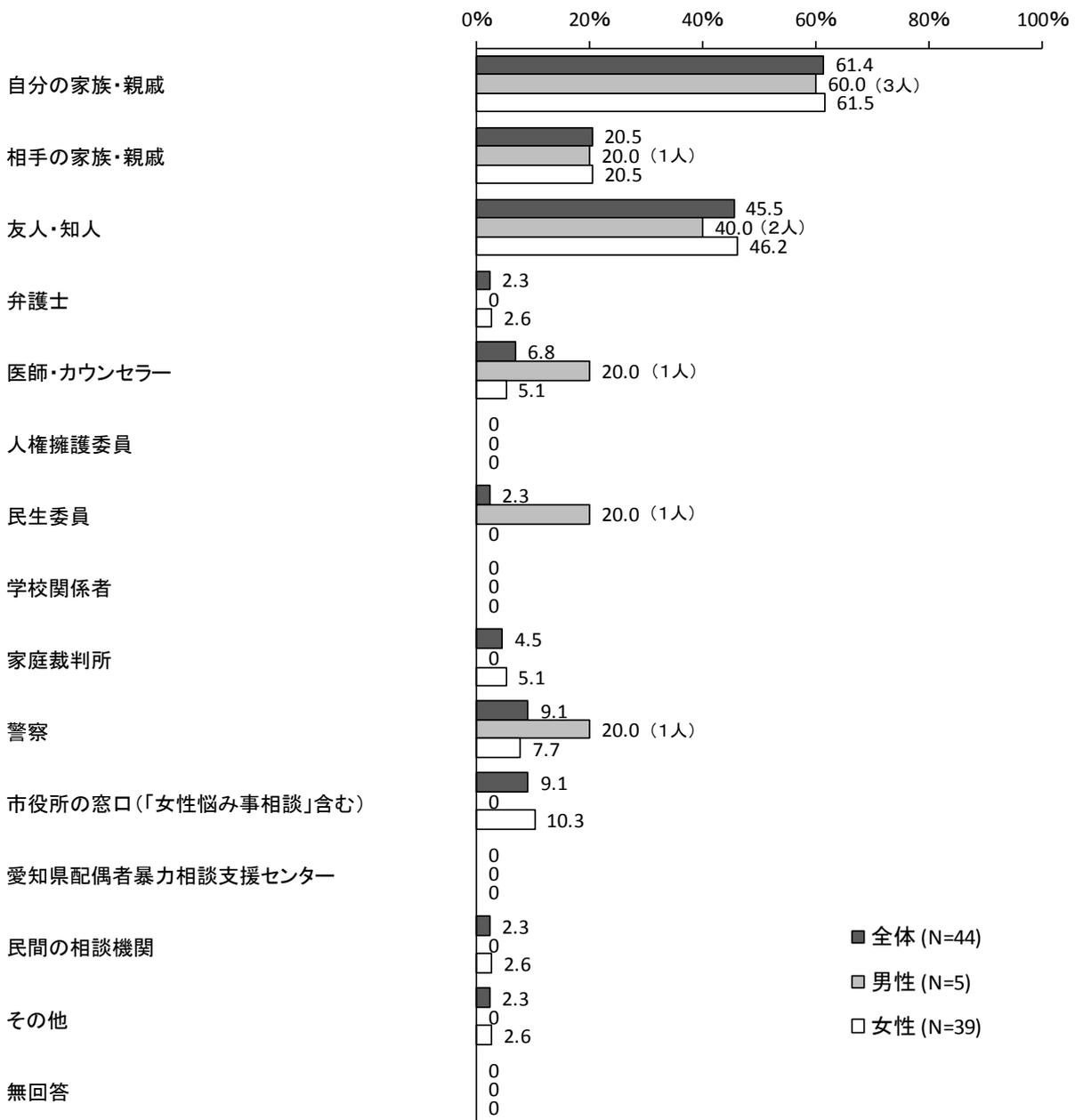


問 21 で「1. 相談した」と答えた方におたずねします。

問 22 DVを受けたときに、あなたが安心して相談できたのは次のどれですか
(あてはまるものすべてに○)。

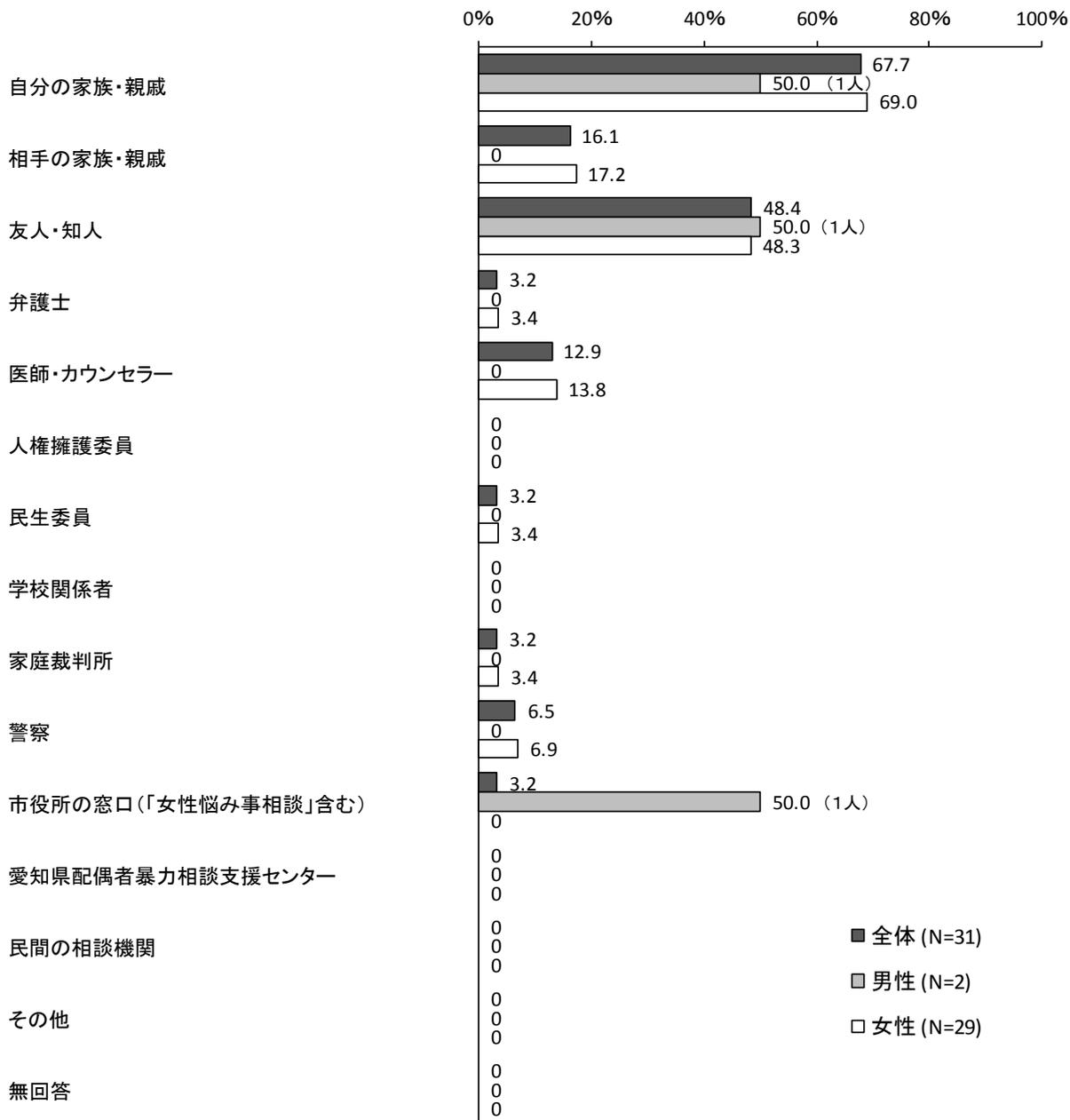
「自分の家族・親戚」の割合が 61.4%と最も多く、次いで「友人・知人」の割合が 45.5%、「相手の家族・親戚」の割合が 20.5%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、前回同様に「自分の家族・親戚」が最も多く、次いで「友人・知人」が多くなっています。



*男性の比率は数が少ないため、人数を併記。

[平成 26 年度調査]



* 男性の比率は数が少ないため、人数を併記。

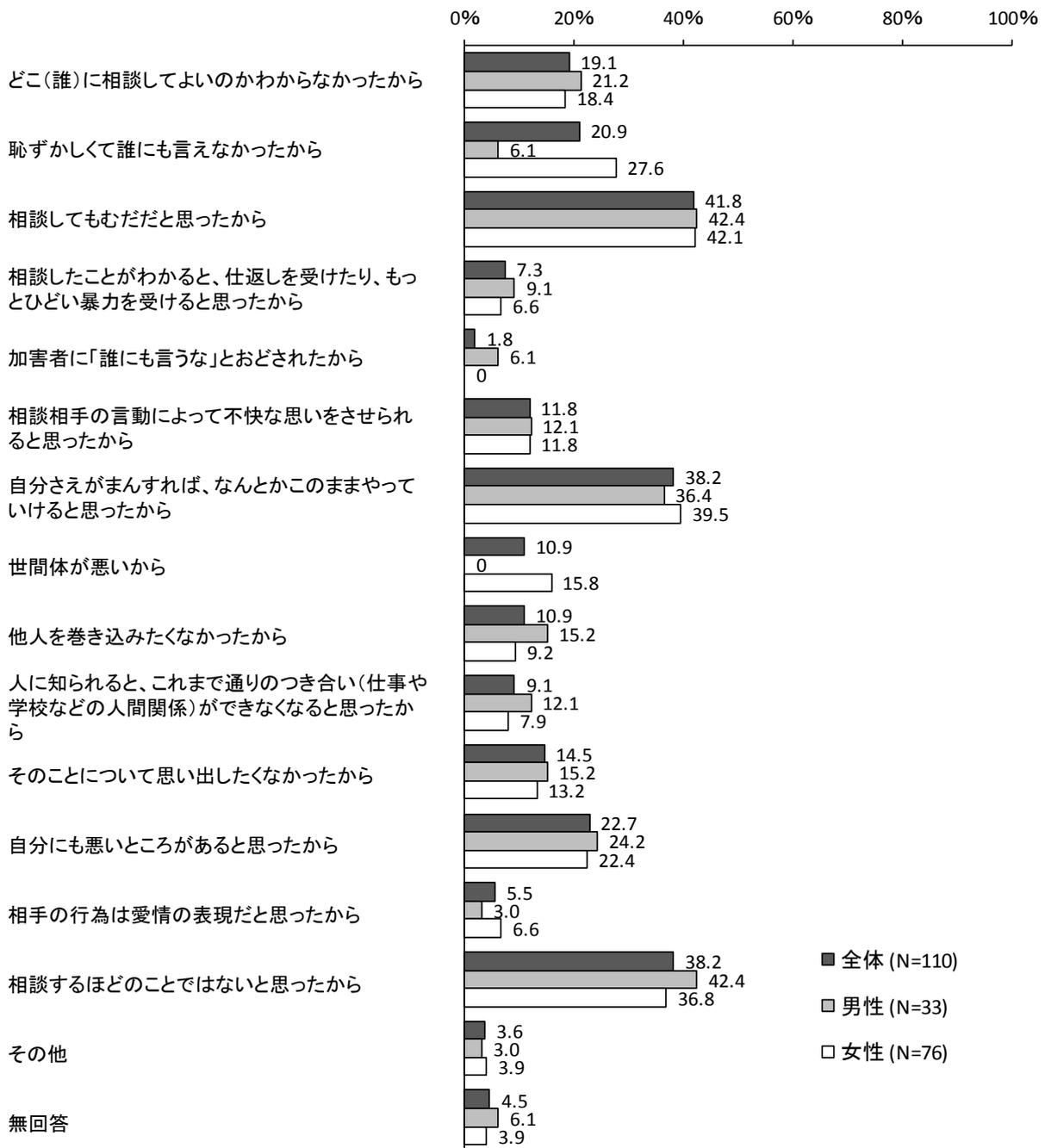
問 21 で「2. 相談したかったが、相談しなかった」または「3. 相談しようと思わなかった」と答えた方におたずねします。

問 23 相談しなかった理由は、何ですか（あてはまるものすべてに○）。

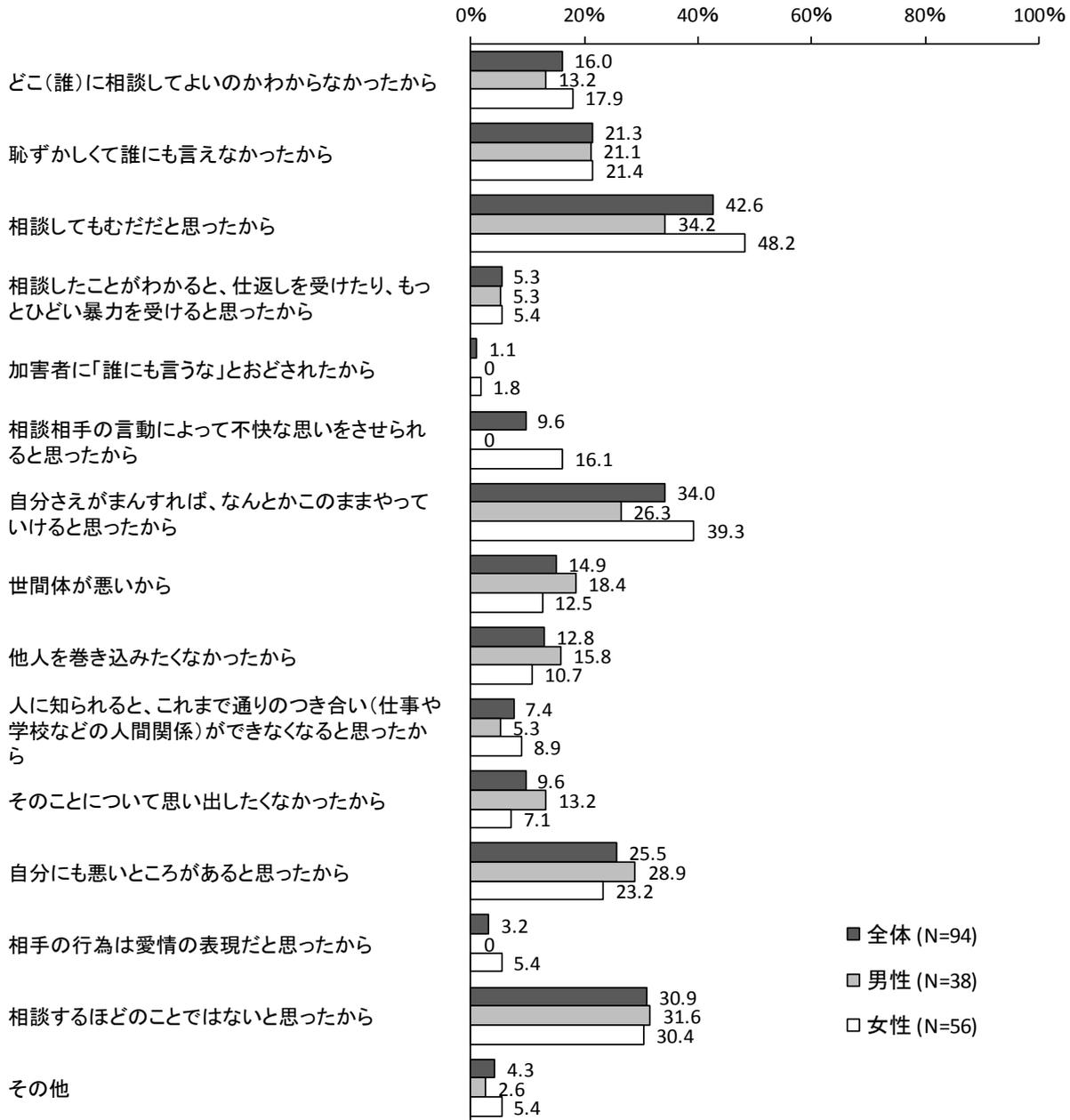
「相談してもむだだと思ったから」の割合 41.8%と最も多く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 38.2%となっています。

性別で見ると、男性で「相談してもむだだと思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多くなっています。次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が多くなっています。女性では「相談してもむだだと思ったから」が最も多く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が多くなっています。

平成 26 年度調査と比較すると、前回同様に、男性では「相談してもむだだと思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」、女性では、「相談してもむだだと思ったから」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が多くなっています。

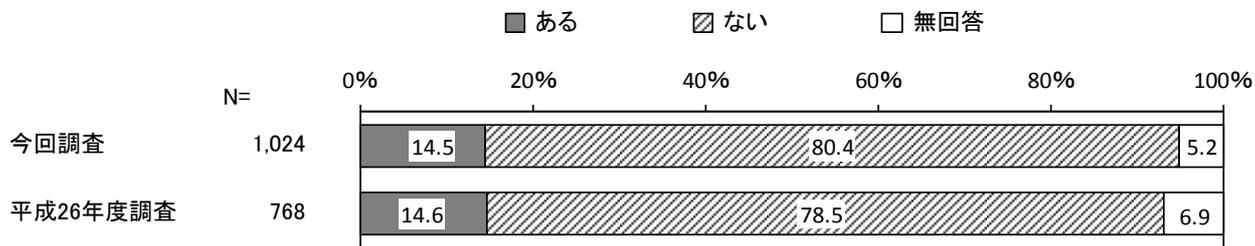


[平成 26 年度調査]



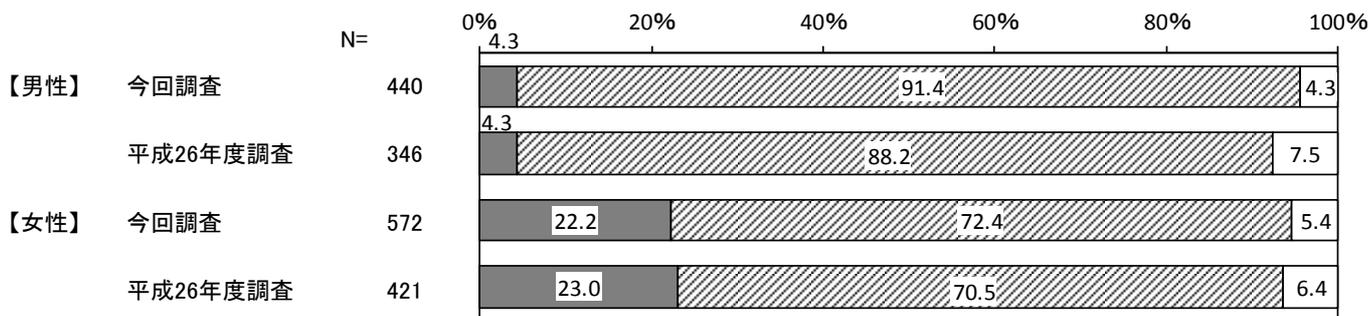
問 24 あなたは、これまでに、セクハラを受けたことがありますか（1つに○）。

「ある」の割合が14.5%、「ない」の割合が80.4%となっています。
 平成26年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が高くなっています。
 平成26年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



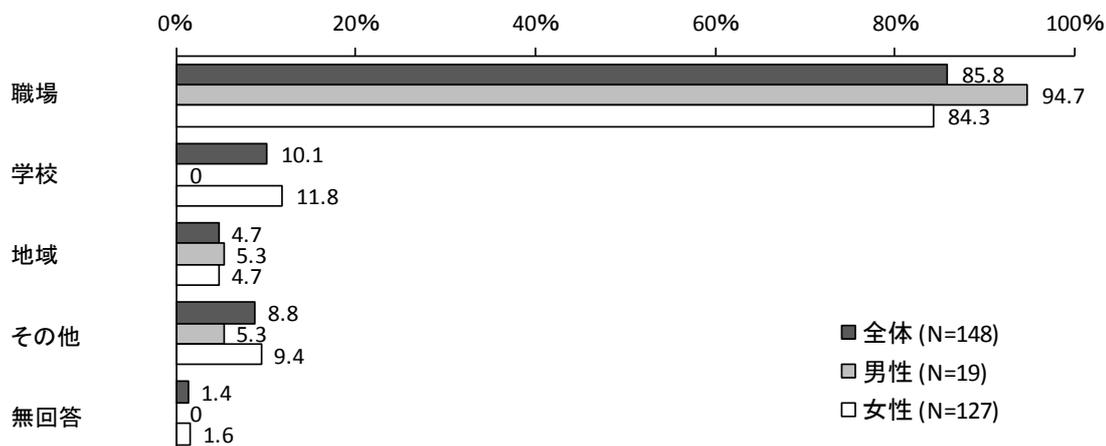
問 24 で「1. ある」と答えた方におたずねします。

問 25 セクハラが行われた場所はどこですか（あてはまるものすべてに○）。

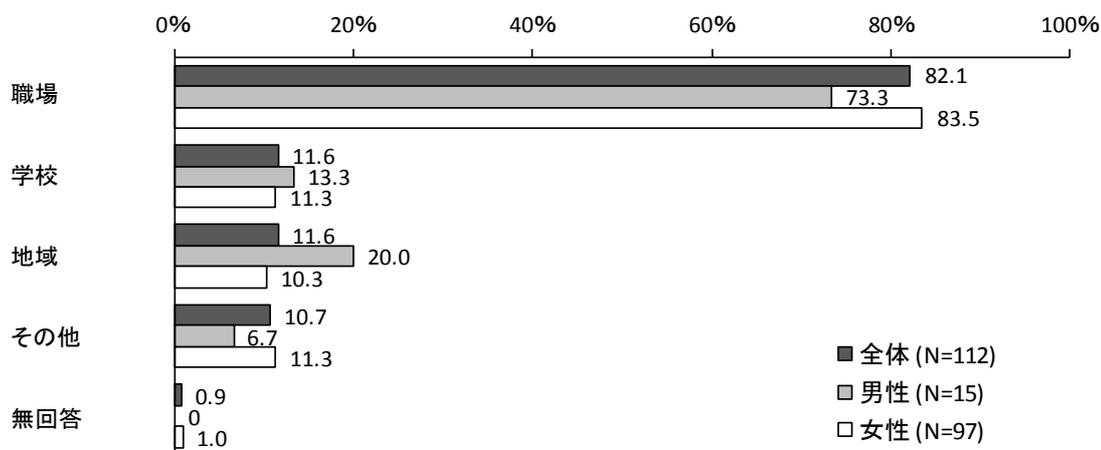
「職場」の割合が 85.8%と最も多く、次いで「学校」の割合が 10.1%となっています。

性別でみると、男女ともに「職場」が最も多くなっています。

平成 26 年度調査と比較すると、男女ともに前回同様に「職場」が最も多くなっています。

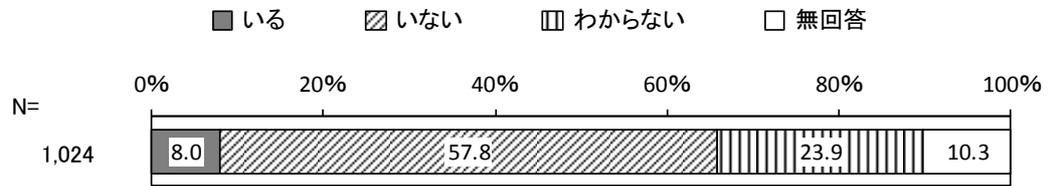


[平成 26 年度調査]



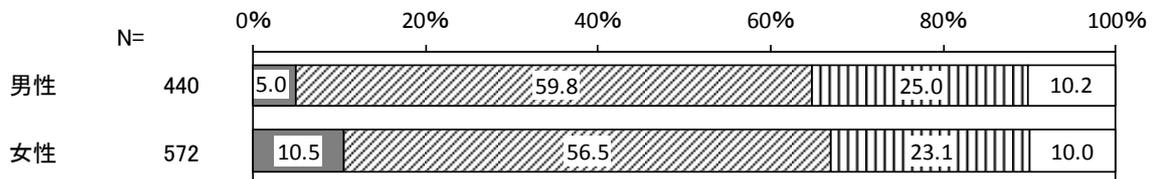
問 26 あなた自身あるいはあなたの身近（家族、親戚、友人、知人、職場関係）に、LGBTの方は、いますか（1つに○）。

「いる」の割合が8.0%、「いない」の割合が57.8%となっています。



【性別】

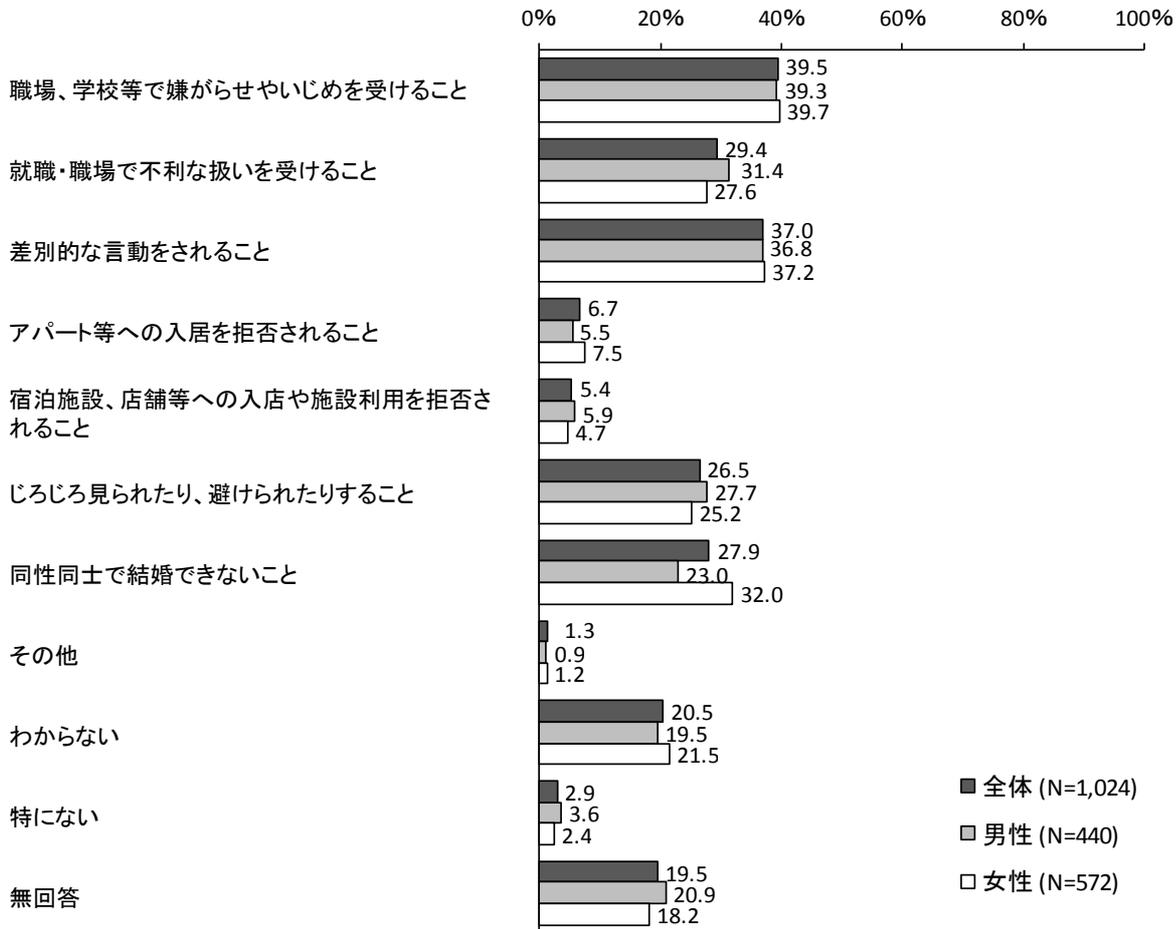
性別でみると、男性に比べ、女性で「いる」の割合が高くなっています。



問 27 LGBTに関して、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか（あてはまるものすべてに○）。

「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」の割合が39.5%、「差別的な言動をされること」の割合が37.0%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「同性同士で結婚できないこと」の割合が高くなっています。

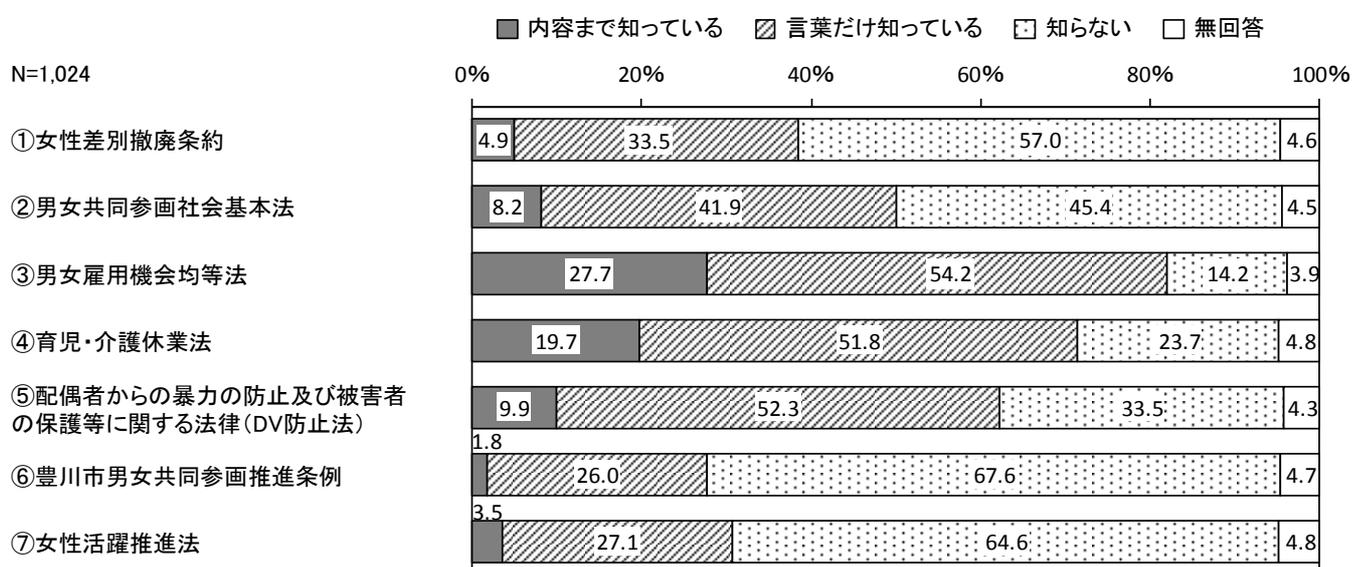


8 男女共同参画について

問 28 あなたは、①～⑦の法律・条例等を知っていますか（それぞれ1つに○）。

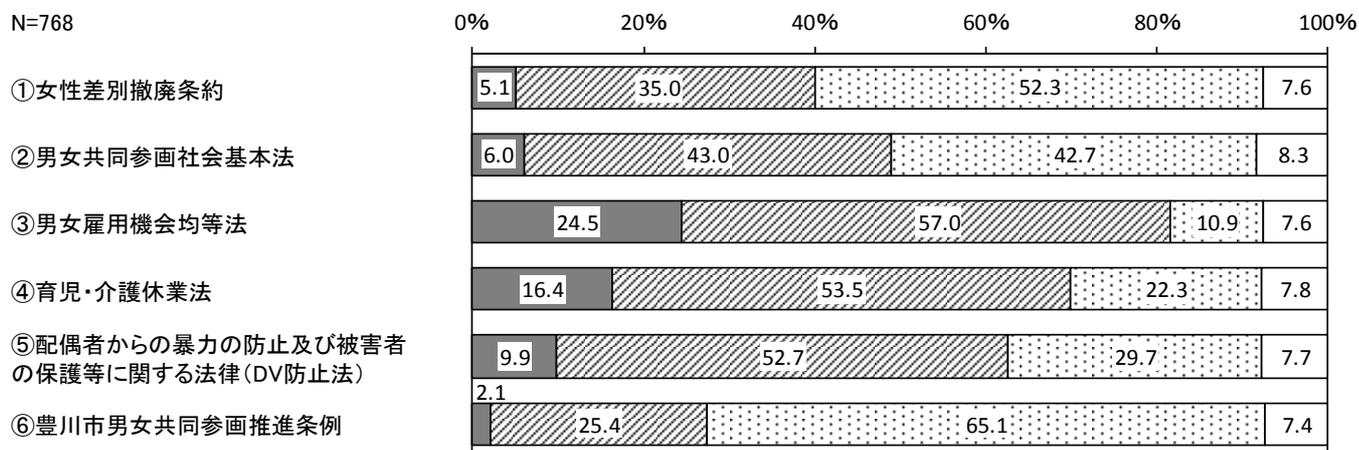
「内容まで知っている」の割合は、「③男女雇用機会均等法」で 27.7%と最も高く、次いで「④育児・介護休業法」の割合が 19.7%となっています。一方、「知らない」の割合は、「⑥豊川市男女共同参画推進条例」で 67.6%と最も高く、次いで「⑦女性活躍推進法」の割合が 64.6%となっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「①女性差別撤廃条約」、「③男女雇用機会均等法」、で「知らない」の割合が増加しています。



*⑦女性活躍推進法は今回調査から追加

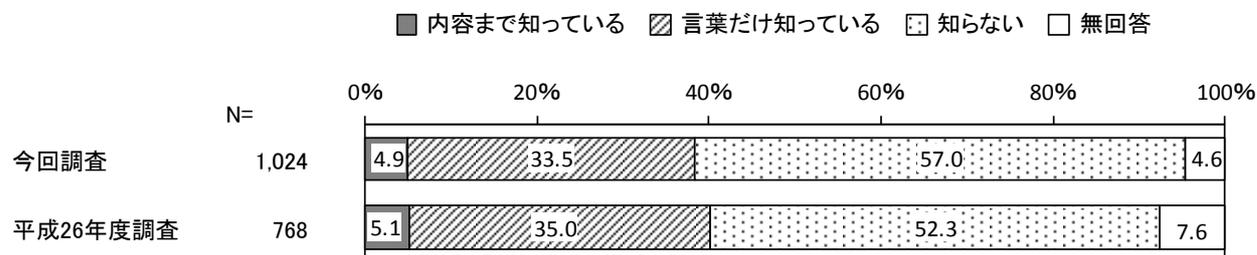
[平成 26 年度調査]



①女性差別撤廃条約

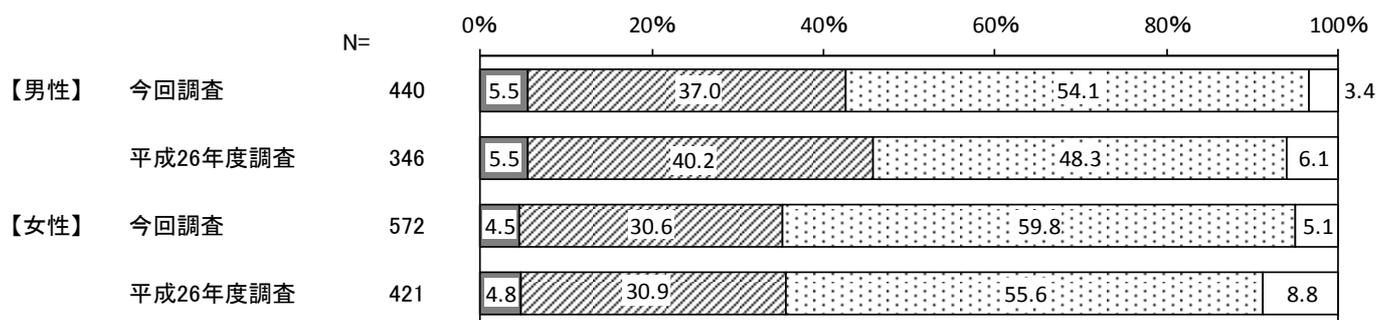
「知らない」の割合が57.0%、「内容まで知っている」と「言葉だけ知っている」をあわせた“知っている”の割合が38.4%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「知らない」の割合が4.7ポイント増加しています。



【性別】

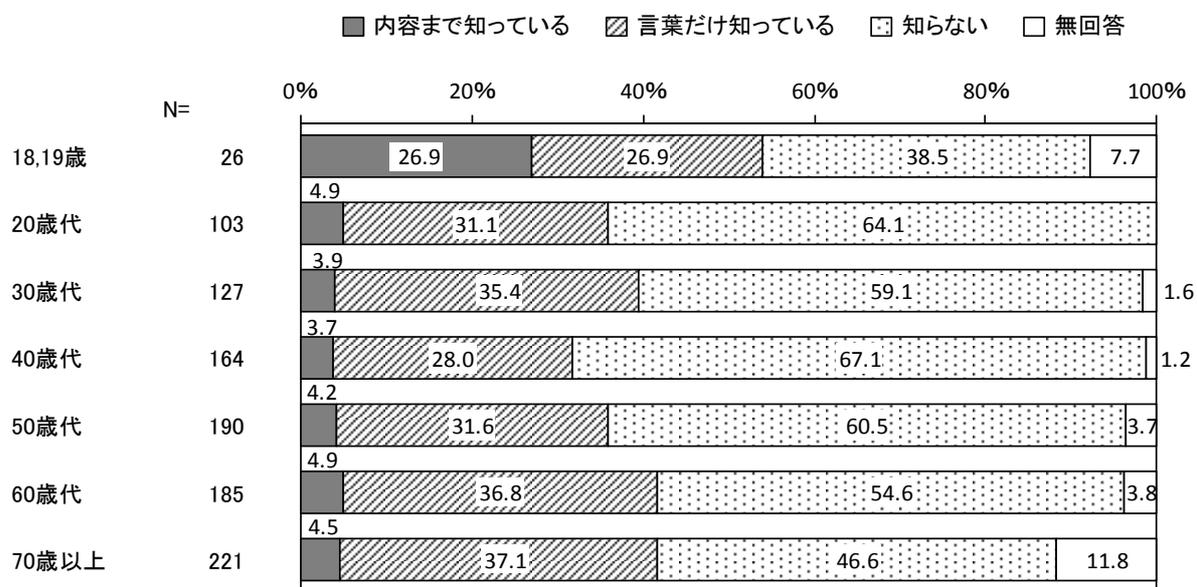
性別でみると、男性に比べ、女性で「言葉だけ知っている」が低くなっています。



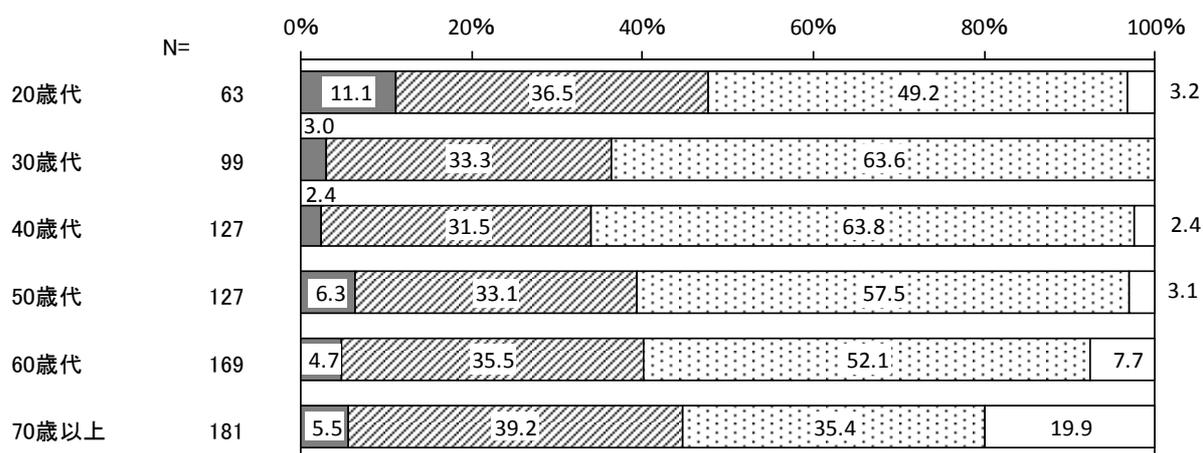
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、40歳代で「知らない」の割合が高く、6割を超えています。

平成26年度調査と比較すると、「知らない」の割合が、70歳以上で11.2ポイント増加しています。

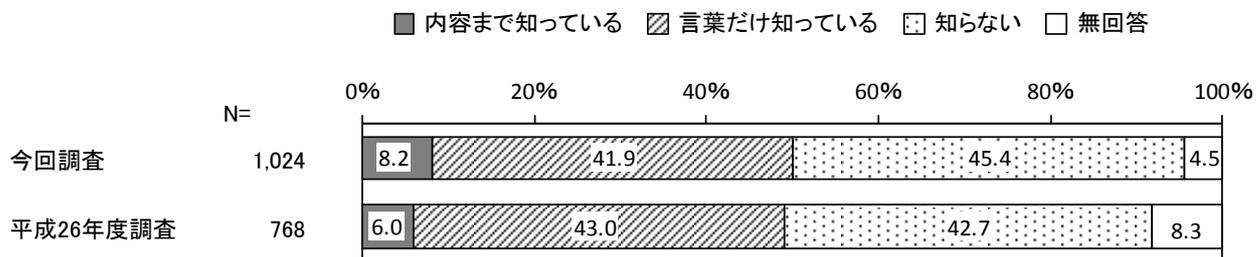


[平成26年度調査]



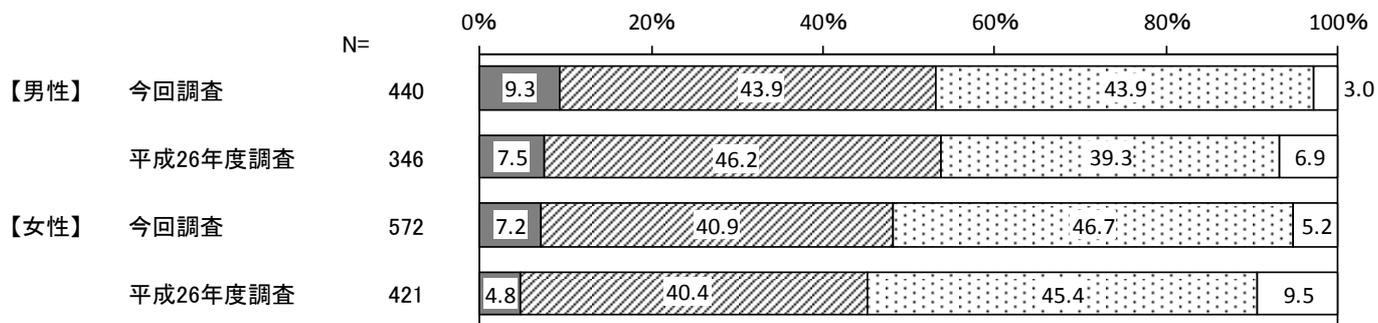
②男女共同参画社会基本法

“知っている”の割合が50.1%、「知らない」の割合が45.4%となっています。



【性別】

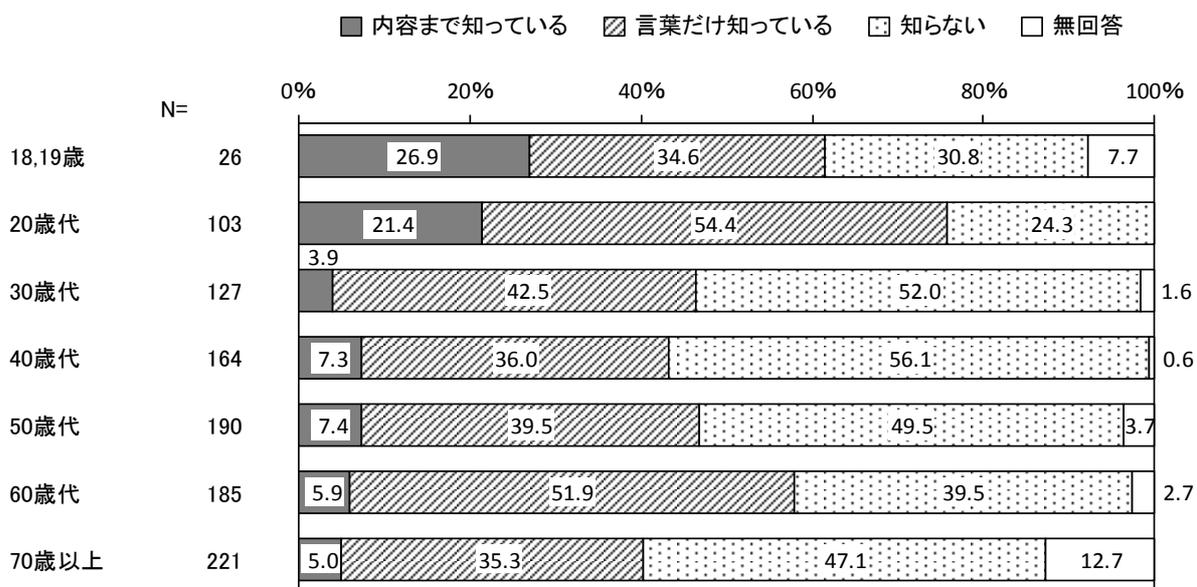
性別で見ると、同様の傾向を示しています。



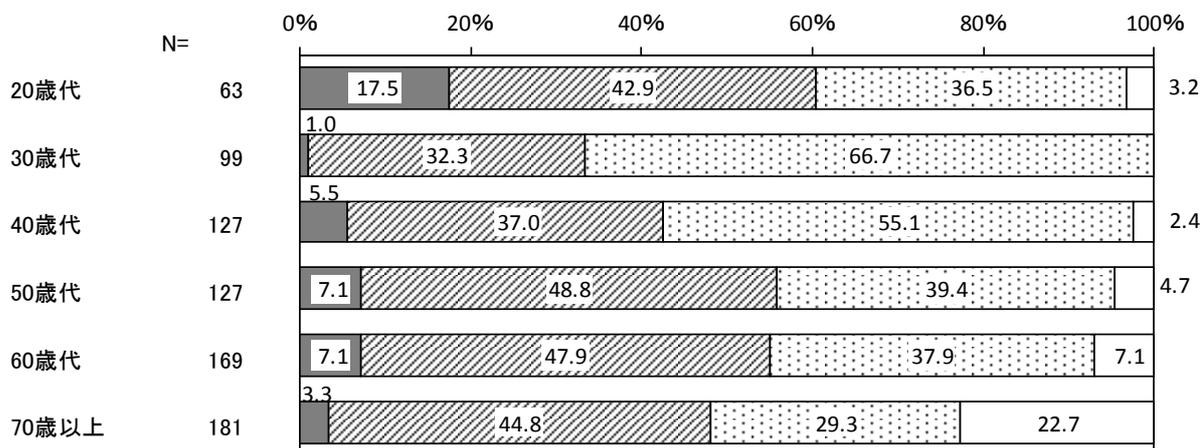
【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、18, 19歳、20歳代で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。また、20歳代で「言葉だけ知っている」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。

平成26年度調査と比較すると、「知らない」の割合が、30歳代で14.7ポイント減少しているのに対し、70歳以上では17.8ポイント増加しています。

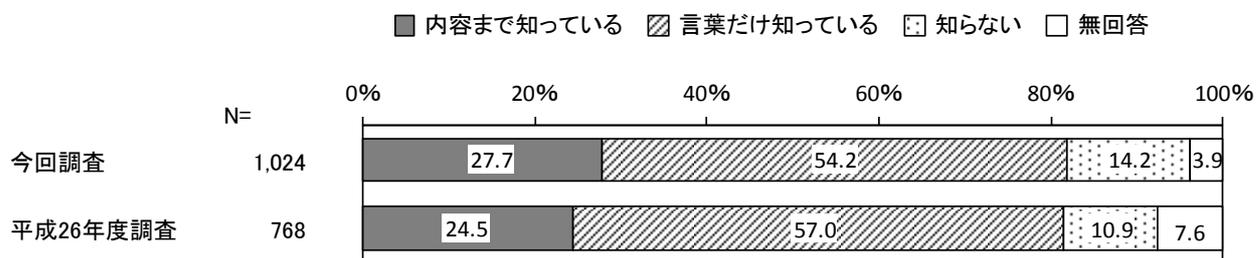


[平成26年度調査]



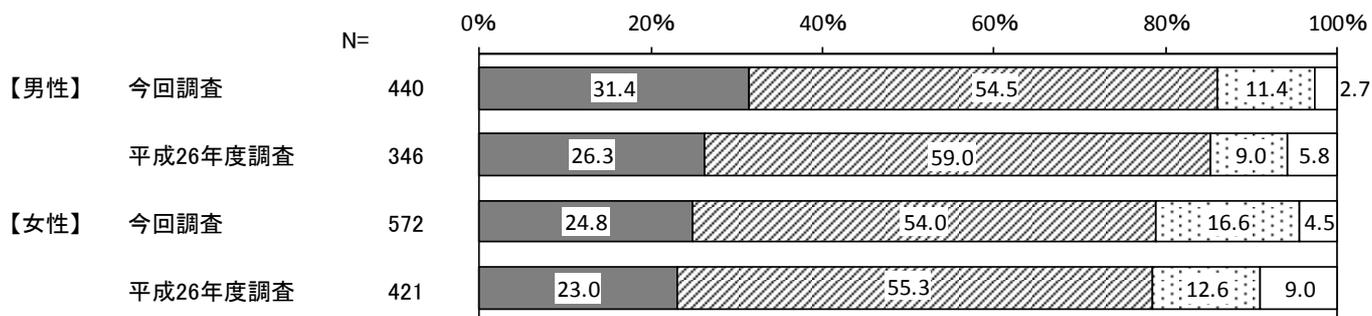
③男女雇用機会均等法

“知っている”の割合が81.9%、「知らない」の割合が14.2%となっています。
 平成26年度調査と比較すると、「知らない」の割合が3.3ポイント増加しています。



【性別】

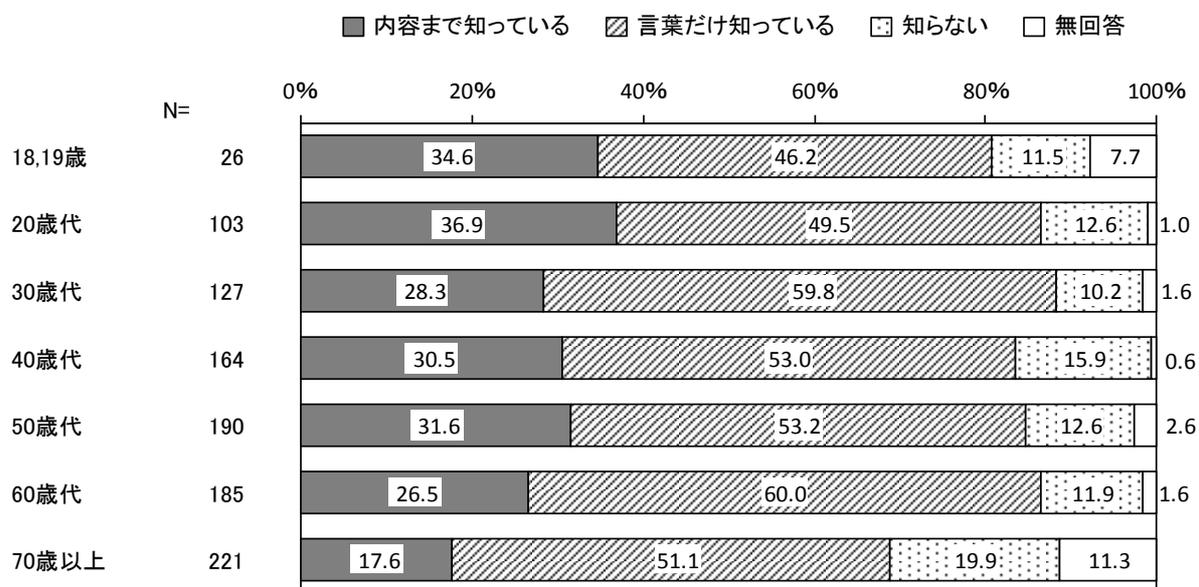
性別でみると、女性に比べ、男性で“知っている”の割合が高くなっています。



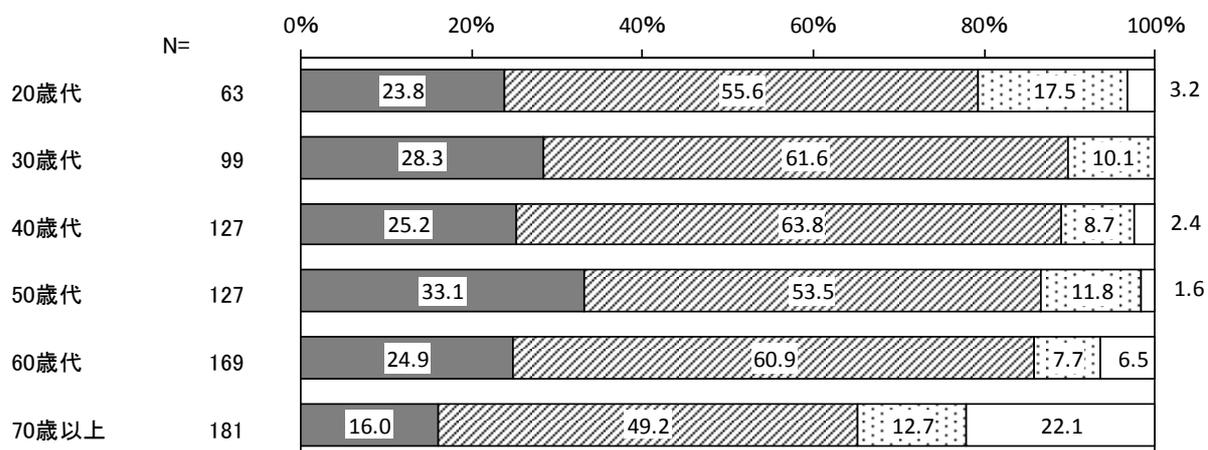
【年代別】

年代別でみると、“知っている”の割合が、各年代で8割を超えているのに対し、70歳以上では、約7割となっています。

平成26年度調査と比較すると、「言葉だけ知っている」の割合が40歳代で10.8ポイント減少しています。

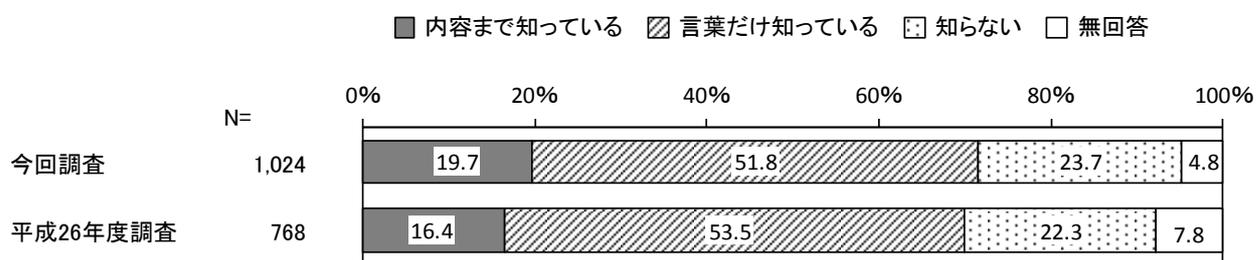


[平成26年度調査]



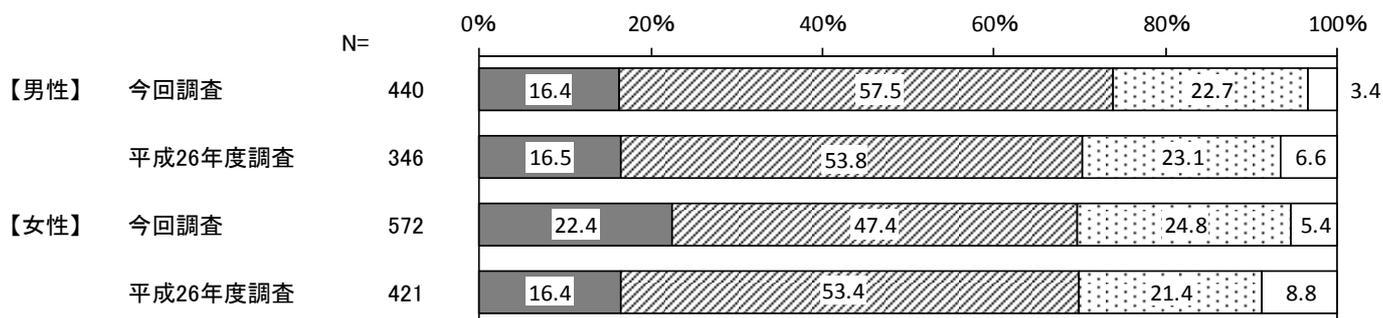
④育児・介護休業法

“知っている”の割合が71.5%、「知らない」の割合が23.7%となっています。
平成26年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



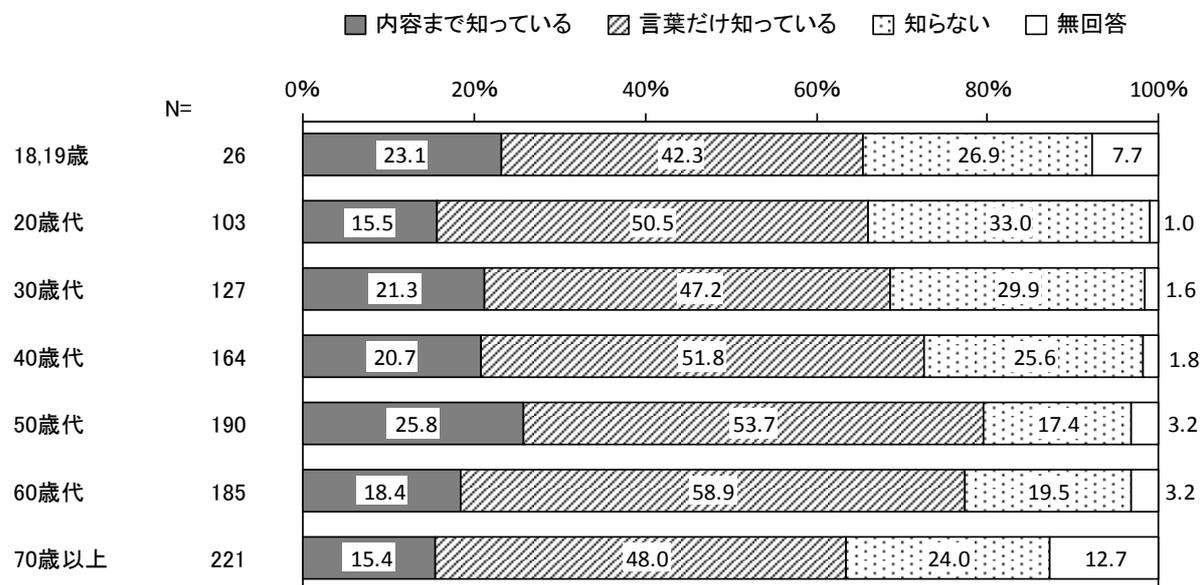
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。
平成26年度調査と比較すると、“知っている”の割合が、女性で6.0ポイント増加しています。

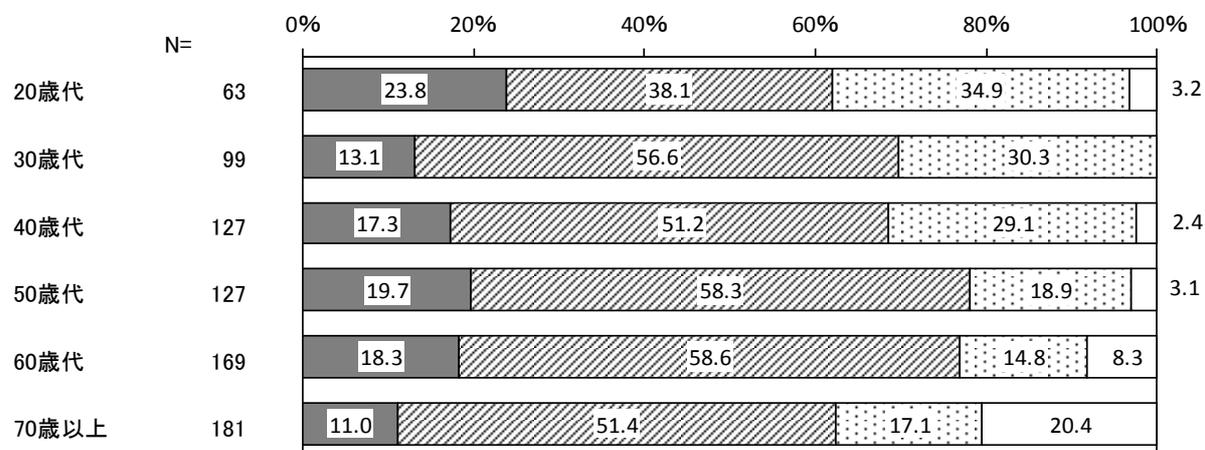


【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、50歳代、60歳代で“知っている”の割合が高く、約8割となっています。

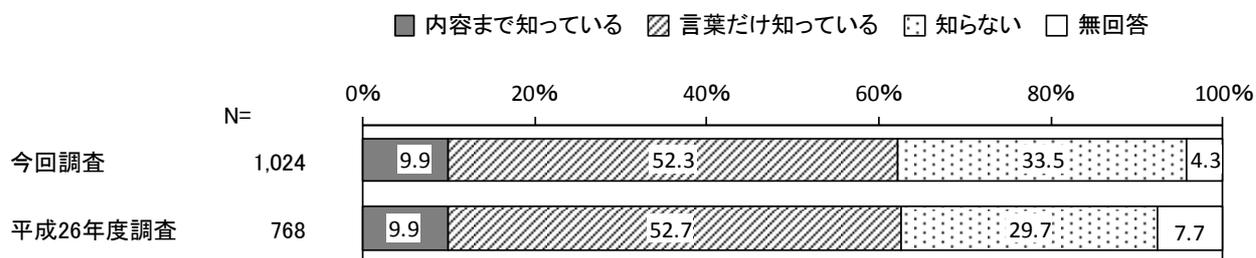


[平成 26 年度調査]



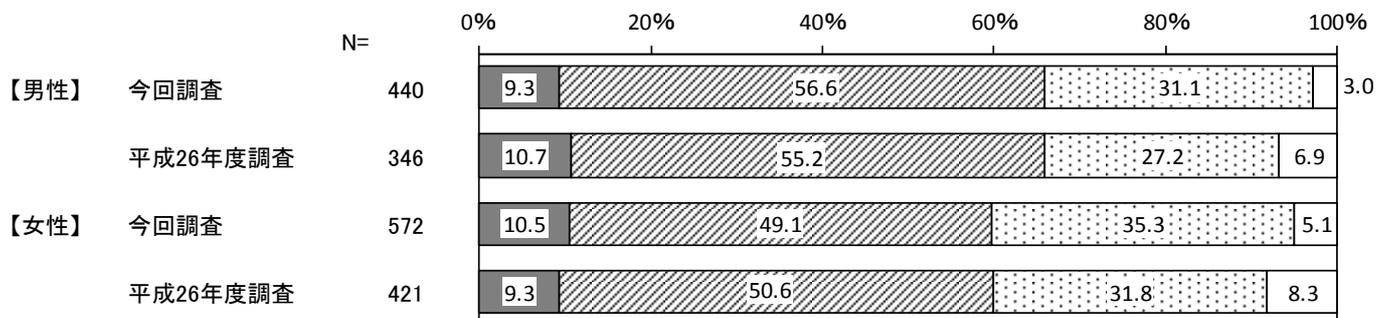
⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）

“知っている”の割合が62.2%、「知らない」の割合が33.5%となっています。
 平成26年度調査と比較すると、「知らない」の割合が3.8ポイント増加しています。



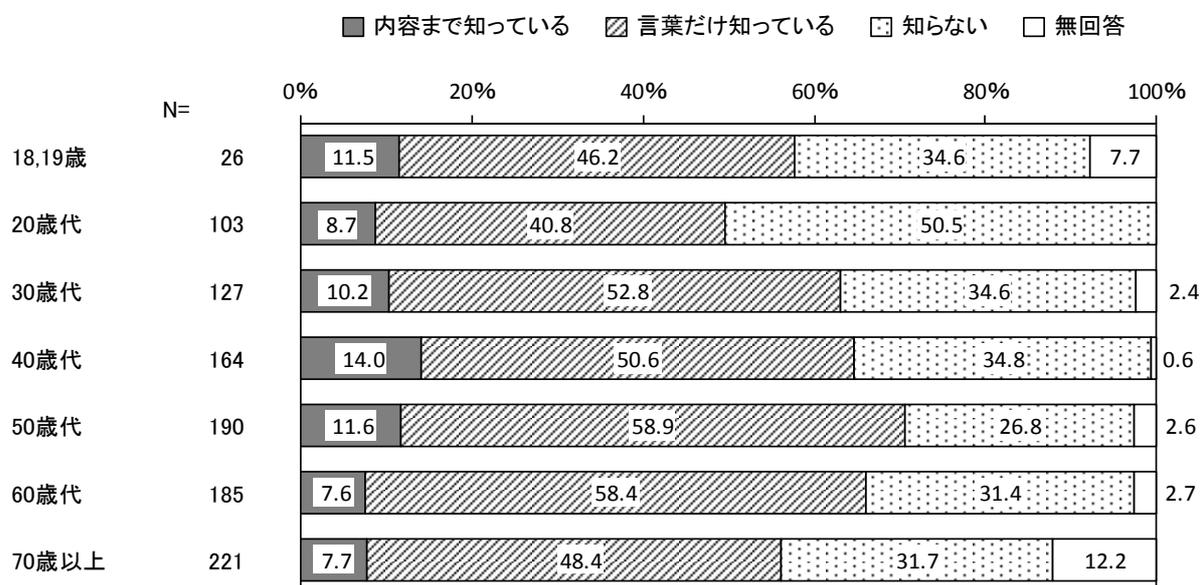
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で“知っている”の割合が高くなっています。

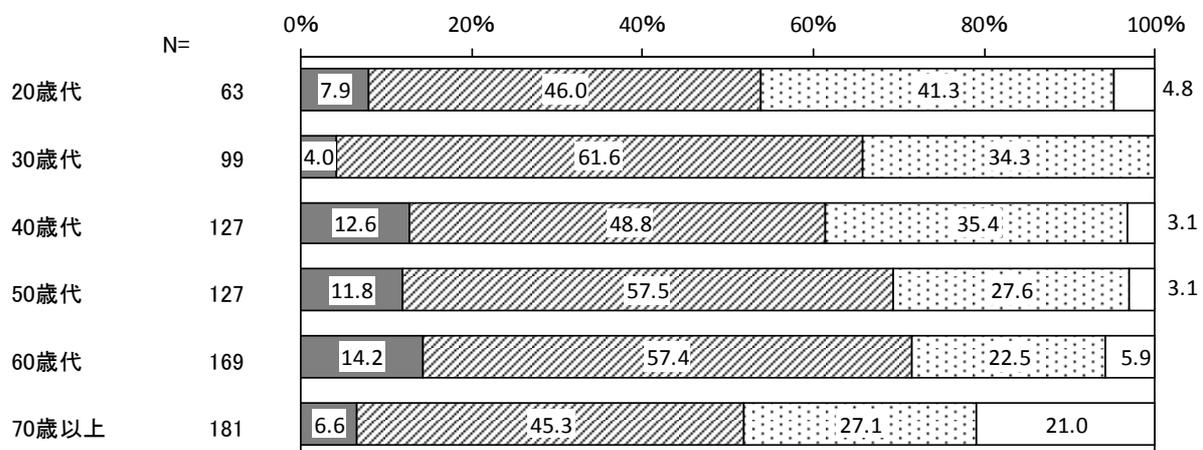


【年代別】

年代別でみると、他の年代に比べ、20歳代で「知らない」の割合が高く、5割を超えています。

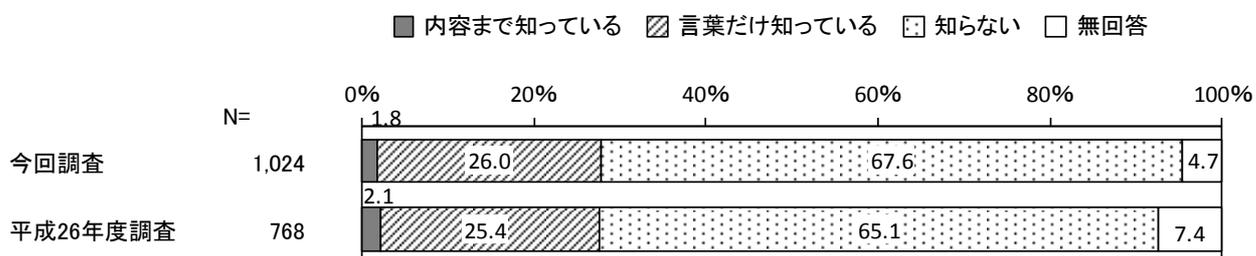


[平成 26 年度調査]



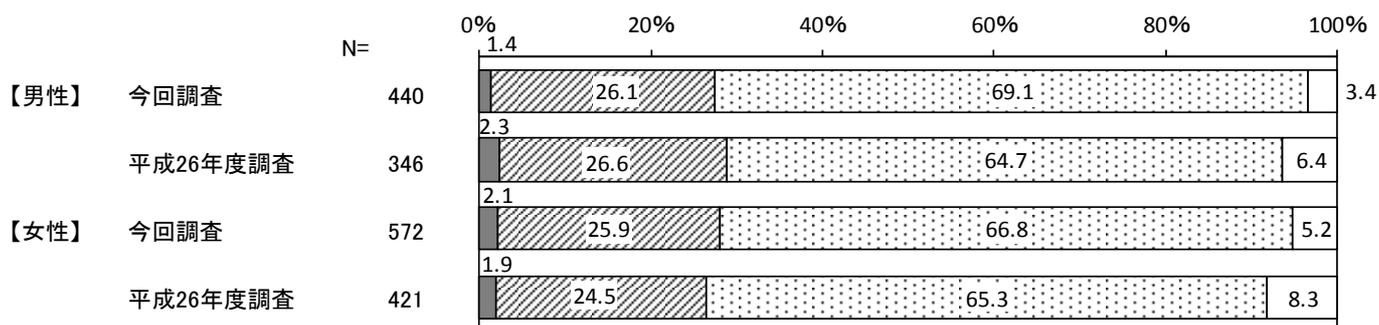
⑥豊川市男女共同参画推進条例

「知らない」の割合が67.6%、「知っている」の割合が27.8%となっています。



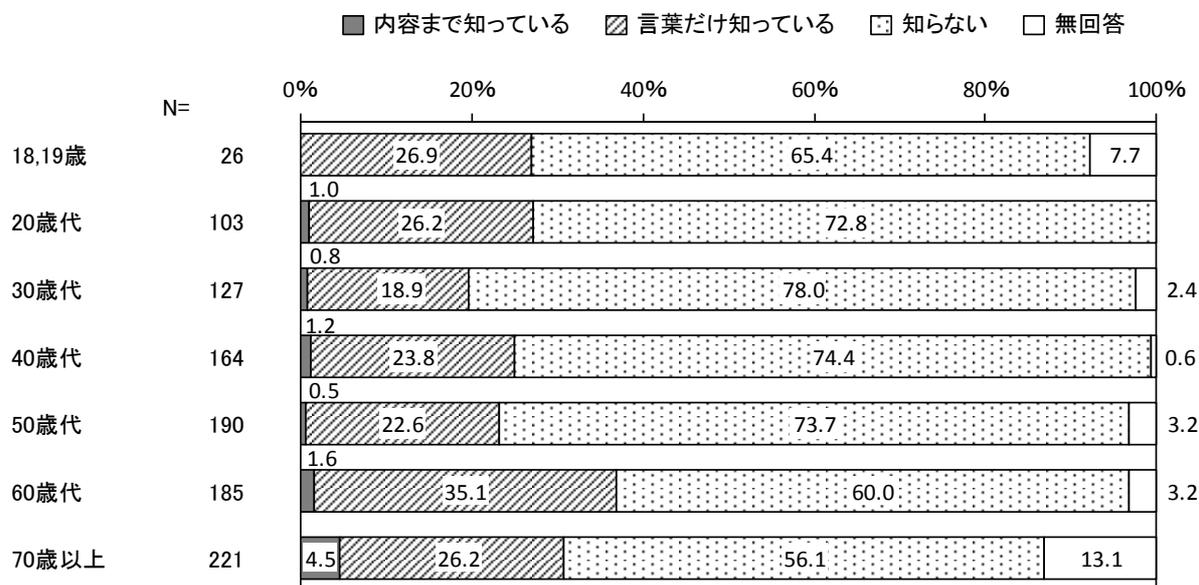
【性別】

性別で見ると、同様の傾向となっています。

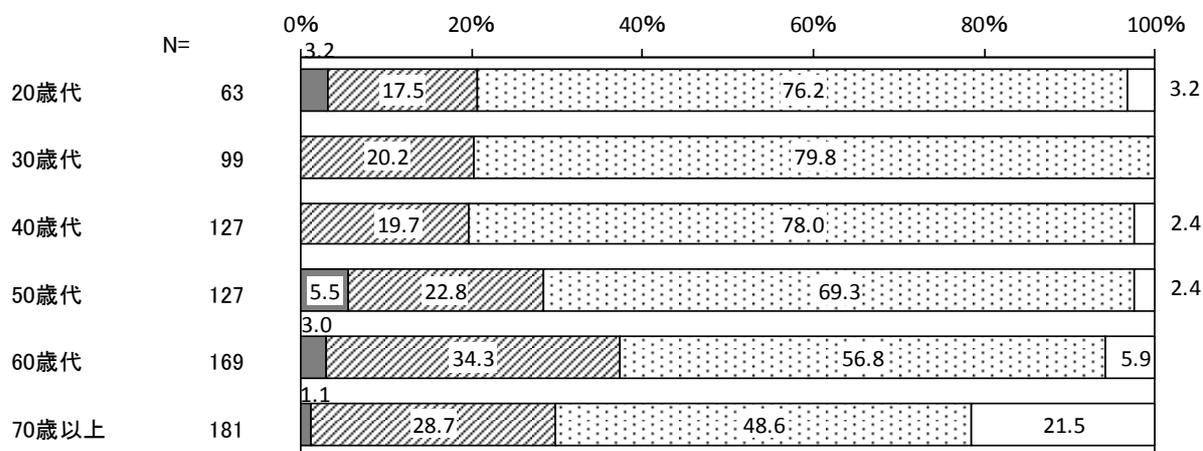


【年代別】

年代別でみると、“知っている”の割合が、60歳代で高くなっています。

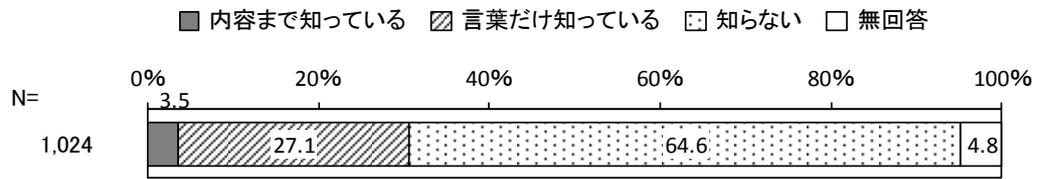


[平成 26 年度調査]



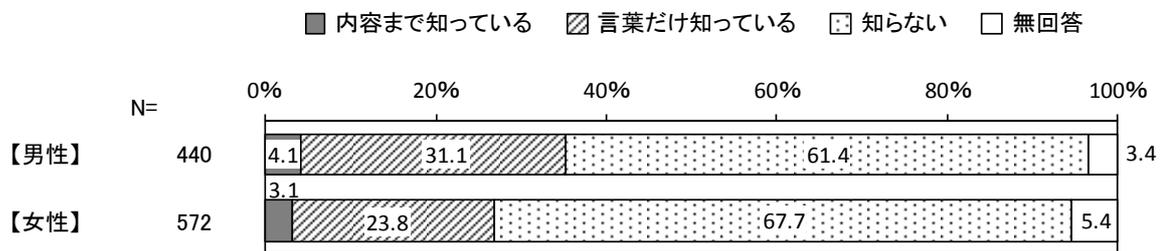
⑦女性活躍推進法

“知っている”の割合が30.6%、「知らない」の割合が64.6%となっています。



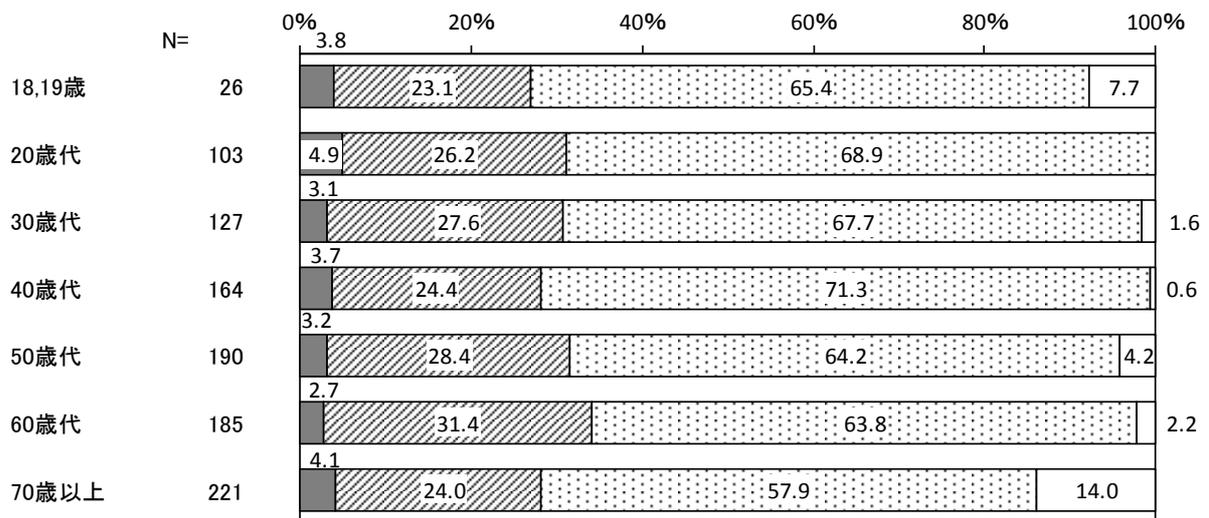
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で“知っている”の割合が高くなっています。



【年代別】

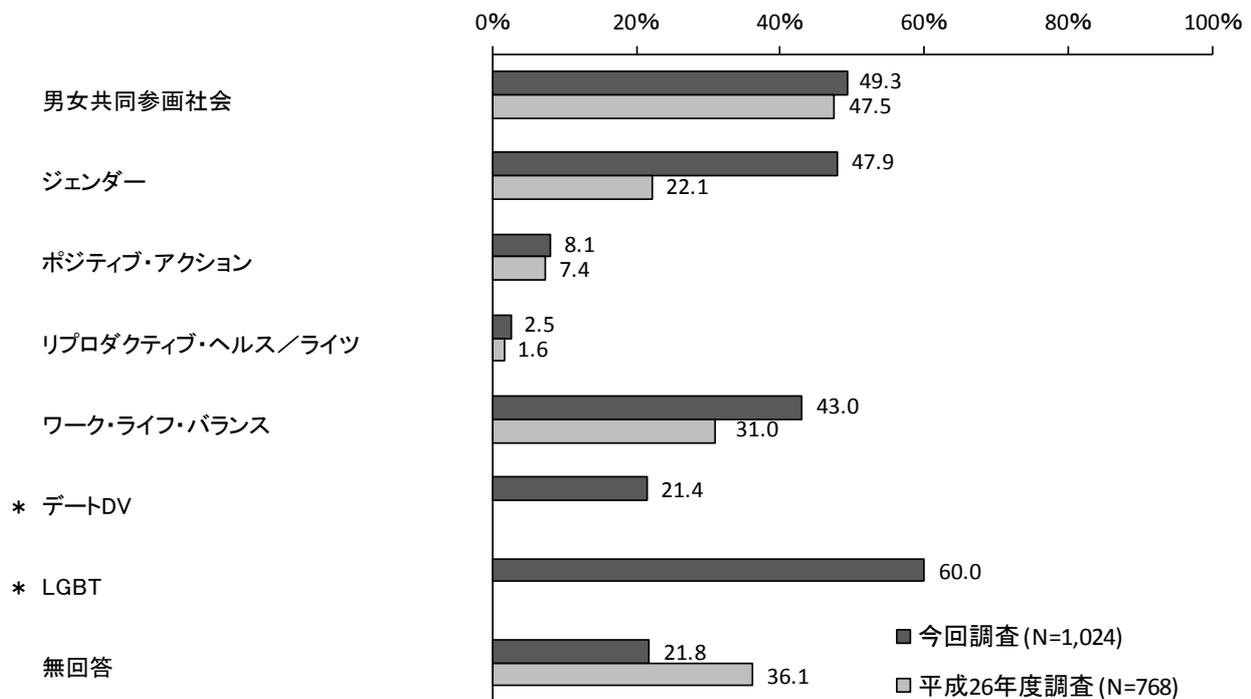
年代別で見ると、他の年代に比べ、70歳以上で「知らない」の割合が低く、約6割となっています。



問 29 あなたは、この調査を受け取る前から次の言葉を知っていましたか（知っているものすべてに○）。

「LGBT」の割合が60.0%と最も高く、次いで「男女共同参画社会」の割合が49.3%、「ジェンダー」の割合が47.9%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「ジェンダー」の割合が25.8ポイント、「ワーク・ライフ・バランス」の割合が12.0ポイント増加しています。



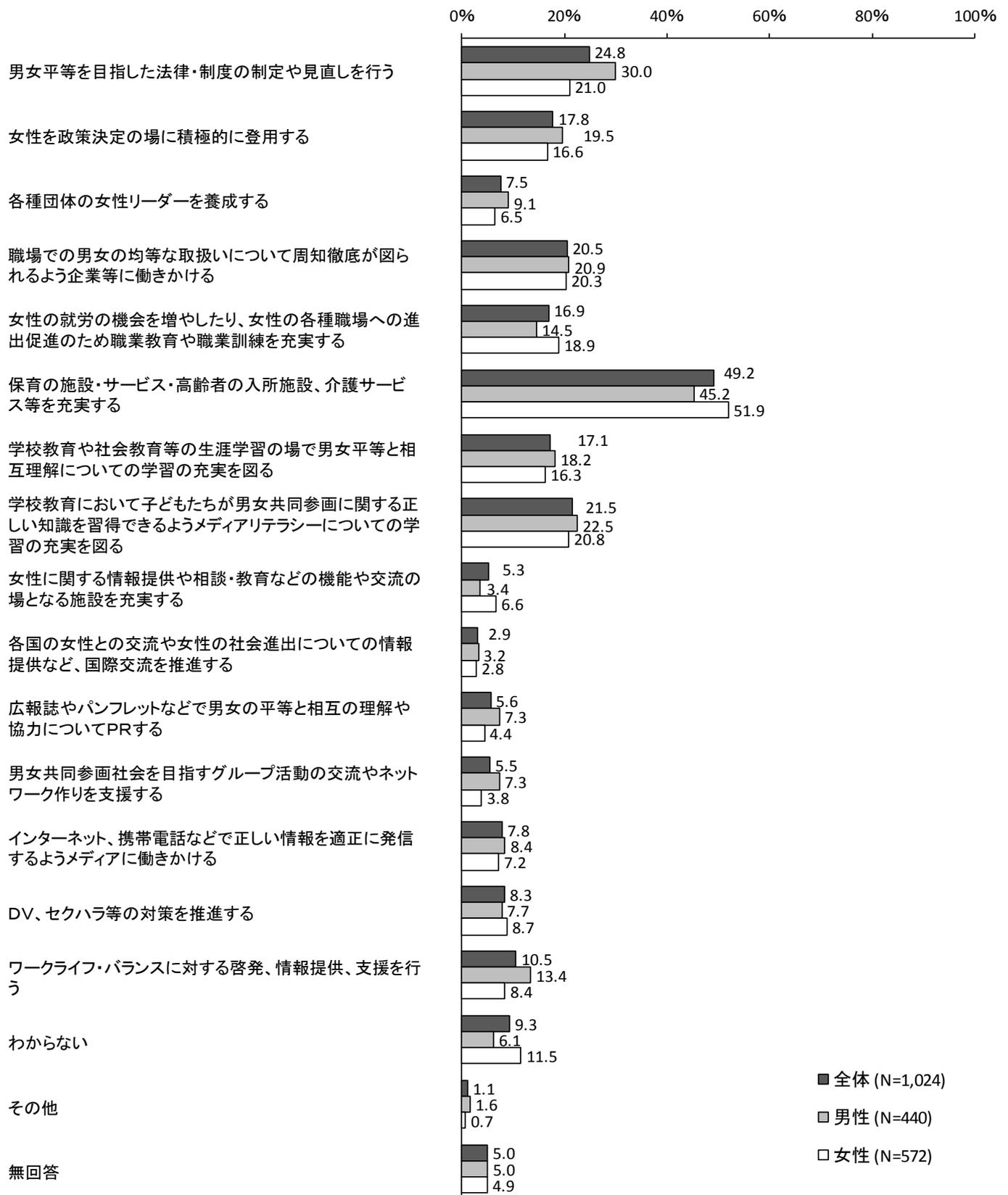
* 「デートDV」、「LGBT」は今回調査から追加

問 30 今後、男女共同参画社会の形成をより積極的に推進していくために、行政はどのようなことに力を入れていくことが必要だと思いますか（3つまで○）。

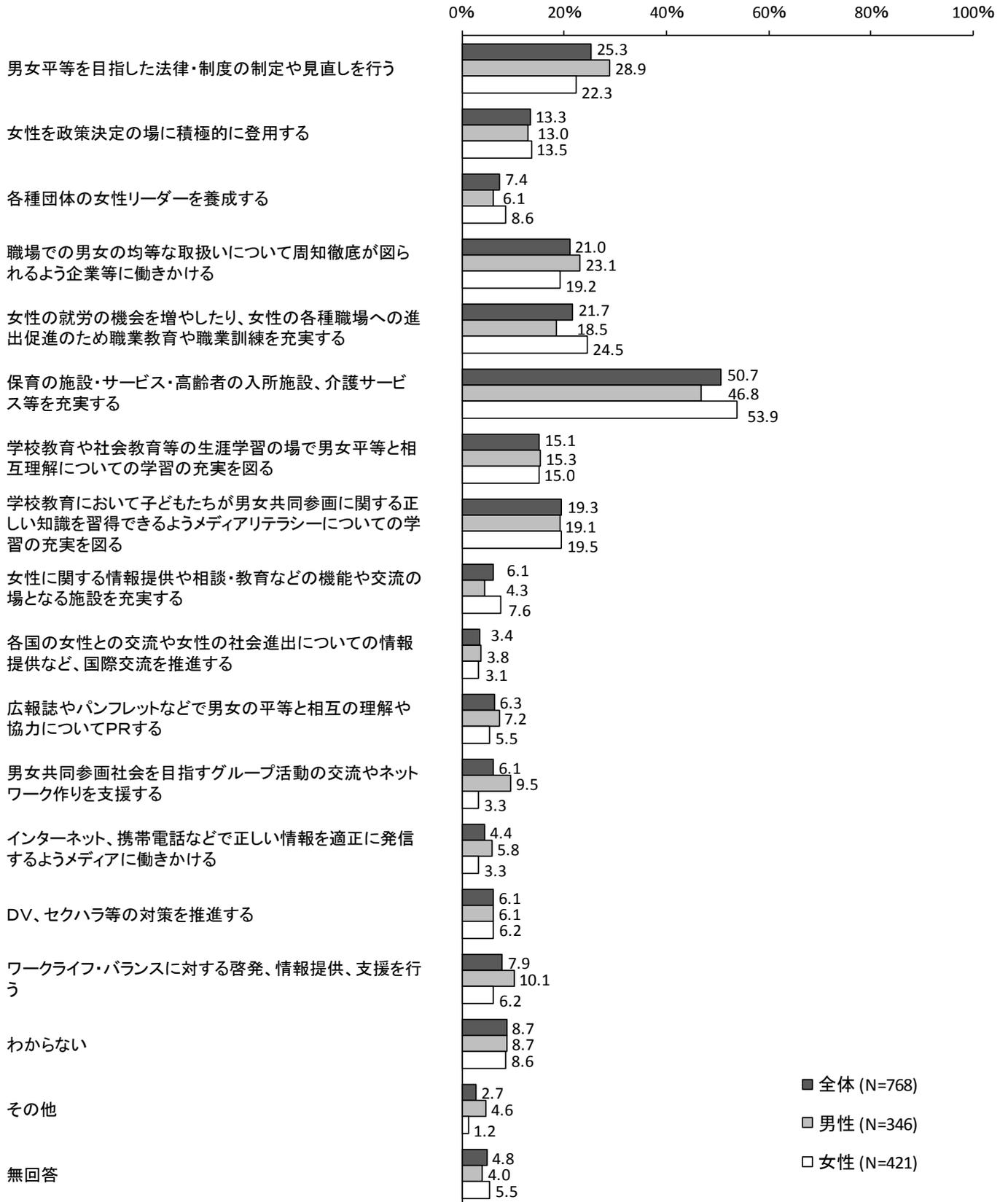
「保育の施設・サービス、高齢者の入所施設、介護サービス等を充実する」の割合が 49.2%と最も高く、次いで「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が 24.8%、「学校教育において子どもたちが男女共同参画に関する正しい知識を習得できるようメディアリテラシーについての学習の充実を図る」の割合が 21.5%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「保育の施設・サービス、高齢者の入所施設、介護サービス等を充実する」「女性の就労の機会を増やしたり、女性の各種職場への進出促進のため職業教育や職業訓練を充実する」「女性に関する情報提供や相談・教育などの機能や交流の場となる施設を充実する」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が、特に高くなっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」の割合が、男性で 6.5 ポイント、女性で 3.1 ポイント増加しています。また、「インターネット、携帯電話などで正しい情報を適正に発信するようメディアに働きかける」の割合が、女性で 3.9 ポイント増加しています。



[平成 26 年度調査]

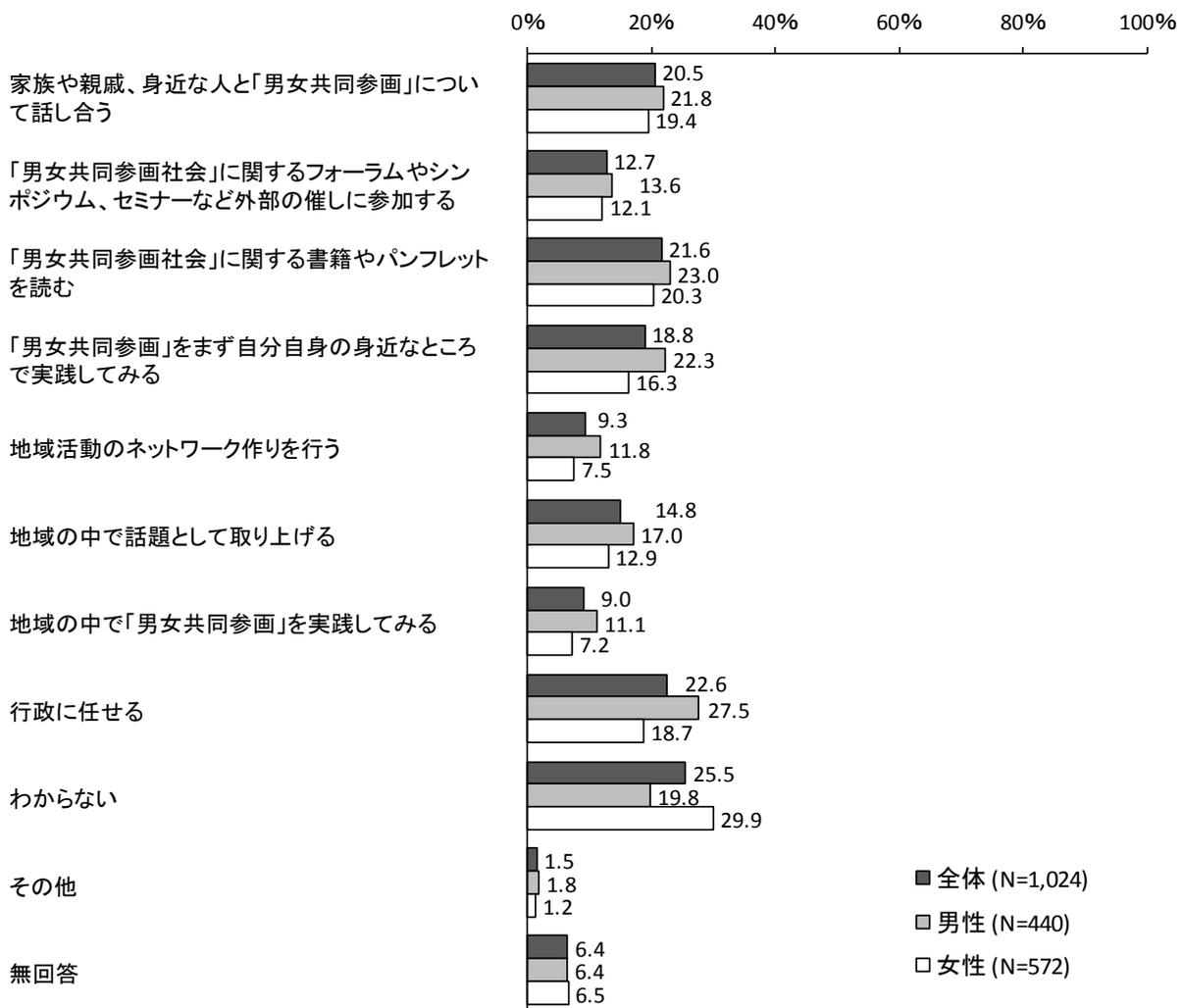


問 31 「男女共同参画社会」を形成・実現するために、あなた自身としてどのようなことを実践していきたいと考えますか（3つまで○）。

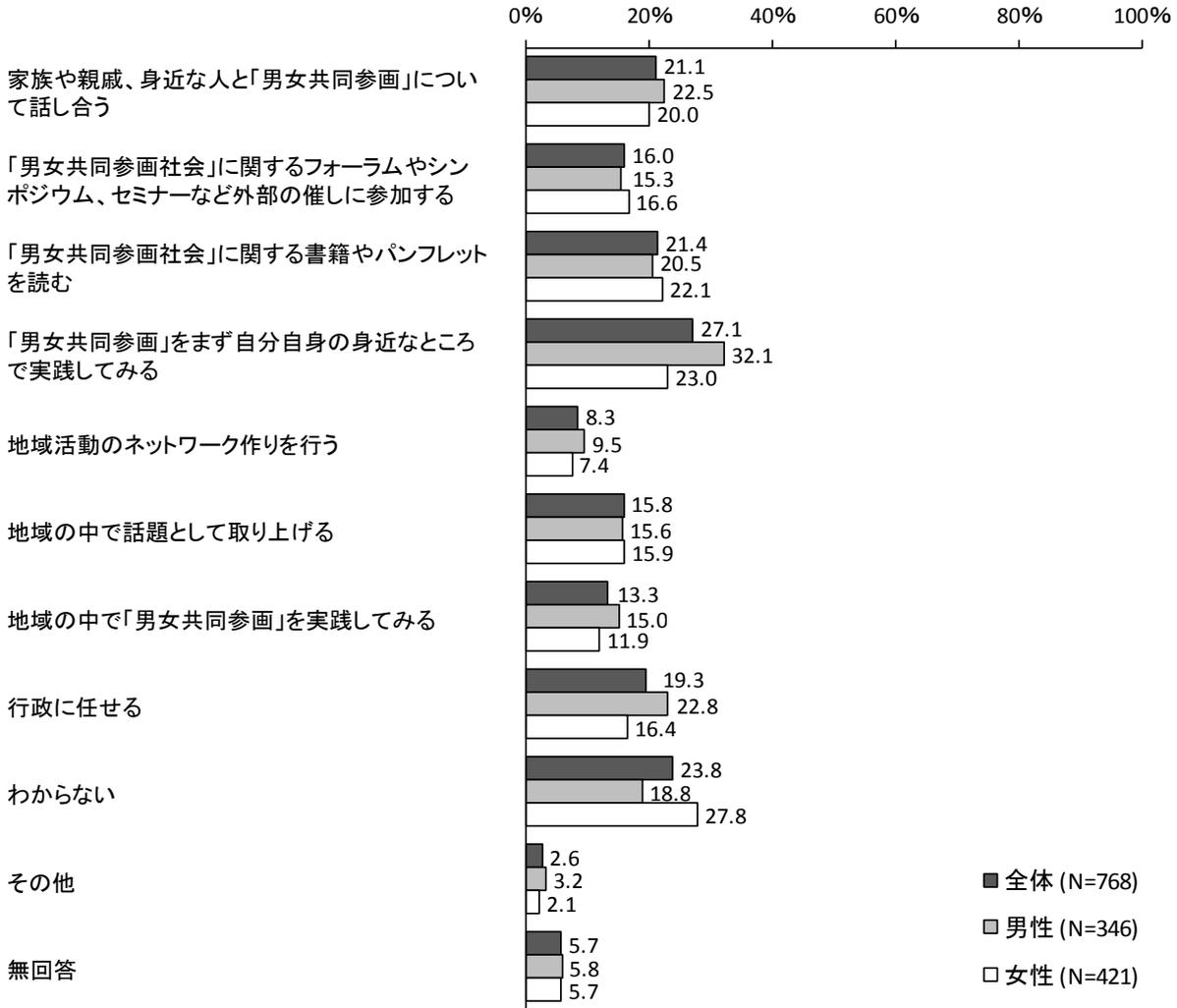
「わからない」の割合が25.5%と最も高く、次いで、「行政に任せる」の割合が22.6%、「男女共同参画社会」に関する書籍やパンフレットを読む」の割合が21.6%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「行政に任せる」の割合が高くなっており、男性に比べ、女性で「わからない」の割合が高くなっています。

平成 26 年度調査と比較すると、「男女共同参画」をまず自分自身の身近なところで実践してみる」の割合が、男性で 9.8 ポイント、女性で 6.7 ポイント減少している一方、「行政に任せる」の割合が、男性で 4.7 ポイント、女性で 2.3 ポイント増加しています。



[平成 26 年度調査]



Ⅲ 資 料

1 「その他」欄意見

問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか（1つに○）。

問4で「1. 同感する」「2. ある程度同感する」と答えた方におたずねします。

問5 そう思うのはどのような理由からですか（1つに○）。（12件）

- ・ 妊娠授乳は女性にしかできないから（30歳代、男性）
- ・ 出産という代替の効かない役割を軸にした分担があり、技術発展によってその構造が変化している最中だから（30歳代、男性）
- ・ 母親が専業主婦だったから（30歳代、男性）
- ・ 女性が男性と同じ賃金を得るのが簡単ではないため（30歳代、女性）
- ・ 女性が社会へ多く出た結果、平等をたてに男性の稼ぎが減ったように思う。さらに、そのために女性が働きに出なければ家計がやっていけなくなってきた（30歳代、男性）
- ・ 男の育児、家事に関して、会社の理解が無い（40歳代、男性）
- ・ 子育てをするまで、母親の「子供の成長にとってよい」とは言い切れないが、心にゆとりがないと子供がさみしい思いをするのでは（40歳代、女性）
- ・ 人にもよるが周りを見ていると、女性が仕事を得ると家庭での立場も強くなり、うまくいかなくなることも出てくると思われるから（40歳代、女性）
- ・ 出産の予定がある女性の方がキャリアを積むことにおいては不利だと感じます（40歳代、男性）
- ・ 子供を産むのは女性だから（50歳代、女性）
- ・ わからない（70歳以上、女性）
- ・ 身体能力には男女差がある（年齢・性別不明）

問7 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などを行うためには、どのようなことが必要だと思いますか（3つまで○）。（25件）

- ・ 夫婦でいる時間をなるべくつくる（20歳代、女性）
- ・ 地域全体で子育て、地域活動など、可能な部分で支えられるようなネットワークづくりや、環境を作って互いに支え合えるような取り組みをしていく（20歳代、女性）
- ・ 男性の育児休業を義務化する（生後から3カ月まで）（20歳代、女性）
- ・ 保育園、介護施設等の生活支援基盤の拡充及び同職業への社会支援（20歳代、男性）
- ・ 特に必要ない（20歳代、女性）
- ・ 男女平等を過剰に叫ばない事が大事。我々の世代（30代）からすると、女性が働くことや、男性が家事、育児をすることは、もはや当然のことです。過剰に話題にすることか？逆に男女差別を助長する原因、意識付けになっているように感じる（30歳代、男性）
- ・ 親やおじいちゃんおばあちゃん世代が、息子や孫が家事をすることを当然と思ってほしい（共働きであるため）。すごいね、とか言ってほしくない。当然（30歳代、女性）
- ・ 金銭的余裕（30歳代、女性）

- ・ 男女平等とは何かという合意を成熟させる (30 歳代、男性)
- ・ 親が子に見せながら育てる (30 歳代、男性)
- ・ 必要なし (30 歳代、男性)
- ・ 支援制度や環境整備は、少しずつ進んでいると思うが、男性は、家事、育児に元々適していない。女性が働き、男性が家庭のやるべき事を分担するには、今の支援制度の内容、もしくは環境整備の中に、教育が必要だと思う。何も出来ない、そもそも家事に向いていない素質なのだから、簡単な家事や育児の手引きをポスター等にもり込んでもらったりすれば、家庭で教育からやらなくてもいいと思う (30 歳代、女性)
- ・ 毎日忙しすぎる生活を改善 (40 歳代、男性)
- ・ 男は子を産めないから根本から論議が間違っている (40 歳代、男性)
- ・ 女性に意見や決定権を持たせる。社会的地位 (40 歳代、女性)
- ・ 全てを「ともに」行うのではなく役割分担があるという認識を持つ (40 歳代、男性)
- ・ 得意な人が行えばよいと思うので、各家庭によって違うことを認め合うこと (40 歳代、女性)
- ・ 世代間の考え方の違いが壁になっているので、それを許し合えるようにする (40 歳代、女性)
- ・ お金では？男性が休んで生活が成り立ちますか？世話ができる仕組み、支援 (50 歳代、男性)
- ・ 老人の考え方を改めさせる (50 歳代、男性)
- ・ 家事、子育て、介護の社会的評価を高める (50 歳代、女性)
- ・ 経済的に安定すること (60 歳代、男性)
- ・ しきたり、仕組みを改めるより、男性は男性の得意分野、女性は女性の得意分野をそれぞれ分担すればよい (60 歳代、女性)
- ・ 保護を必要とする子ども (介護を要する者も含めて) という視点を考えてルールを作るべき。今主流の欧米型男女平等観は「子ども」が欠落している。高学歴を求める親、特に母親と、子どもの考えが違っていることが多いなど、子どもの犠牲、子どもの権利の剥奪がみられるように思う。身体労働でも知的労働でも、共に平等にみるべきで、室内労働、事務労働を重んずる風潮には怒りさえ覚える。人間は本来不平等に生まれるものであって、その承認こそが第一である (70 歳以上、男性)
- ・ 男・女に関係なくそれぞれ家庭のやり方がある。夫婦間で考えれば良い。分担ではなく出来る人 (男・女区別なく) がするでよい (年齢・性別不明)

問 12 男性が育児に参加することについて、あなたはどうお考えですか (1つに○)。

問 12 で、「1. 是非必要である」または「2. ある程度必要である」と答えた方におたずねします。

問 13 男性の育児参加を促していくためには、どのようなことが重要になると思いますか (3つまで○)。(18 件)

- ・ 若い労働者の給与が少ないのでどうしてもどちらかが必死になって働く必要が出てくるので、育児にまで手が回らない。男性、女性共に育児参加ができるよう金銭面のサポートが根本的に必要だと思います (20 歳代、女性)
- ・ 家族尊重教育。家庭への帰属意識を幼少から教える (20 歳代、男性)
- ・ もっと収入に余裕が持てて、税金も安く、育児にかかる費用が少なくなればよいと思います (子ど

もの医療費、学費無償化など) (20 歳代、男性)

- ・若い男性の父親は積極的に子育てに参加しているように思う。育休の取得率と育児参加には相関性が無いことを認識することが大事。育休を強制で取ったとしても、育児に参加するとも限りませんし、取得しなくてもできるだけ残業を減らし、帰宅後や休日に育児をする人も大勢います (30 歳代、男性)
- ・金銭面の支援 (30 歳代、男性)
- ・当面の間、男性のための育児窓口や男性が利用しやすい所をつくる (30 歳代、女性)
- ・時短勤務でも収入面で不安にならない事 (30 歳代、男性)
- ・自営業者に対する経済支援又は就業支援子育てサービスではなく、業務支援をすることで育児に時間が取れる (40 歳代、女性)
- ・子供の数 (兄弟) が増える (40 歳代、男性)
- ・女性の給料 (賃金) を男性と同じレベルにする (40 歳代、女性)
- ・老人の考え方を改めさせる (50 歳代、男性)
- ・リモートワーク (50 歳代、男性)
- ・税金の不透明な使い方はやめて、育児中の家庭にもっと支援すべき (50 歳代、男性)
- ・男でしか教えられない事がある (60 歳代、男性)
- ・大企業は育休、フレックスなどとりやすいが、中小企業は、残業、残業でそんなことできないと思う。社会全体に広がるとよいと思う (60 歳代、女性)
- ・労働内容の問題 (60 歳代、男性)
- ・職場に子連れで出勤できるようにすること。戦前は職場や教室に赤ん坊がいたこともある (70 歳以上、男性)
- ・育児の概念に家事全般への参画も含めていく (70 歳以上、男性)

問 14 あなたのご家族 (同居していない場合も含む) には、介護を要する方がいますか (1 つに○)。

問 14 で「1. はい」と答えた方におたずねします。

問 15 介護は、主にどなたがされていますか。介護を受けている方からみた関係でお答えください (2 つまで○)。(20 件)

- ・祖母 (18、19 歳、女性)
- ・施設 (20 歳代、男性)
- ・老人ホーム (20 歳代、女性)
- ・特養に入所中 (30 歳代、女性)
- ・グループホーム入所 (30 歳代、女性)
- ・病院に入院している (30 歳代、男性)
- ・介護施設の方 (40 歳代、女性)
- ・祖母 (40 歳代、女性)
- ・施設入所、入院中 (40 歳代、女性)
- ・特養 (40 歳代、女性)

- ・ デイサービス (50 歳代、男性)
- ・ 主ではなく子ども、孫が順番で休みなどを利用している (50 歳代、女性)
- ・ 老人福祉施設 (60 歳代、女性)
- ・ デイサービス (60 歳代、男性)
- ・ 病院入院中 (60 歳代、男性)
- ・ 介護施設 (60 歳代、女性)
- ・ 特別養護老人ホーム (60 歳代、男性)
- ・ 施設スタッフ (60 歳代、女性)
- ・ 兄嫁 (70 歳以上、女性)
- ・ 子どもの介護、母である私が一人でやっています (70 歳以上、女性)

問 16 今後、社会で介護を担っていくためには、どのようなことが重要になると思いますか (3 つまで○)。(42 件)

- ・ 介護について相談出来たり、急な短期の依頼ができる窓口があること (20 歳代、女性)
- ・ 給料アップが必要 (20 歳代、男性)
- ・ 介護制度の充実 (20 歳代、男性)
- ・ 収入がもっと増えればゆとりができて、自宅だけでなく、介護施設の利用もでき、心にも余裕が生まれ、介護に対するイメージも変わり、積極的に取り組む人も増えるのではと思います (20 歳代、男性)
- ・ 介護施設をもっと利用しやすくする (20 歳代、女性)
- ・ 介護士の職場環境が劣悪であり、更に薄給であるため、改善が必要 (20 歳代、男性)
- ・ サービスが充実すること (20 歳代、女性)
- ・ 施設等の介護設備を整えてほしい (20 歳代、男性)
- ・ 国の経済的保障 (30 歳代、男性)
- ・ お金 (30 歳代、その他)
- ・ 介護保険を充実させ、社会全体で変えていく事。3 割 (負担) の人は高いと思う。特にショートステイを利用しやすく (30 歳代、女性)
- ・ 介護支援の充実 (30 歳代、女性)
- ・ 職業としての介護を中心の社会をつくる (30 歳代、男性)
- ・ 介護は社会全体がするものという意識の定着 (30 歳代、女性)
- ・ 介護サービスの充実とそれを受けるための補助金制度 (30 歳代、女性)
- ・ 介護を家族問題ではなく社会問題として意識すること (30 歳代、男性)
- ・ 自営業主が介護の時間をとれるように仕事の支援をするサービス(スタッフ増員費用の負担) (40 歳代、女性)
- ・ パートも介護休暇制度を利用しやすくなること (40 歳代、女性)
- ・ 収入の安定 (40 歳代、男性)
- ・ 介護職に携わる方たちの環境を整え、介護職員を増やし、長時間労働低賃金を避け、介護職にもっと優遇すべき (40 歳代、女性)
- ・ 男女にかかわらず介護参加を妨げるような社会通念が変わること (40 歳代、女性)

- ・ 介護施設の充実（公共でも）（40 歳代、女性）
- ・ 介護休暇の縛りが厳しい。同居でないと使用できないなど（40 歳代、女性）
- ・ 介護を家族としてきても、息がつかまってしまう時があります。以前よりデイサービス、ショートステイを利用したり、グループホームへお世話になることにまわりの人が何か言うことは少なくなっているように思いますが、預ける側は罪悪感を感じてしまうので、少しずつそう思わなくても良い社会になるといいです（40 歳代、女性）
- ・ 介護は終わりが読めないので、休暇より日数短縮（週 4 日とか 3 日）半休とかが必要（40 歳代、女性）
- ・ 施設を利用しやすくする（40 歳代、男性）
- ・ 在宅サービス（介護・医療・看護）を充実させること。現状は十分なサービスが存在しないため、介護難民が発生しないようにすることが重要（40 歳代、女性）
- ・ 入所等の福祉施設でないと家族負担が大きい。生活が大変（40 歳代、男性）
- ・ サービスが受けやすい国の体制と、担い手が働きやすい環境作り（50 歳代、女性）
- ・ 介護保険サービスの値上がりが著しいのと、金額が高いので、自治体で補える制度を考えてほしい（50 歳代、女性）
- ・ 介護サービスの利用時間の改善（50 歳代、女性）
- ・ 国民全体が介護資格を持てる様に国策のひとつとして、考えて欲しい（50 歳代、男性）
- ・ 介護有給（50 歳代、女性）
- ・ 入居しやすい介護施設を増やす（60 歳代、女性）
- ・ 妻や子が介護するのが前提で質問しているように感じる。物静かな親ならまだしも、暴れる、怒る、暴言を吐くような親も結構いる。休暇、労働時間、窓口とかの問題ではない（60 歳代、男性）
- ・ 施設が必要（60 歳代、男性）
- ・ 医療、介護施設の充実（60 歳代、男性）
- ・ 福祉制度の充実（60 歳代、男性）
- ・ 介護施設を充実させること（60 歳代、女性）
- ・ 介護者の負担軽減の介護サービスの充実等（60 歳代、男性）
- ・ 主人の介護に 7 年もかかりました。そんな時に自分一人がみるのではなく家族全員が助け合い面倒を見て来ました。国の制度もありがたかったし、病院もとても親切にいただき、地域の方々とも仲良く優しくしていただきました。忘れる事が今でもできません。ありがとうございました。私も助けられる人になっていけたらと思っています（70 歳以上、女性）
- ・ 介護者手当の支給、有休介護制度制の確立（70 歳以上、男性）

問 17 女性が仕事を持つことについて、あなたは次のどの考え方に近いですか（1つに○）。（33 件）

- ・ 各人好きにしたらいいと思う。女性だから持たない、持つべきという考え自体をなくすべき（18、19 歳、女性、）
- ・ 本人の意思を尊重する（20 歳代、男性）
- ・ 結婚後の状況や職場の制度にもよる（20 歳代、女性）
- ・ どちらでも良い。男性の収入にもよる（20 歳代、男性）

- ・ 個々の好きなようにしたらいい (20 歳代、女性)
- ・ 子どもが友達と遊んだり、社会性を身につけたほうがいい歳(2歳くらい)まで、育休がとれる環境なら女性も仕事をもち続ける方がよい (20 歳代、女性)
- ・ 個人の自由、夫婦の経済状況、生活環境による (20 歳代、男性)
- ・ 個人の好きでよし (20 歳代、男性)
- ・ 仕事をもち続けるか、本人が選択出来るべきである (個人による) (30 歳代、女性)
- ・ それぞれの家庭状況により、考え方は変わります。どれも正解だと思います (30 歳代、男性)
- ・ 臨機応変、自由でいい (30 歳代、男性)
- ・ 仕事をしたい女性は、結婚してもすればいい (30 歳代、男性)
- ・ 本人の希望による (30 歳代、男性)
- ・ 家庭のスタイルによると思うので、話し合いで決めると良いと思う (30 歳代、女性)
- ・ どちらでも、自分のしたい道を選択できるのが良い (30 歳代、女性)
- ・ 本人がしたければすればいい (30 歳代、男性)
- ・ 人がそれぞれ、仕事が続けられる環境が保てれば続けたらよい (40 歳代、女性)
- ・ 個人の考え (40 歳代、女性)
- ・ 二人で話し合って決めていけば良い (40 歳代、男性)
- ・ 本人の意志で (40 歳代、男性)
- ・ 仕事をするのが好きならば続けられればよいし、家事が好きなら家庭に入ればよいと思う。それを周りが決めつけない、認め合うこと (40 歳代、女性)
- ・ その人による。その人の考え方による (40 歳代、女性)
- ・ 当人と周囲の話し合い次第 (40 歳代、男性)
- ・ 女性が子供を産んで休職しても、復職をサポートしてくれる仕組み作りが整うといいと思います (50 歳代、女性)
- ・ 仕事は個々の意思で持つべき。持つべきでないと決めつけない (50 歳代、女性)
- ・ 本人の希望で (50 歳代、男性)
- ・ 仕事に男女は関係ない (50 歳代、男性)
- ・ 個人の考え方、希望 (50 歳代、女性)
- ・ 女が仕事を持つか持たないかなど本人が決める事 (60 歳代、男性)
- ・ 育休がとりやすい企業で続けられれば良い (60 歳代、女性)
- ・ 自分の家族のあり方で様々 (60 歳代、男性)
- ・ 6歳までは子供を見守りたいので、その後働く (60 歳代、女性)
- ・ 育児休暇を3年(できれば5年ぐらいあるとよい)しっかりとって復帰する (60 歳代、女性)

問 18 現在、ワーク・ライフ・バランスが重要視されていますが、あなたは、生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活のうち何を優先しますか。(1)、(2)についてそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。

(1)希望として(1件)

- ・ 個人を優先したい (60 歳代、男性)

(2)現実として(2件)

- ・ 三つとも優先を心掛けているが、現実には三つとも、中途半端(40歳代、女性)
- ・ 必要とされているかどうか(40歳代、男性)

問19 今後、性別に関わらず働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか(3つまで○)。(18件)

- ・ 有給休暇の充実(20歳代、男性)
- ・ 法律を変える(20歳代、男性)
- ・ 職場復帰した後の環境も考えてほしい。休んでいる間に自分の居場所や仕事がなくなり、形だけ復帰できても辞めざるを得ない人もいるので(20歳代、女性)
- ・ 男性、女性という区別をつけないこと(20歳代、女性)
- ・ 扶養控除の検討、平等に働けるようにすれば扶養は不必要(30歳代、男性)
- ・ 部分休業等仕事をしていても子供との時間がきちんととれるよう社会が認識すること(30歳代、女性)
- ・ 労働効率の改善(30歳代、男性)
- ・ 個人の生活、価値観を認める(否定しない)(40歳代、女性)
- ・ 扶養枠内の金額をもっと引き上げる(40歳代、女性)
- ・ 日本の仕組みでは無理(40歳代、男性)
- ・ 二世帯近居(40歳代、男性)
- ・ 社会全体の認識を改める(40歳代、男性)
- ・ 時短勤務でも収入が減らないこと(40歳代、女性)
- ・ 女性の意識向上(50歳代、女性)
- ・ 正社員になれる様に企業に働きかけをしてほしい(50歳代、女性)
- ・ 収入を得る仕事があること(60歳代、男性)
- ・ 人それぞれが仕事に対し誇りを持てる環境をつくること(70歳以上、男性)
- ・ 女性の働くことへの意識の向上。小生が働いていた頃、腰掛的意識で終身務める女性が多かった。例えば職場に自分の好悪を持ち込んで仕事内容や相手を選別するなど(70歳以上、男性)

問20 あなたは、これまでに、あなたの恋人や配偶者(事実婚、別居中、離婚後を含む)から、どのようなDVを受けたことがありますか、または受けていますか(あてはまるものすべてに○)。(10件)

- ・ 恋人や配偶者はいない(20歳代、男性)
- ・ 殴るふりをされた。起きてすぐに上からこぶしが飛んできて、当たる直前で止められる等(20歳代、女性)
- ・ 思い通りにならない時に物を壊された(40歳代、女性)
- ・ いやがらせ(40歳代、女性)
- ・ 多少の事はある(40歳代、女性)
- ・ 無関心(50歳代、女性)
- ・ 舌打ち(50歳代、女性)

- ・腰痛で左半身雷に打たれたような痛みの中、1週間以上気づかれず、毎朝「飯の支度をしろ」と言われた。私が怠けていると思っていたようだ（60歳代、女性）
- ・DVなど個人の考え方の問題。嫌味なら四六時中でお互い様（70歳以上、男性）
- ・夫に言いたいことを言っています（70歳以上、女性）

問 20 でDVを受けたことがある（「1. 言葉などによる心理的攻撃」「2. 殴る、蹴るなどの身体的暴行」「3. 性的強要」「4. その他の性的暴力」「5. 生活費を渡さないなどの経済的暴力」と答えた方におたずねします。

問 21 あなたは、DVを受けたときに、相談しましたか。（1つに○）

問 21 で「1. 相談した」と答えた方におたずねします。

問 22 DVを受けたときに、あなたが安心して相談できたのは次のどれですか（あてはまるものすべてに○）。（1件）

- ・保健所（40歳代、女性）

問 21 で「2. 相談したかったが、相談しなかった」または「3. 相談しようと思わなかった」と答えた方におたずねします。

問 23 相談しなかった理由は、何ですか（あてはまるものすべてに○）。（4件）

- ・相談して、いわゆる加害者を傷つketくなかったから（18、19歳、女性）
- ・弁護士は初日のみ無料で2回目から有料だから（40歳代、男性）
- ・公になると将来子供たちに影響が出ると思い、自分の親への体裁が悪くなるから（40歳代、女性）
- ・反対をおして結婚したので、誰にも言えなかった（70歳以上、女性）

問 24 あなたは、これまでに、セクハラを受けたことがありますか（1つに○）。

問 24 で「1. ある」と答えた方におたずねします。

問 25 セクハラが行われた場所はどこですか（あてはまるものすべてに○）。（10件）

- ・親戚の家（18、19歳、女性）
- ・バイト先（20歳代、女性）
- ・飲み会（20歳代、女性）
- ・電車内（20歳代、女性）
- ・採用試験（20歳代、女性）
- ・電車の中（40歳代、女性）
- ・歓送迎会などのお酒の席（40歳代、女性）
- ・家庭（50歳代、女性）
- ・自分の店で（60歳代、女性）
- ・職場の同僚にキスされたが、そのたびに平手で打ち返した（60歳代、女性）

問 27 LGBTに関して、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか（あてはまるものすべてに○）。（13件）

- ・ このような質問があることがすでに差別的（20歳代、女性）
- ・ LGBTへの批判的発言を発信した際、過剰に槍玉にあげられる（20歳代、男性）
- ・ 昔の考えかもしれないがLGBTの方に対し不自然さを感じるため。あまり、興味がない（30歳代、女性）
- ・ LGBTの特殊さを自身が理解できないことにより通常の人々の生活を脅かしている（30歳代、男性）
- ・ 問題は起きない（40歳代、女性）
- ・ 制服は女の子の気持ちの人は女子の制服、男の子の気持ちの人は男子の制服になるとLGBTの人にとって違和感がなくなると思う。もちろん本人が望んだ上で（40歳代、女性）
- ・ 職場が限られている（40歳代、女性）
- ・ 社会全てが「男女」や「男女の夫婦」を前提として成立していること（40歳代、男性）
- ・ トイレの利用の難度。学生服の有り方（50歳代、女性）
- ・ なりすまし（50歳代、女性）
- ・ 好奇心目で見られる（60歳代、男性）
- ・ 家族や親せきから冷たい目で見られたり、扱われたりすること（年齢・性別不明）
- ・ LGBTはなくなればよい（年齢・性別不明）

問 30 今後、男女共同参画社会の形成をより積極的に推進していくために、行政はどのようなことに力を入れていくことが必要だと思いますか（3つまで○）。（10件）

- ・ 働きたい人だけ働けばいい。別に女性がそこまで働かなくていい。私は働きたくない（20歳代、女性）
- ・ 税金を減らして、賃金を上げ、生活、心にゆとりを持てる社会（20歳代、男性）
- ・ 子育てするための経済的な援助（30歳代、女性）
- ・ 女性の総理大臣の誕生（30歳代、女性）
- ・ 女性自身の考え方を変える（30歳代、男性）
- ・ 企業が、家事、育児、介護に男性が参加できる環境を作る（40歳代、男性）
- ・ 間違った情報を発信するテレビ、新聞を無くす（40歳代、男性）
- ・ 今の仕組みでは無理。ヨーロッパの様に自己責任社会にならないと無理（40歳代、男性）
- ・ 労働環境の改善のための労働環境の正確な調査（50歳代、男性）
- ・ 採用時に、性別、年齢などの条件化を禁止する（50歳代、男性）

問 31 「男女共同参画社会」を形成・実現するために、あなた自身としてどのようなことを実践していきたいと考えますか（3つまで○）。（14件）

- ・ 会話の中で差別的発言をしないように気を配る（20歳代、女性）
- ・ ワークライフバランスのしやすい環境を整える（20歳代、女性）
- ・ セクハラをしない。差別的言動もしない（20歳代、男性）
- ・ 特に何もしない（20歳代、女性）
- ・ 職場の働く男性陣の中で話題として取り上げる（30歳代、女性）
- ・ 「男女共同参画社会」を実現できる人にひとまず投票する（40歳代、女性）
- ・ 無理。やっても意味がない（40歳代、男性）
- ・ まずは自分の子供（40歳代、女性）
- ・ 話題になるような取組、事例をメディアで取り上げる（40歳代、男性）
- ・ 人それぞれなので、自分の中で（50歳代、男性）
- ・ 義母、夫の意識を変え、夫に家事ができるようになる必要をわからせる（50歳代、女性）
- ・ 関わる地域活動や、職場で、性別を意識しない行動をとる。意識した言動があれば、アドバイスする（50歳代、男性）
- ・ 女性を優遇すれば良いじゃないでしょうか？（60歳代、男性）
- ・ 行政の指導、実践（60歳代、男性）

2 自由意見のまとめ

(1) 男女平等について (17件)

	年齢	性別	ご意見
1	20歳代	女性	女性を優遇することが男女平等な社会へつながるとは思わない。平等とは何かというところをもっと深く考えた方が良いと思う。安易なサービスや認識が多すぎて余計に男女間の溝を深めてしまっているように感じる時も多々あります。それぞれが尊重し合えるような、そういった意識が向上するようなきっかけが欲しいと思います。
2	20歳代	男性	女性の地位向上については賛成ではあるが、度が過ぎる活動によって男女差の逆転が起きては意味がないと思う。ゆえに明確な目標設定を決めておかなければならないと思う。
3	20歳代	男性	女性の雇用機会や登用機会を推進することは、男性の雇用機会を抑制することにつながるため是正した方がよいと思う。共同参画社会が即ち能力主義社会ということがあるならば、性差による雇用制度は逆行しているといえるからである。働く意欲のある女性が活躍できる社会は目指すべきものであると疑問はないが、そもそも労働意欲のない人がいることを改善した方が重要なのではないのでしょうか。行政をつかさどる方々の深い考えには及びませんが、私の意見を一読し、反映していただけたらばと思います。
4	30歳代	男性	アンケートをとっている段階で男女平等な社会でない。見方、考え方等。
5	30歳代	男性	人数や割合などの数字だけ操作して平等を実現している気になるのは改めた方がよいと思います。「平等」という型に人を押し込めるのは、推進者の想定した「らしさ」に押し込めることと言えるのだと思考します。
6	30歳代	女性	男女平等という言葉ばかりが先行し、無理やり女性を男性と同じ土俵に上げることを「平等」だと思っている人、行政、国になっている気がします。男性と女性ではそもそも身体も感情も大きく違って、それぞれに出来ること、出来ないことがあるのだから、それをお互いに補い合うだけで充分じゃないかと思っています。性別は個性。無理に平等にする必要なんかななくて、性別・個人の特性、それをすべてひっくるめた「個性」を発揮出来る社会になってほしいです。男女という枠内での平等ではなく、男性であることも女性であることも受け入れて、性差も個性として考えて、女性らしくいる人も、女性でかっよく生きる人も、男性らしく強く生きる人も、男性で優しく生きる人も、みんなが認め合って助け合って生きていける社会になってほしいです。そして他人を認めて許してあげるためには心の余裕が必要で、そのためにはみんなもっと「休む」ことをした方がよいと思います。男女が平等に共同参画するためには、老若男女問わず社会的にもっと休日を増やす、休暇を取りやすくすることが大事だと思います。
7	30歳代	男性	男女平等や男女共同参画などで、女性にもっと活躍してもらうような話が、女性優遇になっていてとても悲しい。優遇しなければ女性リーダーが生まれないのであれば、女性に何らかの弱点があるからだと考えるべきだ。平等とは何かをもっと考えてほしい。
8	40歳代	女性	市内の中小企業で25年程働いていますが、入社当時から現在まで男尊女卑である事には変わりはありません。現在トップに立つ人たちの考えに男女平等という考えがあるわけではないし、これからは変わらないと思います。生まれた時から、正しく男女平等であると理解できる環境はとても必要だと思います。これからの世代の人たちに理解が根付けば良いです。
9	40歳代	女性	男女平等。男性が主でやる仕事だってある。女性が主でやる仕事もあるのに、ひとくくりに男女平等にし、男と同じ内容ではなく都合のいい所だけを平等に男女平等としたため、女性は仕事と家庭でいっぱいいっぱい。その親を見た子供は結婚の意志が薄くなると思っています。結婚しても女は不利な事ばかりと気づいている人が多いので、結婚もしない、子供も作らないという事になるのが当たり前です。
10	40歳代	男性	その人ごとに生活スタイルがあるため、一概に男女共同参画を進めることがよいとは思わない。男性の権利だとか女性の権利だとか、LGBTの権利だとか言い出したらきりが無いのだから、できる限り平等になるよう時代に合わせてフレキシブルに対応していかないといけないと思う。
11	50歳代	男性	男女の能力が同じであれば、女性を優先的に登用する社会も問題であると思う。パーセンテージ優先な中身の無い考え方だと思う。性を意識しないことが重要だと思う。
12	50歳代	男性	1990年代以降は、女性、高齢者が優遇されすぎていると感じます。男女の対立、世代間の対立は何も生み出さないとします。
13	50歳代	男性	男女で異なる心身の特性があるので、男女の完全な平等は無理であり、その必要はないと思う。私自身は仕事が好きではないが、世帯収入の9割は私が得ているので、仕事がやめられないというプレッシャーが常にある。妻(女性)の方が恵まれていると思っている。うちで男女の役割を逆転させたら、収入は1/3になってしまい生活ができなくなる。それどころか破産してしまう。ランチタイムを見ても、少し高いところは女性ばかり。女性の方が優遇されている社会だと強く思う。

	年齢	性別	ご意見
14	60歳代	男性	女性に対することばかり強調されているようにも思われる。例えば、共同と言いつつ、「女性専用車両があるのに男性専用車両はない。女性トイレは個室なのに、男性の個室は少ない（すべて女性同様個室ならよい）。女性は平気で電車等でメイク等をしているが取り上げず、男性の粗暴さ等を取り上げる。男性のセクハラは大きく取り上げ、女性のセクハラ（パワハラ）はほとんど問題とされない。」等々あると思われます。男女共同と言いつつ女性の方に視点がいきそうですが男性にも目を向けて考えていく必要もありそうです。（共同・平等というのであれば）
15	70歳以上	女性	男女が共に協力し合って住みよい社会を作り上げていくことは当然のことです。男性の考えを根本から改め徹底的に家庭における男女平等を教育して欲しいと思います。
16	70歳以上	男性	何事をするにも、男、女の平等は必然である。以前は女（妻）は家の中と云う考えがあった。今はそういう時代ではない。
17	70歳以上	女性	「男女平等」の言葉は私達高齢者が子供の頃から聞いてきた言葉です。いくら法律や制度が変わっても、自分達一人一人の意識を変えない事には絵に描いた餅になってしまいます。根強い男女の差は能力のある一部の人の為にだけ役立つ法律ではなく、折に触れ女性の考えを取り入れた情報等の発信をして頂きたいと思います。

（２）性別役割分担について（１６件）

	年齢	性別	ご意見
1	20歳代	女性	働きたい人、働きたくない人はそれぞれ。男の人は家事ができない代わりに働いているから、男の人が働けばいい。私は働くことが向いていなくて、家事の方ができるから、家事や育児をしている方がいい。ただ、女というだけで痴漢にあたり、抵抗したりが難しいから、その上では住みにくく嫌な所だと思う。力の差が男女不平等。働いていることで男女の差は何もなかったし、むしろ「女の子だから重い物を持たなくていいよ。」と言ってもらっていたので、優遇されていたと思う。
2	20歳代	女性	仕事場において、女性だからリーダーになれないという考え方は昔よりましになっていると思います。ただ女性が子どもの世話をすることが当たり前という考え方は、まだまだ根強いと思います。確かに仕事にも向き不向きがあるように、子育てにも向き不向きがあり、圧倒的に男性のほうが向いていないと思います。それは女性が力仕事を選ぶのと同じように、性別のハンデがあるので仕方のないことだと思います。出産だって女性しかできません。でも男性にしかできないこともあるはずで、ワークライフバランス、とてもよい言葉だと思います。性別を関係なく男女平等にすることは不可能だと思います。だからこそ男性が家庭を大切にできるような支援、女性が仕事復帰できるような支援を整えることが大切だと思います。男性も産休（産後、産前どちらも）取得義務化（断ることもできる）にするとか、女性が仕事に専念できるように病児保育園を増やすなどしてほしいです。よろしくお祈りします。
3	30歳代	女性	女性の家庭との両立等が取り上げられておりますが、男性にも家庭があり、両立できていない（仕事を中心として）のは男性だと感じております。ですので、女性が出来ることを増やすのではなく、男性の出来ることを増やす（家庭・育児・地域において）事が大切ではないかと考えております。男女が仕事・家庭・社会的に平等になった上で、どちらが何を中心として、またはどう生活していきたいかを各個人が決められるようになればと思います。
4	30歳代	男性	男女共同参画というのは、必ずしも男性の育児参加と、女性の社会進出（仕事）に結びつくものではないと思います。家事に専念する女性がいても良いし、仕事ばかりの男性がいても良いと感じます。過剰に男女平等を叫ぶこと、それは逆に現在男女差別があることを認めているということ。私自身は、今の世の中、全く男女差別があるとは思っていません。大事なことは、すべての事を平等にと考えるのではなく、どんな形であってもそれが夫婦や家庭での話し合いで成立しているものであれば、周りがとやかく言うことではないかな？と、思っています。
5	30歳代	男性	30代前半の自分としては、少なくとも同世代で女性が不利と感じることはありません。出産についてはやむを得ない不利ですが、ほかの場面では、むしろ男性の方が厳しいと思います。肉体労働は職種を問わず、多かれ少なかれあると思います。体力差から使われるのは男性です。その他、きつそうな仕事がある場合には、男性から選ばれることが多いかと思えます。女性の方が丁寧に扱われるため、自分の本来の仕事に専念できる環境にあると思います。少なくとも事務職の場合には、雑務（力仕事等）に時間をとられない分有利です。支払いは男性の方が多いため今も変わっていないですし、例外もあると思いますが。結婚・出産（特に後者）をきっかけにガラッと変わるとは思いますが、それは夫婦で決めれば良いですし、それを機に仕事を辞めたいとむしろ望む人が多い印象です。上の世代はわかりませんが、自分以下の世代は、制度も充実しており、自己の決断次第かと思えます。もちろん男性のサポートも大切ですが、自分は極力頑張っているつもりです。

	年齢	性別	ご意見
6	30歳代	女性	全員が働いて生活費を稼ぐ生活ではなくて、働きたい人がきちんと働けて、家庭に入りたい人は家庭に入る。働きたくなったらきちんと働ける社会になればいいと思います。どちらかしか選べないのではなく、どちらも選べるといいです。でも人の意識というか、常識とされていることを変えていくことはとても難しい。時間がかかっても変わってほしいと思います。
7	40歳代	女性	私自身は古い考えで、自分で家のことや子どものことをやりたいと考えてしまっています。母は常勤で働いていたし、大学でジェンダーや女性が働くことも学んできました。だから、女性の社会進出を望んでない訳ではありません。働きたい人は働き、男女同じように認められれば良いと思います。でもそのしわ寄せが子どもたちにってしまうことを懸念しています。夕食は一人で食べ、土日も一人で過ごし、寂しい思いをしてしまうのはどうかと思います。子どもたちが心豊かに育ってってくれる社会になることを私は強く希望します。
8	40歳代	女性	今の若い男性は、昔と比べると積極的に家事に参加する人が増えてきたかな？と思います。もっと教育課程で家事に関する学習の場を増やしてもらえれば抵抗なく家事に参加してくれるようになるのでは？と考えます。豊川市へ嫁いできて感じたことですが、とても長男が大切にされている地域だと思いました。長男が家を継ぐのが当たり前という考えに驚きました（今でもその考え方なんだと）。ここでは、男の子を育てる家庭環境から変えていかないと、男性が家事に積極的に参加することはないと思います。親が子育てする中で、男女関係なく、家の手伝いをさせたりすることで、意識改革がおこるのではないかと思います。
9	50歳代	男性	男性に適した仕事、女性に適した仕事それぞれあり、現実的に難しいのではないかな。また仕事において、管理職になると責任を背負われ、仕事優先とならざるを得ない。管理職といえどもそれなりの賃金ももらえない。
10	50歳代	男性	男と女で役割が違うのに平等や公平などが必要なのか？疑問に思う。お互いに思いやる気持ちが必要だと思う。
11	50歳代	女性	男は仕事、女は家事という考えはこれからは通用しないと思います。お互いできる仕事をし、負担を減らし、自分の時間を持つことを希望します。
12	60歳代	女性	男は男の出来る事。女は女の出来ることをしっかりやる。女は男に頼れることがあれば頼ってもいいのでは？
13	60歳代	男性	男女の異なることをしっかりと踏まえた上で、各自の特性に合った活動が出来るよう、考えを深める必要がある。
14	60歳代	男性	男女で、体の質が違うので、区別は必要。差別はダメ（何もかも同じでは無理）
15	70歳以上	女性	私達70歳前後の男性は、家事に対して「自分がするものではない！」とっていて、少し頼むと「手伝ってやる」という意識が抜けない。諦めています。
16	70歳以上	男性	男女平等とは言っても肉体的に女性は力仕事など男に比べて劣っているのが難しいことがあると思う。それぞれの長所を伸ばせば良いと思う。

(3) 子育てについて (18件)

	年齢	性別	ご意見
1	20歳代	女性	男性も育児休暇が取れるような環境を作ってほしい。男女共に平等で、働きやすい環境を作ってほしい。「男なんだから」「女なんだから」ではなく平等に。
2	30歳代	女性	介護職をしていましたが、結婚をして辞めました。再就職をしたいと思っても子供がいると土日祝日が休みなところは少ないし、急に子供が休んだら、など腰も上がらないです。正社員で再就職できる所はほとんどないのが現実だと思います。辞めなければ育休明け、時短など多少優遇されると思いますが、パパ友が欲しいと言っていました。ママのコミュニティはよくありますが、パパに対する物はほとんどありません。父子家庭に対する補助などはあまり聞かないと思います。
3	30歳代	女性	女性が活躍する場を増やす前に、仕事をしながらも安心して楽しく子育てできる環境を作ってもらえると嬉しいです（学童の充実民間も含め時短勤務の延長など）。また、地域の仕事（組長、子供会の役員など）や学校のPTAの役員など、そういったものは女性がやっていることが多いと思います。女性も仕事をされている方が多い中、そういった地域や学校の仕事が大変負担になっている方も多いと思います。うちはまだ子供会には入っていませんが、子供会の役員の方が地域の運動会や敬老会にまで参加し働いてみえる姿を見て、驚いたのと同時になんて大変なのだろうと自分が参加するようになった時のことがとても心配になってしまいました。昔からやっている行事などやめることは難しいのかもしれませんが、地域の中からでは声を上げにくいので行政の方が本当に必要なものを精査し、これからの若い世代への負担を減らしていただけるととても嬉しいです。よろしくお願いします。

	年齢	性別	ご意見
4	30歳代	女性	豊川は「子育て」を推していますが、実際その立場に立つと、子育てしにくいと思います。兄弟別々の保育園に通っている人を知っています。部分休業は使えず、フルで働かないと未満児の受け入れをしてくれなかったと嘆いている人も知っています。子供を保育園に預けるために、予定より多く働かざるをえません。女性が仕事復帰する条件が厳しいです。「子育て」をかかっているのなら、女性が復帰しやすいように環境を整える事が必要だと思います。また、復帰後、育児、家事、仕事を全てこなしていくためには社会の理解が必要とされていますが、自分たちの都合で理解されないことがほとんどです。時短や部分休業を希望していても会社がそれを許さないのはおかしくありませんか？希望する人がきちんと時短や部分休業をとれる社会にしてください。本当に困っています。
5	30歳代	女性	男性の育児参加に対する意欲は高まってきていると思う。しかし、育休後の仕事における立場や待遇などが気になったり、そもそもそのような制度をとっている男性がいなかったりする場合が多いように感じます。男性が育児休暇をとりやすくなる様、労働環境の整備と、社会の制度の見直しをお願いします。個人的には男性が育休をとった場合、育児手当が増えるとかあったらうれしいです。
6	30歳代	女性	子供がケガや病気でも仕事を休めないことが多い。理由は、介護職に勤務中で職員がおらず、多忙業務。介護職に人が入ってこない。もし地震等の災害になったら入居者様か家族かどちらを優先すべきかわからない。
7	30歳代	女性	夫と同じ職場でしたが、子どもができたためステップアップ(社内での研修・試験)をあきらめました。復職しましたが、3人を育てながら1時間通勤、不規則な勤務、日・祝は保育園が休みなどの理由で1年半しか働けませんでした。日・祝も保育園がやっていたらもっと長く働けたと思います。また、小学校も保護者が平日に参加しなくてはいけないことがとても多いです。
8	30歳代	女性	とにかく“男性の子育て”があたりまえであるという考えが浸透してほしい。
9	30歳代	女性	男性の育休名ばかり。数日～数週間で何が出来るようになる？
10	30歳代	男性	幼少期から、学校でも家庭でも、女性の社会進出や男性の家庭の仕事をすることを教育していく必要性を感じます。子育てや、子どもの教育にもっとお金を使って、充実させる必要を感じています。
11	30歳代	女性	仕事をしたいが、子供が小さく、保育園にも預けられず(入れず)仕事が出来ない。夫の仕事の関係で豊川市に転入してきました。転入前は子供を保育園に預け、働いていましたが、転入のため退職しました。転居しても働きたいと思っていましたが、転職して無職だと保育所入所の点数も低く、近くの保育所に入れなかったり、預かってもらえる時間の関係で仕事をする事ができません。(一時保育の時間でできる仕事は少ない。一時保育の週3で利用すると結構な金額になる)また、預け先のあてがないと、求職活動も難しいです。もっと保育園に預けやすかったり、仕事も時短勤務がしやすかったりするといいいのに、と思います。資格があることから、退職前はまた新しく仕事ができると簡単に思っていたのですが、一度ルールから外れると簡単には戻れない、という事を痛感しています。また、男性の育児参加という面では、男性に育児や家事の参加意思があり、企業側に育休や時短制度等があっても、実際には仕事が忙しかったり、経済面でも制度の利用はしにくく、家に帰ってきたら疲れて家事・育児に参加する余裕がない。家庭優先にすると、経済面に余裕がなくなるし、バランスが難しいなと思います。
12	40歳代	女性	その人のスタイルに合わせた人生を歩んでいけるようにしてほしい。子供を預けたい時に預けたい場所に100%受け入れてもらえる保育所の方が、「無償化」よりも必要だと思う。
13	40歳代	女性	子供が小学校就学まで仕事の時間が短くなる、また、夜勤をしなくても良いという決まりのもと、私の部署でも育短を利用している方がいますが、正直イラッとします。16年前、上の子を出産した際に、当時の上司から「3年の育休を申し出たのはあなたが初めてで、今後他の人が真似をして3年休む様になる。」と言われました。また、職場では「あなたも妊娠したの。動けるの。無理なら早くやめて。」「妊娠したからって、仕事はキッチリとやってよね」など、心ない言葉の数々。産休を明けて職場に戻ってからは、保育園から子供が発熱したと連絡がきても「まさか、帰るとか言わないでよ」と言われ、今まで一度も子供の体調不良で仕事を休んだり早退したことはありません。支援者もおらず、発熱した園児一人を家において出勤していました。近くに親もおらず、子供にはかわいそうな事をしました。今でも「子供の体調が…」と急に休むスタッフに腹が立ちます。こういう思いを若い人にさせたくない、という思いはもちろんありますが、どこか納得できない気持ちでいっぱいです。
14	40歳代	女性	保育施設、児童クラブ、介護施設の拡充を市の予算での割合を増やすなどして実現してもらえるようになるよう願っています。今すぐでなくてもこれからの事を考えていろいろと実行していただけたらと思います。

	年齢	性別	ご意見
15	60歳代	女性	娘夫婦がフレックスタイムや時短勤務等の制度を利用して、子育てと仕事を精一杯やっているのを見て、ひと昔前の私たち世代とはずいぶん変わってきていることを実感しています。病児保育等の施設ももっと普及してくれることを願っています。（なかなか予約が取れなくて、私たちが応援に行くこともしばしばあります。）意識にしても制度にしてもすぐに変わることは難しいと思います。一步一步進んでいくしかない。
16	60歳代	女性	私の娘には、今、2歳と3カ月の子供が2人います。来春保育園に入園希望していますが、上の子は3年保育で預けたいのですが、下の子は4月で、8ヵ月になりますが、親元で1歳位までは育児をしたいと思っていましたが、2人同時に入園をしないと上の子も保育園に入ることが出来ません。職場も娘も仕事復帰を希望していても、困難な為途方に暮れている状態です。近隣の市はこんな状態でないのに、豊川市だけです。2人同時に入園させ、時短をと思っていましたが、面談の時に、点数が下がるため、不利だと。私から思うと、男女共同とか女性リーダーだとかそれ以前に人の命を預かる仕事に復帰しようと思っている娘に、もう少し働き易い制度を考えて頂けませんか。
17	70歳以上	男性	0歳～未就学児の子育てについては、女性の役割が大切だと思っています。社会に対する男女共同参画は、基本的には当然賛成ですが、体力差もあり、ある程度はやむを得ません。
18	70歳以上	男性	女性が安心して結婚し、子育てでできる環境作りが必要だと思います。子供も3人以上を目標とした環境が理想だと思う。妊娠、授乳、養育などの期間への対策。次に健康な老人への対応も老人の社会貢献が得られると思います。逆の介護へ対策があれば、男女の就労時間の確保につながると思います。

(4) 介護について (1件)

	年齢	性別	ご意見
1	40歳代	女性	子育て中は祖父母の協力があり、何とか仕事を続けることができたが、介護が必要になった時に仕事を続けることができるのが不安です。介護サービス、デイケア、入所ケア等の充実が望まれる。

(5) 仕事や社会参加について (14件)

	年齢	性別	ご意見
1	20歳代	男性	職業によって男性向き、女性向きの仕事内容があるため全ての職業で女性を平等にという考えは無理がある。逆に男性を全ての職業に就かせることも無理。体格差、性に対する意識の差等、違いが出来てしまうのを受け入れ、何でも男女平等にという風潮から離れてほしい。女性は生理、妊娠、出産があり、出産後も休養が必要となる等、男性と比べると休まないといけない期間が出てくる。多くの女性は、その場合、「働きたい」よりも「休みたい」と思っているように感じる。休んでいても生活ができる、働かないといけなと思わせえないような支援制度充実が必要だと思う。社会で活躍したい女性や、今まで男社会だった職業でも活躍したい人の主張は強く、否定すれば差別だと言う印象。そのような女性よりも割合の多い、働けなくなる女性に対する政策を望みます。
2	30歳代	女性	女性が社会進出することはとても良いことだと思います。ただやはり女性が働くと、家庭生活での余裕がなくなり、子どもの変化に気づきにくくなったり、学校等に任せきりになってしまうことも考えられます。核家族化が進む中、どうしたらその辺りのバランスがうまくとれるかを考える必要があると思います。
3	30歳代	男性	男女それぞれに適性や役割等があるので、完全に平等というのは難しい。警察・消防・自衛隊のようにほぼ男の職場に女性の進出が増えてきたり、看護婦→看護師というように女性の職場に男性が、というのも多様性だと思う。これらは職業全体の中でも極端に男女比が偏った例ではあるが、それでも全体としては男性優位の状態が多いように感じる。女性には一般的に妊娠・出産という過程があるので、企業としては戦力として考えられないという意識は少なからずあるのだろう。そのまま退職という可能性も低くないし、落ち着いてから復帰というのもやはり即戦力とは考えられないのも仕方ない。この妊娠～育児間の保障や職業支援の制度などがうまくできれば、もっとよりよく働けるようになるのではないかと。
4	30歳代	女性	1年前まで正社員で時間短縮勤務で働いていました。“仕事”と“家庭”をどちらも優先させたいが、それはなかなか大変でした。しかし、「時間短縮勤務」が出来たことで、大変でも、何とかやってこられました。また、新しく働く職場を探しており、子育てしながらも、働けるような環境、制度が充実してたらいいなと感じています。

	年齢	性別	ご意見
5	40歳代	女性	私は派遣社員として20年同じところで働いていますが、女性は一度会社を辞めたら再び正社員として働くのは難しい。男性ほど責任がある仕事を任される訳ではないが、不況のせいかわ仕事を頑張ってもなかなか正社員にしてもらえません。一方、男性（総合職）は中途採用も多く、しかし仕事がついから辞める人も少なくないです。このような現状では男性も子育てや家事に参加するのは難しいと思うし、女性が家計を一人で支えることも難しいと思う。
6	40歳代	女性	大企業と言われる所において10年勤めても全く平等を感じない。派遣など特に虐げられている。派遣法も、迷惑な法律。企業は従わない。派遣会社も逃げるだけ。意味が全くないどころかひどくなった。使い捨て「男女共同参画」は言葉すら全く浸透していない。
7	50歳代	男性	30才以下の女性が社会に出て、時間を費やすと、少子化が進むと思う。
8	50歳代	女性	職場で男女共同参画のため、女性の働く時間が増え苦しくなっていると思います。元の方が良かったのではないかと思います。やはり女性は男性を立てていくことが大切なのではないでしょうか。
9	50歳代	男性	労働時間（時間外労働）の短縮は話題になっているが、自分の職場では数値目標が出されるものの、仕事の内容は減っている訳ではなく、報告する数値は小さくするか家に持ち帰ることが常態化している。このことについて声が挙げられないのは不当な対応を恐れるからである（配置転換等）。この状態では子育てをしながら職業を続けることは困難で、職場が男性中心となっています。労働時間を改善することが女性の社会進出に大きな役割を果たすと思っています。労働時間について各職場の調査だけでなく、このアンケートのように行政から直接調査していただけると付度のない実情がつかめると思います。
10	50歳代	女性	女性が非正規社員で働くと男性に依存してしまう。そうなってくると男女共同参画の理念からずれてきてしまう。雇用改善してほしいと考える。
11	50歳代	男性	仕事と家庭の両立について支援制度などの環境整備は、国が行うのか、企業単位で行うのか？
12	60歳代	男性	同一労働同一賃金にする。
13	60歳代	女性	自営業者はあまり当てはまらないのかな？利用、参加したくても曜日も…。
14	70歳以上	男性	企業で、どの様な教育、部下を育てているか。「具体的にやっている事」「成功した例」等々、大企業の人材育成のやり方等参考にしたい。

(6) 人権 (DV、セクハラ、LGBT) について (6件)

	年齢	性別	ご意見
1	18、19歳	女性	そもそも「男が」「女が」と分けるのをどうにかしてほしい。男と女の2種だけだと考えるのではなく、LGBTについても取り上げるのであれば、男女に当てはまらない人にも目を向けてほしい。一人の人間を性別を通してみるのではなく、個人として見た方が良いのではないかと思います。男女共同ではなく人類として全体で見た方が良いのではないかと。男と女の2つだけに分ける必要性をあまり感じない。女の子と男の子で身につけてほしいことを分ける必要性も感じなかった。
2	20歳代	女性	LGBTについて社会への疑問を多く抱えています。“男性だから”“女性だから”というステレオタイプから離れ、“地域に住む一個人として”意見を言うことができたら、それが本当の意味での平等につながるのではないかと考えています。また、豊川市が東京都の渋谷区を見習って、パートナーシップ証明を条例として作成していただけたら良いなと一人として思っています。
3	20歳代	男性	完全なる男女平等というものは絶対に不可能であると思います。私自身の事ですが、どこの職場で勤めても男尊女卑の職場環境が出来上がっており、それによるパワハラ、セクハラ、モラハラ等、とてもじゃないが、もうこの世の中はどんなに頑張ろうが、改善はしません。男女の平等も大事ですが、社会的地位の上下も差がありすぎるので、そこも見逃すだけでなく、しっかりみてほしいです。
4	20歳代	女性	男性、女性という事にとらわれず、生きたいように生きられるといいと思います。セクハラはされた側へのダメージが大きく、なかったことにはならないという事を、もっと理解されるといいなと思います。
5	70歳以上	男性	LGBT、DV、セクハラについて、解決の糸口の発言様様をDVD等に記録してパソコンで視聴することで、色々な意見を巻き起こし、話し合うことで男女の参画で社会問題の緩和に役立つかもしれません。とにかく、人々が直面する大きな危機があるときに、男尊女卑などといったことを口にするよりも男女がともに手を据えて協力する参画意識で、互いに足らぬところを補い合うという自覚が生まれることを期待するものです。
6	70歳以上	男性	言葉などによる心理的攻撃を少ししたことがあり、今は反省しています。

(7) 男女共同参画について (10件)

	年齢	性別	ご意見
1	40歳代	男性	義務教育のうちから学校で男女共同参画の考え方について教育・情報提供し知識として子供の頃から知ってもらうようにするのがいいと思う。
2	50歳代	女性	少子高齢化に伴い、ますます「男女共同参画」が必要となってくると思います。私はシニア世代です。年金支給が引き上げられ、カット支給で“生涯現役”で働き続けなければなりません。若い世代だけの男女共同参画社会を考えるのではなく、シニアの熟練の経験が生かされ、生涯現役で社会に貢献していただくためにも、シニア世代を含めて考えていく必要があるのではないかと思います。新市長のもと、ますますの豊川市の発展をお祈りいたします。
3	50歳代	女性	平成28年3月に策定したのでも知りませんでした。1年以上たって何か変わったんですか？全然わかりません。子育ても終わり、孫も生まれて、昔と今は違うのはわかりますが、どれがいいのかわかりません。それぞれ家庭の事情があるのだから、話し合いをして、よい答えを出してくれるといいと思う。
4	60歳代	女性	男女共同参画がめざす理想な形ってあるのですか？人生いろいろ各自いろいろよく話し合い、困っている人は相談（行政他）、各自楽しく生きる考え方ができるよう努力してほしい。私には、男女共同参画の件は難しく、よくわかりません。
5	60歳代	女性	男女共同参画とは？性差別をなくすことですか？地域の中で男女「共同参画」実践してみる等あるが意味がわからない。
6	60歳代	女性	知っていることが少ないため、豊川市男女共同参画推進条例など情報を取り入れていく必要を感じた。
7	60歳代	女性	「豊川市男女共同参画基本計画」は、性別にかかわらず個性と能力を發揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現を目指し…とありますが、具体的には何を、どういうことをされたのがまったくわかりません。「男女共同参画」という内容の理解をわかりやすく説明してほしいと思いました。
8	70歳以上	男性	老夫婦二人だけの生活が長く、このような話を二人で話し合うことがまずないので、男女共同参画に関しては年代的にも、もう興味すらないのが本音です。
9	70歳以上	女性	私たちが育った時代と随分変わってきたと思います。「男女共同参画社会」を実現するためには、もう年齢が上になってしまいましたが、そう言って何もしないのは尚いけなと思います。せめて近しい友人や親戚等、身近な人と話す時、話題にして何をしたら少しでも良くなるか話してみたいと思います。
10	70歳以上	男性	法律上の男女の権利や業務の平等を個性を混同して混乱を起こしているように愚考する。制度とは理想であり、それが完璧であれば、それは既に神の領域、即ち人間から離れたものとなるという信条の持ち主である。小生には、現今の教条的平等観にはついて行けない。性差による負担を否定すれば人間は滅亡する運命といえようか。先進国の人口減少はその証。性差を十分すぎる程に理解し尊重する社会こそ男女共同参画社会だと愚考する。

(8) 社会制度・慣行の見直し、意識の改革 (14件)

	年齢	性別	ご意見
1	20歳代	男性	行政というよりかは各会社がライフワークバランスや育休などを意識した仕組みづくりをしていかないと、一向に改善されない気はします。
2	20歳代	女性	職場の既婚者の男性と話していても「家事や育児を手伝っている」という発言を耳にしますが、「手伝う」という単語を無意識に使うこと自体が、自分自身が主体に行うことでなく、補佐的ポジションであるという深層心理のように感じます。制度が確立していても社会全体の認識が変わらない限り、男性の育児休暇は取得率が上がりませんし、女性の給与が上がったところで本当の意味での男女共同参画にはならないと考えます（女性が大変になっていくだけ）。セミナー・シンポジウム等も参加者はある程度関心がある人なわけで、「男は仕事、女は家庭」なんて古くさい人は参加しないと思います。ならば学校教育を、とも思われますが、一番の見本は両親なので、同じく両親が古くさい人であれば身になりません。ぜひ、古くさい人が強制的に参加させられるようなセミナー等を推進し、それを実践できるような制度の整備をお願いします。
3	40歳代	女性	10年くらい男女共同参画と聞きますが、何ら、変化を感じられない。パート職についていますが、パートのくせに、女のくせに、発言するなという言葉がいまだに言われます。周りもあきらめ気味です。会社の上司（特に60代、50代後半の男性の）意識がとても低いと感じられます。役職が上がれば上がるほど、低下を感じます。企業への働きかけが重要に感じます。何回もアンケートが届きますが、答えていても変化が無いのでむなしくなります。
4	40歳代	女性	女性の地位が向上しない限り、変革はないと思う。女性の意識改革も重要だと思う。そう思える社会が必要だと思う。専門の部署が必要ではないですか。

	年齢	性別	ご意見
5	40歳代	男性	男女の違いは尊重しつつ、平等な立場を目指すのであれば、そういった教育を行い、徐々に認識を改めていくことが大事だと思います。過去から比べれば、現在は男女平等、共同参画もある程度進んでいると見るならば、時間をかけてそういう意識、認識を改めていったからだと思います。
6	40歳代	男性	共同参画とはいえ、適さない人物を配置しては不幸のもとになる。例えば、性別を伏せた様な状態で純粋に能力を比較できるようなことが一番良いと思う。また、現在利益を得ている人々が私心を捨てて、虚心担懐に新しい社会への転換に協力すべき。
7	50歳代	女性	各自の意識を高める。男女共同参画という様な、男女と言っている時点で格差が作られているように思う。まだまだ社会において女性が上司（役職）につくことに対して女にできるのか？的なことがあると思う。このような考え方から直していく事が第1歩の様に思う。男だから、女だからではなく人として得意とすること、出来ることを認めていける人間になれるように、子供の時から教えていけるといいと思う。いろんな人間がいるという事。だから皆、考え、悩み話し合い、解決し、男女どうのこうのがなくなればいいですね。
8	50歳代	女性	文化（小説やマンガ）が、王子様的な男性を夢見るようなものが多い間は意識は変わらないのでは？
9	50歳代	男性	女性の多い職場なので、女性の敵は女性だと思う。女性の同調圧力はひどい。その他現在60歳以上の男性の考え方は偏りが大きい。若い男性の方がある意味柔軟な印象があるが、個人差は大きい。
10	50歳代	男性	男女が共同で作業に取り組んで、互いに仲良くなるような機会があると良いと思います。
11	60歳代	女性	人生の終点が近づいている。未来の子ども達のために「幸福」というレガシーを残したい。その一番大切なことは法律であると考えている。男と女と考えず、人間として。男女共同参画を意識しなくてよい国が世界には多くある。日本はまだスタートにもついていないと思う。リーダーになる人材（女性）も生活感を。70代、80代からの健康も大切だが「心」が外に向いていないと思う（自己中心）。
12	70歳以上	男性	上に立つ者が本気にならないといつまでたっても進まない。
13	70歳以上	男性	基本的な男女平等を目指した法律・制度のもと、男女の性別に捉われず、適正な評価の者を政策決定の場に登用する。男女共同参画と性別に捉われない学校教育や社会教育を行う。女性を政策の場に積極的に活用など、意図的な行動は大きな弊害をもたらす。男女共同参画を求めるのではなく、良識ある社会人の育成に尽きると思います。
14	70歳以上	女性	本当に実現できれば嬉しい限りです。それには互いの話し合い、言葉などで偏らないことが大切。他人を大切に思う心がなければ難しい。昔は心が大切と生活の中でもみんなが思っていたが、近頃は心がどこかに行ってしまったのではないのでしょうか。

(9) 市政について (9件)

	年齢	性別	ご意見
1	18、19歳	女性	男女共同参画について市民はわからないことがたくさんあると思うので、情報発信を色々な方法でわかりやすく伝えて欲しいです。
2	30歳代	女性	日本の現政治では、男性社会の古い考えが多く残っており、世界に比べれば非常にレベルが低く感じます。世論にアンケートを行っても行政は豊川市、愛知県、日本と場を拡大しても変わらないのは目に見えております。まず、行政に携わる皆様の言動、行動、資金の使い方、考え方を見直してはいかがでしょうか？市民、団体が、少ないお給料の中でやりくり、貯蓄ができていく訳ですから、皆様も一市民、国民として、見直してみてください。どこか皆様の何かを外していけば、教育、介護に役立つのではないのでしょうか？私の発言が間違っていましたら申し訳ございません。ただ、このようなアンケートの前に皆様がされるべきことが絶対にあると思います。
3	40歳代	男性	対等、平等、差別の基準があいまいでそれを同じにすることは無理。真面目な人が損をして、ズルい人が得をする社会（生活保護ほどの不正受給）を行政が本気で取り組むことが大切。
4	50歳代	女性	セミナー等の催しがいづつどのようにしてあるのかわからない。また身近に感じない。町内会・市内の企業を通じてセミナー参加、男女共同参画の必要性または、どのように活動しているのか一人でも多くの市民に関心を持ってもらうことも大切だと思います。
5	60歳代	男性	個々の意志の変化で、男女共同参画も進むと思います。それを助けるための行政の手助けが重要だと思います。
6	60歳代	男性	市民に問う前に、豊川市の課長職、部長職に女性が少なすぎると思う。
7	70歳以上	女性	20年以前から言われていることなのに、今更という気持ちです。行政？どうなっていますか？残念です。

	年齢	性別	ご意見
8	70歳以上	男性	行政としての積極的なPR活動は大切です。世の中の空気や風が変わり、人々の意識が変化するには、もうしばらくは時間をかけて啓発していく必要があります。多くの時間と労力が求められると思いますが、頑張ってくださいと思います。
9	70歳以上	男性	国、地方自治体、公共団体、民間企業、地域が全体で真剣に取り組んでいく方法を望む。

(10) アンケートについて (8件)

	年齢	性別	ご意見
1	20歳代	女性	内容があまり良いとは思いませんでした。もう少し内容を作ってアンケートしてほしいです。
2	30歳代	男性	子育てについて、男女参画をうたう調査で性別ごとに分ける事が疑問です。「これからの子供には」でいいと思います。
3	50歳代	女性	男女共同参画に関する意識調査とのことですが、何を問うて、何を聞きたいのかの意図が全く組みとれません。市民の生活を安定させるための質問なのか、貧困格差の調査なのか？
4	60歳代	女性	このアンケート調査が届くまでは、あまりこの事について深く考えたことがなく、行政のしている内容も知らないの、もう少し興味を持って考えてみたいと思います。
5	60歳代	男性	問7、問13、問18、問19、問23、問30、問31多すぎでしょう。もっと優しさの間でいいでしょう。
6	70歳以上	男性	問8(あなたはどのように育てられましたか)について、この質問自体不合理に感じる。1(男は男らしく、女は女らしく育てられた)と2(男女の区別なく、個性を尊重されて育てられた)は、どこが違うのか。男と生まれ、女と生まれたことは自分らしさではないのか。平等とは何かの定義分けが不充分。このアンケートでも分かるように、人間はすべて「生まれながらにして不平等」とみている。人はそれを個性と言う。
7	70歳以上	男性	70歳を過ぎた自分たちにとっては答えにくいアンケートです。無作為に抽出ということですが、「60歳までの方に」というような上限を設けた方が適切ではないでしょうか。
8	70歳以上	男性	日本人なら日本語で。貴方達は日本人か？変形外語に対するアンケートには協力出来ません。

(11) その他 (6件)

	年齢	性別	ご意見
1	18、19歳	女性	高校生には難しすぎてわからない。
2	40歳代	女性	私が現役で働いている間には実現は無理だと思っています。期待してないです。
3	40歳代	男性	今の豊川では無理。
4	70歳以上	男性	男性と女性は同じ生き物ではないかもしれない(と考えると)。
5	70歳以上	女性	私たちは昭和時代の人間です。戦中に生まれ、男は強く、父も厳しかった(躰において)。時代遅れかもしれませんが、何とか朝起きて酸素が吸えれば生きています。今日も一日元気よくです。でもお金がない、年金を上げてください。5万や10万で生活できると思っているのかな。30年もたてば躁うつ時代。男がお金を入れてくれなければ、女なんてどうしようもない。私たちは共に寄りそっていかうと思っているけど、あと10年はがんばるので、年寄りのことをもっと問題にしてください。
6	70歳以上	女性	家族をもっと大切に。食事をみんな一緒に出来る時間、バラバラです。隣人、地域のつながり、参加協力がほしいです。

3 男女共同参画に関する市民意識調査票

豊川市 男女共同参画に関する市民意識調査 —調査の趣旨とご協力のお願—

市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

豊川市では、「豊川市男女共同参画推進条例」に基づき、平成28年3月に「豊川市男女共同参画基本計画」(改訂版)を策定し、性別にかかわらず個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現を目指し、さまざまな取組を進めています。

今回、「豊川市男女共同参画基本計画」が令和2年度末で期間満了となり、計画の策定を行うこととなりました。このアンケート調査は、男女共同参画に対する市民の意識や行政に対する要望などをお聞かせいただき、計画の策定に役立てることを目的としており、豊川市内の18歳以上の男女各1,000人の方を無作為に選び実施するものです。

お答えは、すべて無記名で統計的に処理しますので、個人が特定されるなど、回答された方にご迷惑をお掛けするようなことはございません。お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和元年10月

豊川市長 竹本 幸夫

<調査票のご記入にあたってのお願い>

- ご記入にあたっては、封筒のあて名のご本人がお答えください。ご本人の回答が難しい場合は、ご家族のどなたかがご回答くださるようお願いいたします。
- ご回答は、えんぴつ、ボールペンなどではっきりとご記入ください。
- ご回答は、設問をよく読んでいただき、あなたの状態や考え方に最も近い番号を選び、その番号に○をつけてください。○の数は、設問によって1つの場合と数が指定してある場合がありますので、ご注意ください。
- ご回答いただきました調査票は、**11月11日(月)**までに、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、お名前を書かずに、郵便ポストにご投函ください。
- この調査資料の利用にあたっては、個人情報保護条例の規定に基づき、適正に行います。また、調査内容については、この統計以外の目的に使用することはありません。
- ご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。

<お問い合わせ>

豊川市役所 市民部 人権交通防犯課 人権推進係

電話：0533-89-2149

FAX：0533-89-2125

1 あなた自身のことについておたずねします。

問1 ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについておたずねします。

(1) あなたの性別は次のどれになりますか (1つに○)。

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

(2) あなたの年齢はおいくつですか (1つに○)。

- | | | | |
|------------|---------|----------|---------|
| 1. 18歳、19歳 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 | 4. 40歳代 |
| 5. 50歳代 | 6. 60歳代 | 7. 70歳以上 | |

(3) あなたは現在結婚していますか (1つに○)。

- | |
|------------------------|
| 1. 結婚している (事実婚や別居中を含む) |
| 2. 結婚していたが、離別・死別した |
| 3. 結婚していない |

(4) あなたの世帯は、どれになりますか (1つに○)。

- | | |
|-----------|----------|
| 1. 単身 | 2. 夫婦だけ |
| 3. 親子 | 4. 親と子と孫 |
| 5. その他の世帯 | |

(5) あなたの職業に該当する番号を選んでください (1つに○)。

- | | | |
|----------|------------------|------------------|
| 1. 会社員 | 2. 公務員 | 3. 自営業・家業 |
| 4. 家族従事者 | 5. 派遣・請負社員 | 6. パート・アルバイト・嘱託等 |
| 7. 内職 | 8. 専業主婦・専業主夫 | 9. 学生 |
| 10. 無職 | 11. その他 (具体的に：) | |

(6) あなたには、お子さんがいますか (1つに○)。

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

(7) 結婚している（事実婚や別居中を含む）方におたずねします。あなたの配偶者の職業に該当する番号を選んでください（1つに○）。

1. 会社員	2. 公務員	3. 自営業・家業
4. 家族従事者	5. 派遣・請負社員	6. パート・アルバイト・嘱託等
7. 内職	8. 専業主婦・専業主夫	9. 学生
10. 無職	11. その他（具体的に：)

2 男女平等の現状についておたずねします。

問2 あなたは、次の各分野で男女どちらが優遇されていると思いますか（それぞれ1つに○）。

	男性が優遇されている	どちらかと言えば男性が優遇されている	平等である	どちらかと言えば女性が優遇されている	女性が優遇されている	どちらともいえない	わからない
①家庭生活	1	2	3	4	5	6	7
②職場	1	2	3	4	5	6	7
③学校教育	1	2	3	4	5	6	7
④地域活動	1	2	3	4	5	6	7
⑤法律、制度	1	2	3	4	5	6	7
⑥社会通念、慣習、しきたり	1	2	3	4	5	6	7
⑦社会全体	1	2	3	4	5	6	7

問3 あなたは、性別に関することで、生きづらさを感じていますか（1つに○）。

1. 感じている	2. 感じていない
----------	-----------

3 性別役割分担についておたずねします。

問4 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか（1つに○）。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 同感する | 2. ある程度同感する |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり同感しない |
| 5. 同感しない | 6. わからない |

問4で「1. 同感する」「2. ある程度同感する」と答えた方におたずねします。

問5 そう思うのはどのような理由からですか（1つに○）。

1. 男性は外の仕事に、女性は家事・育児・介護に適しているから
2. 男女の役割を固定した方が、家庭生活がうまくいくから
3. 家庭をもつ女性が働き続けると家庭にうるおいがなくなるから
4. 女性は家庭の状況によっては仕事を継続するのが難しいから
5. 男性は本来、家事・育児に向いていないから
6. 長年の考え方（価値観）は、そう簡単になくならないから
7. 子どもの成長にとってよいから
8. 個人的にそうありたいから
9. その他（具体的に： _____）

問6 次にあげる家庭でのことがらは、夫婦でどのように分担するのが理想だと思いますか（それぞれ1つに○）。

	夫婦共同	主に妻	主に夫	その他
①生活費の確保	1	2	3	4
②掃除・洗濯	1	2	3	4
③食事のしたく	1	2	3	4
④食事の後片付け・食器洗い	1	2	3	4
⑤日常の家計管理	1	2	3	4
⑥子育て	1	2	3	4
⑦子どものしつけ・教育	1	2	3	4
⑧介護	1	2	3	4
⑨自治会・町内会活動	1	2	3	4
⑩近所や親戚とのつきあい	1	2	3	4
⑪家庭における重要な決定	1	2	3	4

結婚している（事実婚を含む）方におたずねします。

前問では、理想をお聞きしましたが、ここでは実際に夫婦でどのように分担しているかお聞きします（それぞれ1つに○）。

	夫婦共同	主に妻	主に夫	その他
①生活費の確保	1	2	3	4
②掃除・洗濯	1	2	3	4
③食事のしたく	1	2	3	4
④食事の後片付け・食器洗い	1	2	3	4
⑤日常の家計管理	1	2	3	4
⑥子育て	1	2	3	4
⑦子どものしつけ・教育	1	2	3	4
⑧介護	1	2	3	4
⑨自治会・町内会活動	1	2	3	4
⑩近所や親戚とのつきあい	1	2	3	4
⑪家庭における重要な決定	1	2	3	4

問7 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などを行うためには、どのようなことが必要だと思いますか（3つまで○）。

1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める
2. 企業中心という社会全体の仕組みを改める
3. 仕事と家庭の両立について支援制度などの環境整備をする
4. 労働時間の短縮や休暇制度を充実させる
5. 夫婦や家族間で、家事などの分担について話し合う
6. 家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をする
7. 男女平等が図られるよう男性の関心を高める
8. 男性による家事、子育て、介護、地域活動などへの参加について社会的評価を高める
9. 男性の仕事中心の生き方、考え方を改める
10. 男性が家事などに参加することに対して、男性の意識上の抵抗感をなくす
11. 男性が家事などに参加することに対して、女性の意識上の抵抗感をなくす
12. わからない
13. その他（具体的に： _____)

4 子育てについておたずねします。

問8 あなたは、どのように育てられましたか（1つに○）。

1. 男は男らしく、女は女らしくと育てられた
2. 男女の区別なく、個性（自分らしさ）を尊重されて育てられた
3. どちらともいえない

問9 あなたは、どのように子育てをしていましたか（1つに○）。

（子どものいない方は、「どのように育てたらよいと思うか」をお答えください。）

1. 男は男らしく、女は女らしくと育てた（る）
2. 男女の区別なく、個性（その子らしさ）を尊重するよう育てた（る）
3. どちらともいえない

問10-1 あなたは、これからの女の子は、どのようなことを身につけてほしいと思いますか。3つまで選んで、□の中に番号を記入してください。

女の子

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1. 積極性 | 2. 決断力 | 3. 優しさ |
| 4. 豊かな感性 | 5. 自立心 | 6. 経済力 |
| 7. 素直さ | 8. 国際感覚 | 9. 家事能力 |
| 10. 責任感 | 11. 学歴 | |

問10-2 あなたは、これからの男の子は、どのようなことを身につけてほしいと思いますか。3つまで選んで、□の中に番号を記入してください。

男の子

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1. 積極性 | 2. 決断力 | 3. 優しさ |
| 4. 豊かな感性 | 5. 自立心 | 6. 経済力 |
| 7. 素直さ | 8. 国際感覚 | 9. 家事能力 |
| 10. 責任感 | 11. 学歴 | |

問11 子育て及び子育て支援策について、あなたはどうお考えですか。次の①～③について、あなたの気持ちに最も近いものは、どれですか（それぞれ1つに○）。

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	わからない
①子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念した方がよい	1	2	3	4	5
②親が仕事や自分の生活を大切にするために、子育て支援サービスを活用することはよい	1	2	3	4	5
③国や自治体が積極的にかかわり、社会全体で子育てを支援していくのがよい	1	2	3	4	5

問12 男性が育児に参加することについて、あなたはどうお考えですか（1つに○）。

1. 是非必要である	2. ある程度必要である	3. あまり必要でない
4. 全く必要でない	5. どちらともいえない	6. わからない

問12で、「1. 是非必要である」または「2. ある程度必要である」と答えた方におたずねします。

問13 男性の育児参加を促していくためには、どのようなことが重要になると思いますか（3つまで○）。

1. 男性が育児休暇制度を利用しやすくなること
2. 労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム（※1）の導入などが進むこと
3. 男性のための育児講座を充実すること
4. 男性が育児に取り組む意識をもつこと
5. 子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること
6. 家族の間で育児について十分に話し合うこと
7. 男性の育児参加を妨げるような社会通念が変わること
8. わからない
9. その他（具体的に： _____）

※1 フレックスタイム

1日の労働時間は一定とするが、出退勤の時間を各自の裁量により決めることができる制度をいいます。（豊川市男女共同参画基本計画より）

5 介護についておたずねします。

問14 あなたのご家族（同居していない場合も含む）には、介護を要する方がいますか（1つに○）。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問14で「1. はい」と答えた方におたずねします。

問15 介護は、主にどなたがされていますか。介護を受けている方からみた関係でお答えください（2つまで○）。

- | | | |
|---------------|-------------|-------|
| 1. 妻 | 2. 夫 | 3. 父母 |
| 4. 娘 | 5. 息子 | 6. 嫁 |
| 7. 婿 | 8. 兄弟姉妹 | 9. 孫 |
| 10. 家政婦 | 11. ホームヘルパー | |
| 12. その他（具体的に： | | ） |

問16 今後、社会で介護を担っていくためには、どのようなことが重要になると思いますか（3つまで○）。

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1. 介護休暇制度を利用しやすくすること | |
| 2. 労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などが進むこと | |
| 3. 介護講座を充実すること | |
| 4. 介護に取り組む意識をもつこと | |
| 5. 気軽に介護の問題について相談できる窓口を設けること | |
| 6. 家族の間で介護について十分に話し合うこと | |
| 7. 男性の介護参加を妨げるような社会通念が変わること | |
| 8. わからない | |
| 9. その他（具体的に： | ） |

6 仕事や社会参加についておたずねします。

問17 女性が仕事を持つことについて、あなたは次のどの考え方に近いですか（1つに○）。

1. 女性は、仕事を持たないほうがよい
2. 女性も、仕事を続けるほうがよい
3. 結婚するまでは、仕事を持つほうがよい
4. 子どもができるまでは、仕事を持つほうがよい
5. 子どもができれば退職し、大きくなったら再び就職するほうがよい
6. わからない
7. その他（具体的に： _____）

問18 現在、ワーク・ライフ・バランス（※2）が重要視されていますが、あなたは、生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活のうち何を優先しますか。（1）、（2）についてそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。

（1）希望として

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい
8. わからない
9. その他（具体的に： _____）

（2）現実として

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている
8. わからない
9. その他（具体的に： _____）

※2 ワーク・ライフ・バランス

働く人が仕事とそれ以外の生活を自身が望む調和のとれた状態にできることをいいます。
（豊川市男女共同参画推進条例より）

問19 今後、性別に関わらず働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか（3つまで○）。

1. 男女ともに労働時間の短縮を図ること
2. 男性の家事・育児・介護への参加を進めること
3. 男女の雇用機会を均等にする
4. 職場での男女の昇進、待遇の格差をなくすこと
5. 旧姓使用の促進を図ること
6. パートタイムなどの女性の労働条件を向上させること
7. 再就職を希望する人のための講座、セミナーを充実させること
8. 出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実させること
9. 保育園、児童クラブなどの育児環境を充実させること
10. 育児・介護休暇制度などの普及を図ること
11. ホームヘルパーや福祉施設を充実させること
12. その他（具体的に： _____)

7 人権（DV、セクハラ、LGBT（※3））についておたずねします。

問20 あなたは、これまでに、あなたの恋人や配偶者（事実婚、別居中、離婚後を含む）から、どのようなDVを受けたことがありますか、または受けていますか（あてはまるものすべてに○）。

1. 言葉などによる心理的攻撃
2. 殴る、蹴るなどの身体的暴行
3. 性的強要
4. その他の性的暴力（※4）
5. 生活費を渡さないなどの経済的暴力
6. DVを受けたことがない
7. その他（具体的に： _____)

※3 LGBT

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとって組み合わせた言葉です。（法務省ホームページより）

同性愛者、トランスジェンダーやその他の多様な性自認や性的指向を持つ人のことを性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）といい、LGBTという用語は、あくまでも性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）をあらわす総称の一つとして使われます。

※4 その他の性的暴力

中絶を強要する、避妊に協力しない、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せるといったことです。（内閣府ホームページより）

問20でDVを受けたことがある（「1. 言葉などによる心理的攻撃」「2. 殴る、蹴るなどの身体的暴行」「3. 性的強要」「4. その他の性的暴力」「5. 生活費を渡さないなどの経済的暴力」）と答えた方におたずねします。

問21 あなたは、DVを受けたときに、相談しましたか（1つに○）。

1. 相談した 2. 相談したかったが、相談しなかった 3. 相談しようと思わなかった

問21で「1. 相談した」と答えた方におたずねします。

問22 DVを受けたときに、あなたが安心して相談できたのは次のどれですか（あてはまるものすべてに○）。

- | | | |
|----------------------|-------------------------|-----------|
| 1. 自分の家族・親戚 | 2. 相手の家族・親戚 | 3. 友人・知人 |
| 4. 弁護士 | 5. 医師・カウンセラー | 6. 人権擁護委員 |
| 7. 民生委員 | 8. 学校関係者 | 9. 家庭裁判所 |
| 10. 警察 | 11. 市役所の窓口（「女性悩み事相談」含む） | |
| 12. 愛知県配偶者暴力相談支援センター | 13. 民間の相談機関 | |
| 14. その他（具体的に： | | ） |

問21で「2. 相談したかったが、相談しなかった」または「3. 相談しようと思わなかった」と答えた方におたずねします。

問23 相談しなかった理由は、何ですか（あてはまるものすべてに○）。

1. どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから
 2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
 3. 相談してもむだだと思ったから
 4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
 5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
 6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
 7. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
 8. 世間体が悪いから
 9. 他人を巻き込みたくなかったから
 10. 人に知られると、これまで通りのつきあい（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
 11. そのことについて思い出したくなかったから
 12. 自分にも悪いところがあると思ったから
 13. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
 14. 相談するほどのことではないと思ったから
 15. その他（具体的に：
- ）

問24 あなたは、これまでに、セクハラ（※5）を受けたことがありますか（1つに○）。

1. ある

2. ない

※5 セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）

性的な言動により相手方を不快にさせたり、相手方の生活環境を害することや、性的な言動に対する相手方の対応によってその者に不利益を与えることをいいます。
（豊川市男女共同参画推進条例より）

問24で「1. ある」と答えた方におたずねします。

問25 セクハラが行われた場所はどこですか（あてはまるものすべてに○）。

1. 職場

2. 学校

3. 地域

4. その他（具体的に：

）

問26 あなた自身あるいはあなたの身近（家族、親戚、友人、知人、職場関係）に、LGBT（※3）の方は、いますか（1つに○）。

1. いる

2. いない

3. わからない

問27 LGBT（※3）に関して、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか（あてはまるものすべてに○）。

1. 職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること

2. 就職・職場で不利な扱いを受けること

3. 差別的な言動をされること

4. アパート等への入居を拒否されること

5. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること

6. じろじろ見られたり、避けられたりすること

7. 同性同士で結婚できないこと

8. その他（具体的に：

）

9. わからない

10. 特にない

8 男女共同参画についておたずねします。

問28 あなたは、①～⑦の法律・条例等を知っていますか（それぞれ1つに○）。

	内容まで知っている	言葉だけ知っている	知らない
①女性差別撤廃条約	1	2	3
②男女共同参画社会基本法	1	2	3
③男女雇用機会均等法	1	2	3
④育児・介護休業法	1	2	3
⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）	1	2	3
⑥豊川市男女共同参画推進条例	1	2	3
⑦女性活躍推進法	1	2	3

問29 あなたは、この調査を受け取る前から次の言葉を知っていましたか（知っているものすべてに○）。

1. 男女共同参画社会	2. ジェンダー
3. ポジティブ・アクション	4. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
5. ワーク・ライフ・バランス	6. デートDV
7. LGBT（※3）	

問30 今後、男女共同参画社会の形成をより積極的に推進していくために、行政はどのようなことに力を入れていくことが必要だと思いますか（3つまで○）。

1. 男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う
2. 女性を政策決定の場に積極的に登用する
3. 各種団体の女性リーダーを養成する
4. 職場での男女の均等な取扱いについて周知徹底が図られるよう企業等に働きかける
5. 女性の就労の機会を増やしたり、女性の各種職場への進出促進のため職業教育や職業訓練を充実する
6. 保育の施設・サービス、高齢者の入所施設、介護サービス等を充実する
7. 学校教育や社会教育等の生涯学習の場で男女平等と相互理解についての学習の充実を図る
8. 学校教育において子どもたちが男女共同参画に関する正しい知識を習得できるようメディアリテラシー（※6）についての学習の充実を図る
9. 女性に関する情報提供や相談・教育などの機能や交流の場となる施設を充実する
10. 各国の女性との交流や女性の社会進出についての情報提供など、国際交流を推進する
11. 広報誌やパンフレットなどで男女の平等と相互の理解や協力についてPRする
12. 男女共同参画社会を目指すグループ活動の交流やネットワーク作りを支援する
13. インターネット、携帯電話などで正しい情報を適正に発信するようメディアに働きかける
14. DV、セクハラ等の対策を推進する
15. ワーク・ライフ・バランスに対する啓発、情報提供、支援を行う
16. わからない
17. その他（具体的に： _____)

※6 メディアリテラシー

多様な情報を受入れ無批判に受け入れるのではなく、主体的に読み解いて自己発信する能力をいいます。（豊川市男女共同参画推進条例より）

問31 「男女共同参画社会」を形成・実現するために、あなた自身としてどのようなことを実践していきたいと考えますか（3つまで○）。

1. 家族や親戚、身近な人と「男女共同参画」について話し合う
2. 「男女共同参画社会」に関するフォーラムやシンポジウム、セミナーなど外部の催しに参加する
3. 「男女共同参画社会」に関する書籍やパンフレットを読む
4. 「男女共同参画」をまず自分自身の身近なところで実践してみる
5. 地域活動のネットワーク作りを行う
6. 地域の中で話題として取り上げる
7. 地域の中で「男女共同参画」を実践してみる
8. 行政に任せる
9. わからない
10. その他（具体的に： _____)

